

茨城県教育財団文化財調査報告第225集

金谷遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

（上 卷）

平成 16 年 3 月

日 本 道 路 公 団
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第225集

かな や
金 谷 遺 跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

（上 卷）

平成 16 年 3 月

日 本 道 路 公 団
財団法人 茨城県教育財団



金谷遺跡遠景



金谷遺跡出土銅型

序

茨城県は、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。北関東自動車道建設事業も、その目的に添って計画されたものであります。

このたび、日本道路公団は、岩瀬町西飯岡地区において、北関東自動車道（協和～友部）建設事業を決定いたしました。この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である金谷遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、日本道路公団から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成14年4月から平成15年3月まで発掘調査を実施しました。

本書は、金谷遺跡の調査成果を収録したものです。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である日本道路公団から多大なる御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、岩瀬町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成16年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、財団法人茨城県教育財団が「日本道路公団の委託により平成14年4月から平成15年3月まで発掘調査を実施した、岩瀬町大字西飯岡字金谷882-2番地ほかに所在する金谷遺跡^{きんご}の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査	平成14年4月1日～平成15年3月31日
整 理	平成15年4月1日～平成16年3月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第二課長鈴木美治のもと、以下の者が担当した。

調査第二課第2班長	村上和彦	平成14年4月1日～平成15年3月31日
首席調査員	山口 厚	平成15年2月1日～平成15年3月31日
首席調査員	高野 節夫	平成15年2月1日～平成15年3月31日
主任調査員	白田 正子	平成14年4月1日～平成15年6月30日 平成15年2月1日～平成15年3月31日
主任調査員	横倉 要次	平成15年2月1日～平成15年3月31日
主任調査員	榊 雅彦	平成15年1月1日～平成15年3月31日
主任調査員	石川 義信	平成14年11月1日～平成15年12月31日
主任調査員	石川 武志	平成15年2月1日～平成15年3月31日
主任調査員	小松崎和治	平成14年4月1日～平成15年3月31日
主任調査員	大塚 雅昭	平成14年4月1日～平成15年3月31日
主任調査員	小野 克敏	平成14年4月1日～平成15年3月31日
主任調査員	荒蔭克一郎	平成14年10月1日～平成15年11月30日
調 査 員	梅澤 貴司	平成14年4月1日～平成15年3月31日
調 査 員	鹿島 直樹	平成14年10月1日～平成15年11月30日
- 4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長鶴見貞雄のもと、主任調査員大塚雅昭、同小松崎和治が担当した。執筆分担は、以下のとおりである。

小松崎	第1章から第3章第2節 第3章第3節1、第4節
大塚	第3章第3節2から4、第4節
- 5 本書の作成にあたり、鉤造関連遺構及び排滓場から出土した鉄塊系遺物及び鉤型の分析については岩手県立博物館主任専門学芸員赤沼英男氏に委託し、墨書・刻書の判読は国立歴史民俗博物館副館長兼教授の平川南氏に御指導いただいた。

凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、世界測地系座標第Ⅹ系座標を原点とし、X軸=+40880.000m、Y軸=+19440.000mの交点を基準点(A1a1)とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C……、西から東へ1、2、3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

- 2 土層の観察と遺物の観察における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研地業株式会社)を使用した。

- 3 遺構、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 掘立柱建物跡-SB 方形竪穴遺構-SH 溝・堀-SD 土坑-SK
 炉跡-F 鑄造関連土坑-CP 井戸跡-SE 地下式竈-UP ビット列-Pr
 ビット群-Pg 不明遺構-SX 柱穴-P

遺物 土器-P 土製品-DP 石器・石製品-Q 金属製品-M 木製品-W 自然遺物-N
 拓本土器-TP

土層 覆乱-K

- 4 遺構及び遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ▲ 瓦 ■ その他 —— 硬化面

- 5 遺構・遺物実測図の記載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は500分の1、各遺構の平面図は60分の1の縮尺で掲載することを原則とした。種類や大きさにより異なる場合もある。
- (2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで示した。
- 6 「主軸」は、炉・竈を持つ竪穴住居跡については炉・竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例「N-10°-E」)。

なお、推定値は[]を付して示した。

- 7 遺物観察表の作成方法については次のとおりである。

- (1) 計測値の()の数値は現存値を、[]は推定値を付して示した。単位は長さなどについてはcm、重量についてはgで示した。
- (2) 備考の欄は、土器の残存率、及びその他必要と思われる事項を記した。

抄 録

ふりがな	かなやいせき いち							
書名	金谷遺跡1							
副書名	北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	Ⅳ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第225集							
著者名	大塚雅昭 小松崎和治							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 (225) 6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 (225) 6587							
発行日	2004年(平成16年)3月26日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地							
金谷遺跡	茨城県茨城郡 岩瀬町大字西飯 岡字金谷882番 地の2ほか	08324 - 081	36度 21分 40秒 [36度 21分 52秒]	140度 4分 9秒 [140度 3分 57秒]	49m ~ 52m	20020401 ~ 20030331	53,419.04㎡ (43,109.33 ㎡の調査を 行い、23,157 ㎡の報告)	北関東自動車 道建設事業に 伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
金谷遺跡	集落跡	古墳	竪穴住居跡	14軒	土師器(坏、高坏、台付甕、甕、 甗、手捏土器、ミニチュア土 器、器台、埴)、土製品(土鏝)	当遺跡は、縄 文時代、古墳時 代、奈良・平安 時代、中・近世 の複合遺跡であ る。 古墳時代から 奈良・平安時代 にかけては、100 軒を越す住居跡 などが調査され ている。 中世の製鉄・ 鑄造遺構は調査 例が少なく、県 内の鉄生産や鑄 造関連の歴史を 知る上で貴重な 資料になるもの と考えられる。		
			土坑	1基				
	奈良・平安	竪穴住居跡	75軒	土師器(坏、高台付坏、甗、鉢、 甕、甗)、須恵器(坏、高台付 坏、高盤、蓋、甗、円面硯)				
		掘立柱建物跡	11棟	灰釉陶器(坏、甗)、土製品(管 状土鏝、紡錘車)、石製品(砥 石)、鉄製品(刀子、鎌、鋸、 鉋具)、獸骨(馬骨)				
		土坑	5基					
生産跡	中世	溝跡	1条					
		円形周溝状遺構	1基					
墓跡	近世	不明遺構	1基					
		方形竪穴遺構	13基	土師質土器、瓦質土器、陶器、 鑄型、鉄製品(鉄鍋)、炉壁、 羽口、鉄滓				
その他	時期不明	掘立柱建物跡	1棟					
		井戸跡	12基					
その他	時期不明	土坑	3基					
		埴跡	7基					
その他	時期不明	鑄造関連土坑	18基					
		排水溝	2か所					
その他	時期不明	墓壇	50基	ガラス製品(数珠玉)、煙管、 古銭、鉄製品(釘、鍋、毛抜き)				
		井戸跡	4基					
その他	時期不明	土坑	1基					
		竪穴住居跡	16軒	縄文土器、弥生土器、土師器(坏、 高台付坏、甕)、須恵器(坏、 高台付坏、甕)、石製品(紡錘 車、五輪塔)				
その他	時期不明	方形竪穴遺構	5基					
		掘立柱建物跡	1棟					
その他	時期不明	井戸跡	1基					
		土坑	359基					
その他	時期不明	溝跡	5条					
		ビット列	3か所					
その他	時期不明	ビット群	7か所					
		不明遺構	4基					
その他	時期不明	遺物包含層	1か所					

目 次

〈上巻〉	
序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	9
1 古墳時代の遺構と遺物	9
(1) 竪穴住居跡	9
(2) 土坑	36
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	37
(1) 竪穴住居跡	37
(2) 掘立柱建物跡	196
(3) 土坑	217
(4) 溝跡	220
(5) 円形周溝状遺構	222
(6) 不明遺構	224
3 中世の遺構と遺物	232
(1) 方形竪穴遺構	232
(2) 掘立柱建物跡	239
(3) 地下式竈	241
(4) 井戸跡	242
(5) 土坑	257
(6) 溝跡	259
(6) 溝跡	287
(7) 鑄造関連遺構	290
(8) 排滓場	318
4 近世の遺構と遺物	326
(1) 墓塚	326
(2) 井戸跡	367
(3) 土坑	369
5 その他の遺構と遺物	370
(1) 竪穴住居跡	370
(2) 方形竪穴遺構	387
(3) 掘立柱建物跡	392
(4) 井戸跡	393
(5) 溝跡	394
(6) 土坑	398
(7) ビット群	408
(8) ビット列	410
(9) 不明遺構	412
(10) 遺物包含層	415
(11) 遺構外出土遺物	418
第4節 まとめ	437
付章	447
写真図版	
付 図	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

日本道路公団は、常陸那珂港と北関東の各主要都市を結ぶ北関東自動車道の早期開通をめざしている。

平成10年11月4日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、北関東自動車道建設地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成10年12月15日（～18日）に現地踏査を、平成12年6月19日（～29日）に試掘調査を実施し、金谷遺跡の所在を確認した。平成12年9月11日、茨城県教育委員会教育長は日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに事業地内に金谷遺跡が存在する旨回答した。

平成13年7月12日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成13年7月13日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成13年10月9日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、北関東自動車道建設に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成13年10月11日、茨城県教育委員会教育長は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、金谷遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、日本道路公団から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成14年4月1日から平成15年3月31日まで、金谷遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

金谷遺跡の発掘調査は、平成14年4月1日から平成15年3月31日まで実施した。以下調査の経過については、概要を表で記載する。

作業工程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備	■											
表土除去 遺構確認		■						■				
遺構調査		■										
洗浄・注記		■										
写真整理		■										
撤収												■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

金谷遺跡は、茨城県西茨城郡岩瀬町大字西飯岡字金谷822の2番地ほかに所在している。

岩瀬町は、茨城県の中西部に位置し、栃木県真岡市、益子町、茂木町に接している。町の北には富谷山、兩巻山及び高峰山が、東には羽黒山、楳柄山、仏頂山が、南には加波山、雨引山、筑波山があり、西には平野が広がり、三方を丘陵性の山地で取り囲まれた盆地をなしている。町の中央部を流れる桜川は、北東部に位置する楳柄峠の山間、鏡ヶ池に源を發し、町の中央部を東西に貫流し、霞ヶ浦へ注いでいる。平地は、桜川、大川、筑波川などの流域と山間部に入り込んだ谷状の低地などである。

当町を取り囲んでいる八溝山系は、八溝山塊、鷲の子山塊、鶏足山塊、筑波山塊の4つの山塊群から成り立っている。これらの山塊の地質は、中・古生代の地向斜に堆積された地層とこれを貫く花崗岩類からできている。台地の大部分は、関東ローム層に厚くおおわれた洪積台地で、上層は赤土と呼ばれる。鹿沼軽石を含む火山灰が堆積したものである。また、水田に利用されている桜川流域一帯などは、河川の浸食・堆積作用による沖積地である³⁾。

当遺跡は、岩瀬町西部の西飯岡地区にあり、桜川の支流である泉川右岸の標高50mの洪積台地上に立地し、調査前の現況は畑地である。

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺の桜川及びその支流の台地上には縄文時代から中世にかけての遺跡が多く分布し、また、低地を臨む丘陵上には古墳が数多く存在している。

縄文時代には、桜川流域の沖積地から入り込む支谷に面した台地上の縁辺部に、集落が形成されるようになる。遺跡は60余か所を数えており、町の東部に多く、長辺寺遺跡〈1〉、防人遺跡〈2〉、猪窪遺跡〈3〉、犬田神社前遺跡〈4〉、松田古墳群〈9〉、磯部遺跡〈16〉などが位置している。また、当遺跡から南約2.5kmの大和村の桜川右岸には高森遺跡〈44〉、高森西遺跡〈45〉が位置している。

弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡と同じ台地上に多く分布している。これまでに栃木県との県境に近い大泉地区から中期の細頸壺形土器と筒形土器が出土しており、下館市に所在する女方遺跡出土の土器に類似している。また、南飯田遺跡と番匠免遺跡出土の土器は那珂川・久慈川流域に分布する弥生時代後期の土器と類似している。このほかに近隣では辰海遺跡〈13〉、当向遺跡〈14〉などがあり、この時期に集落が営まれていたと想定されている³⁾。

古墳時代になると、遺跡数は増加の傾向を見せるようになる。昭和43年度以降の分布調査によると古墳群18か所、古墳約110基が確認されている。また、町の南に隣接する大和村では、桜川に沿って7か所の古墳群と4基の古墳が確認されている。それらの古墳や古墳群は、桜川流域の沖積地を臨む丘陵上に位置し、埴輪類の出土で知られている古墳は南部に所在する傾向にある。これまでに調査された古墳は、狐塚古墳〈5〉、間中古墳群〈6〉、青柳古墳群〈7〉、花園古墳〈第3号墳〉〈8〉、西沢古墳、稲古墳群、松田古墳群〈9〉などである。この中で花園古墳〈第3号墳〉は横穴式石室の奥壁と東壁、西壁の三面に図紋が描かれた壁画古墳とし

て注目された³⁾。また、標高130mの長辺寺山山頂には、長辺寺山古墳(11)が所在している。この古墳は未調査であるが、全長約120mで前方部を南東に向けて築造された前方後円墳であり、旧新治東部地方における最大規模の前方後円墳である。また、この長辺寺山西麓から有孔円板や剣形模造品などの滑石製模造品が多量に出土しているのも、神奈備とされた長辺寺山を対象とした祭祀が行われ、その斎場の周辺に捨てられたものと考えられている。これらの古墳から、岩瀬盆地が古墳時代の要地の地であったことが推測される。当遺跡周辺には飯沼古墳群(12)、北山古墳(27)、坂戸古墳群(28)、二門塚古墳、星の宮古墳群(47)、山ノ入古墳群(26)など点在している。

古墳時代の集落とされる遺跡は、辰海道遺跡(13)、当向遺跡(14)、山王遺跡(15)、犬田神社前遺跡(4)、磯部遺跡(16)などが所在している。この中で辰海道遺跡は、平成13年の発掘調査で古墳時代から平安時代まで続く規模の大きな集落であることが確認されている。古墳時代の豪族居館に関わる方形の環壕遺構や9mを超える大形住居跡など拠点的な集落形成がすすめられており、やがて律令体制下へと組み入れられていったと考えられる。

奈良・平安時代になると、当遺跡のある西飯岡地区は新治郡に編入されることとなり、「和名類聚抄」中の、新治郡坂門(戸)郷に比定されている⁴⁾。新治郡街跡(17)は、当遺跡から南西約3kmに位置する協和町古郡地区に位置している。また、その北側に隣接する上野原地区には新治廃寺跡(18)が位置している。新治郡街跡は昭和14年からの調査で、52棟に及ぶ建物跡を検出し、政庁跡と倉庫跡が確認された。特に多量の焼き米の出土は『日本後紀』に記された弘仁八年(817)の10月の不動倉の焼失記事を証明するものとして重要である⁵⁾。当遺跡は、奈良・平安時代のもと考えられる大規模な掘立柱建物跡群が確認され、須恵器円面硯や朱墨痕のある須恵器などが出土していることから、新治郡街と少なからず関連があったと考えられる。奈良・平安時代の遺跡は、当遺跡から南西約3kmに上野原遺跡(19)、東に約1.5kmに辰海道遺跡(13)、北東約1.4kmに山王遺跡(15)、南約2.5kmには新治廃寺の前後期の瓦が出土している上野原瓦窯跡⁶⁾(20)、北東2.2kmに堀ノ内古窯跡群(30)があり、「新大領」と題された須恵器が出土しており、同様のものが当向遺跡(14)から出土している。また、当遺跡からも堀之内古窯跡群から出土した大形の須恵質の管状土鏝や窯変した須恵器が出土している。さらに、北東約2.1kmには飯沼古窯跡群(31)などが位置している。当遺跡の西500mに位置する当向遺跡(14)からは大規模の掘立柱建物跡が確認されており、位置関係から密接な関係があったと考えられる。

律令体制の衰退とともに在地領主層が出現し、天慶2年(939)の平将門の乱後、その討伐に功労のあった平貞盛の子孫が筑波山山西麓を拠点に興隆、筑波、新治の三部を勢力下に置くようになる。そのような状況の中で岩瀬地方は「中郡」と呼ばれ、大中臣姓中郡氏が台頭してくる。

中世になると、岩瀬地方は中郡荘(庄)と呼ばれるようになる⁷⁾。これは、当地方が京都の蓮華王院の荘園領となり、大中臣氏中郡氏がその下司職となり、在地領主として確固たる地位を保持し、のちに土豪として発展していったのである。しかし、中郡氏の居館跡は諸説があり、明らかになっていない。鎌倉時代には中郡庄の地頭であったが領地が没収され、安達氏に中郡の領有を受け継がれた後、北条得宗家に支配されるようになる。また、磯部郷の鹿島社権宜大中臣氏の遺産相続争いに端を発した紛争が鎌倉幕府評定所に訴え出られる事件が発生している。

南北朝時代は足利方の小山氏の代官が守備していた中郡城を、南朝方の北畠顯時(顯国)が陥落させて、拠点としていた時期があった。室町時代の中郡庄は幕府御料所(直轄領)で、直接の支配者は伊勢氏となっている。また、戦国時代になり、結城氏の代官である水谷氏が禁裏御料所としている。その間の初期応永年間(1394~1427)には当遺跡の北側、坂戸山(海拔219m)に小宅高国によって、坂戸城跡(29)が築かれている。応

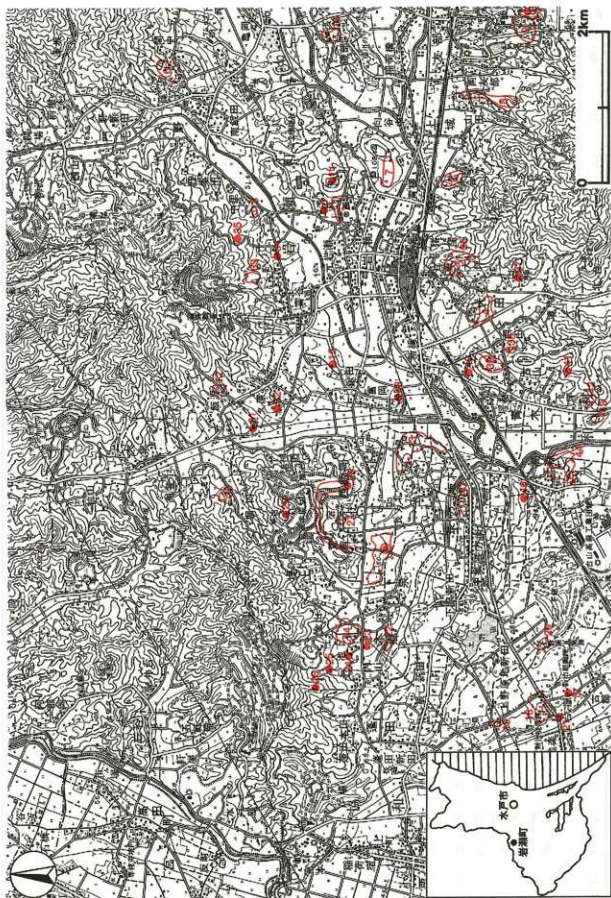
永29年（1422）には坂戸合戦で、鎌倉公方方の穴戸城主穴戸持朝との間に戦いがあった⁶⁾。戦国時代には小宅氏（芳賀氏）、益子氏、笠間氏、結城氏、宇都宮氏などが中郡の領有を目指し、数多くの戦いが繰り返された。

太閤検地時には宇都宮領となっているため、当遺跡周辺は慶長の検地に関係する文書では「下野国」と誤記されている。江戸時代になり、浅野長政・蒲生秀行などの藩主による笠間藩支配が行われ、その過程で笠間藩の支配下に入っている。その後、門毛村は結城領、当遺跡周辺の本郷村、堤上村は幕府草創期に笠間藩領となっている。さらに、元禄15年（1702）の記録によると旗本中根氏になっている。また、飯岡村は旗本井上氏の知行地になっている。天保4年（1833）以降の飢饉では、各村で困窮者救済策がとられ、そのうち、堤上村、本郷村では尊徳仕法が行われた⁷⁾。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び周辺遺跡一覧表の該当番号と同じである。

註)

- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会 「日本の地質3 関東地方」 共立出版 1986年10月
- 2) 茨城県史編集会 「茨城県史料 考古資料編 弥生時代」 茨城県 1991年3月
- 3) 伊藤重敏 「花園壁面古墳（第3号墳）調査報告書」 岩瀬町教育委員会 1985年3月
- 4) 池邊 彌 「和名類聚抄郡里脚名考證」 吉川弘文館 1981年2月
- 5) 茨城地方史研究会編「茨城の歴史 東西編」 茨城新聞社 2002年5月
- 6) 茨城県史編集会「茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代」 茨城県 1995年3月
- 7) 中山信名 「新編常陸国誌」 尚書房 復刻版 1978年12月
- 8) 岩瀬町史編さん委員会 「岩瀬町史 通史編」 岩瀬町 1987年3月



第1図 金谷遺跡周辺遺跡位置図

表1 金谷遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世
○	金谷遺跡				○	○	○	25	内山古墳				○			
1	長辺寺遺跡		○	○				26	山ノ入古墳群				○			
2	防人遺跡		○	○	○	○		27	布着山古墳				○			
3	猪窪遺跡		○	○				28	坂戸古墳群				○			
4	犬田神社前遺跡		○	○	○	○	○	29	坂戸城跡						○	
5	狐塚古墳				○			30	堀ノ内古窯跡群					○		
6	間中古墳群				○			31	飯沼古窯跡群					○		
7	青柳古墳群				○			32	森山台地古墳				○			
8	花園古墳				○			33	富谷古墳群				○			
9	松田古墳群	○	○	○	○		○	34	郷の塚古墳				○			
10	松田城跡						○	35	富谷弥陀古墳				○			
11	長辺寺山古墳				○			36	猪窪古墳群				○			
12	飯沼古墳群				○			37	犬田山神古墳				○			
13	辰海道遺跡			○	○	○	○	38	大神田古墳群				○			
14	当向遺跡			○	○	○	○	39	青木神社裏古墳				○			
15	山王遺跡				○	○		40	二宮古墳群				○			
16	磯部遺跡	○		○				41	青木たてやま古墳				○			
17	新治郡衙跡					○		42	白山古墳群				○			
18	新治麩寺跡					○		43	青木古墳群				○			
19	上野原遺跡			○				44	高森遺跡	○						
20	上野原瓦窯跡					○		45	高森西遺跡	○			○	○		
21	久地楽長町窯跡					○		46	高森古墳群				○			
22	本郷瓦塚遺跡					○		47	星の宮古墳群				○			
23	塚本古墳				○			48	富岡城跡						○	
24	内山古墳				○			49	長方南遺跡	○						

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

金谷遺跡は古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の複合遺跡である。調査区域は総面積53,419㎡で、現況は畑である。今回は、1期分として23,157㎡の調査を行った。

今回の調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡13軒、中期の竪穴住居跡1軒、土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡75軒、掘立柱建物跡11棟、溝跡1条、中世の方形竪穴遺構13基、掘立柱建物跡1棟、地下式竈1基、溝跡17条、鋳造関連遺構25基(炉跡7基、鋳造関連土坑18基)、排滓場2か所、近世の墓壇50基が確認されている。

調査の結果、当遺跡の、中心となる時代は古墳時代(前期)と奈良・平安時代であることが明らかにされた。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に173箱出土している。古墳時代の遺物は土師器(坏、高坏、台付甕、甕、甗、手捏土器、ミニチュア土器、器台、埴)、土製品(土鎌)などである。奈良・平安時代の遺物は土師器(坏、高台付坏、碗、鉢、甕、甗)、須恵器(坏、高台付坏、高盤、蓋、甗、円面硯)、灰釉陶器(坏、壺)、石製品(砥石)、鉄製品(刀子、鎌、鍬)などである。中世の遺物は土師質土器、陶器、銅型、炉壁、鉄滓などである。近世の遺物としては、ガラス製品(数珠玉)、煙管、古銭(寛永通寶)、鉄鍋などである。

第2節 基本層序

調査区内(東区)に土層観察用の試掘を行い、第2図に示すような土層堆積の状況を確認した。

第1層は表土で、黒褐色を呈している。ローム粒子を少量含んでいる。

第2層は黒褐色土で、第1層よりも色調がやや濃くなっている。

第3層は暗褐色の腐植化の進んだローム土層である。赤色粒子、黒色粒子を微量含んでいる。

第4層は暗褐色のローム土層である。

第5層は暗褐色でソフトローム層への漸移層である。

第6層は暗褐色のソフトローム層である。

第7層は黄褐色のソフトローム層である。

第8層はハードローム最上部で、明黄褐色を呈している。

第9層は明黄褐色のハードローム層である。第8層より色みが強く、黒色粒子、白色粒子を微量含んでいる。

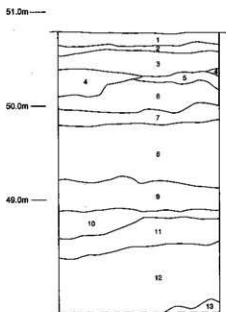
第10層は明黄褐色で鹿沼バミスの純層である。層厚が約7cm~30cmほどあり、地表面から約190cm下層で確認された。粘性は極めて弱い。

第11層は、黄色で鹿沼バミスの純層の下層である。層厚が約20cm~40cmほどあり、粘性は極めて弱い。

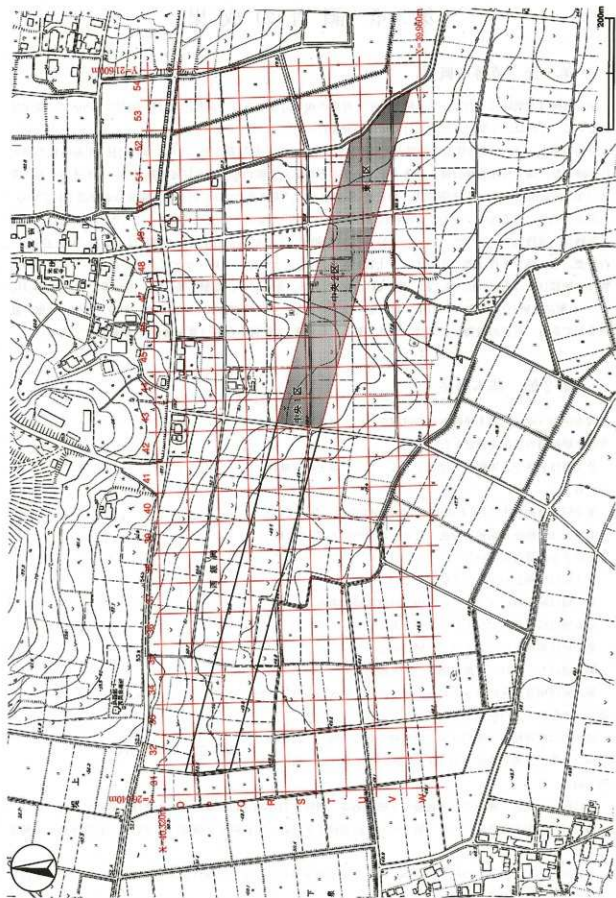
第12層は、明黄褐色のローム土層である。白色粒子を含み、黒色粒子を微量含んでいる。粘性が強く、締まっている。

第13層は、にぶい黄色の粘土層である。粘土粒子を多量に含んでいる漸移層で、赤色粒子、黒色粒子を微量含んでいる。粘性が強く、締まっている。

遺構は、第8層の上面で確認できた。



第2図 基本土層図



第3図 金谷遺跡調査区設定図

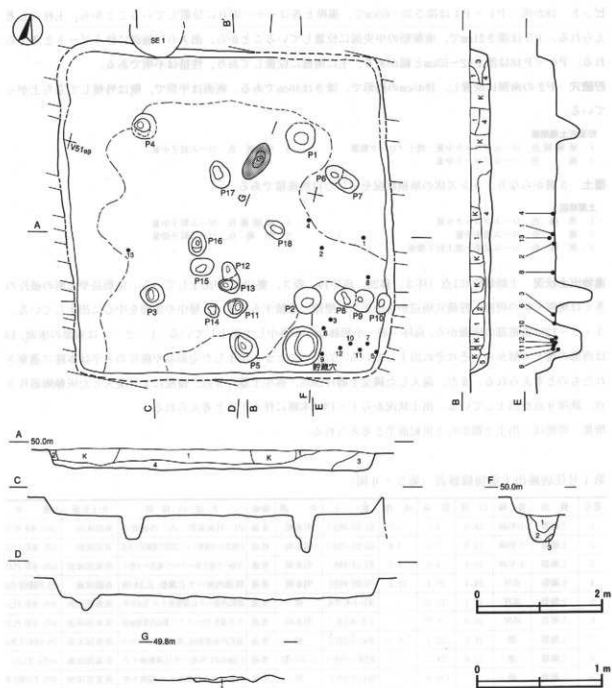
第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は堅穴住居跡14軒、土坑1基が確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第1号住居跡 (第4～6図)



第4図 第1号住居跡実測図

位置 東区東部のV51e9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸5.23m、短軸5.21mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は27cmで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、主柱穴の内側を中心に踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに付設されている。長径56cm、短径32cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量

ピット 18か所。P1～P4は深さ36～60cmで、規模と各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5は深さ21cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P18は深さ12～53cmと幅があり、主に南部に位置しており、性格は不明である。

貯蔵穴 P2の南側に位置し、径45cmの円形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

3 明褐色 ローム粒子中量

2 褐色 ロームブロック中量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

4 極暗褐色 ローム粒子中量

2 褐色 ローム粒子少量

5 黒褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

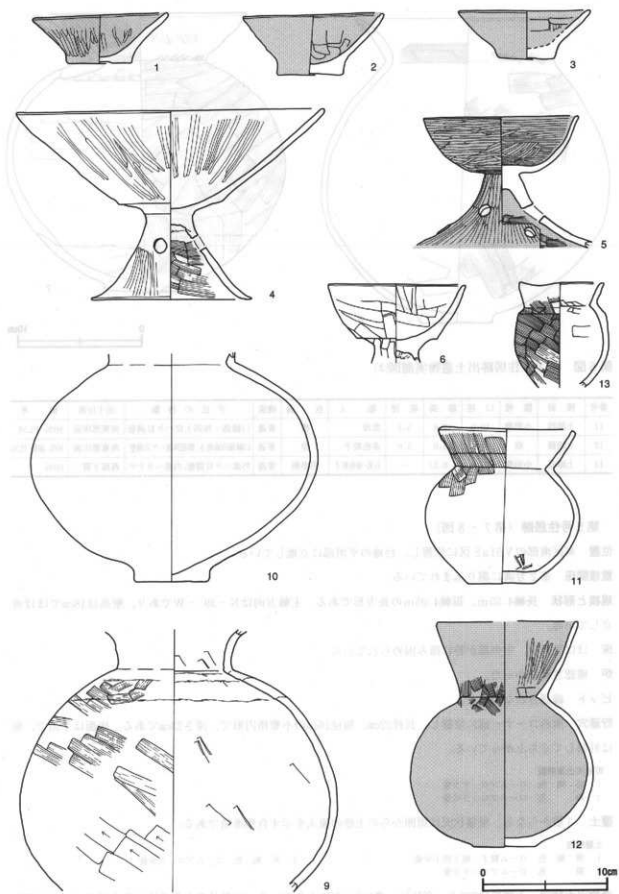
遺物出土状況 土師器片451点(坏3, 鉢20, 高坏19, 壺3, 甕426)が出土している。完形品や大形の破片の多くは壁際や炉の周囲、貯蔵穴周辺から出土し、壁際に堆積する第3・4層中や床面を中心に出土している。

3・5～12は南東部の床面から、高坏・壺・小形鉢などが集中して出土している。1・2・4は東部の床面、13は西部の覆土下層から、それぞれ出土している。以上のことから出土した完形品や破片の大半は本跡に遺棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片26点、弥生土器片3点、擾乱により混入した灰陶陶器片3点、鉄滓9点が出土している。出土状況から1～13は本跡に伴う土器と考えられる。

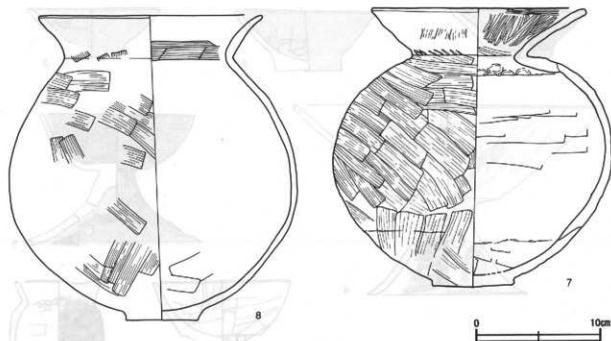
所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表(第5・6図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	小形鉢	18.0	4.1	5.2	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	内・外面赤彩, 内・外面磨き	東部床面	100% 赤彩 PL55
2	土師器	小形鉢	10.9	5.1	4.8	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外側ナテ, 口縁部内側磨き	東部床面	95% 赤彩 PL56
3	土師器	小形鉢	10.4	4.0	4.3	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き後ヘラナテ, 底部ヘラ磨き	南東部床面	85% 赤彩 PL55
4	土師器	高坏	24.4	15.4	12.3	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部内面ハケ目調整, 孔3か所	東部床面	95% 外縁磨き PL55
5	土師器	高坏	12.1	(10.5)	-	長石・石英	橙	普通	脚部内面ハケ目調整後ナテ, 孔5か所	南東部床面	70% 赤彩 PL55
6	土師器	高坏	10.9	(6.2)	-	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	内・外側多方向ヘラナテ, 脚部内側調整	南東部床面	60% 赤彩 PL55
7	土師器	壺	16.6	22.4	[6.2]	長石・赤色粒子	橙	普通	頸部内面指痕, 体部内面ヘラナテ	南東部床面	78% 外縁磨き PL55
8	土師器	甕	15.8	24.5	[5.7]	純胎子・白胎子	におい橙	普通	口縁部内・外側ハケ目調整後ナテ	南東部床面	60% PL55
9	土師器	壺	-	(20.9)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	外面ハケ目調整後ナテ, 輪模み痕	南東部床面	30% 外縁磨き
10	土師器	甕	-	(18.3)	6.0	長石・石英	橙	普通	内面ナテ	南東部床面	78% 磨き PL56



第5図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
11	土師器	小形甕	10.9	12.6	5.1	赤母		橙	普通	口縁部~体部上位ハケ目調整	南東部床面	90% PL56
12	土師器	壺	11.3	18.0	5.0	赤色粒子		橙	普通	口縁部内面磨き, 胴部外面ハケ目調整	南東部床面	90% 赤彩 PL56
13	土師器	小形甕	6.8	(8.5)	-	石灰・赤色粒子		明赤褐	普通	外面ハケ目調整, 内面ヘラナデ	西部下層	60%

第5号住居跡 (第7・8図)

位置 東区南部のV51a2区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.55m, 短軸4.05mの長方形である。主軸方向はN-39°-Wであり, 壁高は18cmでほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。

炉 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置し, 長径32cm, 短径16cmの不整楕円形で, 深さ23cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

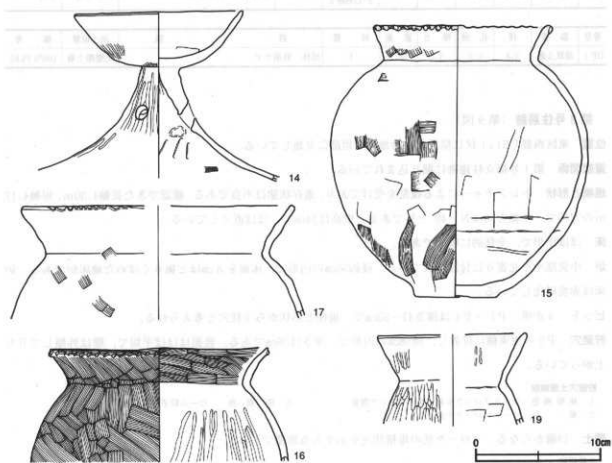
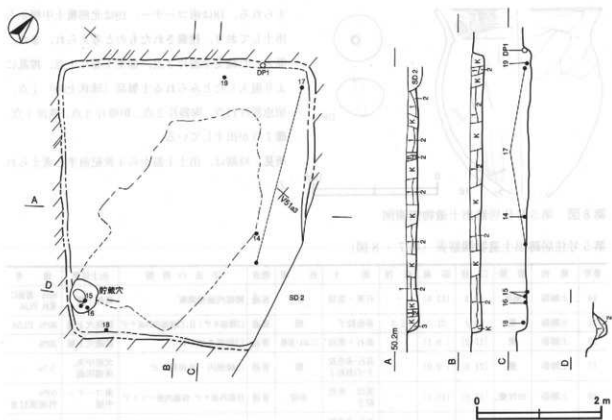
- 1 褐 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

覆土 3層からなる。堆積状況は周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

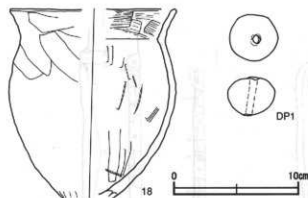
土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 明 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片232点(高坏37, 甕195)が出土している。完形品や大形破片の多くは北コーナー部と東コーナー部及び貯蔵穴から出土している。15・16は貯蔵穴内から出土しており, 本跡に遺棄されたものと考



第7図 第5号住居跡・出土遺物実測図



第8図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表(第7・8図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
14	土師器	高坏	13.3	(13.6)	-	-	石英・雲母	赤	普通	臀部内面指頭痕	東部下層	65% 器面に 見れ PL56
15	土師器	甕	14.2	21.7	5.3	-	赤色粒子	橙	普通	口唇部キザミ目, 口縁部内外面ナデ	貯蔵穴上層	80% PL56
16	土師器	甕	[17.2]	(9.1)	-	-	長石・雲母	にぶい赤帯	普通	口唇部キザミ目	貯蔵穴上層	20%
17	土師器	甕	[21.8]	(9.0)	-	-	長石・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	北部中央、東側床面	5%
18	土師器	台付甕	[13.0]	(15.1)	-	-	雲母・赤色粒子	赤橙	普通	体部外面ナデ, 体部内面ヘラナデ	南コーナー 中層	60% 外面煤付着
19	土師器	小形甕	[11.8]	(7.2)	-	-	長石・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	北部中層	5%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	球状土鍾	3.8	0.6	3.0	35.7	土	球体, 外面ナデ	北階上層	100% PL85

第8号住居跡(第9図)

位置 東区西部U5111区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けており, 遺存状態は不良である。確認できた長軸4.30m, 短軸4.17mの方形で, 主軸方向はN-49°-Wである。壁高は24cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 全体的に軟弱である。

炉 中央部やや北寄りに付設されている。径約50cmの円形で, 床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット 4か所。P1~P4は深さ41~53cmで, 規模と形状から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 P2の南東側に位置し, 径58cmの円形で, 深さは36cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | | |

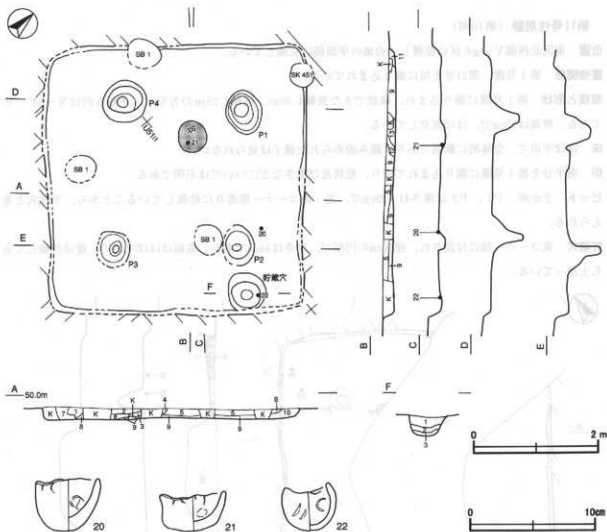
覆土 13層からなる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |

えられる。18は南コーナー, 19は北部覆土中層から出土しており, 投棄されたものと考えられ, また, 混入した縄文土器片3点, 弥生土器片1点, 攪乱により混入したとみられる土製品(球状土鍾)1点, 須恵器片11点, 陶器片2点, 炉壁片3点, 鉄滓1点, 鏝7点が出土している。

所見 時期は, 出土土器から4世紀前半と考えられる。



第9図 第8号住居跡・出土遺物実測図

- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 黒色 ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック中量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量

- 10 黒色 ロームブロック中量
- 11 黒褐色 ロームブロック少量
- 12 黒色 焼土ブロック少量
- 13 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片77点（高坏9，堿65，手捏土器3）が、主に覆土下層から遺棄されたような状態で出土している。その中で、22は貯蔵穴から1，21は炉内から1，20は東側の床面から1，合計3点の甕形手捏土器が出土している。これら3点の手捏土器は完形品で住居廃絶時に本跡に遺棄されたものと考えられ、何らかの祭祀行為に係わるものと考えられる。細片のため図示できなかったが、口縁部外面に輪積み痕を残す房総系平底甕の口縁部が覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片8点，弥生土器片2点，攪乱により混入した須恵器片10点，陶器片2点，炉壁片1点，鉄滓19点，礫22点（破砕礫）が出土している。

所見 遺存状態が悪く，出土土器も少ないが時期は住居跡の形態や出土土器の様相から4世紀代と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
20	土師器	手捏土器	5.0	4.2	-	灰石灰色胎子	明赤褐	普通	内面ヘラナデ，指頭痕	東部床面	95% PL57
21	土師器	手捏土器	5.3	3.2	3.9	灰石灰色胎子	明赤褐	普通	内面ヘラナデ，指頭痕	炉跡内	95% PL57
22	土師器	手捏土器	3.5	3.8	-	灰石灰色胎子	明赤褐	普通	内面ヘラナデ，指頭痕，工具痕	貯蔵穴上層	95% PL57

第11号住居跡 (第10図)

位置 東区北西部V50g6区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号溝、第21号土坑に掘り込まれている。

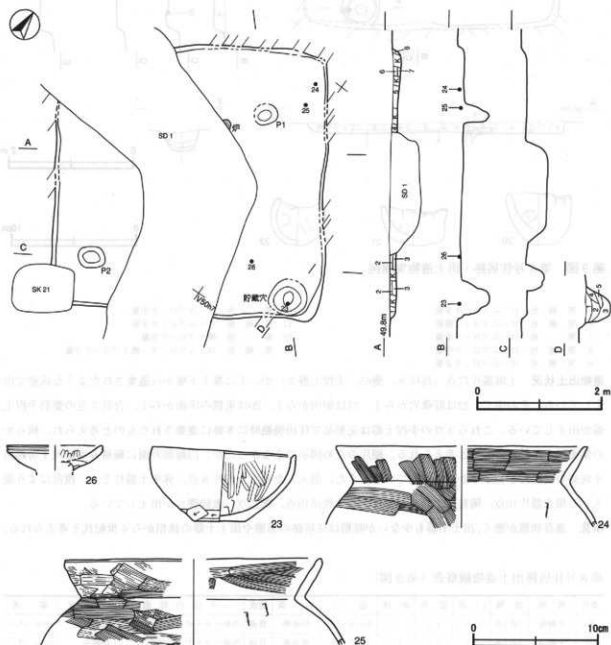
規模と形状 第1号溝に掘り込まれ、確認できた長軸4.30m、短軸4.25mの方形で、主軸方向はN-34°-Wである。壁高は10cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟弱であり、踏み固められた様子は見られない。

炉 南半分を第1号溝に掘り込まれており、形状及び深さなどについては不明である。

ピット 2か所。P1、P2は深さ41・28cmで、北・南コーナー部に寄りか位置していることから、主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設され、径60cmの円形で、深さは44cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第10図 第11号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

覆土 8層からなる。層厚が薄く、攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | 粘土粒子, 黒色土微量 |

遺物出土状況 土師器片62点(坏2, 高坏5, 甕52, 椀2, 器台1)が北及び東コーナーの覆土中層から下層を中心に廃棄された状態で出土している。23は貯蔵穴の覆土上層, 24・25は北コーナー部の覆土中層, 26は東部の覆土下層から出土している。また, 混入した縄文土器片2点, 攪乱により混入した須恵器片13点, 土師質土器片1点, 鉄滓2点, 礫8点(破砕礫)が出土している。

所見 時期は, 出土土器や住居跡の形状から4世紀前半と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表(第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	質	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
23	土師器	椀	11.4	5.9	4.1	石英・赤色粒子・白色粒子	褐	普通	口縁部横ナデ		貯蔵穴上層	70% PL57
24	土師器	甕	[19.2]	(6.4)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部沈線, 体部内面ヘラナデ		北コーナー中層	10%
25	土師器	甕	[20.2]	(6.9)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整		北コーナー中層	10%
26	土師器	器台	[7.7]	(2.2)	-	灰・雲母・鉄滓	橙	普通	口縁部横ナデ, 体部内面磨き		東部下層	10% 内面粗磨

第23号住居跡(第11図)

位置 東区西部V50c4区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第7・96号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた長軸5.28m, 短軸4.85mの方形で, 主軸方向はN-40°-Wである。壁高は8cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。径約50cmの円形で, 床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット 確認されなかった。

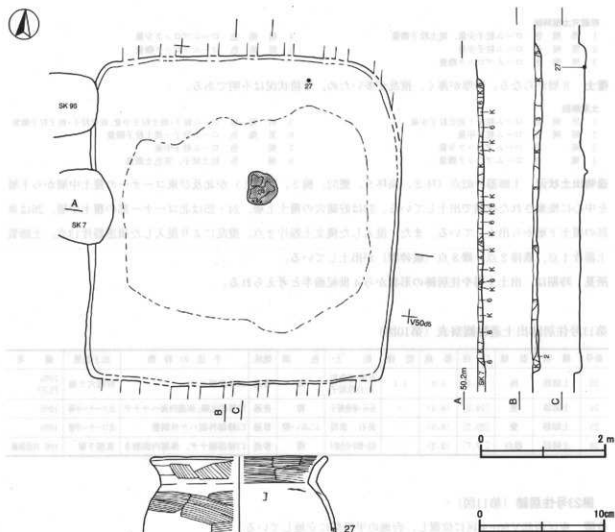
覆土 7層からなる。層厚が薄く攪乱が多いため, 残存部分は少ないが, ロームブロックが中量含まれていることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片38点(高坏12, 甕36)が, 覆土中から散在した状態で出土している。27は北部の床面から出土している。そのほかに, 彩色された壺の口縁部が出土しているが, 細片のため図示できなかった。また, 攪乱により混入した須恵器片3点, 陶器片2点, 鉄滓5点, 礫1点が出土している。

所見 遺存状態が悪く出土土器も少ないが, 時期は, 4世紀代と考えられる。



第11図 第23号住居跡・出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
27	土器	小形甕	[12.8]	(6.1)	-	長石・赤色 紋子	に高い赤褐	普通	口縁部内外面・体部外面ハケ 目調整	北壁際床面	10% 外面露付着

第24号住居跡 (第12・13図)

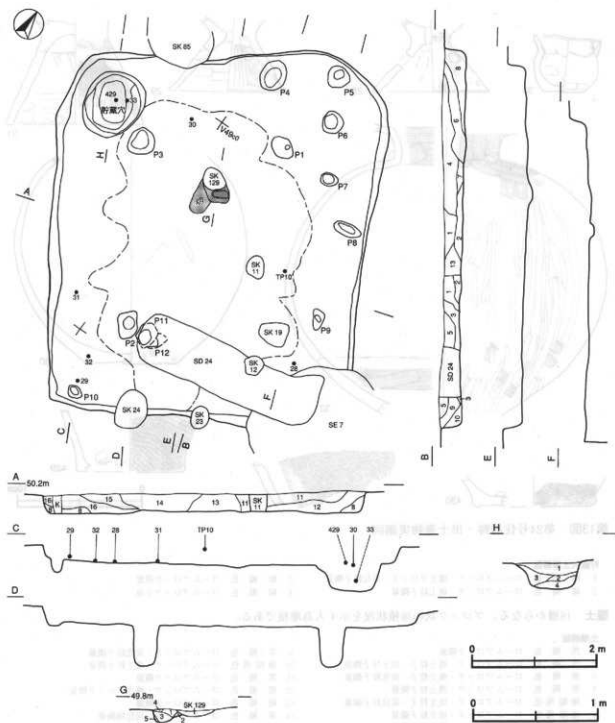
位置 中央2区南東部V49c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第11・12・19・23・24・85・129号土坑、第7号井戸、第24号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.00m、短軸5.31mの長方形で、主軸方向はN-29°-Wである。壁高は37cmで、ほぼ直立している。

床 中央部が若干高まりをもち、よく踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに付設されている。炉の北部は第129号土坑に掘り込まれており、残存部分は長径約40cm、短径約20cmの楕円形である。床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は赤変硬化している。炉の南部から直方体状の粘土塊が出土した。粘土塊は約28cm×12cm×5cmの大きさでわずかに被熱しており、炉石と同様の役割を果たしていたと考えられる。



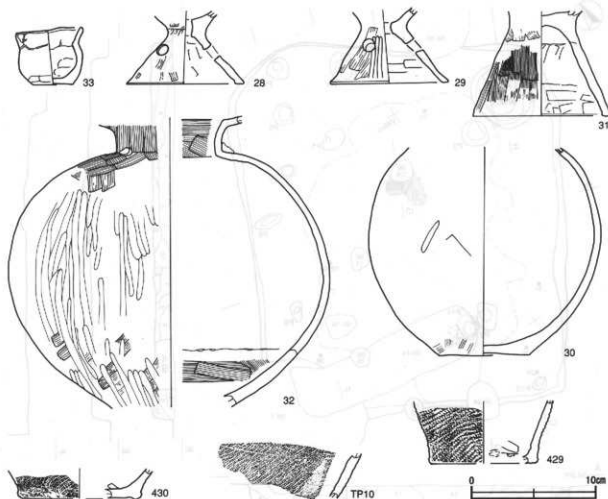
第12図 第24号住居跡実測図

伊土層解

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子少量、流土ブロック微量 |
| 2 褐色 焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子少量 | |

ピット 12か所。P1～P3は深さ53～71cmで、配置と規模から主柱穴と考えられる。南東部の主柱穴があると考えられる範囲は第19号土坑に掘り込まれており、主柱穴は確認できなかった。P4～P12は深さ9～32cmと幅があり、性格は不明である。

貯蔵穴 西コーナー部に位置し、径100cmの円形で、深さは42cmである。底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がっている。



第13図 第24号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 16層からなる。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 黒暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 7 黒暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片514点（坏3，高坏43，器台12，壺67，甕388，ミニチュア1），粘土塊が出土している。完形品や大形破片の多くは壁際や炉の周囲，貯蔵穴から出土し，遺棄されたものと考えられる。また，混入した縄文土器片21点，弥生土器片18点，石核1点，攪乱により混入した須恵器片6点，炉壁片1点，礫16点（破砕礫・被熱痕5）が出土している。28は東部の床面，TP10は東部の覆土上層，29・31・32は南部の覆土下層，30は西部の覆土下層，33は貯蔵穴の覆土中層から，429は単節縄文を施文した弥生土器片で，貯蔵穴の覆土上層から出土し，1点だけで投棄されたものと考えられる。出土状況から28～32は本跡に伴う土器と考えられる。所見 時期は，出土土器等から4世紀前半と考えられる。炉に炉石又はその代用である粘土塊が確認されているのは本跡と第110号住居跡である。

第24号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
28	土師器	鉢台	-	(5.7)	9.1	雲母	明赤褐	普通	胴部内面ヘラナデ、孔3か所	東部床面	50%
29	土師器	鉢台	-	(6.0)	9.2	紅石灰・赤地粒子	明赤褐	普通	胴部内面ヘラナデ、孔3か所	南部下層	55%
30	土師器	壺	-	(16.5)	5.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	西部下層	50%
31	土師器	台付壺	-	(8.4)	10.8	長石・石英	明褐	普通	胴部内面ヘラナデ、輪破み痕	南部下層	10%
32	土師器	壺	-	(23.1)	-	赤色粒子	にぶい赤褐	普通	胴部内形浮文3か所	南部下層	70% PL56
33	土師器	ミニチュア	5.2	4.6	3.1	長石・赤地粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴中層	100% PL57
429	弥生土師	壺	-	(5.0)	[8.4]	紅石灰・赤地粒子	にぶい赤褐	普通	胴部Rシの単部縄文が施されている	貯蔵穴上層	10%
430	弥生土師	壺	-	(2.4)	[9.0]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	胴部付加糸一環(附加2糸)の縄文施文	覆土中	10%

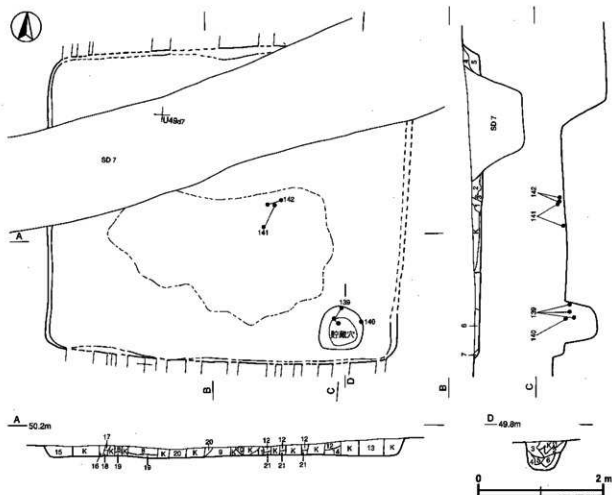
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP10	弥生土師	壺	-	(4.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	胴部付加糸一環(附加2糸)の縄文施文	東部上層	PL77

第39号住居跡 (第14・15図)

位置 中央2区東部U49d7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第7号溝に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた長軸5.55m、短軸5.08mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は26cmで、ほぼ直立



第14図 第39号住居跡実測図

している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

炉 第7号溝に掘り込まれたものと考えられる。

ピット 確認できなかった。

貯蔵穴 南東壁際に位置し、長径84cm、短径62cmの楕円形で、深さは36cmである。底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がっている。

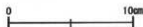
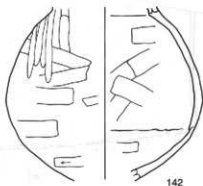
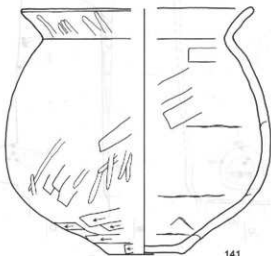
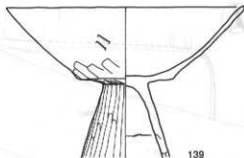
貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 明褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |

覆土 21層からなり、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 12 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 13 灰黄褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 にぶい褐色 ロームブロック少量 | 14 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 4 灰黄褐色 ロームブロック微量、ローム粒子中量 | 15 明黄褐色 ロームブロック少量 |
| 5 にぶい黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子微量 |
| 6 にぶい黄褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 17 にぶい黄褐色 ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 7 灰黄褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 明黄褐色 ロームブロック微量 |
| 8 にぶい黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 19 にぶい黄褐色 ローム粒子多量 |
| 9 灰黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 20 明黄褐色 ローム粒子多量 |
| 10 黒褐色 ロームブロック微量 | 21 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 11 にぶい黄褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | |



第15図 第39号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片204点(坏4, 高坏41, 甕159)が覆土中層から下層を中心に廃棄された状態で出土している。完形品で壁際, 床面で確認された遺物は少なく, 大半が破片であり, 本跡の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。139・140は貯蔵穴内からと貯蔵穴東側から出土しており, 本跡に遺棄されたもの, 141, 142は中央部覆土下層から出土している。また, 攪乱により混入した須恵器片7点, 陶器片2点, 礫22点(破砕礫; 被炭痕10), 鉄滓4点(流動滓), 炉壁片4点, 粘土塊1点が出土している。

所見 時期は, 出土土器から5世紀前葉と考えられる。

第39号住居跡出土遺物観察表(第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	土師器	高坏	19.0	(12.1)	-	灰青黄緑色粘土	橙	不良	坏部内面ヘラナデ, 胴部外面ヘラナデ	貯蔵穴上層	55% PLS7
140	土師器	高坏	-	(8.3)	14.6	灰青黄緑色粘土	明赤褐	普通	胴部外面ヘラナデ, 内面下層側ナデ	貯蔵穴上層	40% 外面塗付
141	土師器	甕	[15.8]	19.6	6.0	長石	にぶい黄褐色	普通	胴部外面ヘラナデ, 底部ヘラナデ	中央部下層	90%
142	土師器	甕	-	(13.8)	-	長石・石英	橙	普通	胴部内外面ヘラナデ, 輪襷み直し	中央部下層	30% 外面塗付

第53号住居跡(第16~18図)

位置 中央2区中央部U46b4区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。長軸8.90m, 短軸7.80mの長方形で, 主軸方向はN-35°-Eである。壁高は35cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 全体的に軟弱であり, 壁際に比して中央部がわずかに低くなっている。

炉 中央部やや北寄りに付設されている。焼土を含んだ暗褐色土で覆われており, 床面を12cmほど掘りくほめた地床炉である。攪乱を受けており, 上部は残存していないが, 残存する炉底の東側が特に赤変硬化している。ピット 21か所。P1~P4は深さ60~68cmで, 配置と規模から主柱穴と考えられる。P19はP3の北側に位置し, 深さが82cmあることから, P3の補助柱穴と考えられる。P5~P21は深さ12~48cmで, 幅があり, 主に南部に位置しているが, 性格は不明である。

貯蔵穴 P1の東側に位置し, 長径120cm, 短径90cmの楕円形で, 深さは48cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

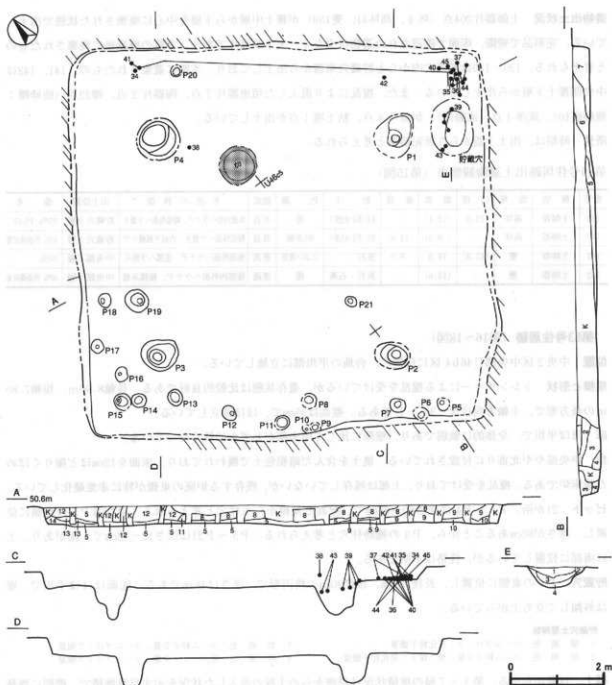
- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量 |

覆土 14層からなる。第1~7層の堆積状況は周囲からの土砂の流入した状況を示す自然堆積で, 壁際に堆積している第8~14層は, 焼土ブロック・炭化材や炭化物が比較的多く含まれているため, 本跡の廃絶時のもの人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 8 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒色 ローム粒子, 炭化物少量 | 9 黒褐色 炭化物・ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ローム粒子中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化材少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量 | 12 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック少量 | 13 暗褐色 ロームブロック・炭化材少量 |
| 7 黒色 炭化物中量, ロームブロック少量 | 14 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片1077点(坏12, 高坏146, 壺1, 埴13, 甕864, 瓶10, 器台21, 碗9, 手捏土器1)が出土している。完形品や大形破片の多くは, 北及び東コーナー部や炉の周囲, 貯蔵穴から出土している。それらは壁際に堆積する第7, 9層中や床面で確認されている。特に39・43は貯蔵穴内から, また35・36・37・40・

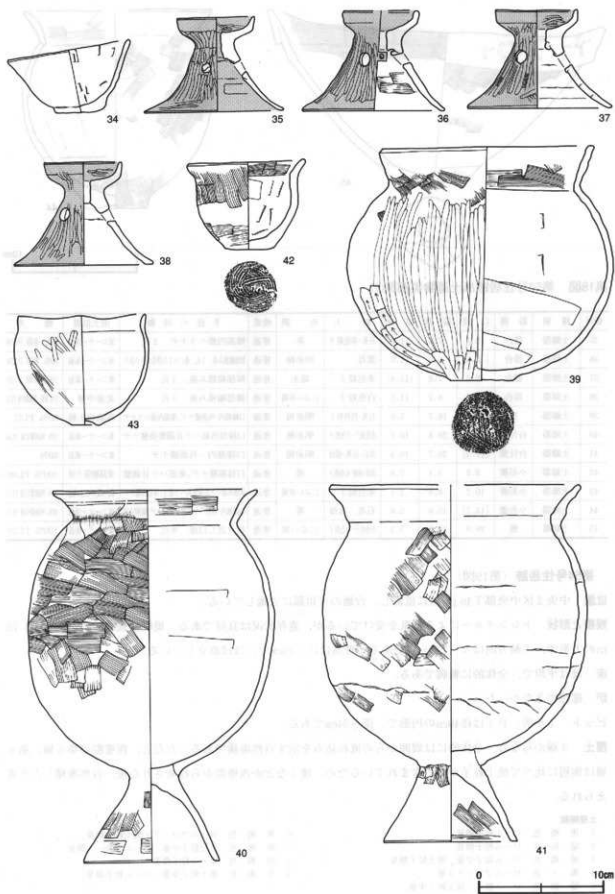


第16図 第53号住居跡実測図

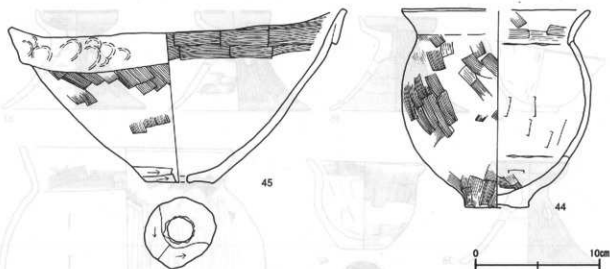
42・44・45は東部の床面から集中的に出土している。38は北部覆土中層から、34・41は北部の覆土下層から出土している。出土した完形品や破片の大半は本跡に遺棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片5点、弥生土器片3点、攪乱により混入した須恵器片26点、陶器片7点、鉄滓70点、瓦片2点、石器・石製品5点(砥石1、紡錘車1、剥片3)、泥面子1点、古銭1点(寛永通寶)、銅製品1点(煙管)が出土している。所見 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。

第53号住居跡出土遺物観察表(第17・18図)

番号	種別	器種	口径	径高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
34	土器	甕	9.7	5.6	3.7	石英	橙	普通	体部内・外面ヘラナテ、体底下端ナテ	北コーナー後面	100% 量産品 PL58



第17图 第53号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第53号住居跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師器	器台	6.1	7.6	11.0	石英・赤色粒子	赤	普通	脚部内面ヘウナデ。3孔	東コーナー前面	90% 赤影 PL58
36	土師器	器台	[5.8]	8.0	11.0	雲母	明赤褐	普通	脚部輪積み痕。3孔。底に小さな穿孔あり	東コーナー後面	80% 赤影 PL58
37	土師器	器台	6.6	7.8	(11.4)	赤色粒子	暗赤	普通	脚部輪積み痕。3孔	東コーナー後面	70% 赤影 PL58
38	土師器	器台	6.2	8.2	11.0	白色粒子	にぶい赤褐	普通	脚部輪積み痕。3孔	北部中層	75% 赤影 PL58
39	土師器	甕	16.4	18.7	5.0	石英・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。器内面ヘウナデ	貯蔵穴上層	80% PL57
40	土師器	台付甕	16.3	29.8	10.7	赤色粒子・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面ハケ目調整後横ナデ	東コーナー前面	75% 赤影 PL58
41	土師器	台付甕	[19.5]	28.7	10.5	灰石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	東コーナー後面	60%
42	土師器	小形甕	9.2	4.1	7.8	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口唇部横ナデ。底部ハケ目調整	東部埋藏下層	100% PL58
43	土師器	小形甕	10.2	8.8	2.1	赤色粒子	にぶい赤褐	普通	器内面ハケ目調整後ヘウナデ。器内面横ナデ	貯蔵穴上層	75% 赤影 PL58
44	土師器	小形甕	[14.7]	15.8	5.0	石英・雲母	橙	普通	口唇部内・外面ハケ目調整後横ナデ。輪積み痕	東コーナー後面	85% 赤影 PL57
45	土師器	甕	26.9	14.0	5.3	赤色粒子・白色粒子	にぶい褐	普通	折り返し口縁。厚孔	東コーナー後面	100% PL59

第54号住居跡 (第19図)

位置 中央2区中央部T46j1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状況は良好である。規模は長軸3.95m、短軸3.75mの方形で、主軸方向はN-72°-Wである。壁高は15~25cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟弱である。

炉 確認できなかった。

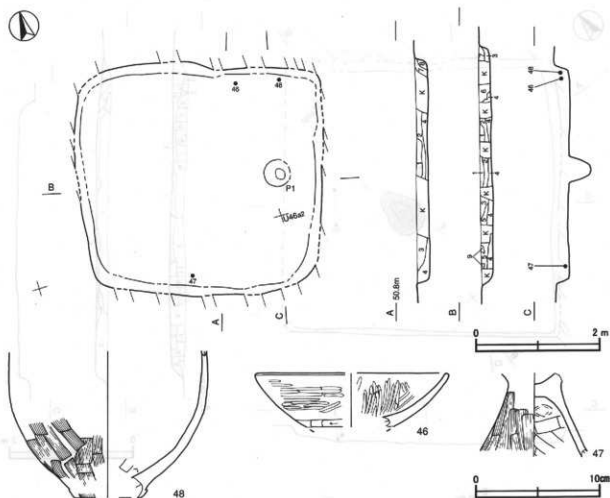
ピット 1か所。P1は径40cmの円形で、深さ34cmである。

覆土 9層からなる。全体的には周囲からの流れ込みを示す自然堆積である。ただし、西壁際の第5層、第9層は他層に比べて焼土粒子が多く含まれているため、焼土などが西壁際から投棄された後、自然堆積したと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片53点(坏3, 高坏7, 甕43)が覆土中層から下層を中心に遺棄された状態で出土して



第19図 第54号住居跡・出土遺物実測図

いる。47は南壁際の覆土下層から出土している。また、46・48は北壁際の第8層の覆土中層から出土している。これらの遺物は本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。また、攪乱により混入したとみられる須恵器片3点、陶器片1点、石6点が出土している。

所見 極めて遺存状態が悪く出土土器も少ないが、時期は、4世紀代と考えられる。

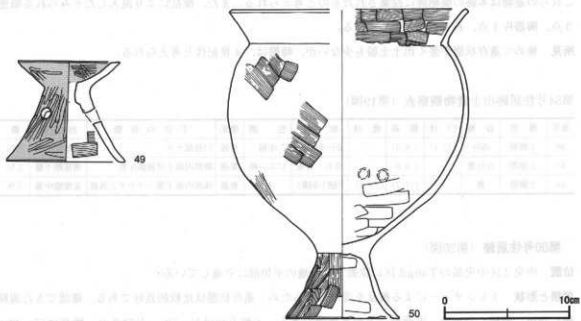
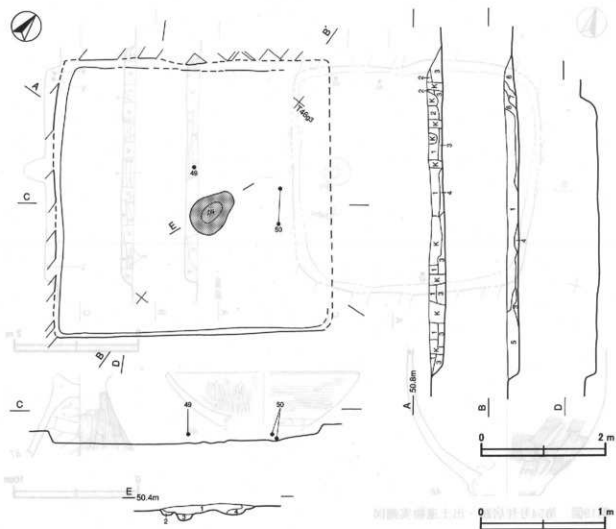
第54号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
46	土師器	高坏	[15.1]	(4.3)	-	長石・赤色粘土	赤褐	普通	口唇部ナデ	北壁跡中層	10%
47	土師器	台付蓋	-	(6.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	脚部内面上位指頸圧痕	南壁跡下層	5%
48	土師器	壺	-	(11.7)	[5.2]	白色胎子・赤色粘土	褐	普通	体部内面下端ヘラナデ工具痕	北壁跡中層	5%

第60号住居跡（第20図）

位置 中央2区中央部のT46g2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は長軸4.38m、短軸4.35mで、平面形は方形と推測できる。主軸方向はN-50°-Eであり、壁高は17-22cmでほぼ垂直に立ち上がっている。



第20図 第60号住居跡・出土遺物実測図

床 やや北から南に傾斜した床面で、全体的に軟弱であり硬化面はない。

炉 中央部に設けられている。長径68cm、短径55cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。

炉床は赤変硬化している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒色 炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
4 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 確認できなかった。

覆土 8層からなる。床面に堆積する第4層は他層に比べて焼土粒子が多く含まれているため、焼土などが廃棄された人為堆積の後、周囲から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色 炭化物多量・ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック中量
4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子少量
6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
7 褐色 ローム粒子中量
8 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片224点（高坏13、器台3、甕208）が覆土中層から下層を中心に廃棄された状態で出土している。完形品や壁際、床面上で確認された遺物は少ない。49は中央部の覆土中層、50は東部の覆土下層から出土している。また、攪乱により混入した須惠器片1点、瓦片1点、礫1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。

第60号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
49	土師器	器台	8.1	8.0	9.4	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	明確な肩・胴部へは、内縁へは目隠し	中央部中層	80% 赤彩 PL59
50	土師器	台付甕 [18.6]	24.8	9.0	石英	明赤褐	普通	口縁部外縁へは、胴部外縁へは目隠し後縁へは		東部下層	50% PL58

第62号住居跡（第21図）

位置 中央2区東部のU49g9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第6号溝に掘り込まれて、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた一辺は3.38mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はN-36°-Wであり、壁高は10cmでほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に軟弱であり、硬化面はない。

ピット 1か所。南東部の壁際に位置し、径50cmの円形で深さは36cmである。底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がっている。

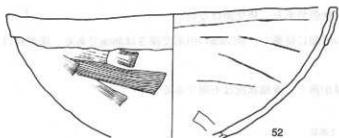
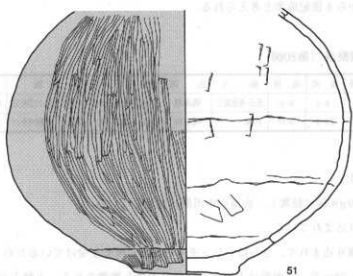
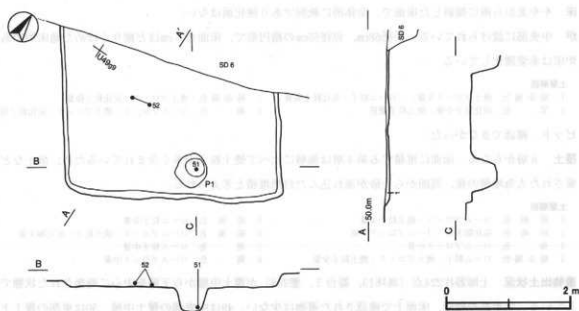
覆土 1層からなる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片214点（高坏13、甕201）が覆土中から出土している。特に51はP1内から出土しており、本跡に遺棄されたものと判断される。また、52は中央部の覆土下層から潰れたような状態で出土している。また、攪乱により混入したと考えられる須惠器片8点、灰釉陶器片2点、礫1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第21図 第62号住居跡・出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表 (第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
51	土師器	甕	-	(21.2)	7.9	白色粒子	明赤褐色	普通	体部内面ナデ, 輪積み痕	P 1 内下層	70% 赤彩
52	土師器	甕	26.3	(10.6)	-	灰白色粘質	橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ	中央部下層	70% 黒彩付 2.5%

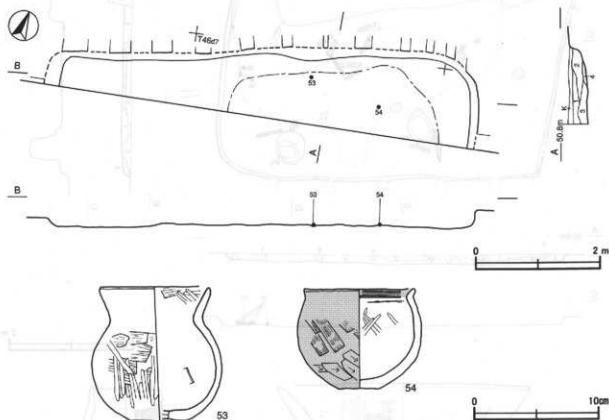
第92号住居跡 (第22図)

位置 中央2区西部のT46d7区に位置し、台地の平坦部に立地している。
 規模と形状 南側は調査区域外に延びているため、確認できた規模は東西軸6.80m、南北軸1.42mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はN-82°-Eであり、壁高は14~25cmで、ほぼ直立している。
 床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。
 炉 調査区域外に位置しているものと考えられる。
 ビット 確認できなかった。
 覆土 4層からなる。ブロック状の堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片104点(高坏2, 器台1, 甕101)が床面から覆土下層を中心に廃棄されたような状態で出土している。特に53・54は床面から出土しており、本住居の廃絶の際に遺棄されたものと考えられる。また攪乱により混入した須恵器片4点, 土師質土器片2点が出土している。
 所見 時期は, 出土土器から4世紀前半と考えられる。



第22図 第92号住居跡・出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
53	土師器	小形甕	8.8	10.7	[4.3]	赤色粘土	明赤褐色	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	北壁際床面	70% PL59
54	土師器	小形甕	8.9	8.1	3.1	赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整後ナデ	北壁床面	85% 8.6.15.15

第95号住居跡 (第23図)

位置 中央1区東部のT45c8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

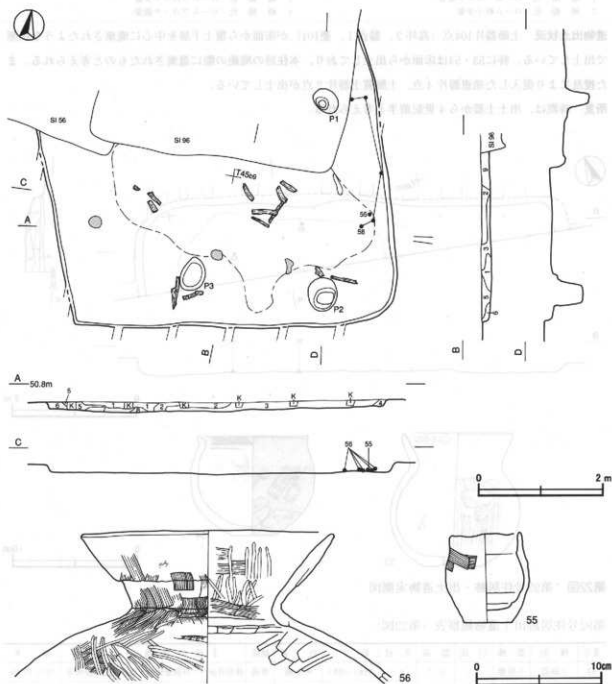
重複関係 第56・96号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第56・96号住居に掘り込まれており、さらにトレンチャーによる擾乱を受けているため、確認できた規模は南北軸5.35m、東西軸4.20mで、平面形は方形あるいは長方形と考えられる。長軸方向はN-74°-Eであり、壁高は10cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。炭化材が床面全体から出土している。

炉 第56・96号住居に掘り込まれているものと考えられる。

ピット 3か所。P1は深さが39cm、P2は深さ51cm、P3は深さ12cmであるが、性格は不明である。



第23図 第95号住居跡・出土遺物実測図

覆土 9層からなる。焼土やロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化材少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化材少量, ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物少量, ロームブロック微量 | 8 褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片80点(甕79, ミニチュア1)が床面を中心に遺棄された状態で出土している。攪乱により混入した須恵器片1点が出土している。55・56は東部の覆土下層から出土している。

所見 覆土中に焼土粒子や炭化物が含まれ, 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器から4世紀前半と考えられる。

第95号住居跡出土遺物観察表(第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
55	土師器	ミニチュア	5.8	7.2	3.9	赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ハケ目調整, 内面磨ナデ	東部下層	100% PL59
56	土師器	甕	19.6	(12.3)	-	黄赤-赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面ハケ目後磨ナデ	東部下層	20%

第110号住居跡(第24・25図)

位置 中央1区西部のT43a4区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第8・9号掘立柱建物, 第290号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第8・9号掘立柱建物に掘り込まれており, さらにトレンチャーによる攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は長軸6.20m, 短軸5.38mの方形である。主軸方向はN-27°-Wであり, 壁高は28cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。壁溝は南東壁際と北西壁際を巡っている。

炉 中央部やや北寄りに設けられている。長径66cm, 短径50cmの楕円形で, 床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。炉の覆土上層から炉石と考えられる石が出土しており, 大きさは約26cm×10cm×8cmで, わずかに被熱を受けている。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P3は配置と規模から支柱穴と考えられ, 深さは25～56cmである。P4は深さが19cmであり, 性格は不明である。

貯蔵穴 南壁際に位置し, 長径84cm, 短径62cmの不整楕円形で, 深さは36cmである。底面はほぼ平坦で, 外傾して立ち上がっている。

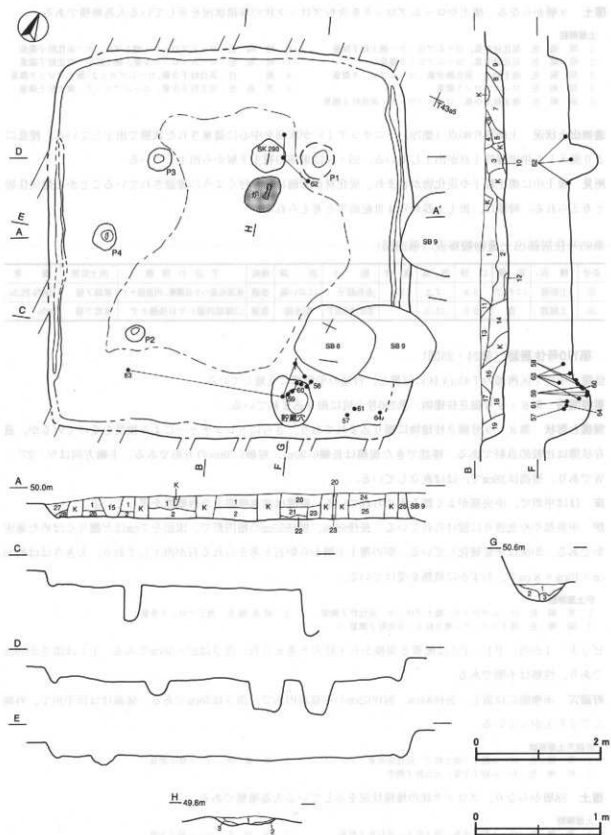
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

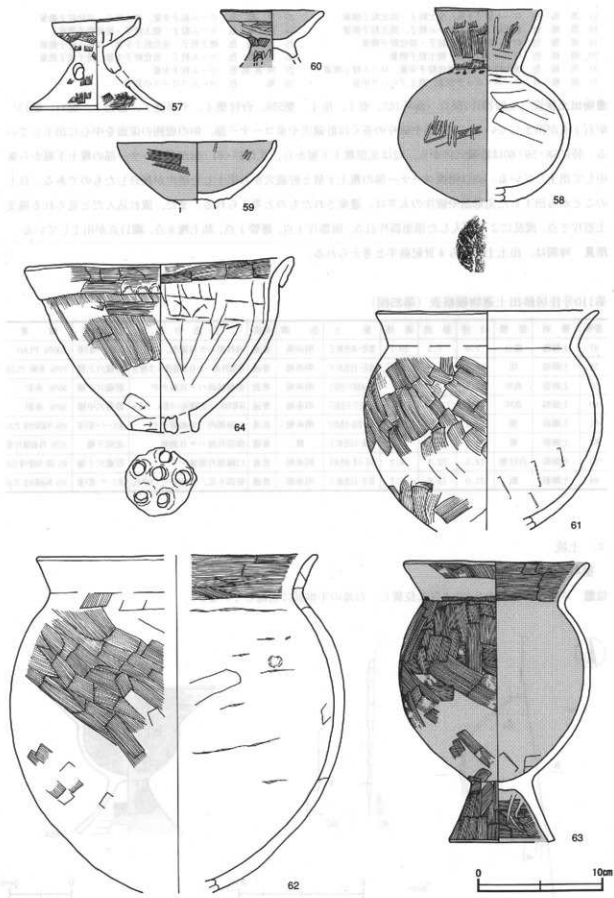
覆土 28層からなり, ブロック状の堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|---------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック・ローム粒子中量 |
| 3 黒色 | ローム粒子微量 | 11 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 13 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |



第24图 第110号住居跡実測图



第25图 第110号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|---------------------|
| 17 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 23 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 18 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 24 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 19 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 25 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 20 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 26 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子微量 |
| 21 黒褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 27 灰黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 22 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック中量 | 28 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片756点（高坏162, 壺1, 埴4, 甕559, 台付甕4, 小形甕1, 器台1, 碗11, 瓶13）
 炉石1点が出土している。完形品や破片の多くは貯蔵穴や東コーナー部、炉の周囲の床面を中心に出土している。特に58・59・60は貯蔵穴内から、62は北部覆土下層から、また57・61・64が東コーナー部の覆土下層から集中して出土している。63は南西コーナー部の覆土下層と貯蔵穴から出土した破片が接合したものである。以上のことから出土した完形品や破片の大半は、遺棄されたものと考えられる。また、流れ込んだと見られる縄文土器片2点、攪乱により混入した須恵器片41点、陶器片1点、細管1点、粘土塊8点、礫11点が出土している。
所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。

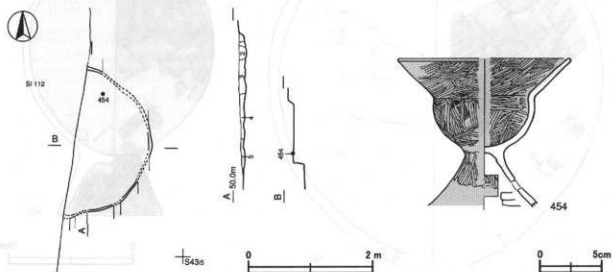
第110号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
57	土師器	器台	7.0	7.3	10.7	黄母・赤色粒子	明赤褐	普通	内外面ハケ目調整、3孔	東コーナー下層	100% PL60
58	土師器	埴	8.6	15.6	[4.4]	長石・白色粒子	明赤褐	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	貯蔵穴上層	70% 赤彩 PL59
59	土師器	高坏	[12.7]	(5.0)	-	灰緑・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ハケ目後ナデ	貯蔵穴下層	30% 赤彩
60	土師器	高坏	8.2	(3.9)	-	赤褐色・白色粒子	明赤褐	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き、3孔	貯蔵穴中層	50% 赤彩
61	土師器	甕	17.4	(17.6)	-	灰緑・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	東コーナー下層	85% 外縁磨き孔60
62	土師器	甕	22.5	26.8	-	石英・白色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目調整	北部下層	30% 外面塗着
63	土師器	台付甕	14.5	22.4	8.2	長石・赤褐色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ	貯蔵穴上層	85% 外縁磨き孔8
64	土師器	瓶	21.0	13.6	5.7	黄母・白色粒子	明赤褐	普通	底部6孔、外面からの穿孔	東コーナー下層	95% 外縁磨き孔60

(2) 土坑

第417号土坑（第26図）

位置 中央1区西部のS43h4区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第26図 第417号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第112号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第112号住居に掘り込まれており、確認できた規模は南北径2.45m、東西径1.22mで、平面形は円形と推測される。深さ16cmで底面は皿状にくぼみ、壁が外傾して立ち上がっている。

覆土 5層からなる。残存部分が、ロームブロックを含む人為地積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片3点(高坏3点)が底面から出土している。454は北部の底面から出土しており、本跡に遺棄されたものと考えられる。また、攪乱により混入した須恵器片1点、炭化材が出土している。

所見 時期は出土土器から4世紀代と考えられる。

第417号土坑出土遺物観察表(第26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
454	土師器	高坏	13.6	11.8	-	黄石・赤色粒子	明赤褐	普通	坏部外面ハク目調整後ヘラ磨き	北部床面	6% 赤影 PL60

2 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は堅穴住居跡75軒、掘立柱建物跡11棟、土坑5基、溝跡1条、不明遺構1基が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第2号住居跡(第27図)

位置 東区中央部V51c5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

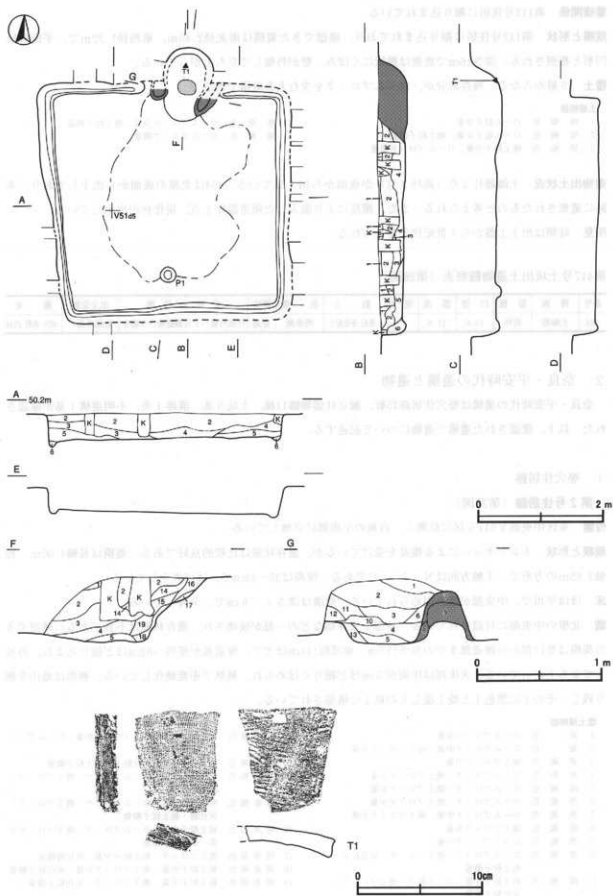
規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸4.00m、短軸3.85mの方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は35~44cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで、全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。袖部や天井部などの一部が破壊され、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ117cm、袖部幅111cmほどで、煙道部が壁外へ62cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が5cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。袖部は地山を掘り残し、その上に黒色土と焼土混じりの粘土で構築されている。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	12 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	13 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3 黄褐色	粘土ブロック中量	14 暗赤褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	15 暗赤褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	16 暗赤褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	17 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
7 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	18 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
8 暗褐色	焼土ブロック中量	19 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
9 黒褐色	ロームブロック中量		
10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量		
11 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量		



第27图 第2号住居跡・出土遺物実測図

ピット P1は深さ11cmで、竈に向い合う南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 5 褐色 | 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片77点(寛69, 瓶1, 高坏7), 須恵器片20点(坏・高台付坏15, 寛5), 瓦片1点(平瓦)が出土している。これらの遺物は竈内と東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱によって混入した陶器片1点, 鉄滓1点, 流動滓3点, 炉壁片1点, 粘土塊5点, それぞれ出土している。T1は竈内から出土している。出土土器はすべて細片で, 図示できるものはない。

所見 本跡周辺の遺構と出土土器から時期は8世紀後葉以前と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表(第27図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T1	平瓦	(8.8)	(7.8)	1.6	(118.0)	長石・雲母・赤色粒子	凹面布目状, 凸面平行叩き	竈内	

第3号住居跡(第28・29図)

位置 東区の中央部V51c1区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

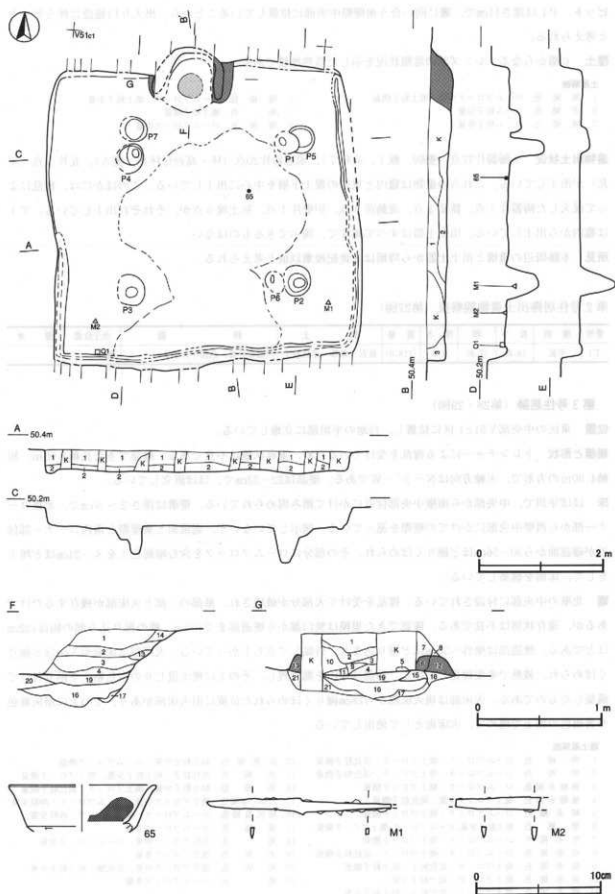
規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた長軸4.90m, 短軸4.80mの方形で, 主軸方向はN-5°-Wである。壁高は22~32cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部から南壁中央部付近にかけて踏み固められている。壁溝は深さ2~6cmで, 北東コーナー部から西壁中央部にかけての壁際を巡っている。図示していないが, 竈前面と東壁際と南西コーナー部付近が確認面から30~56cmほど掘りくぼめられ, その部分にロームブロックを含む暗褐色土を8~24cmほど埋土をして, 床面を構築している。

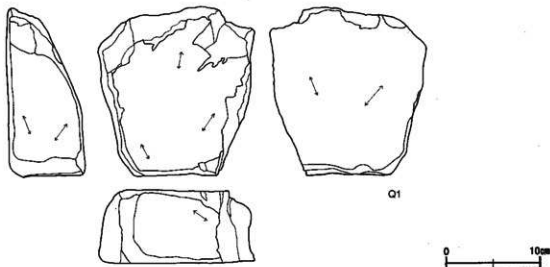
竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて大部分が破壊され, 袖部の一部と火床部が残存するだけであるが, 遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部まで100cm, 壁の掘り込み部の幅は132cmほどである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面が5cmほど掘りくぼめられ, 被熱で赤変硬化している。袖部は地山を掘り残し, その上に焼土混じりの白色粘土を貼り付けて構築したものである。火床部は現火床部から28cm掘りくぼめられた位置に旧火床部があり, その上に暗灰黄色や黄褐色の粘土で埋めて, 火床面として使用している。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|-----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 14 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂粒少量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 16 暗灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 |
| 6 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 17 黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 18 褐色 | 黒色ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 19 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 20 褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・粘土粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量 | 21 褐色 | ロームブロック多量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | | |



第28図 第3号住居跡・出土遺物実測図(1)



第29図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 7か所。P1～4は深さ53～58cmで、中央部から各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5～7は深さ15～39cmで、P1・2・4の隣接していることから、主柱穴の作り替えの可能性が考えられる。図示していないがP1・3・4付近の床面下からP8～10が確認され、深さは43～51cmで、P8はP3に、P9はP4に、P10はP1に作り替えが行われたと考えられる。前述と併せて、2回の作り替えが行われた可能性がある。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片181点(坏・高台付坏15, 甕166), 須恵器片64点(坏43, 蓋1, 甕20), 灰釉陶器片2点(短頸壺), 鉄製品2点(刀子), 瓦2点(平瓦)が出土している。これらの遺物は南部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片10点, 攪乱により混入した陶器片4点, 土師質土器片2点, 鉄滓12点, 炉壁片1点, 粘土塊19点, 礫45点が、それぞれ出土している。65は中央部の覆土下層, Q1・M2は南西コーナー部の床面, M1は南東コーナー部の覆土下層から出土している。65は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。本跡は2度にわたり柱の作り替えが行われ、さらに竈の火床面も作り替えられていることから、長期にわたり使用されていたと考えられる。

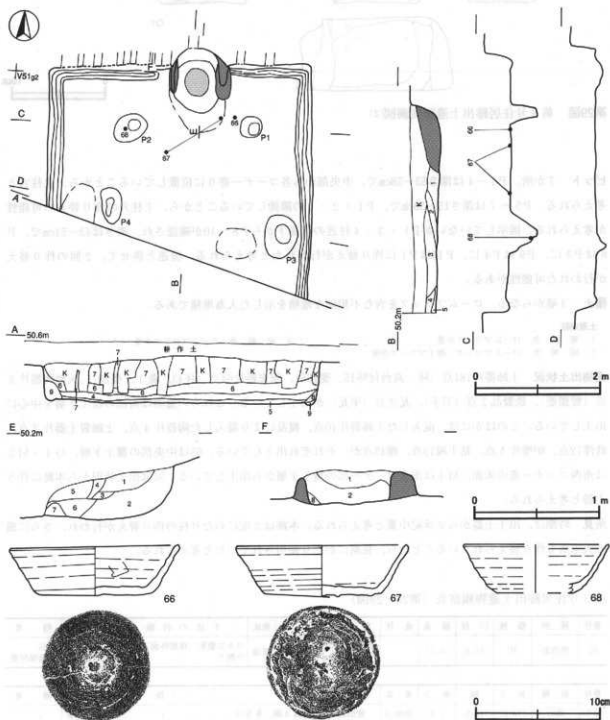
第3号住居跡出土遺物観察表(第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
65	須恵器	坏	[11.4]	(3.7)	-	雲母・白色粒子・黒色粒子	褐灰	普通	ロクロ整形, 体部外面下端へラ削り	中央部下層	5% 内面塗着層
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴		出土位置	備考	
Q1	砥石	(18.2)	(16.5)	7.9	3560.0	安山岩	砥面は4面, 多方向		南西コーナー部		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M1	刀子	(14.6)	1.3	0.3	(10.5)	鉄	基部欠損	南西コーナー下層	PL88
M2	刀子	(6.9)	1.0	0.4	(10.5)	鉄	刃部、基部欠損	南西コーナー下層	

第4号住居跡 (第30図)

位置 東区南部のV51g2区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第30図 第4号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 南部が調査区域外へ延びており、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.26m、短軸3.70mで、平面形は長方形と推測でき、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は30~42cmで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、西壁際とP3付近が部分的に踏み固められている。壁溝は深さ2~4cmで、確認できた壁際を巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けており、煙道部と左袖の一部が破壊されているが、遺存状態は全体的に良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ106cm、袖部幅96cmほどで、煙道部が壁外へ28cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が4cmほど掘りくぼめられ、被熱でわずかに赤変硬化している。天井部は粘土粒子を含む暗赤褐色土で構築されたものが崩落している。竈土層断面図中の第6層が相当する。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量	5 黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子微量	6 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子少量
3 黒褐色	炭化物・粘土粒子少量、焼土ブロック微量	7 暗褐色	焼土ブロック少量、粘土粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	8 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量

ピット 4か所。P1・P2は深さ43・60cmで、北東・北西各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P3・P4は深さ13・17cmと比較的浅く、その周辺が踏み固められているが、その性格は不明である。P1の覆土中から柱が抜き取られた時に混入したと考えられる須惠器環が出土している。

覆土 9層からなる。ロームブロックが中量含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック中量	8 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量	9 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片36点(坏・高台付坏11, 甕・甕25), 須惠器片38点(坏・高台付坏33, 蓋1, 甕・甌4) 礫4点が出土している。これらの遺物は竈前の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片3点, 弥生土器片3点がそれぞれ出土している。66・67は竈前面の床面, 68はP2の底面から、それぞれ出土している。66・67は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表(第30図)

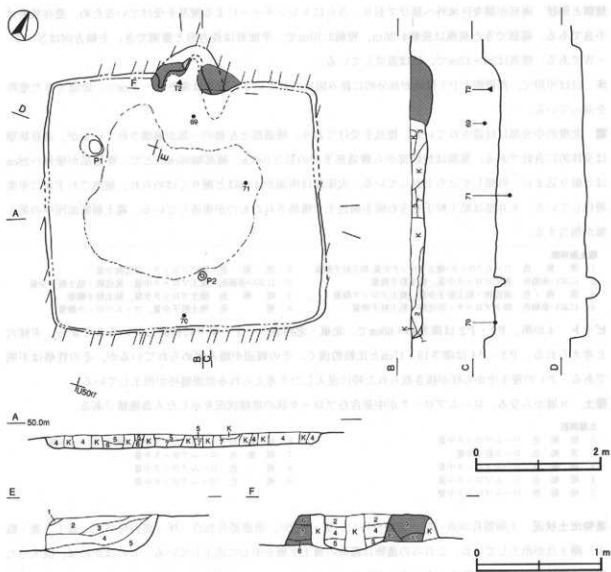
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
66	須惠器	坏	13.2	3.9	8.5	石灰・白色粒子・黒色粒子	黄灰	普通	底部外面へラ切り後ナデ, 体部・底部内側了事なナデ	竈前面床面	95% PL61
67	須惠器	坏	13.4	4.1	9.1	石灰・白色粒子	灰	普通	体部口ロ底形, 底部外面へラ切り	竈前面床面	70% PL61
68	須惠器	坏	[11.5]	4.0	[5.8]	炭石・白色粒子	灰	普通	体部口ロ底形, 底部外面へラ切り	P2内底面	80% 粘土付着

第6号住居跡(第31・32図)

位置 東区中央部北寄りのU50e7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.41m、短軸4.15mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は18~29cmで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。図示できなかったが、各コーナー部と南西部が確認面から38



第31図 第6号住居跡実測図

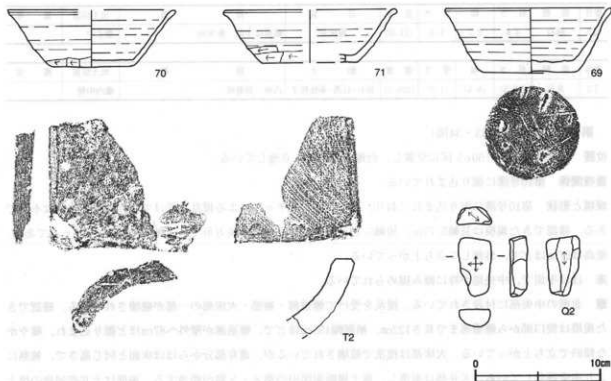
～57cmほど掘り込まれ、ロームブロックを含む暗褐色土及び黄褐色土を9～28cmほど埋土して、床面を構築している。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて煙道部・袖部・火床部の一部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ105cm、袖部幅123cmほどで、煙道部が壁外へ46cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は破壊されているため、確認できなかった。天井部は粘土粒子を含む褐色土で構築されたものが崩落し、竈土層断面図中の第4層が相当する。袖部は焼土ブロック・粘土粒子を含む灰色土及びオリーブ褐色土で構築されている。竈土層断面図中の第6・7・8～10層が相当する。竈土層の第10層の下部に黒褐色の第11層があることから、作り替えの可能性がある。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 | 7 灰色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、ロームブロック少量 | 8 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子中量、ロームブロック微量 | 9 灰白色 | 粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、炭化物少量、ローム粒子微量 | 10 オリーブ褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 明褐色 | ローム粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 6 灰色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | | |

ピット 2か所。P1は深さ23cmで、中央部から北西コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えら



第32図 第6号住居跡・出土遺物実測図

れる。P2は深さ19cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| | | 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片128点(坏5, 高台付坏1, 甕122), 須恵器片62点(坏46, 高台付坏1, 釜4, 甕7, 甌2, 長頸壺2), 石器・石製品1点(砥石), 瓦1点, 礫7点, 炭化材が出土している。これらの遺物は竈内と竈前の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片1点, 弥生土器片4点, 攪乱による混入した炉壁片1点, 粘土塊5点が, それぞれ出土している。69は竈前面, 70は南壁際中央部の覆土下層, 71は中央部の掘り方, T2は竈内覆土中層から, それぞれ出土している。炭化材は中央部の床面から出土している。71は床面を構築する埋土と共に混入したものである。69は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。床面は火熱を受けた様子が確認できなかったが, 炭化材が中央部床面から出土していることから, 焼家屋の可能性がある。

第6号住居跡出土遺物観察表(第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	須恵器	坏	13.0	5.2	7.6	長石・石英	灰	普通	体部下端へラ削り、底部外面へラ削り後多方向へラ削り	竈面上層	80% PL61
70	須恵器	坏	[13.2]	4.5	6.6	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部口ロケ整形、体部下端手持ちへラ削り、底部外面一方向へラ削り	南壁際下層	45%
71	須恵器	坏	[13.4]	4.2	[6.6]	雲母・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部外面下層へラ削り、内面丁寧ナテ	中央掘り方	20%

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	4.8	2.7	1.4	(21.0)	凝灰岩	縦面は3面, 多方向	竈土中	

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T2	瓦丸	(10.5)	(8.5)	(1.9)	(236.0)	長石・石英・赤色粘土	凸面一部磨減	竈内中層	

第7号住居跡 (第33・34図)

位置 東区北西部のU50e5区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第10号溝に掘り込まれており, さらにトレンチャーによる擾乱を受けており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.75m, 短軸5.10mである。平面形は長方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は27cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。擾乱を受けて煙道部・袖部・火床部の一部が破壊されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで長さ122cm, 袖部幅155cmほどで, 煙道部が壁外へ67cmほど掘り込まれ, 緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部は擾乱で破壊されているが, 遺存部分からほぼ床面と同じ高さで, 被熱により赤変硬化している。天井部は崩落し, 竈土層断面図中の第8・9層が相当する。袖部は天井部同様の焼土ブロック・ロームブロックが混じった粘土で構築されている。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	8 濃い黄色	粘土粒子多量, 焼土ブロック微量
2 にぶい褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	9 黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	10 オリーブ褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
4 褐灰色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子少量, 粘土粒子微量
5 にぶい褐色	焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック少量
6 にぶい褐色	焼土ブロック多量, 炭化物微量	13 褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック中量
7 黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量		

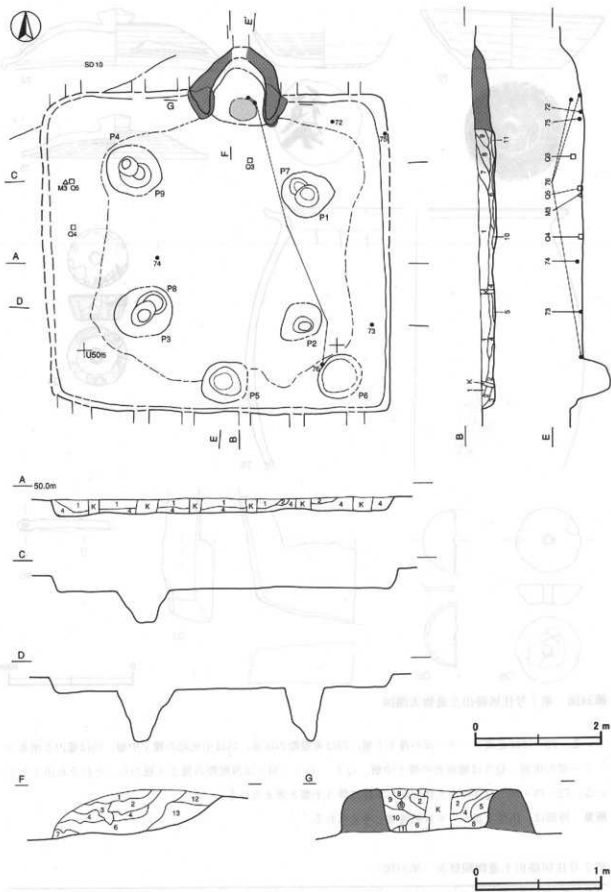
ピット 9か所。P1～P4は深さ78～90cmで, 各コーナー寄りに位置していることから, 主柱穴と考えられる。P5は深さ46cmで, 竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。土層断面図では確認できなかったが, 柱穴が二段掘り込みと底面が2か所あることから, P7～P9がP1・P3・P4に柱の作り替えが行われたと考えられる。P6は深さ24cmで, 南東コーナー部に位置している。底面は平坦で, 断面が皿状であることから, 堯などを据えるのに用いられた可能性も考えられるが, 性格は不明である。

覆土 11層からなる。壁際の第3・4層はローム粒子を含み, 締まりは弱い自然堆積である。他はロームブロックを含み, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第5・10・11層は貼床の土層である。

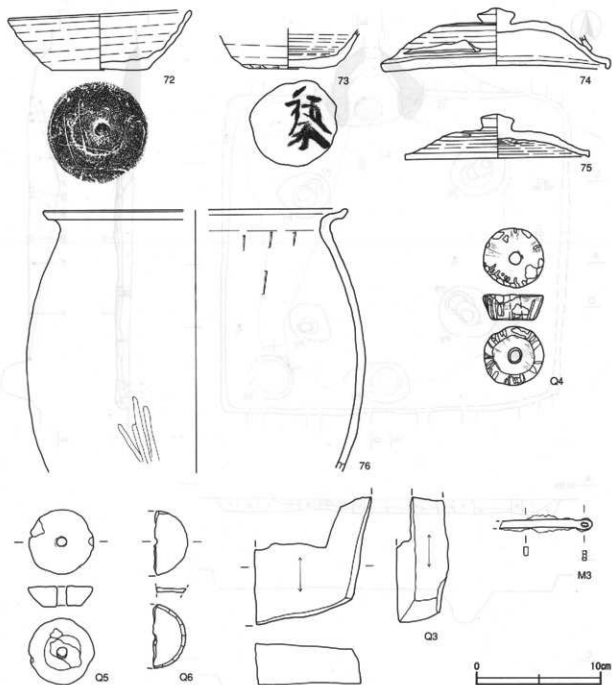
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	7 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	8 灰黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量, ローム粒子少量
3 褐色	ローム粒子中量	9 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土ブロック少量
4 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量	10 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5 褐色	ロームブロック・焼土粒子中量	11 暗褐色	ローム粒子中量
6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量		

遺物出土状況 土師器片315点(坏・高台付坏12, 甕303), 須恵器片155点(坏115, 高台付坏1, 蓋21, 甕・瓶18), 鉄製品1点(鎌), 銅製品1点(不明), 石器・石製品5点(紡錘車3, 砥石2)が出土している。これらの遺物は竈内と中央部の覆土上層から中層を中心に出土している。このほかには, 混入した縄文土器片1点, 土師器片9点, 擾乱により混入した陶器片1点, 鉄滓6点, 籾羽口1点, 粘土塊18点が, それぞれ出土し



第33图 第7号住居跡实测图



第34図 第7号住居跡出土遺物実測図

ている。72・75は北東コーナー部の覆土下層，73は東壁際の床面，74は中央部の覆土中層，76は竈内と南東コーナー部の床面，Q3は竈前面の覆土中層，Q4・Q5・M3は西壁際の覆土下層から，それぞれ出土している。72・75・76・Q3は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
72	須恵器	坏	14.3	4.8	7.8	長石・白色 粒子	黄灰	良好	底部外面回転ヘラ切り後ナデ	北東隅下層	100% 底部ヘラ 記号 P1.61-72

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
73	須恵器	坏	-	(3.2)	6.8	灰石・石灰・微塵	灰	普通	胴部手付のうしろ側、底部のうしろ側へうしろ側	東壁際床面	55% 蓋書 □
74	須恵器	蓋	17.7	4.9	-	灰石・微塵	褐灰	普通	口唇部沈線、体部内面へラナデ	中央部中層	50% 胴部沈線、底
75	須恵器	蓋	[14.6]	3.6	-	石英・雲母	灰	普通	ロクロ成形、天井部回転へうしろ側	北東階下層	底面沈線、底
76	土師器	甕	[24.0]	(21.0)	-	灰石・石英・雲母	褐	普通	口縁部外面ナデ	甕の東東壁際	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	10.0	9.4	3.3	(341.0)	安山岩	砥面は2面、使用中破断	甕階下中層	PL85

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q4	紡錘車	4.7	0.8-1.1	2.0	(54.0)	粘板岩	側面に微痕、片側からの穿孔	西壁階下層	PL85
Q5	紡錘車	5.2	0.8-0.9	1.6	(49.0)	凝灰岩	下部に割離	西壁階下層	PL85
Q6	紡錘車	(5.1)	(0.7)	0.4	(7.1)	安山岩	上下部が割離、残存わずか	覆土中	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	不明	(7.3)	0.9	0.4	(10.5)	鉄	先端部が欠損、孔径(0.5×0.25)	西壁階下層	PL88

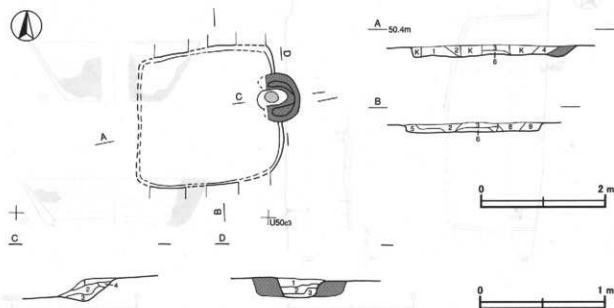
第9号住居跡 (第35図)

位置 東区北西部のU50b2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸2.27m、短軸2.21mの方形で、主軸方向はN-77°-Eである。壁高は15cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 東壁の中央部に付設されている。遺存状態は比較的良好である。規模は焚口から煙道部までの長さ68cm、袖幅84cmほどで、煙道部が壁外へ36cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が6cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変しているが、あまり硬化していない。天井部は粘土を含む黒褐色されたものが崩落し、竈土層断面図中の第1・2層が相当する。袖部は天井部同様の黒褐色土で、焼土ブロック混じりの粘土で構築されている。



第35図 第9号住居跡実測図

覆土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

ピット 確認できなかった。

覆土 9層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック微量 | 9 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック微量 | |

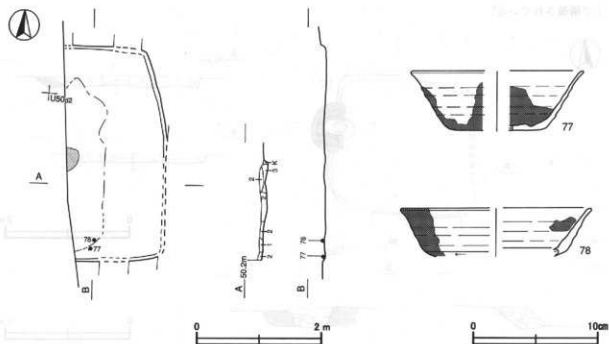
遺物出土状況 土師器片30点（坏・高台付坏14, 甕15, 不明1）, 須恵器片10点（坏・高台付坏9, 甕1）, 磁20点が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点, 石器1点が、攪乱により混入した陶器片1点, 鉄滓2点, 流動滓5点, 炉壁片3点, 粘土塊8点が、それぞれ出土している。出土した遺物はすべてが細片のため、図示できるものがない。

所見 土器からの時期判断は難しいが、当遺跡で東竈を付設する住居跡は9世紀代であり、本跡の規模と形状から9世紀以降と考えられる。

第10号住居跡（第36図）

位置 東区北西部のU50d2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 西部は調査区域外へ延びており、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は長軸が3.45m, 短軸が1.62mで、平面形は方形または長方形と推測でき、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は10cmほどで、外傾して立ち上がっている。床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。中央部の床面で半円状の焼土の範囲を確認したが、埋没過程で投棄されたものとする。



第36図 第10号住居跡・出土遺物実測図

竈 調査では確認できなかったが、西部が調査区域外へ伸び、出土遺物から竈が付設されている時期と考えられることから、調査区域外に竈が付設されている可能性がある。

ピット 確認できなかった。

覆土 3層からなる。覆土は浅いが、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化物少量 3 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子中量、炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片12点(寛)、須恵器片11点(坏・高台付坏)、礫29点が出土している。これらの遺物は中央部東寄りの覆土下層を中心に出土している。77・78は南壁際の覆土下層から出土している。77・78は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表(第36図)

番号	種別	器種	口径	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
77	須恵器	坏	[13.5]	4.8	[7.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロ整形、体部外面へ削り、底部外面右回転へ削り	南壁際下層	45% 内・外面採付着
78	須恵器	坏	[15.0]	(3.9)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	ロクロ整形、体部外面へ削り	南壁際下層	10% 内・外面採付着

第12号住居跡(第37・38図)

位置 東区西部のU50h5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第1号溝に掘り込まれており、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が4.05m、短軸が3.90mで、平面形は長方形と推測される。主軸方向はN-3°-Wである。壁高は14cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。図示できなかったが、中央部が24~38cmほど掘りくぼめられ、その部分にロームブロックを含む黒褐色土及び極暗褐色土を10~24cmほど埋土し、床面を構築している。南東コーナー部から焼土が、中央部付近から焼土と炭化材が確認されているが、ともに投棄された様相が見られる。北部中央の床面から粘土塊が確認されており、位置から判断して竈材の可能性がある。

粘土塊土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 4 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 5 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 6 黒にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量

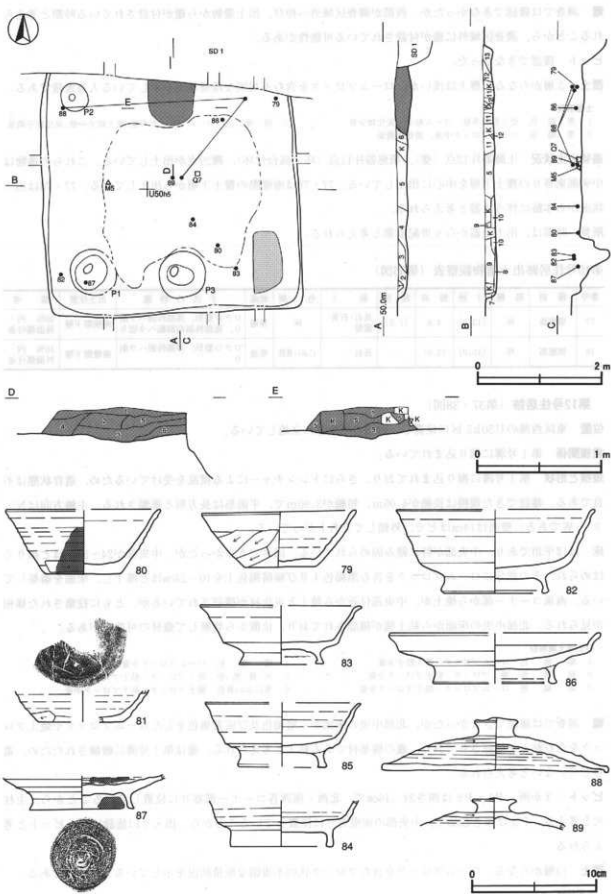
竈 調査では確認できなかったが、北部中央の床面から暗褐色及び灰黄褐色をしたロームブロックや焼土ブロックを含む粘土が確認されており、竈の構築材である粘土と考えられる。竈は第1号溝に破壊されたため、遺存していないと考えられる。

ピット 3か所。P1・P2は深さ24・16cmで、北西・南西各コーナー部寄りに位置していることから、支柱穴と考える。P3は深さ49cmで、中央部の南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

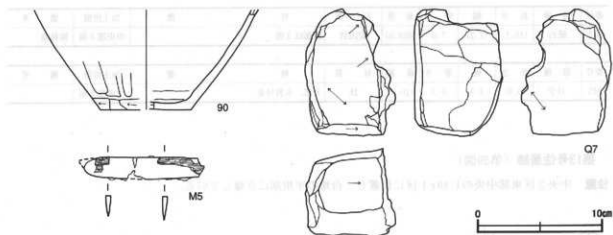
覆土 13層からなる。ロームブロックを含むブロック状の不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量



第37図 第12号住居跡・出土遺物実測図



第38図 第12号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-----------------------|
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片179点(坏13, 高台付坏1, 蓋2, 甕162, 瓶1), 須恵器片163点(坏110, 高台付坏6, 蓋17, 高台付皿1, 甕26, 高盤3), 鉄製品2点(刀子, 不明), 礫18点, 炭化材が出土している。これらの遺物は北部の覆土下層と南部の覆土上層を中心に出土している。このほかには, 混入した弥生土器片1点, 土師器片1点, 攪乱により混入した陶器片1点, 流動滓2点, 炉壁片5点, 粘土塊4点, それぞれ出土している。79は北東コーナー部の覆土中層, 80は南東部の覆土下層, 82は南西コーナー部の覆土上層, 83は南東コーナー部の覆土上層, 84・89・Q7・M5は中央部の覆土下層, 86は北部の覆土中層, 87はP1の覆土中層, 88は北東コーナー部と中央部と北西コーナー部の覆土上層から, それぞれ出土している。80・87は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。

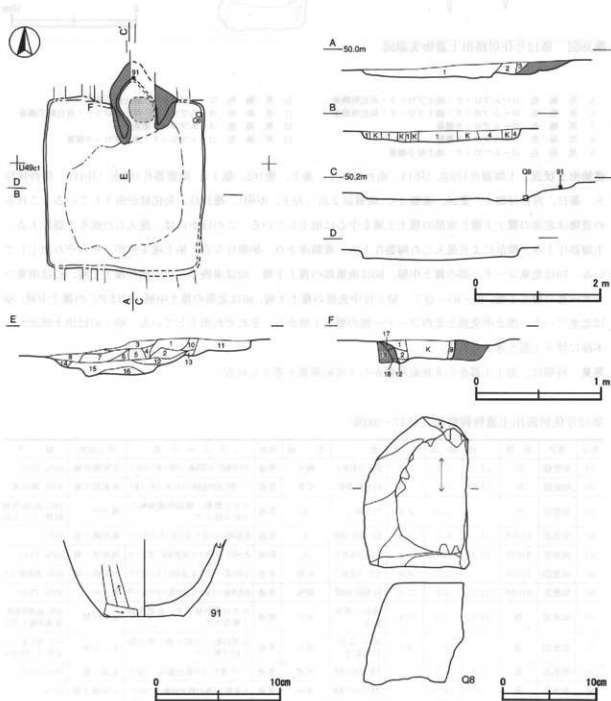
第12号住居跡出土遺物観察表(第37・38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	須恵器	坏	12.2	4.5	5.6	長石・白色粒子	褐色	普通	ロクロ整形, 底部外面へラ切り後へラ削り	北東隅中層	90% PL61
80	須恵器	坏	[12.2]	5.1	5.9	紅褐色粘り	黄灰	普通	ロクロ整形, 底部外面へラ削り後へラ削り	南東部下層	30% 煤付着
81	須恵器	坏	-	(2.6)	[6.8]	白色粒子	灰	普通	ロクロ整形, 底部外面へラ削り後ナデ	覆土中	40% 底部内面彫割「上」PL80
82	須恵器	高台付坏	[15.7]	6.7	8.4	長石・白色粒子	灰	普通	底部へラ削り後, 高台盛り付け後ナデ	南西隅上層	60%
83	須恵器	高台付坏	[12.3]	4.5	6.6	長石・白色粒子	灰	普通	高台盛り付け後ナデ, 底部内面打穿ナデ	南東隅上層	50% PL61
84	須恵器	高台付坏	-	(3.7)	8.0	長石・白色粒子	灰褐色	普通	底部外面へラ削り後, 高台盛り付け後ナデ	中央部下層	60% 煤付着あり
85	須恵器	高台付坏	[12.2]	5.2	[7.0]	紅褐色粘り	暗灰	普通	底部外面へラ削り後, 高台盛り付け後ナデ	覆土中	40% PL62
86	須恵器	甕	[16.6]	4.0	[9.6]	長石・黒色粒子	灰白	普通	ロクロ整形後ナデ, 底部内面打穿ナデ	北隅中層	40% 底部内面彫割, 煤付着あり PL61
87	須恵器	甕	-	(2.5)	8.2	長石・炭粒・白色粒子	灰白	普通	底部へラ削り後, 高台盛り付け後ナデ	P1中層	60% 煤付着あり, 彫割「上」PL61-80
88	須恵器	蓋	18.0	4.4	-	黒褐色粘り	褐色	普通	ロクロ整形, 天井部2回転のへラ削り	北隅上層	60% PL62
89	須恵器	蓋	-	(2.4)	-	黒褐色粘り	黄灰	普通	天井部2回転の外面へラ削り	中央部下層	60%
90	土師器	甕	-	(8.0)	[7.0]	長石・石英・白色粒子	褐色	普通	体部下端手持ちへラ削り, 底部内面棒状工具痕あり	覆土中	10% 体部焼土付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特 徴	出土位置	備 考
Q7	砥石	(10.1)	(7.2)	7.0	(659.0)	安山岩	砥面は3面	中央部下層	被熟灰
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M5	刀子	(9.6)	1.8	0.3	(10.9)	鉄	刃部、木質付着	中央部下層	

第13号住居跡 (第39図)

位置 中央2区東部中央のU49c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第39図 第13号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.45m、短軸3.00mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は25cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱のため、袖部及び火床部の一部が確認できただけで、遺存状態は不良である。確認できた規模は煙道から焚口部の長さ128cm、袖部幅108cmほどで、煙道部が壁外へ60cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床面は床面から6cmほど掘りくぼめられており、遺存部分から被熱で赤変硬化したと推定できる。天井部は崩落し、竈土層断面図中、第9・17~19層が相当する。袖部の内壁は被熱によりわずかに赤変硬化している。袖部も天井部同様の焼土混じりの粘土で構築されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 17 褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック微量 |
| | | 18 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック微量 |
| | | 19 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |

ピット 確認できなかった。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片21点（坏・高台付坏3、甕18）、須恵器片7点（蓋2、甕5）、石器1点（砥石）、漆8点が出土している。これらの遺物は竈内と中央部南寄りの覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した鉄滓32点、炉壁片7点が、それぞれ出土している。91は竈内、Q8は北東コーナー一部の床面から、それぞれ出土している。91は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、本跡の規模と形状及び出土土器から9世紀後半と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
91	土師器	甕	-	(6.1)	[6.2]	長石・石英	明赤褐	普通	体部下端へツリ、底部外面木炭痕	竈内	10% 二次焼成

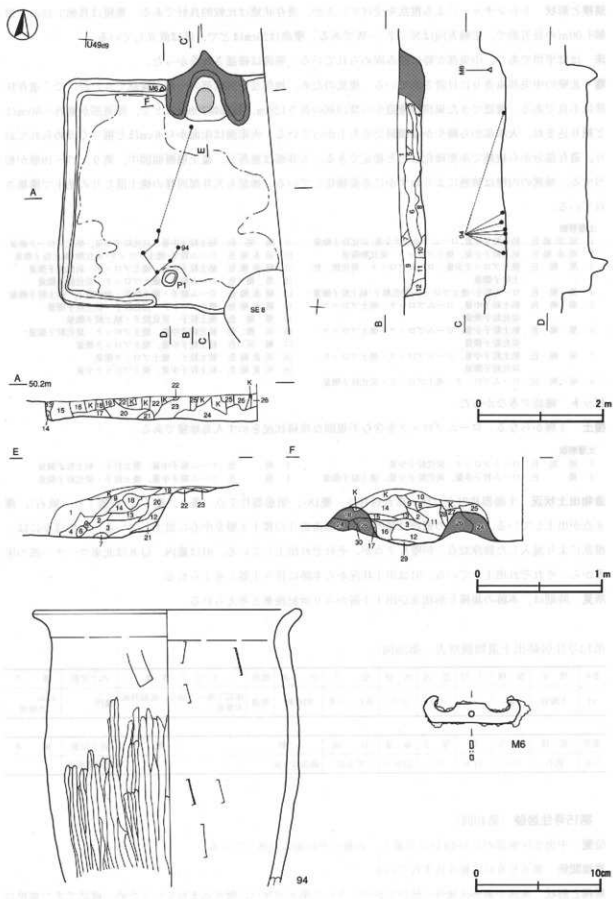
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q8	砥石	16.0	11.6	12.1	3230.0	安山岩	砥面は3面	北東隅床面	

第15号住居跡（第40図）

位置 中央2区東部のU49d9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第8号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外へ延びており、さらに第8号井戸に掘り込まれているため、確認できた規模は長軸4.22m、短軸3.55mで、平面形は長方形と推測でき、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は32~42cmで、



第40图 第15号住居跡・出土遺物実測図

ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、確認された床面は全体的に踏み固められている。壁際は深さ6~8cmで、甕西脇から南壁中央部の壁際を巡っている。P1付近から粘土及び焼土が土器片と共に確認されているが、堆積状況から埋没過程で投棄されたものと考えられる。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて天井部・袖部の一部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は笑口部から煙道部まで長さ114cm、袖部幅130cmほどで、煙道部が壁外へ48cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が5cmほど掘りくぼめられ、被熱でわずかに赤変硬化している。粘土にローム粒子と焼土ブロックの混じった灰褐色でできた天井部は崩落し、甕土層断面図中の第3層が相当する。左袖部は床面を掘り込んだ部分に、右袖部はわずかに掘り残した地山の上に、それぞれ焼土ブロックを含む粘土を貼り付けて構築されている。甕土層断面図中、第18・24・26・28・30層が相当する。

甕土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 15 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 2 暗灰色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 16 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 17 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗灰色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 18 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子微量 | 19 にぶい黄褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、粘土粒子少量 | 20 にぶい赤褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 21 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 8 黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・白色粒子微量 | 22 にぶい赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 9 黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量 | 23 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 24 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量 |
| 11 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 25 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子微量 |
| 12 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 26 灰黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 13 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 27 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 14 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 28 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 29 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | | 30 暗褐色 | 焼土ブロック少量、粘土粒子微量 |

ピット 1か所。P1は深さ29cmで、甕に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 26層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 18 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子中量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 21 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 10 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 22 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 23 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 24 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| | | 25 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| | | 26 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片78点(坏7、高台付坏1、甕70)、須恵器片14点(坏9、蓋3、甕1)、鉄製品2点(火打金、不明)、瓦片1点(平瓦)、礫15点、炭化材が出土している。これらの遺物は竈内と中央部南寄りの覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点が、攪乱により混入した陶器片1点、鉄滓5点、炉壁片3点が、それぞれ出土している。94は中央部南寄りと竈前面の覆土下層、M6は竈左袖部脇の覆土中層から、それぞれ出土している。94は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第15号住居跡出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
94	土師器	甕	21.0	(22.2)	-	灰石・石灰・黄母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内外面横ナテ	中央部南寄り と竈跡下層	60% 二次 焼成 PL62

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	散	出土位置	備考
M6	火打金	7.8	2.2	0.3	(16.9)	鉄	孔径0.5cm		竈付近中層	PL88

第16号住居跡 (第41・42図)

位置 中央2区東部のU49h9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号溝、第15～17・22・132・133号土坑に掘り込まれている。

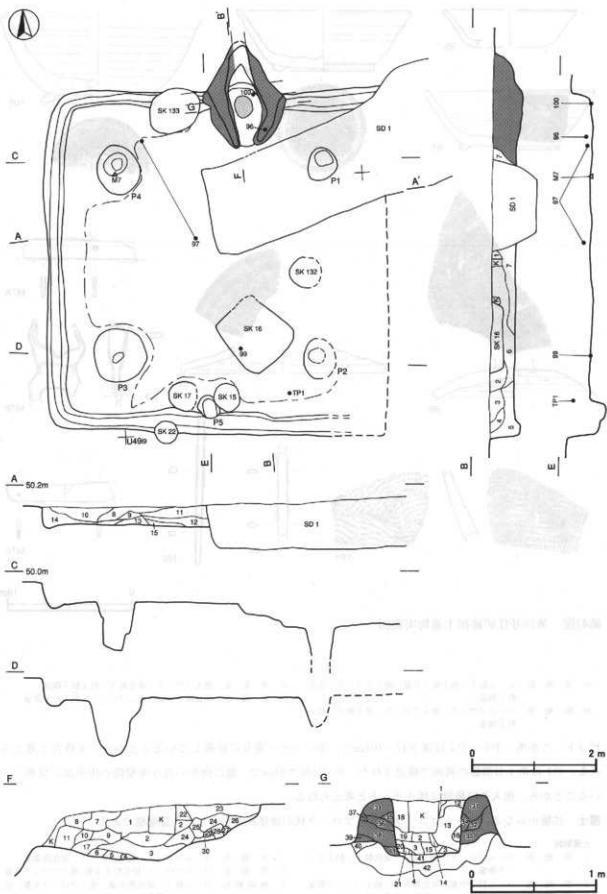
規模と形状 東部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は長軸5.50m、短軸5.30mである。平面形は方形または長方形と推測でき、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は36～50cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、主柱穴の内側が踏み固められている。壁溝は深さ4cmほどで、確認できた壁際を巡っている。

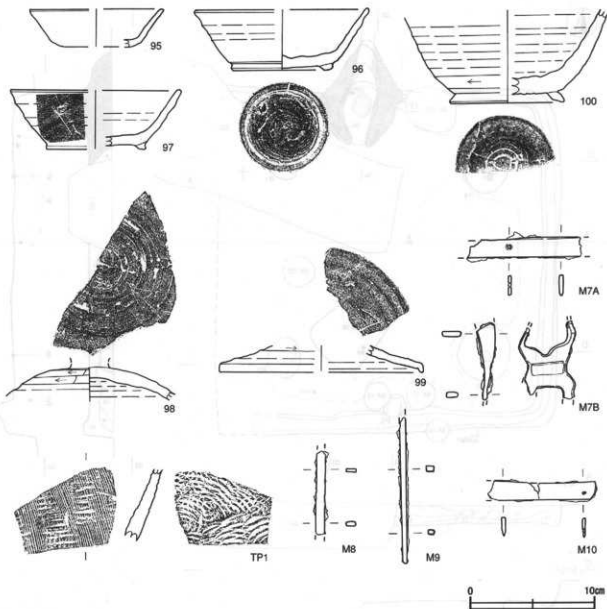
竈 北壁の中央部に付設されている。竈の中央部で交差するような南北方向と東西方向にトレンチャーによる攪乱を受けて、煙道部と袖部の一部が破壊されているので、遺存状態は不良である。規模は笑口部から煙道部までの長さ174cm、袖部幅130cmほどで、煙道部が壁外へ77cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が6cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。焼土粒子・炭化粒子を含む暗赤褐色土でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中の第2・9層が相当する。袖部は焼土ブロック・炭化粒子の混じった粘土粒子を含む灰黄褐色及びにぶい灰黄褐色土で構築されている。西袖部は床面を掘り込んだ部分に、東袖はわずかに掘り残した地山に、それぞれ焼土ブロックを含む粘土で構築され、竈土層断面図中、第31～39・41層が相当する。

竈土層解説

1 暗褐色	粘土粒子多量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量	18 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2 灰黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物微量	19 灰黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量	20 灰黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量
4 暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・粘土粒子微量	21 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量	22 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6 灰褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	23 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
7 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量	24 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	25 黒褐色	粘土粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
9 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量	26 褐色	ロームブロック少量
10 褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量	27 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
11 暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	28 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
12 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	29 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
13 灰黄褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	30 黒褐色	炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量
14 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・粘土粒子微量	31 黒褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
15 黒褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・焼土ブロック微量	32 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
16 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子中量	33 灰黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
17 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	34 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
		35 にぶい黄褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
		36 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
		37 灰黄褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
		38 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量



第41图 第16号住居跡実測图



第42図 第16号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------|
| 39 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 41 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 40 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 42 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ47～101cmで、各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P1は第1号溝跡の底面で確認された。P5は深さ24cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 15層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化物中量、焼土ブロック少量、粘土ブロック微量 |
| | | 7 灰褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子・粘土ブロック微量 |

- 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 9 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
 10 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
 12 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量

- 13 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
 14 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
 15 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片859点(坏47, 高台付坏1, 蓋12, 甕・瓶799), 須恵器片264点(坏127, 高台付坏6, 蓋70, 甕・瓶55, 短頸壺3, 長頸壺3), 灰釉陶器片2点(蓋), 土製品1点(羽子), 鉄製品15点(刀子2, 鍬8, 不明5), 礫42点が出土している。これらの遺物は竈内及び竈前の覆土下層と中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した縄文土器片1点, 弥生土器片1点, 攪乱により混入した陶器片2点, 土師質土器片1点, 鉄滓15点, 粘土塊18点が出土している。96は竈内の覆土中層, 97は中央部の覆土中層, 99は南部の床面, M7はP4内, TP1は中央部南壁際の覆土上層, 100は竈内の覆土下層から, それぞれ出土している。96・100は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。本跡と第17・25号住居跡は長・短軸とも約5mと大形であり, 同時期の住居が集中している本跡の周辺では, 中心的な住居であった可能性がある。

第16号住居跡出土遺物観察表 (第41・42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
95	須恵器	坏	[10.6]	3.0	[6.8]	白色粘土粒子	灰	普通	口ロク整形、横ナデ	覆土中	15%
96	須恵器	高台付坏	[13.7]	4.8	7.6	長石・白色粒子	灰	普通	底部外縁部へうすり見, 裏面付けナデ	竈内中層	60% PL62
97	須恵器	高台付坏	[13.3]	4.6	[7.6]	灰緑色粘土質	暗灰黄	普通	底部外縁部へうすり見, 裏面付けナデ	中央部中層	20% 非顕明面調査
98	須恵器	蓋	-	(2.1)	-	長石・微塵	褐灰	普通	天井部外面2回転のへう削り	覆土中	30% 外面にへう記号 PL80
99	須恵器	甕	[16.2]	(2.1)	-	長石・白色粒子	灰	普通	天井部外面回転へう削り	南部床面	10% 天井部外面調査(□)
100	須恵器	長頸壺	-	(7.0)	[9.0]	長石・石英	黄灰	普通	底部縁部へうすり, 高台地り付けナデ	竈内下層	20% PL62

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP1	須恵器	甕	-	(5.7)	-	長石・赤褐色粒子	オリーブ黒	普通	胴部のナデ削り, 内面内縁部へう削り	南壁際上層	PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7A	鉄具	(9.0)	1.6	0.3	(16.9)	鉄	帯状、穿孔あり(孔径0.4)	P4内	M7Bと同一體 PL88
M7B	鉄具	(6.2)	4.4	0.4	(44.8)	鉄	一部欠損	P4内	M7Aと同一體 PL88
M8	鐵	(6.8)	0.8	0.3	(5.6)	鉄	刃部・基部欠損	覆土中	
M9	鐵	(11.6)	0.35~0.5	0.4	(10.3)	鉄	刃部先端欠損	覆土中	
M10	刀子	(8.7)	1.6	0.4	(7.7)	鉄	基部, 目釘孔あり	覆土中	

第17号住居跡 (第43~46図)

位置 中央2区東部のU4918区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第114号住居跡を掘り込み, 第25号墓墳, 第20・56号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 規模は長軸4.92m, 短軸4.52mの方形で, 主軸方向はN-14°-Eである。壁高は34~52cmで, ほほ直立している。

床 ほほ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。図示できなかったが, 壁際と各コーナー部が確認面から44~92cmほど掘りくぼめられ, その部分にロームを含む黒褐色土あるいは暗褐色土を10~40cmほど埋し, 床

面を構築している。壁溝は深さ4~6cmほどで、全周している。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。トレンチャーによる攪乱を受けて袖部の一部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ180cm、袖幅135cmほどで、煙道部が壁外へ88cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。旧火床面は床面から30cmほど掘り込まれており、その部分にローム粒子混じりの粘土を埋土し、火床面として使用されていたと考えられる。竈土層断面図中の第29層下が相当する。粘土粒子に焼土粒子・炭化粒子の混じった暗褐色土あるいは灰褐色で構築してできた天井部は崩落し、竈土層断面図中の第6・11層が相当する。右袖部はロームをわずかに掘り残し、左袖部は袖部下を5~10cmほど掘り込み、その上にわずかに焼土粒子とローム粒子の混じった灰黄褐色系の粘土で構築されている。両袖部の芯材には平瓦を立てて使用し、その瓦の両脇をロームブロックの混じった粘土粒子を含む灰黄褐色及びにぶい灰黄褐色土で挟みこむように構築されている。竈土層断面図中、第33~50・53・56~59層が相当する。

竈土層解説

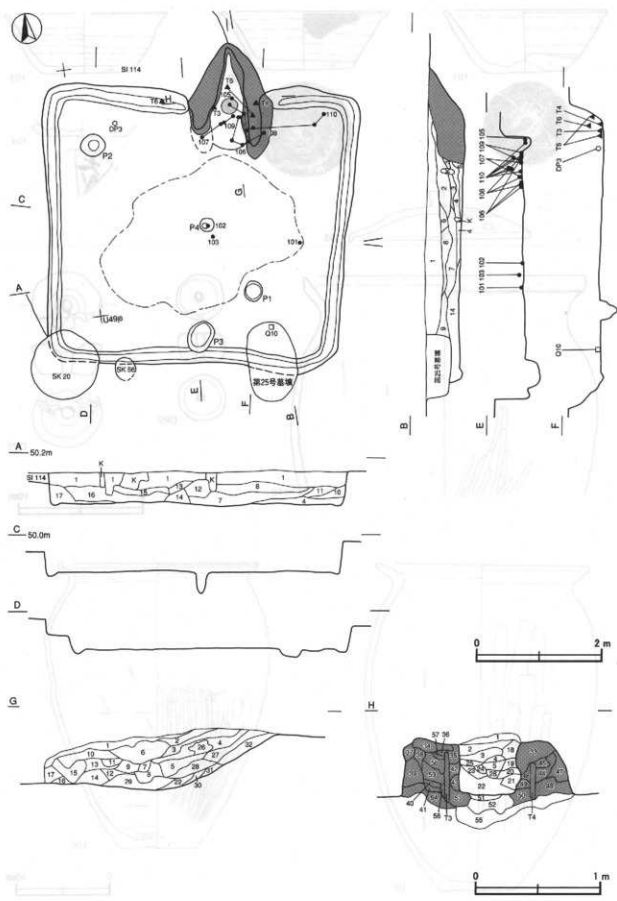
1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	29 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	30 暗赤褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	31 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	32 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	33 灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物微量	34 灰黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
7 暗褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	35 灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
8 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	36 暗赤褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
9 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	37 にぶい灰褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
10 黒褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	38 暗赤褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
11 灰褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	39 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
12 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	40 灰褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
13 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	41 灰褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
14 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	42 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
15 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	43 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
16 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	44 黒褐色	粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
17 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	45 黒褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
18 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	46 黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
19 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	47 灰褐色	粘土粒子多量、ローム粒子少量
20 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	48 にぶい灰褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
21 暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	49 灰褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
22 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	50 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
23 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	51 黒褐色	粘土粒子中量、ロームブロック微量
24 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	52 黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
25 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	53 灰褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
26 黒褐色	炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量	54 にぶい赤褐色	粘土粒子多量、炭化物中量、ローム粒子微量
27 暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	55 灰褐色	粘土粒子多量
28 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	56 灰褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
		57 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子少量
		58 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
		59 褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量

ピット 4か所。P1・P2・P4は深さ22cm・24cm・38cmで、中央部から南東・北西各コーナー寄りに位置しているが、その性格は不明である。P3は深さ20cmで、竈に向かい合う南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

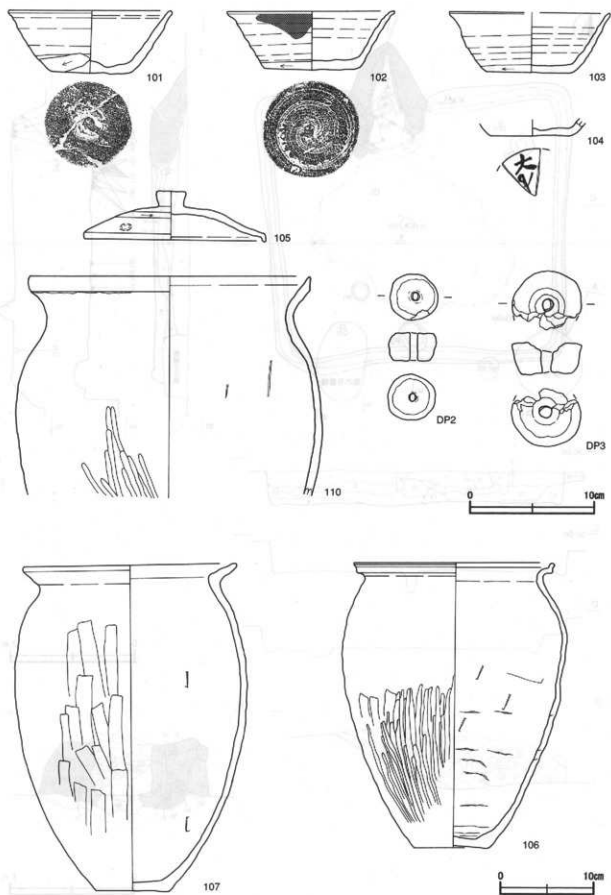
覆土 17層からなる。第2~5層は竈からの流れ込みで、他はロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

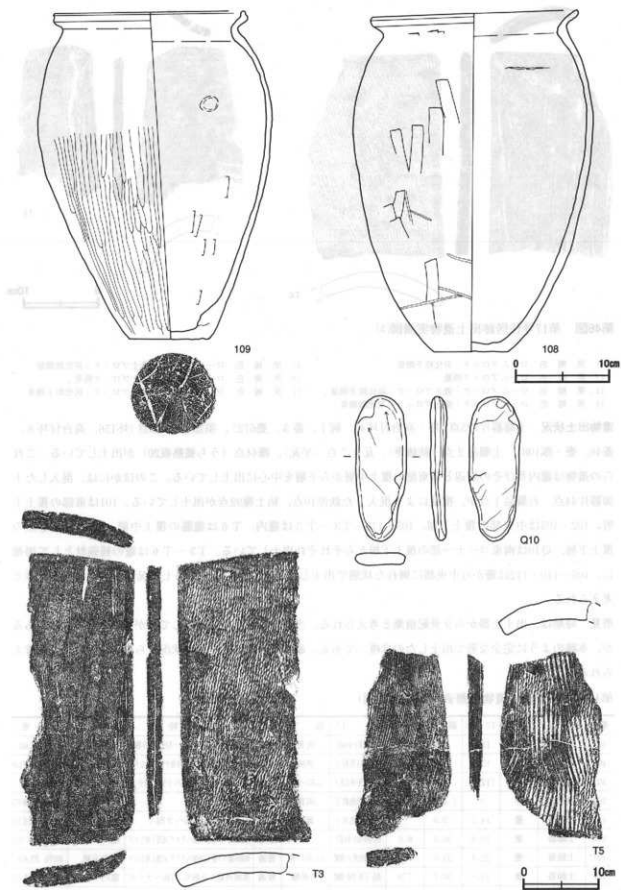
1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土粒子微量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
4 黒褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
		9 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
		10 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量



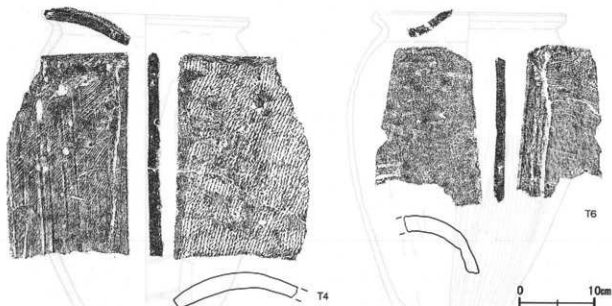
第43图 第17号住居跡実測图



第44图 第17号住居跡出土物実測図(1)



第45图 第17号住居跡出土遺物実測図(2)



第46図 第17号住居跡出土遺物実測図(3)

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 12 黒褐色 | ロームブロック微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 14 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片723点(坏・高台付坏47, 碗1, 壺3, 甕672), 須恵器片318点(坏156, 高台付坏8, 壺46, 甕・瓶108), 土製品2点(紡錘車), 瓦片7点(平瓦), 磚44点(うち被熱痕20)が出土している。これらの遺物は竈内及びその周辺と南東部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片44点, 石製品1点, 攪乱により混入した鉄屑10点, 粘土塊92点が出土している。101は東部の覆土下層, 102・103は中央部の覆土下層, 105~110・T3~T5は竈内, T6は竈脇の覆土中層, DP3は北壁際の覆土下層, Q10は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。T3~T6は竈の補強材として両袖に, 105~110・112は竈から中央部に倒れた状態で出土している。105~110は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。当遺跡では竈の芯材として瓦が使用されることがあるが, 本跡のように完全形で出土したのは唯一である。竈は竈前の遺物の出土状況から二掛けの可能性が考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表(第44~46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
101	須恵器	坏	12.8	5.1	6.7	緑色粘り土	灰黄	不良	底部外面へラ削り後一向向へラ削り	東部下層	80% PL.62
102	須恵器	坏	13.3	4.7	7.4	長石・白色粒子	黄灰	普通	口ノリ製法, 底部外面へラ削り後ナデ, 内面ナデ	中央部下層	70% 復片付 PL.6
103	須恵器	坏	[12.7]	4.8	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	口ノリ製法, 底部外面へラ削り後ナデ	中央部下層	60% PL.62
104	須恵器	坏	-	(1.3)	[6.8]	雲母・黒色粒子	灰黄	普通	口ノリ製法	覆土中	5部観察 PL.3
105	須恵器	壺	14.3	3.9	-	長石・白色粒子	黄灰	普通	天井部外面へラ削り	竈内下層	76% 観察 PL.6
106	土師器	甕	20.9	30.4	8.0	紅褐色粘り土	橙	普通	底部外面へラ削り, 内面へラナデ, 底部ナデ	竈内下層	85% 二次焼成 PL.6
107	土師器	甕	22.4	35.0	7.7	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面へラ削り, 内面へラナデ, 底部ナデ	竈内下層	80% PL.63
108	土師器	甕	21.9	36.7	7.9	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	底部外面へラ削り, 内面へラナデ	竈内下層	88% 観察 PL.7
109	土師器	甕	20.2	35.0	8.5	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面へラ削り, 内面へラナデ, 底部ナデ	竈内下層	90% 復片付 PL.6
110	土師器	甕	22.2	(17.7)	-	長石・石英	橙	普通	底部外面へラ削り, 内面へラナデ	竈内下層	40% 二次焼成

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP2	紡錘車	3.8	0.7	2.3	35.8	白色粒子	一方向からの穿孔。全面ナテ	覆土中	PL85
DP3	紡錘車	5.5	1.0	2.6	(61.0)	黒石・赤色粒子	側面ナテ、穿孔周辺に溝状の削り	北部下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特 徴	出土位置	備 考
Q10	磁石	19.3	6.7	1.7	380.0	安山岩	紙面は1面、二方向	南東隅下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
T3	平瓦	(16.0)	38.8	3.1	(2610.0)	灰青・赤粒子	凹面布目痕・広縁面付近ヘラ削り、凸面	竈内	PL84
T4	平瓦	(16.2)	(27.5)	2.0	(1500.0)	灰青・赤粒子	凸面叩き目、凹面布目	竈内	PL84
T5	平瓦	(25.0)	8.4	2.6	(1160.0)	灰青・赤粒子	凸面叩き目、凹面布目痕・赤切り痕の一部残存、側面ヘラ削り	竈内	PL84
T6	丸瓦	(21.8)	(10.0)	2.0	(638.0)	灰青・赤粒子	凸面叩き目、凹面布目痕・赤切り痕の一部残存、側面ヘラ削り	竈脇中層	PL84

第19号住居跡 (第47図)

位置 東区南東部のV50a5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.75m、短軸3.18mの長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は14~18cmで、ほぼ直立している。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmほどで、西壁際を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱のため、袖部と煙道部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は突口部から煙道部まで長さ78cm、壁の掘り込み幅71cmほどで、煙道部が壁外へ30cmほど掘り込まれ、緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部は床面が4cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。袖部は両軸とも地山を掘り残り、暗赤褐色あるいは暗褐色をした焼土を含む粘土で構築され、竈土層断面図中、第6・9層が相当する。黄褐色をした焼土を含む粘土粒子で構築されていた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第4・5層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック微量 |
| 4 黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量 | 9 暗褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | | |

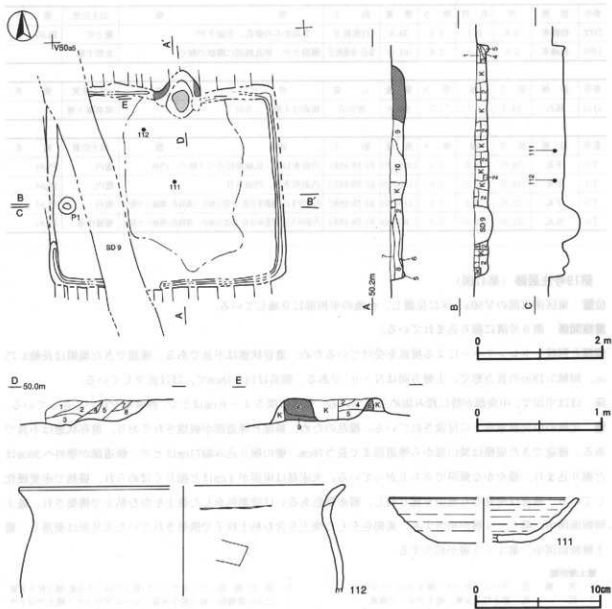
ピット P1は深さ10cmで、西壁際中央部に位置しているが、その性格は不明である。

覆土 10層からなる。第9層は竈からの流れ込みで、他はロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|--------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | 粘土粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 極暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 極暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片75点(坏・高台付坏8、甕・甔67)、須恵器片47点(坏・高台付坏38、蓋1、甕1、甕7)、鉄製品1点(不明)、瓦片5点(平瓦)、糠16点(うち被熱痕5)が出土している。これらの遺物は竈周辺と中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した陶器片3点、鉄洋8点、粘土塊1点が、それぞれ出土している。111は中央部の覆土下層、112は竈前面の覆土中層から出土している。



第47図 第19号住居跡・出土遺物実測図

111は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第19号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	口径	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
111	須臾器	坏	[14.6]	(3.6)	[7.0]		白色粘土・微塵	灰オリーブ	普通	底部外面回転ヘラ切り後ナデ	中央部下層	15%
112	土師器	甕	[26.5]	[8.7]			長石・石英・雲母・微塵	褐	普通	体部内面ヘラナデ	竈前面中層	5% 外面採付着

第20号住居跡（第48図）

位置 東区南東部のU50j5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第77号土坑に掘り込まれている。

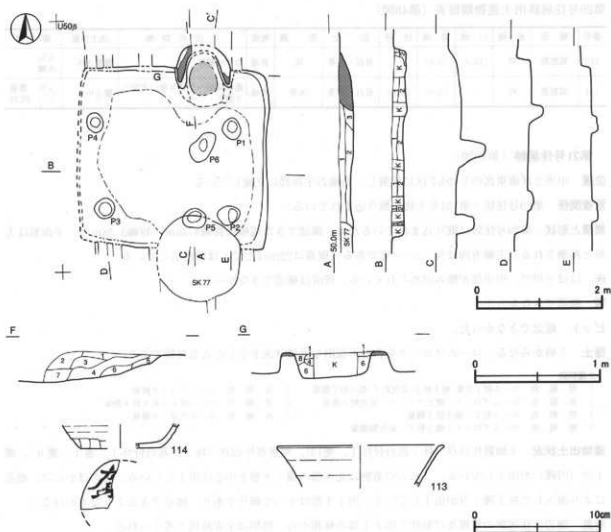
規模と形状 トレンチャーによる掘乱を受けており、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が3.01m、短軸が2.90mで、平面形は方形と推測される。主軸方向はN-4°-Eである。壁高は16~20cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は確認できなかった。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。掘乱を受けて袖部と煙道部が破壊され、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部まで長さ91cm、袖部幅93cmほどで、煙道部が壁外へ36cmほど掘り込まれ、緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。両袖部は地山を大きく掘り残し、その部分に灰白色の粘土を貼り付けて構築されている。褐灰色をした焼土を含む粘土で構築されてきた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第3層が相当する。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 3 褐色 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 灰褐色 焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子微量 |



第48図 第20号住居跡・出土遺物実測図

- 5 黒灰色 ロームブロック・焼土粒子微量
6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8 赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量

ピット 6か所。P1～P4は深さ10～20cmで、中央部から各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5は深さ35cmで、竈に向かい合う中央部南壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ42cmで、形状も不定形であり、他の柱穴とは異なることから、その性格は不明である。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む水平状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片32点（坏・高台付坏3，堇・甗29），須恵器片33点（坏・高台付坏27，堇5，長頸壺1），鉄製品2点（鎌・不明），礫5点（破砕礫；うち被熱痕2）が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点が出土している。113は竈内から、114は覆土中から出土している。113は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第20号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
113	須恵器	坏	[13.0]	(3.4)	-	長石・石英	灰	普通	ログロ整形	竈覆土中	5% 火傷
114	須恵器	坏	-	(2.9)	[6.5]	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後一方ヘラ削り	覆土中	5% 墨書 [□] PL79

第21号住居跡（第49図）

位置 中央2区南東部のV49b7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第29号住居・第134号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第29号住居に掘り込まれているため、確認できた規模は長軸3.38m、短軸3.28mで、平面形は方形と推測される。主軸方向はN-5°-Wである。壁高は22cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は確認できなかった。

竈 確認できなかった。

ピット 確認できなかった。

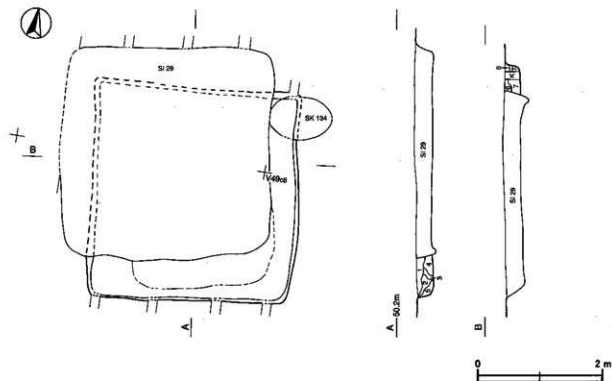
覆土 7層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 5 灰褐色 ロームブロック微量
2 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 7 灰褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片14点（坏・高台付坏1，堇13），須恵器片12点（坏1，高台付坏1，壺1，堇9），礫1点（円礫）が出土している。これらの遺物は北東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した粘土塊1点が出土している。出土土器はすべて細片であり、図示できるようなものはない。

所見 周辺の住居跡の規模及び形状と出土土器の様相から、時期は平安時代と考えられる。



第49図 第21号住居跡実測図

第22号住居跡 (第50図)

位置 東区中央部西寄りのT46e7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第43号住居に掘り込まれている。

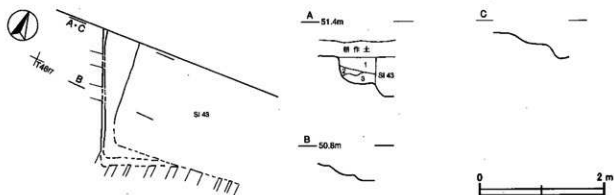
規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は長軸2.17m、短軸1.05mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はN-27°-Wである。壁高は12~21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、確認できた部分ではあまり踏み固められていない。壁溝は確認できなかった。

竈 調査区域外に付設されていた可能性がある。

ピット 確認できなかった。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む人為堆積を示している。



第50図 第22号住居跡実測図

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片10点(坏・高台付坏1, 甕9), 須恵器片2点(坏1, 蓋1), 裸4点が出土している。

これらの遺物はすべて覆土中から出土している。すべて細片であり、図示できるようなものはない。

所見 8世紀中葉と推定される第43号住居に掘り込まれているので、時期は8世紀中葉以前と考えられる。

第25号住居跡(第51・52図)

位置 中央2区東部のU49h7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第6号溝, 第48・54号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸5.92m, 短軸5.78mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は28~52cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められているのに対し、南西と南東コーナー部寄りの床面は軟らかい。壁溝は深さ6~8cmで、全周している。図示できなかったが、中央部と各コーナー部を確認面から58~82cmほど掘り込み、その部分にロームブロックを含む暗褐色土を20~30cmほど埋土し、床面を構築している。

竈 北壁の中央部に付設されている。擾乱と第6号溝に掘り込まれているため、煙道部周辺が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部の長さが140cm, 袖幅144cmで、残存部分から煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっていると推測される。火床面は床面とは同じ高さで、被熱で赤変硬化している。旧火床面は火床面から12cmほど掘りくぼめられ、その上にぶい褐色をしたロームブロックを含む粘土を埋土し、火床面として使用していたと考えられる。竈は長期間使用されていたと考えられる。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	18 灰褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	19 黒褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	20 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	21 灰褐色	粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5 極暗赤褐色	粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	22 褐色	粘土粒子多量, ロームブロック・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	23 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
7 暗赤褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	24 灰褐色	粘土粒子少量, ロームブロック微量
8 極暗赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	25 褐色	粘土粒子中量, ロームブロック微量
9 黒褐色	粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	26 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	27 灰褐色	粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
11 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	28 黒褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
12 黒褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	29 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック微量
13 黒褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	30 灰褐色	粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
14 黒褐色	炭化粒子中量, 焼土ブロック微量	31 ぶい褐色	ロームブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
15 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	32 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
16 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	33 ぶい褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
17 灰褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量		

ピット 8か所。P1~P4は深さ67~81cmで、各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P1・P2・P4で柱の抜き取り痕が認められ、柱材は径12cmと推定される。なお、P1・P4の第1層、P2の第2層が抜き取り痕である。P5は深さ30cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8は深さ20cmと比較的浅く、覆土中層から須恵器甕の口縁部が正位で出土している。P6・P7は深さ21・23cmで、中央部に位置するが、性格は不明である。

P1土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭沼バミス微量	4 褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量(縛まり; 割い)	5 褐色	ローム粒子多量, 炭沼バミス微量
3 褐色	ロームブロック中量, 炭沼バミス少量, 焼土粒子・粘土粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 炭沼バミス微量
		7 褐色	ローム粒子少量, 炭沼バミス微量

P 2 土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量、鹿沼バミス中量 |

P 3 土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量 | 7 褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 明褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス中量 |

P 4 土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・鹿沼バミス微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・鹿沼バミス微量 | 7 褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス少量、ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス少量 | 8 褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 |

覆土 26層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

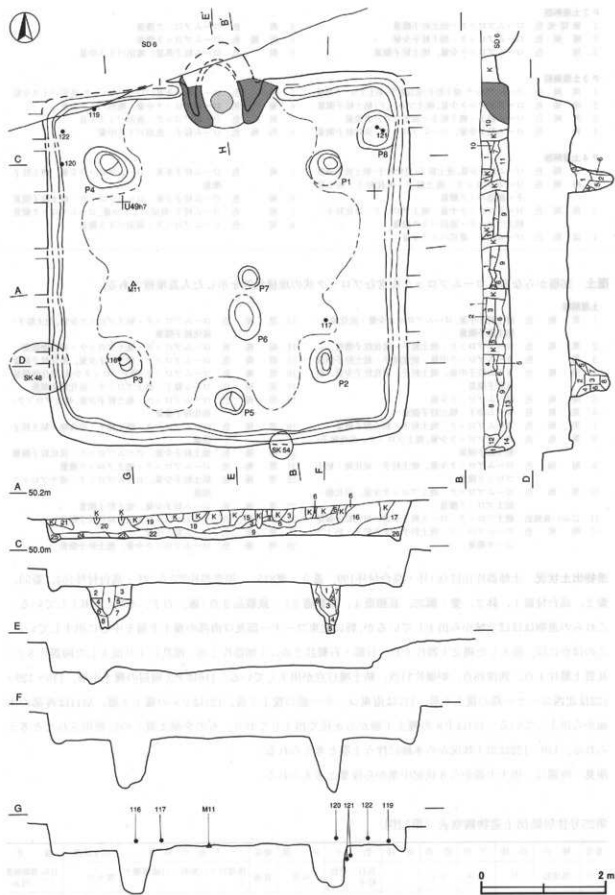
- | | | | |
|----------|------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 17 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 20 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量 | 21 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 | 22 黒褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 11 濃い黄褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 23 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 | 24 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| | | 25 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 26 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1017点(杯・高台付杯199, 蓋3, 甕815), 須恵器片253点(杯・高台付杯154, 蓋53, 釜2, 高台付皿1, 鉢2, 甕・瓶35, 長頸壺4, 短頸壺2), 鉄製品3点(鐵, 刀子, 不明)が出土している。これらの遺物はほぼ全域から出土しているが、特に北東コーナー部及び南部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片6点, 石器・石製品2点, 土師器片2点, 攪乱により混入した陶器片8点, 瓦質土器片1点, 鉄滓28点, 炉壁片11点, 粘土塊17点が出土している。116はP3周辺の覆土中層, 119・120・122は北西コーナー部の覆土下層, 117は南東コーナー部の覆土下層, 121はP8の覆土下層, M11は西部の床面から出土している。121はP8の覆土下層から正位で出土しており, ものを据え置くのに使用されたと考えられる。119~122は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

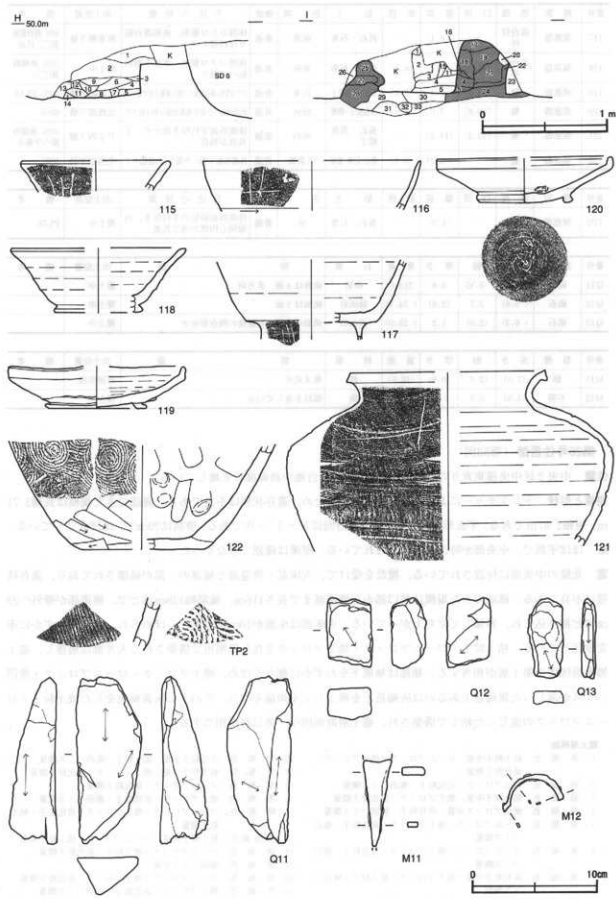
所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。

第25号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
115	須恵器	杯	[11.6]	(2.4)	-	長石・赤色 粒子	灰質	普通	体部口型整形, 口縁部横ナ デ	覆土中	15% 体部割書 [□] PL80
116	須恵器	杯	[17.2]	(4.0)	-	石英	灰質	普通	天井部手持ちヘウ削り	P3周辺中層	30% 体部割書 [□] PL80



第51图 第25号住居跡実測图



第52図 第25号住居跡・出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
117	須恵器	高台付杯	-	(6.1)	-	長石・石英	灰青	普通	体部ロクロ整形、底部高台貼り付け後ナデ	南東部下層	30% 高台部割棄[□] PL80
118	須恵器	高台付杯	[13.8]	5.3	[6.8]	長石・石英	黄灰	普通	体部ロクロ整形、体部下端回転へう削り	覆土中	15% 体部割棄[□]
119	須恵器	盤	[18.8]	3.4	[7.8]	長石・白色粒子	灰青	普通	ロクロ整形、高台部へう削り削り後ナデ	北西部下層	50% PL63
120	須恵器	盤	[13.8]	3.6	7.6	白色粒子・黄緑	暗灰	普通	底部回転へう削り後高台貼り付け後ナデ	北西部下層	60%
121	須恵器	甕	[15.3]	(14.2)	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	体部外面平行叩き後ナデ、工具痕が残存	P 8 内下層	10% 体部外面へう削り
122	須恵器	甕	-	(8.2)	[9.4]	長石・石英・黄緑	灰黄褐色	普通	体部外面下へう削り、内転指ナデ	北西部下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP2	須恵器	甕	-	(4.3)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き、内面同心円状の当て具痕	覆土中	PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q11	磁石	13.4	5.15	3.8	213.0	砂岩	縦面は4面、多方向	覆土中	
Q12	磁石	(5.6)	3.7	(2.8)	(74.1)	凝灰岩	縦面は3面	覆土中	
Q13	磁石	(6.3)	(2.8)	1.2	(25.0)	安山岩	縦面は2面、剥離後の残存部分のみ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	鏝	(7.0)	(2.2)	(0.6)	(16.5)	鉄	産又式か	西部床面	
M12	不明	(4.9)	0.5	0.15	(2.4)	鉄	弧状を為している。	覆土中	

第26号住居跡 (第53図)

位置 中央2区中央部東寄りのU48b6区に位置し、台地の斜面部に立地している。

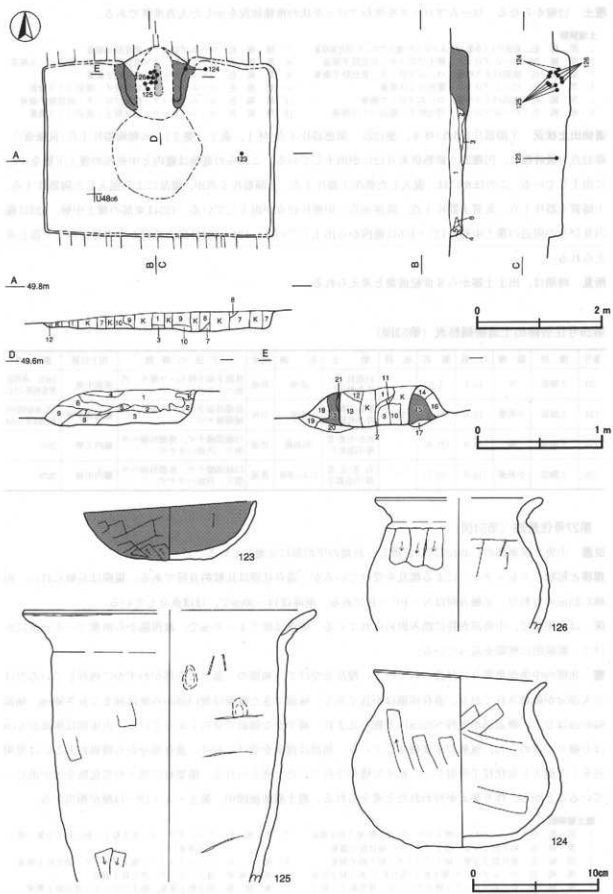
規模と形状 トレンチャーによる掘削を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.71m、短軸2.87mである。平面形は長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は29cmで、ほぼ直立している。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は確認できなかった。

竈 北壁の中央部に付設されている。掘削を受けて、火床部・煙道部と袖部の一部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部まで長さ116cm、袖部幅128cmほどで、煙道部が壁外へ22cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ、被熱でわずかに赤変硬化している。粘土粒子・ロームブロック・焼土ブロックを含む黒褐色で構築された天井部は崩落し、竈土層断面図中の第1層が相当する。袖部は袖部下をわずかに掘りくぼめ、焼土ブロック・ロームブロック・鹿沼バミスが混じった黒褐色土あるいは灰褐色土を埋土して平坦部を作り、その上に灰黄褐色をした焼土粒子・ロームブロックの混じった粘土で構築され、竈土層断面図中、第15層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量、鹿沼バミス微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス微量 | 11 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・鹿沼バミス微量 | 13 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス微量 | 15 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子・鹿沼バミス微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 17 黄褐色 | 鹿沼バミス多量 |
| 9 黒褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・鹿沼バミス微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 19 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス微量 |
| | | 20 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・鹿沼バミス微量 |
| | | 21 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量 |



第53图 第26号住居跡・出土遺物実測図

覆土 12層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	炭沼バミス少量・ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量・炭沼バミス微量
3 暗褐色	炭沼バミス中量・ロームブロック・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭沼バミス微量	10 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・炭沼バミス微量
5 黒褐色	炭沼バミス少量・ロームブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・炭沼バミス微量	12 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・炭沼バミス微量

遺物出土状況 土師器片126点(坏4, 甕122), 須恵器片4点(坏1, 甕2), 灰釉陶器片1点(長頸甕), 礫32点(破砕礫4, 円礫28; 被熱痕あり12)が出土している。これらの遺物は竈内と中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点, 土師器片5点, 攪乱により混入した陶器片4点, 土師質土器片1点, 瓦質土器片1点, 鉄滓36点, 炉壁片12点が出土している。123は東部の覆土中層, 124は竈内及びその周辺の覆土中層, 125・126は竈内から出土している。124~126は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表(第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
123	土師器	坏	13.7	4.6	-	白色粒子・赤色粒子	赤褐	普通	体部下用手持ちヘラ削り, 内面ヘラナゲ	東部中層	100% 内外面黒色炭層 PL63
124	土師器	小形甕	13.6	14.3	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	不良	底部外面持ちヘラ削り, 口縁部横ナゲ	竈内中層	50% 各部内面中央炭化物付着 PL64
125	土師器	甕	[23.0]	(21.8)	-	長石・石英・雲母・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナゲ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナゲ	竈内上層	20%
126	土師器	小形甕	[13.0]	(10.7)	-	石英・金・雲母・白色粒子	にぶい黄緑	普通	口縁部横ナゲ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナゲ	竈内中層	20%

第27号住居跡(第54図)

位置 中央2区東部のU49b6区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.41m, 短軸3.25mの方形で, 主軸方向はN-10°-Eである。壁高は14~30cmで, ほゞ直立している。

床 ほゞ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで, 竈脇から南東コーナー部にかけて, 断続的に壁際を巡っている。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて, 袖部の一部と火床部がわずかに残存しているだけで大部分が破壊されており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部まで長さ98cm, 袖部幅80cmほどで, 煙道部が壁外へ32cmほど掘り込まれ, 緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ, 被熱で赤変硬化している。袖部は攪乱を受けており, 遺存部分から暗褐色あるいは黒褐色をした焼土と炭化粒子の混じった粘土で構築されていたと考えられる。構築材に焼土や炭化物などが混じっていることから, 作り替えが行われたと考えられる。竈土層断面図中, 第2~4・12~14層が相当する。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
2 黒褐色	粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化粒子少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量	9 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	10 黄褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量		

- | | | | |
|---------|------------------------------|-----------|-------------------------|
| 12 褐 色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 17 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 18 明黄褐色 | ローム粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 14 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 19 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 15 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 20 明黄褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 16 暗赤褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 21 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |

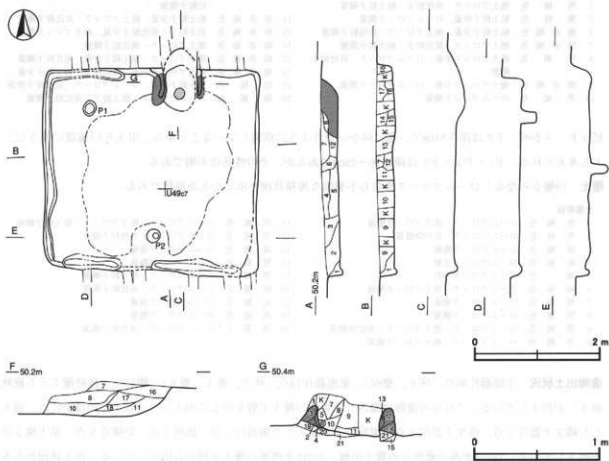
ピット 2か所。P1は深さ29cmで、北西コーナー部寄りに位置していることから支柱穴と考えられるが、対応する柱穴が確認されていない。P2は深さ28cmで、竪に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 18層からなる。ロームブロックを含む不規則なブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 暗褐色 | 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片40点(坏4, 甕36), 須恵器片12点(坏8, 蓋1, 甕3), 礫19点(破砕摩; うち被熱痕10)が覆土中から出土している。このほかには、混入した土師器片3点が、攪乱により混入した陶器片1点、鉄滓15点、炉壁片2点、粘土塊1点が出土している。出土した遺物はすべてが細片で、図示できるものはない。所見 遺物は細片であり、時期判断は困難である。近隣の第28・30号住居跡と規模や形状、主軸方向等の類似



第54図 第27号住居跡実測図

点が多く、それらと同時期と考えられる。時期は8世紀前葉と考えられる。

第28号住居跡 (第55図)

位置 中央2区東部のU49a6区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる掘乱を受けているため、遺存状態は不良である。規模は長軸3.60m、短軸3.43mの方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は28cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで、北壁の竈の西脇と、北西コーナー部から南東コーナー部にかけての壁際を巡っている。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。掘乱を受けて、煙道部と袖部の一部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ108cm、袖部幅96cmほどで、煙道部が壁外へ34cmほど掘り込まれ、緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。竈土層断面図中、第2層下が相当する。袖部は右袖部の下部を10cmほど掘りくぼめられ、その部分にふい黄褐色あるいは暗赤褐色をした焼土混じりの粘土を埋土して平坦部を作り、その上に暗褐色あるいは黒褐色をした焼土・炭化粒子の混じった粘土で構築されている。竈の構築材に焼土や炭化物などが混じっていることから、作り替えが行われたと考えられる。竈土層断面図中、第4・5・14~17・20層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 灰黄褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 ぶい黄褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック微量 | 15 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 18 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 19 暗褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック微量 | 20 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

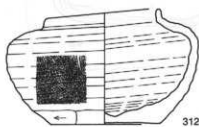
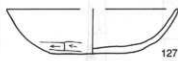
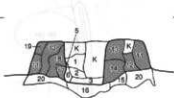
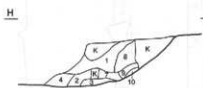
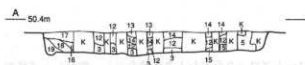
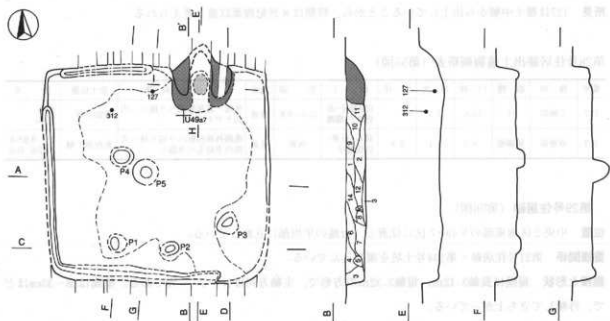
ピット 5か所。P2は深さ24cmで、竈に向かい合うように位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1・P3~P5は深さ16~29cmであるが、その性格は不明である。

覆土 19層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片86点(坏6, 甕80), 須恵器片14点(坏7, 蓋1, 甕6), 礫15点(破砕礫; うち被熱痕4)が出土している。これらの遺物は竈内と北東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片1点, 弥生土器片2点, 掘乱により混入した陶器片3点, 鉄滓4点, 炉壁片9点, 粘土塊5点が出土している。127は北部の竈寄りの覆土中層, 312は北西部の覆土上層から出土している。出土状況から本跡に伴うものはない。



第55図 第28号住居跡・出土遺物実測図

所見 127は覆土中層から出土していることから、時期は8世紀前葉以前と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
127	土師器	環	13.6	3.5	-	白色粒子・赤色粒子・炭屑	にぶい赤褐色	普通	体部・底部外面ヘラ削り、内面ナデ上げ	竈脇中層	40% PL64
312	須恵器	短甕	9.0	9.1	8.8	長石・石英・白色粒子	灰黄	普通	底部外面回転ヘラ削り横一方両の手持ちヘラ削り	北西部上層	70% 体部外面に黒目痕 PL64

第29号住居跡 (第56図)

位置 中央2区南東部のV49c7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第21号住居跡・第134号土坑を掘り込んでいる。

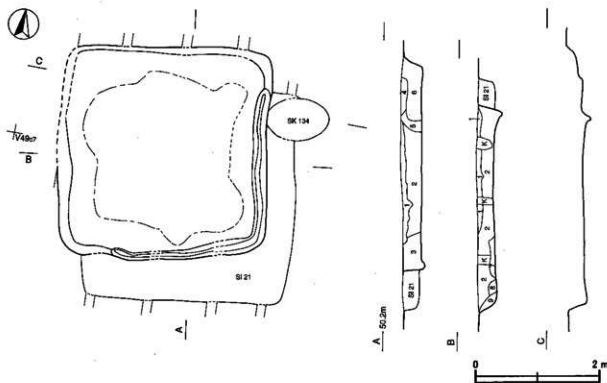
規模と形状 規模は長軸3.42m、短軸3.32mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は28~33cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで、北東コーナー付近から南西コーナー付近にかけて壁際を巡っている。

竈 確認できなかった。

ピット 確認できなかった。

覆土 9層からなる。下層の第7・8層は粘土粒子・ロームブロックを含む人為堆積を示し、他はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



第56図 第29号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| | | 9 灰褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片78点(坏・高台付坏5, 甕73), 須惠器片45点(坏・高台付坏29, 蓋4, 甕11, 長頸壺1), 瓦片1点(平瓦), 礫11点が出土している。これらの遺物は北東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点、攪乱により混入した鉄滓26点が出土している。出土した遺物はすべてが細片で、図示できるものはない。

所見 当遺跡で確認されている同じ規模と形状及び周辺の住居から、時期は平安時代と考えられる。

第30号住居跡(第57図)

位置 中央2区東部のU49b5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.70m, 短軸3.04mで、平面形は長方形と推測される。主軸方向はN-5°-Wである。壁高は4~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて大部分が破壊され、袖部及び火床部の一部がわずかに遺存しているだけで、状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ96cm, 袖部幅150cmほどで、煙道部が壁外へ30cmほど掘り込まれ、緩やかな傾斜で立ち上がっていたと推測される。火床部は床面が4cmほど掘りくぼめられ、被熱でわずかに赤変している。両袖部ともわずかに遺存しているだけであるが、残存部分は、床面を掘り込み、その部分に黄褐色あるいは黒褐色をした焼土混じりの粘土で構築されていたと推測される。竈土層断面図中、第10・11層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 近い黄褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 11 灰黄褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 |
| | | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット P1は深さ18cmで、中央部から北西コーナー寄りに位置しているが、性格は不明である。

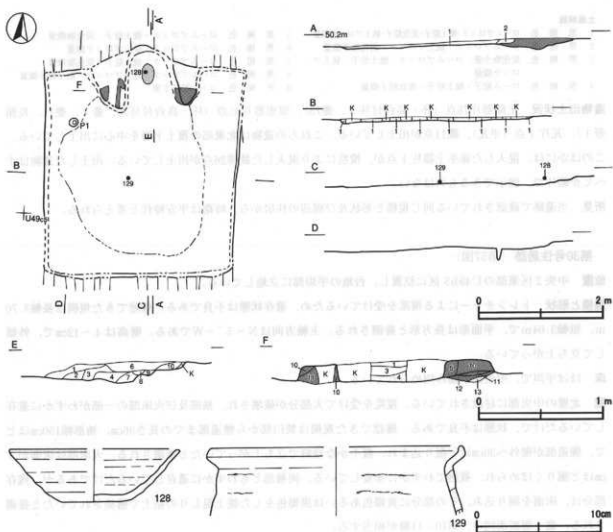
覆土 2層からなる。覆土は薄い、不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------|-----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片29点(坏4, 甕25), 須惠器片29点(坏・高台付坏24, 蓋2, 甕3), 礫3点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は竈周辺と中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した鉄滓2点、炉壁片1点、粘土塊1点が出土している。128は竈内の覆土上層, 129は中央部の床面から出土している。129は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第57図 第30号住居跡・出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
128	須恵器	坏	[13.4]	4.2	6.0	長石・石英	灰白	普通	体部クロ形後ナダ、底部外面回転ヘツ切り	竈内土層	60%
129	土師器	甕	[20.0]	(5.5)	-	石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	口縁部横ナダ、体部内面ヘツナダ	中央部床面	5%

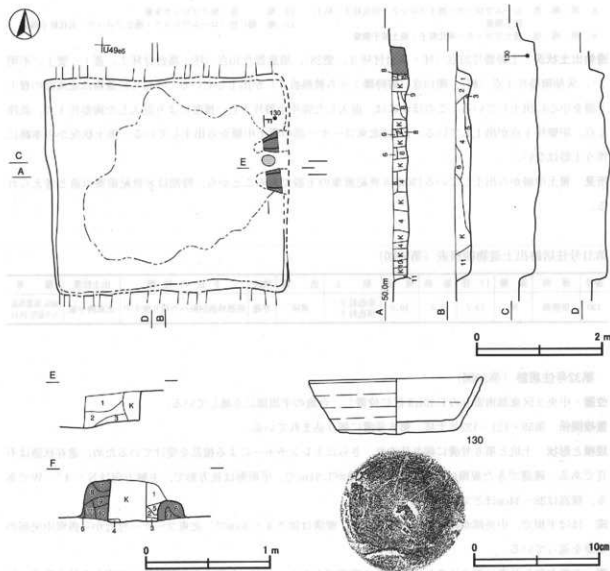
第31号住居跡（第58図）

位置 中央2区東部のU49e5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.72m、短軸3.43mで、平面形は方形と推測される。主軸方向はN-88°-Eである。壁高は20~28cmで、ほぼ直立している。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて袖部の一部と火床部が遺存しているだけで、状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ80cm、袖部幅100cmほどで、煙道部が壁外へ30cmほど掘



第58図 第31号住居跡・出土遺物実測図

り込まれ、外傾して立ち上がっていると推測される。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、被熱でわずかに赤変している。袖部は袖の基部と先端が攪乱を受けており、全容については不明な点が多い。袖部は黄褐色をした焼土混じりの粘土で構築されており、竈土層断面図中、第6～8層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 10 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 11 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック微量 | | |

ピット 確認されなかった。

覆土 11層からなる。焼土ブロック・ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量 | | |

- 8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土 10 黒褐色 焼土ブロック少量
 粒子微量 11 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
 9 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片31点(坏・高台付坏3, 甕28), 須恵器片10点(坏・高台付坏7, 蓋1, 甕1, 不明1), 灰釉陶器片1点(碗), 礫13点(破碎礫;うち被熱痕5)が出土している。これらの遺物は北東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した弥生土器片1点, 攪乱により混入した陶器片1点, 鉄滓6点, 炉壁片1点が出土している。130は北東コーナー部の覆土中層から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 覆土中層から出土している130が8世紀前葉の土器であることから, 時期は8世紀前葉以前と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表(第58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
130	須恵器	坏	13.7	4.4	10.0	赤色粒子・黒色粒子	黄灰	普通	底部外面回転ヘラ切り後ナナ	北東隅中層	9% 底部外面ヘラ跡あり

第32号住居跡(第59図)

位置 中央2区東南南寄りのU49h3区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第59・121・122号土坑, 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 土坑と第6号溝に掘り込まれ, さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.23m, 短軸が3.34mで, 平面形は長方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は28~34cmほどで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで, 北東コーナー付近から西壁中央部の壁際を巡っている。

竈 北壁が第6号溝に掘り込まれているため確認できなかったが, 北壁の中央部付近の床面から粘土粒子・焼土ブロック・炭化物がブロック状に確認されたことから, 竈は北壁中央部に付設されていたと推測される。

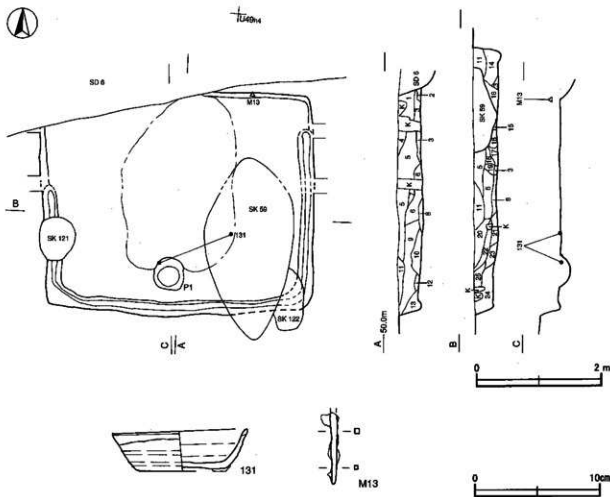
ピット P1は深さ16cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 25層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 17 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック微量 | 19 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 20 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 21 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 22 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 11 黒褐色 | ロームブロック微量 | 23 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 12 黒褐色 | ロームブロック微量 | 24 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 13 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 25 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片53点(坏9, 甕44), 須恵器片50点(坏21, 蓋10, 盤9, 甕9, 高盤1), 石製品1点(砥石), 鉄製品1点(不明), 礫27点(破碎礫17, 円礫10;うち被熱痕12)が出土している。これらの遺物は



第59図 第32号住居跡・出土遺物実測図

中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片28点が、攪乱により混入した鉄滓19点、炉壁片9点が出土している。131は南東部床面、M13は北壁際の覆土中層から出土している。131は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第32号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
131	須恵器	坏	10.7	3.1	7.3	長石・石英	灰	普通	底面外面右回転ヘラ切り、外面に輪積み痕が残存	南東部床面	70% 焼成時土器付着 PL64	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	張	出土位置	備考
M13	鐵	(5.8)	0.6	0.4	(3.3)	鐵	鐵身部欠損、有蓋		北壁際中層	

第33号住居跡 (第60図)

位置 中央2区東部南寄りのU49i2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第130号土坑、第5・6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第5・6号溝に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.50m、短軸が5.30mの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は24~40cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで、竈西脇から南東コーナー部にかけての壁際を巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。第6号溝に右半分が掘り込まれているため、左袖部と火床部だけが遺存しているだけで、状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ88cmである。袖部幅及び煙道部の掘り込みの様相は不明である。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱でわずかに赤変硬化している。袖部にはぶい黄褐色をした焼土粒子の混じった粘土粒子で構築されている。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 ぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・白色粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量 | | |
| 4 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | | |
| 5 灰褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 確認できなかった。

覆土 10層からなる。レンズ状を呈した自然堆積である。第3層は竈材が崩れたもので、第10層は壁の崩落層と考えられる。

土層解説

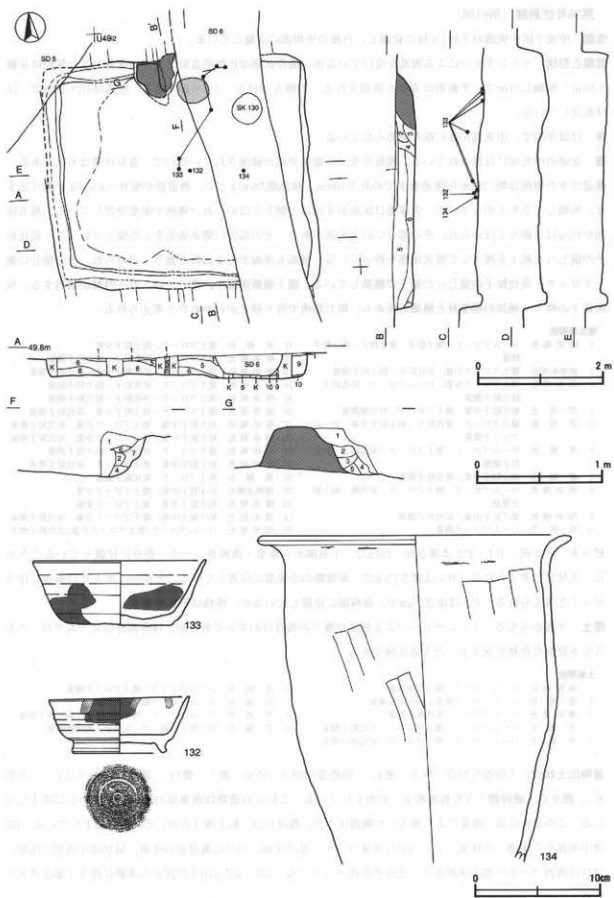
- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片118点(坏2, 高台付坏1, 甕・瓶115), 須恵器片42点(坏・高台付坏30, 蓋4, 甕7, 短頸壺1), 礫30点(破砕礫25, 円礫5; うち被熱痕17)が出土している。これらの遺物は中央部と南西部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した鉄滓73点、炉壁片13点、粘土塊5点が出土している。132は中央部の覆土下層, 133は中央部から北部の覆土下層, 134は中央部から東壁寄りの覆土下層から出土している。134は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
132	須恵器	高台付坏	11.1	4.4	7.3	黒色粒子	ぶい黄	普通	底部回転へう切り後高台貼り付けナダ	中央部下層	90% 口縁部透性・黒付着 PL6A
133	須恵器	坏	13.6	5.2	8.6	長石・石英	灰白	普通	体部下端回転へう削り	中央・北部下層	75% 体部内外面黒付着 PL6A
134	土師器	甕	24.8	(26.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面へう削り、内面へうナダ	中央部下層	60% PL6A



第60图 第33号住居跡・出土遺物実測図

第36号住居跡 (第61図)

位置 中央2区中央部のT49j2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は長軸3.10m、短軸2.84mで、平面形は方形と推測される。主軸方向はN-3°-Eである。壁高は10~16cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。擾乱を受けて竈中央部が破壊されているので、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm、袖部幅78cmほどで、煙道部が壁外へ41cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。現火床面が10cmほど掘りくぼめられ、その部分に旧火床部があり、その部分に暗赤褐色をした焼土ブロック・炭化粒子の混じった粘土を埋土して現火床部を作っている。袖部も床面から8cmほど掘りくぼめられ、その部分に焼土ブロック・炭化粒子の混じった粘土で構築している。竈土層断面図中、第17・18・22~24層が相当する。火床面下の埋土、袖部の構築材と構築方法から、同じ場所で作り替えが行われたと考えられる。

竈土層解説

1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	11 赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
2 極暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	16 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
7 赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量	17 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
8 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	18 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
9 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量	19 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10 暗褐色	ロームブロック微量	20 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
		21 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
		22 極暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
		23 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
		24 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
		25 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 4か所。P1・P2は深さ20・16cmで、中央部から南東・南西各コーナー寄り位置していることから、主柱穴と考えられる。P3は深さ13cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ15cmで、南西部に位置しているが、性格は不明である。

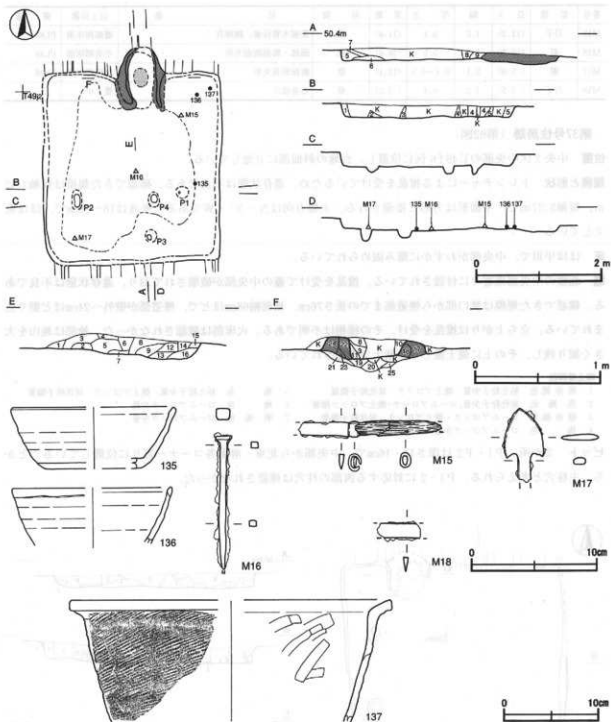
覆土 9層からなる。トレンチャーによる擾乱で覆土の残存はわずかであるが、残存部分はロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック微量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック微量
3 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片49点(坏6, 甕43), 須恵器片58点(坏38, 蓋1, 甕19), 鉄製品7点(刀子1・不明6), 礫9点(破砕礫; うち被熱痕3)が出土している。これらの遺物は南東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、擾乱により混入した陶器片1点、鉄滓15点、粘土塊3点が、それぞれ出土している。135は中央部から東寄りの床面、136・137は北東コーナー部の床面、M15は竈前面の床面、M16は中央部の床面、M17は南西コーナー部の床面から、それぞれ出土している。135~137は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第61図 第36号住居跡・出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
135	須恵器	坏	[12.8]	4.8	[7.6]	雲母・白色灰子	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	東部床面	10%
136	須恵器	坏	[12.6]	(4.8)	-	長石・石英	灰	普通	体部口クロ整形, 口縁部輪轆み痕あり	北東部床面	10%
137	須恵器	鉢	[33.6]	(13.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き目, 内面ヘラナデ	北東部床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M15	刀子	(11.3)	1.2	0.4	(11.8)	鉄	茎部木質付着、鋸残存	竈前面床面	PL88
M16	釘	(10.7)	1.2	0.5	(18.6)	鉄	頭部・脚部断面方形	中央部床面	PL88
M17	鐵	(5.9)	3.1	0.4~0.5	(13.1)	鉄	断面形長丸形	南西部床面	PL88
M18	刀子	(3.5)	1.2	0.4	(3.5)	鉄	刀身部片	竈土中	

第37号住居跡 (第62図)

位置 中央2区中央部のU49f6区に位置し、台地の斜面部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.42m、短軸3.27mで、平面形は方形と推測される。主軸方向はN-2°-Wである。壁高は18~28cmで、ほぼ直立している。

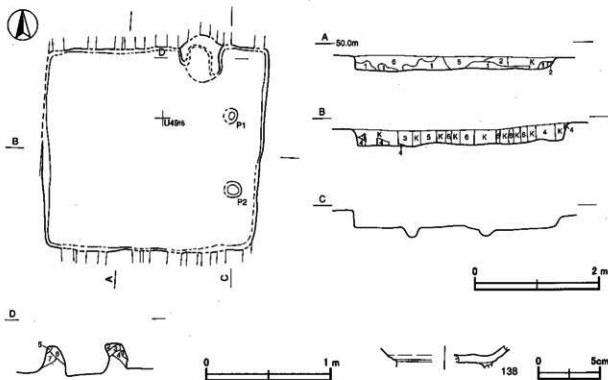
床 ほぼ平坦で、中央部がわずかに踏み固められている。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて竈の中央部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ76cm、袖部幅68cmほどで、煙道部が壁外へ24cmほど掘り込まれている。立ち上がりは攪乱を受け、その様相は不明である。火床部は確認されなかった。袖部は地山を大きく掘り残し、その上に焼土混じりの粘土で構築されている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ13・16cmで、中央部から北東・南東各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P1・2に対応する西部の柱穴は確認されなかった。



第62図 第37号住居跡・出土遺物実測図

覆土 6層からなる。トレンチャーによる攪乱を受けて、覆土の残存はわずかであるが、残存部分はロームブロックを含む人為堆積を示している。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子多量、ロームブロック微量
2	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック微量	5	明褐色	ローム粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子多量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片46点(坏5, 甕41), 須恵器片9点(坏7, 高台付坏1, 甕1), 鉄製品1点(不明), 銅製品1点(不明), 礫15点(破碎礫:うち被熱痕あり12)が覆土中から出土している。このほかには、混入した土師器片1点, 攪乱により混入した陶器片1点, 瓦質土器片1点, 鉄滓6点, 炉壁片4点, 粘土塊1点が, それぞれ出土している。138は覆土中から出土している。

所見 本跡周辺の第27・28・30号住居跡と規模や形状などで類似するところが多いことと, 出土土器から, 時期は8世紀前葉から中葉と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表 (第62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
138	須恵器	高台付坏	-	(1.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部外面回転へく切り後高台貼り付け	覆土中	10%

第40号住居跡 (第63図)

位置 中央2区中央部のT47i1区に位置し, 台地の斜面部に立地している。

重複関係 第28号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.42m, 短軸2.90mで, 平面形は長方形と推測される。主軸方向はN-2°-Eである。壁高は12~17cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北東コーナー部に付設されている。攪乱を受けて竈中央部が破壊されており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ52cm, 袖部幅66cmほどである。煙道部は壁外へ8cmほど掘り込まれ, 立ち上がりが攪乱を受けているため全容は不明である。火床部は確認できなかった。灰オリーブ色をした焼土粒の混じった粘土でできた天井部は崩落している。竈土層断面図中, 第1層が相当する。袖部は焼土ブロック混じりの粘土で構築されている。竈土層断面図中, 第4・6層が相当する。

土層解説

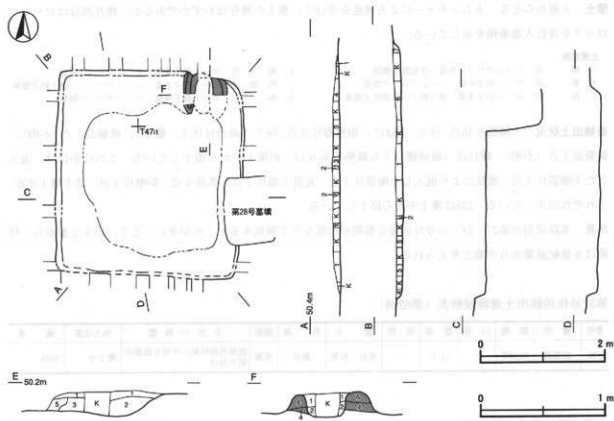
1	灰オリーブ色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量	4	にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量
2	褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	5	黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
3	にぶい赤褐色	粘土粒子・焼土ブロック中量, ロームブロック微量	6	褐色	粘土粒子中量, ロームブロック少量

ピット 確認できなかった。

覆土 7層からなる。トレンチャーによる攪乱を受けているため, 覆土の残存はわずかであるが, 残存部分はロームブロックを含む人為堆積を示している。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	5	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック微量	6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック微量			



第63図 第40号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片7点(甕), 須恵器片5点(坏2, 甕3), 鉄製品1点(釘), 礫1点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した陶器片2点, 炉壁片1点が出土している。出土した遺物はすべてが細片で, 図示できるものはない。

所見 時期は土器の様相から平安時代と考えられる。竈がコーナー部に付設されている住居跡は当遺跡の今回の調査では唯一である。

第41号住居跡 (第64図)

位置 中央2区中央部のT46j9区に位置し, 台地の斜面部に立地している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

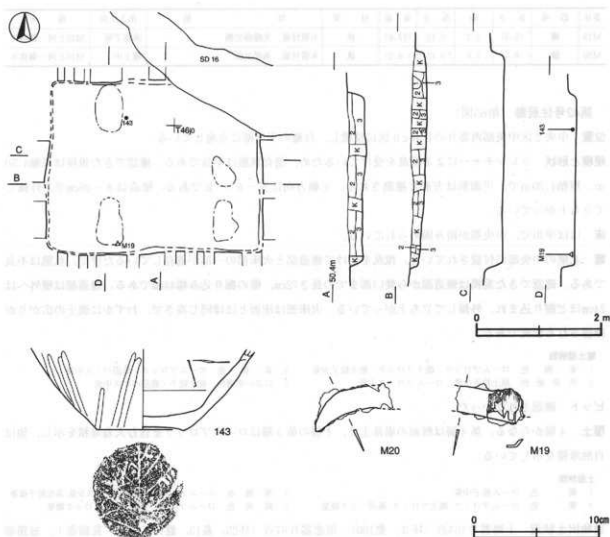
規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が3.46m, 短軸が2.73mで, 平面形は長方形と推測される。主軸方向は $N-88^{\circ}-E$ である。壁高は17~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 南東部・南壁際中央部・北壁際中央部が部分的に踏み固められている。壁溝は確認できなかった。

竈・炉 確認できなかった。

ピット 確認できなかった。

覆土 3層からなる。トレンチャーによる攪乱で覆土の残存はわずかである。残存部分からロームブロックを含む人為堆積を示している。



第64図 第41号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック少量

- 3 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片29点(壺), 須恵器片6点(坏5, 甕1), 鉄製品2点(鎌), 礫8点(破砕礫;うち被痕痕1)が出土している。これらの遺物は北東部の覆土中層を中心に出土している。このほかには, 混入した弥生土器片1点, 石器1点が, 攪乱により混入した陶器片1点, 炉壁3点, 粘土塊3点が, それぞれ出土している。143は北部の覆土下層, M19は南部の覆土下層から出土している。M19とM20は同一個体の可能性がある。143は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器の様相から9世紀前葉以前と考えられる。竈及び炉が付設していない, 床面も中央部よりも周辺部が部分的に硬化していることから, 日常的に使用されたのではない可能性がある。

第41号住居跡出土遺物観察表(第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
143	土師器	壺	-	(5.3)	7.1	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面下位へラ磨き, 内面へラナデ	北部下層	10% 木炭痕

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M19	鉢	(5.5)	2.3	0.15	(12.6)	鉄	木質付着, 先端部欠損	南部下層	M20と同一個体か
M20	鉢	(6.5)	1.9	0.15	(8.5)	鉄	木質付着, 基部欠損	覆土中	M19と同一個体か

第42号住居跡 (第65図)

位置 中央2区中央部西寄りのU46c0区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.50m, 短軸4.30mで, 平面形は方形と推測される。主軸方向はN-6°-Eである。壁高は8~26cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。擾乱を受けて煙道部と火床部の一部が遺存しているだけで, 状態は不良である。確認できた規模は煙道部から焚口部までの長さ72cm, 壁の掘り込み幅44cmである。煙道部は壁外へは24cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, わずかに焼土の広がりが確認される程度である。

覆土層解説

- 1 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 3 黄褐色 ロームブロック・炭沼バミス中量
2 灰黄褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量 4 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭沼バミス中量

ピット 確認されなかった。

覆土 4層からなる。第4層は壁面の崩落土で, 下層の第3層はロームブロックを含む人為堆積を示し, 他は自然堆積を示している。

土層解説

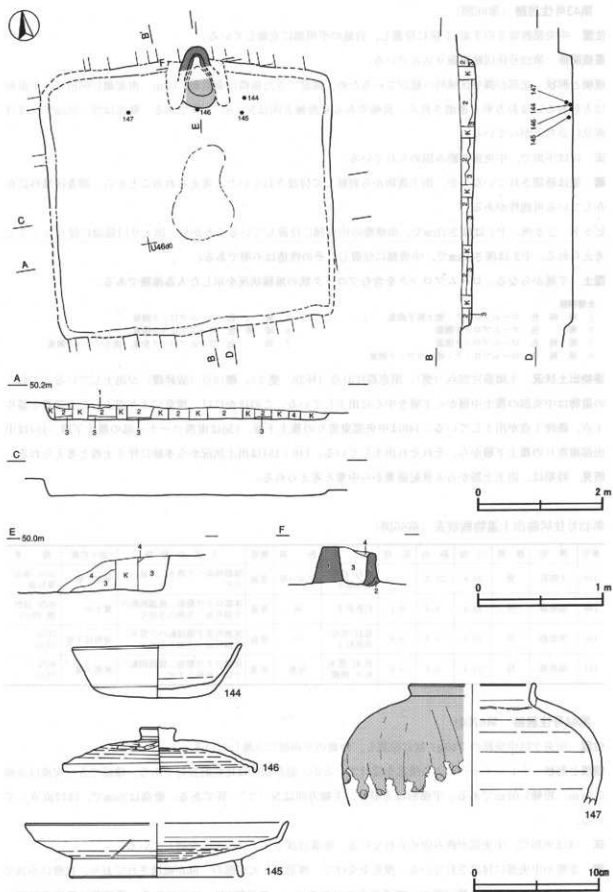
- 1 褐色 ローム粒子少量 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭沼バミス少量, 炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭沼バミス微量 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片103点(坏3, 甕100), 須恵器片67点(坏25, 甕13, 壺2, 長頸壺1), 短頸壺10, 罍10点(破砕雑)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した弥生土器片3点, 擾乱により混入した鉄滓5点がそれぞれ出土している。144~146は竈前面の覆土下層, 147は北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。144~146は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表 (第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
144	須恵器	坏	13.3	4.2	9.1	白色粒子・黒色粒子・炭塵	灰	普通	底部外面回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	竈前下層	50% 底部内面に鉄滓あり PL64
145	須恵器	甕	[20.7]	4.3	13.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰オリーブ	普通	底部外面回転ヘラ切り後高台貼り付け後ナデ	竈前下層	60% 体部下層鉄滓少量 底部内面黒色炭化層あり PL65
146	須恵器	甕	15.3	3.7	-	長石・石英・雲母・炭塵	灰	普通	ロクロ整形, 天井部手持ちヘラ削り	竈前下層	80% 天井部内面鉄滓あり PL65
147	灰陶陶器	短頸壺	[9.8]	(9.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰オリーブ	良好	体部ロクロ整形, 肩部に施軸	北西部下層	30% PL65



第65图 第42号住居跡・出土遺物実測图

第43号住居跡 (第66図)

位置 中央部西寄りのT46e7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第22号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は東西軸4.07m、南北軸1.66mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸である東西軸方向はN-87°-Wである。壁高は27~31cmで、ほぼ直立に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 竈は確認されていないが、出土遺物から判断して付設されていたと考えられることから、調査区域外に存在している可能性がある。

ピット 2か所。P1は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ36cmで、中央部に位置し、その性格は不明である。

覆土 7層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子散量	5 褐色	ロームブロック散量
2 褐色	ロームブロック散量	6 暗褐色	ロームブロック散量
3 暗褐色	ロームブロック散量	7 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック散量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック散量		

遺物出土状況 土師器片26点(甕)、須恵器片31点(坏28, 甕3)、礫18点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには、掘乱により混入した土師質土器片1点、鉄滓1点が出土している。148は中央部東寄りの覆土下層、150は南西コーナー部の覆土下層、151は中央部南寄りの覆土下層から、それぞれ出土している。148・151は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。所見 時期は、出土土器から8世紀前葉から中葉と考えられる。

第43号住居跡出土遺物観察表 (第66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
148	土師器	甕	[24.8]	(29.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き、内面へラナデ	東部下層	20% 体部残付着
149	須恵器	坏	14.4	4.3	9.1	白色粒子	灰	普通	体部クロコ整形、底部回転へラ切り後一方へラ磨り	覆土中	80% 自然輪 PL65
150	須恵器	坏	13.5	4.2	8.8	長石・雲母・赤色粒子	灰	普通	体部外面下層回転へラ削り、底部外面へラ切り後ナデ	南西部下層	70% PL65
151	須恵器	坏	[13.3]	3.7	8.6	長石・黒色粒子・微礫	灰黄	普通	体部クロコ整形、底部回転へラ切り後織なナデ	南部下層	60% PL65

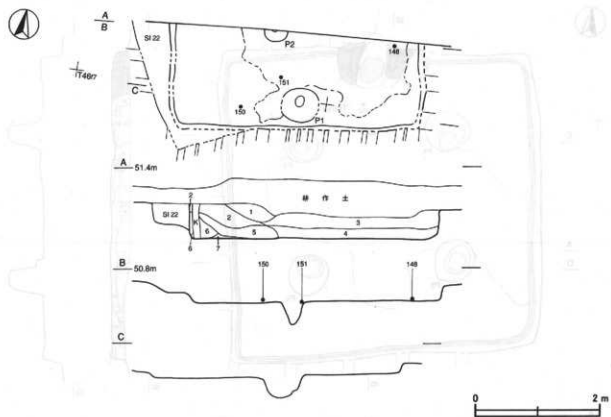
第44号住居跡 (第67図)

位置 中央2区中央部のT46g7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる掘乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は長軸5.04m、短軸5.01mである。平面形は方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は35cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで、全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。掘乱を受けて、煙道部と火床部の一部が破壊されており、状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ68cm、袖部幅124cmほどである。煙道部は破壊されていて、状態は不明である。袖部は焼土混じりの粘土で構築されている。竈土層断面図中、第7~10層が相当する。



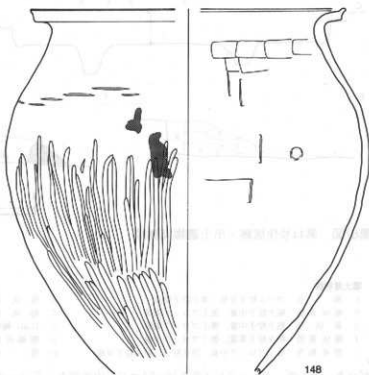
149



150



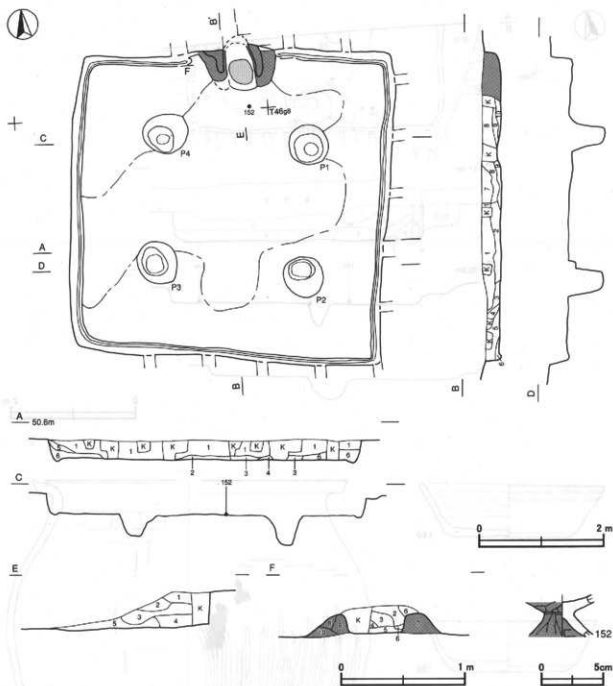
151



148

0 10cm

第66図 第43号住居跡・出土遺物実測図



第67図 第44号住居跡・出土遺物実測図

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 2 暗灰黄色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 | 7 褐色 | 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黄灰色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 | 8 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗灰黄色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック少量 | 9 明褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

ピット 4か所。P1～P4は深さ36～54cmで、中央部から各コーナー部寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。

覆土 10層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック微量	10 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片60点(環・高台付環11, 甕49), 須恵器片10点(環3, 蓋1, 甕6), 礫14点(破砕礫; 被熱炭)が出土している。これらの遺物は竈内と東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片5点, 弥生土器片2点, 土師器片1点, 攪乱により混入した陶器片3点, 鉄屑1点, 粘土塊2点, 古銭1点が, それぞれ出土している。152は竈前面の床面から出土し, 器面が被熱で荒れているため, 支脚として転用されていたと考えられる。152は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉以前と考えられる。

第44号住居跡出土遺物観察表(第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
152	土師器	高坏	-	(3.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	坏部・脚部外面へラ削り	竈前面床面	30% 内外面黒色処理

第45号住居跡(第68図)

位置 中央2区中央部のT4617区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第46号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.70m, 短軸3.55mの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は32~50cmほどで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm, 袖部幅112cmほどである。煙道部は壁外へ24cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, わずかに焼土の範囲が確認されるだけである。焼土ブロックの混じった灰黄色をした粘土でできた天井部は崩落し, 竈土層断面図中, 第1層が相当する。袖部は地山を掘り残して, その上に焼土ブロック混じりのにぶい黄色及びにぶい赤褐色をした粘土で構築されている。竈土層断面図中, 第4・5層が相当する。

竈土層解説

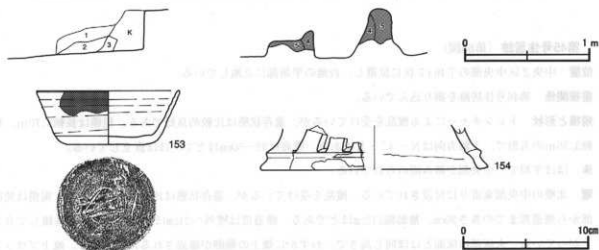
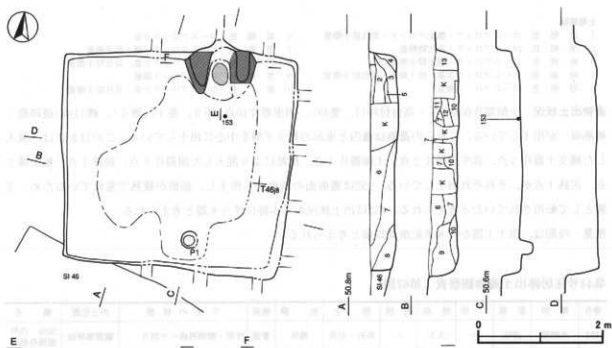
1 灰黄色	粘土粒子多量, 焼土ブロック少量	4 にぶい赤褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土粒子少量	5 にぶい黄色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量		

ピット P1は深さ18cmで, 竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 13層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 にぶい黄褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化材微量	10 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量	11 にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量
6 黒褐色	ロームブロック少量	13 灰黄褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック少量		



第68図 第45号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片76点(坏2, 甕74), 須恵器片12点(坏4, 鉢5, 甕2, 円面碗1), 灰胎陶器片1点(長頸壺), 礫16点(破碎礫;うち被熱痕5)が出土している。これらの遺物は西部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した縄文土器片8点, 土師器片14点, 石器1点, 攪乱により混入した陶器片2点, 鉄滓1点, 粘土塊2点が出土している。153は竈前面の床面から出土している。154は覆土中から出土している。153は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第45号住居跡出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
153	須恵器	坏	11.2	4.2	7.5	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	底部外面回転ヘラ切り後ナデ	竈前面床面	7% 韃靼河泥 是部へ92%凡6
154	須恵器	円面碗	-	(3.5)	[18.6]	長石	黒オリーブ	普通	脚部内外面に自然釉	覆土中	5%

第46号住居跡（第69図）

位置 中央2区中央部のT46j7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

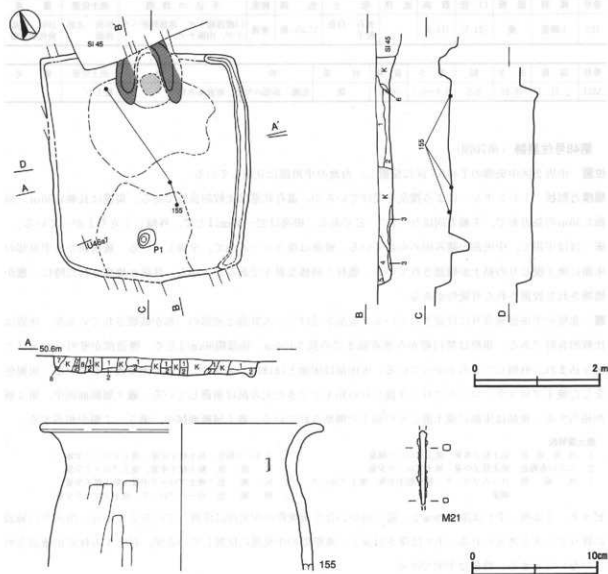
重複関係 第45号住居に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているので、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.60m、短軸3.20mで、平面形は長方形と推測される。主軸方向はN-21°-Eである。壁高は22~28cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前面とP1周辺が踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで、東壁際を巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。中央部が攪乱を受けているので、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ76cm、袖部幅134cmほどである。煙道部は壁外へ12cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、わずかに焼土の範囲が確認されるだけである。袖部は地山を掘り残して、その上に焼土ブロックの混じった粘土で構築されている。攪乱を受けているため、竈の覆土が確認されなかった。

ピット P1は深さ34cmで、竈に向き合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピット



第69図 第46号住居跡・出土遺物実測図

トと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	5 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
3 にぶい黄褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量	7 にぶい黄褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片126点(坏3, 碗3, 甕120), 須恵器片14点(坏4, 甕9, 瓶1), 鉄製品1点(釘), 礫18点(破砕礫; うち被熱痕5)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土上層から下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片5点, 弥生土器片5点, 土師器片7点, 攪乱により混入した瓦質土器片1点, 炉壁片2点, 粘土塊32点がそれぞれ出土している。155は北西部・中央部の床面, M21は覆土中から出土している。155は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表 (第69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
155	土師器	甕	[21.5]	(11.6)	-	長石・白色 粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ, 体部外面ヘラ ナデ, 内面ナデ	中央・北部 床面	10% 内面 炭化物付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M21	釘	(5.8)	0.5	0.4~0.5	(6.0)	鉄	先端・頭部の欠損, 断面長方形	覆土中	

第48号住居跡 (第70図)

位置 中央2区中央部のT46h5区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は長軸4.36m, 短軸3.36mの長方形で, 主軸方向はN-15°-Eである。壁高は32~36cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

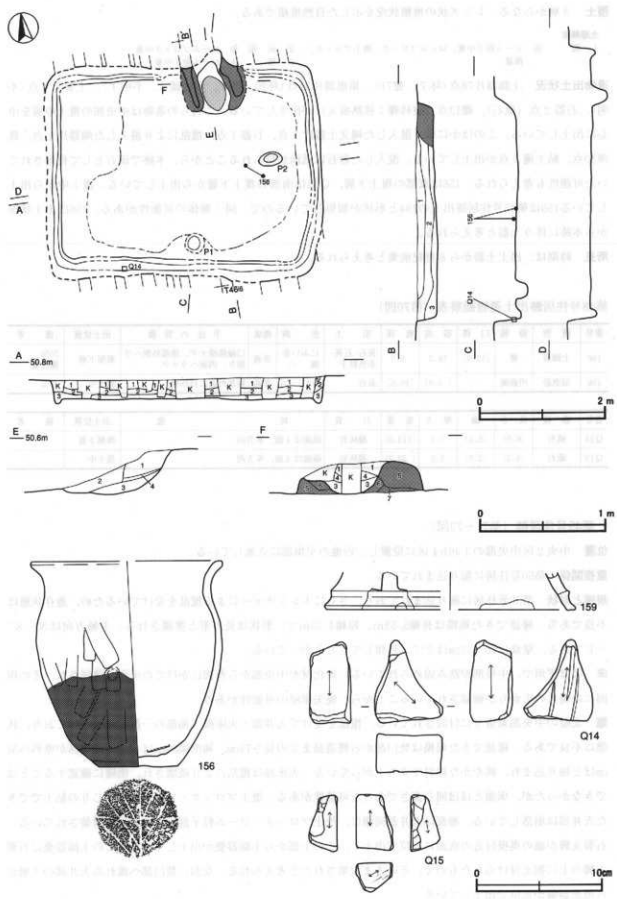
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで, 全周している。竈前面から中央部の床面に焼土混じりの粘土が確認されている。竈材と同様な粘土であることから, 住居が放棄された時に, 竈が破壊されて放置された可能性がある。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて, 天井部と袖部の一部が破壊されているが, 状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ104cm, 袖部幅96cmほどで, 煙道部が壁外へ24cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 被熱で赤変硬化している。灰褐色をした焼土ブロック・ロームブロック混じりの粘土でできた天井部は崩落している。竈土層断面図中, 第3層が相当する。袖部は床面に焼土混じりの粘土で構築されている。竈土層断面図中, 第5~7層が相当する。

竈土層解説

1 灰黄褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック微量	4 オリーブ褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
2 にぶい赤褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック少量	5 灰黄褐色	粘土粒子多量, 焼土ブロック少量
3 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	6 灰褐色	焼土ブロック中量, 粘土粒子少量
		7 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット 2か所。P1は深さ19cmで, 竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ24cmで, 東壁際の中央部に位置しているが, 対応する柱穴が確認されていないことから, 性格は不明である。



第70图 第48号住居跡・出土遺物実測图

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック	2 灰褐色	ロームブロック中量
微長		3 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片78点(坏7, 甕71), 須恵器片31点(坏20, 甕7, 円面硯3, 不明1), 土製品1点(不明), 石器2点(砥石), 礫13点(破碎礫; 被熱痕8)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片5点, 石器1点, 攪乱により混入した陶器片1点, 鉄滓10点, 粘土塊3点が出土している。混入した磨石は砥面が見られることから、本跡で砥石として使用されていた可能性も考えられる。156は東部の覆土下層, Q14は南部の覆土下層から出土している。覆土中から出土している159は第45号住居跡出土の154と形状が類似しているので、同一個体の可能性がある。156は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第48号住居跡出土遺物観察表 (第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
156	土師器	甕	[15.0]	16.3	6.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	東部下層	70% 残付着
159	須恵器	円面硯	-	(3.0)	[19.6]	長石	青ネリブ	普通	脚部外面に自然痕	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q14	砥石	(6.5)	(5.4)	3.1	(113.0)	凝灰岩	砥面は4面, 多方向	南部下層	
Q15	砥石	(4.3)	(3.0)	2.2	(33.2)	凝灰岩	砥面は4面, 多方向	覆土中	

第49号住居跡 (第71~73図)

位置 中央2区中央部のT46h4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第50号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第50号住居に掘り込まれており、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.52m, 短軸4.35mで、形状は長方形と推測される。主軸方向はN-8°-Eである。壁高は10~17cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。炭化材が中央部から西部にかけての床面で確認され、その周囲には焼土の広がりが確認されていることから、焼失家屋の可能性がある。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて天井部・火床部・袖部の一部が破壊されており、状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ71cm, 袖部幅89cmほどで、煙道部が壁外へ34cmほど掘り込まれ、緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部は攪乱により破壊され、明確に確認することはできなかったが、床面とはほぼ同じ高さであった可能性がある。焼土ブロック・ローム粒子混じりの粘土でできた天井部は崩落している。袖部は天井部同様に、焼土ブロック・ローム粒子混じりの粘土で構築されている。石製支脚が竈の奥壁付近の底面に立位で出土し、その上部から土師器甕が出土している。この土師器甕は石製支脚の上に据え付けられたもので、そのまま放棄されたと考えられる。なお、焚口部へ流れる天井部の土層から須恵器甕が正位で出土している。

覆土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化物微量 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
 2 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック微量 4 赤褐色 粘土粒子・焼土ブロック中量

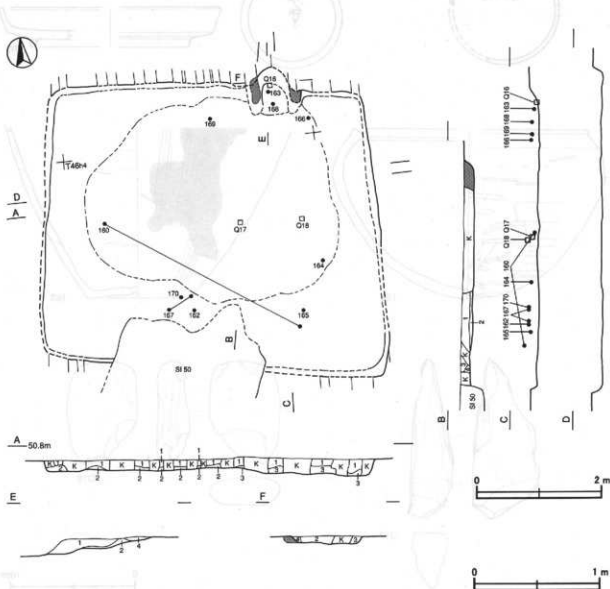
ピット 確認されなかった。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

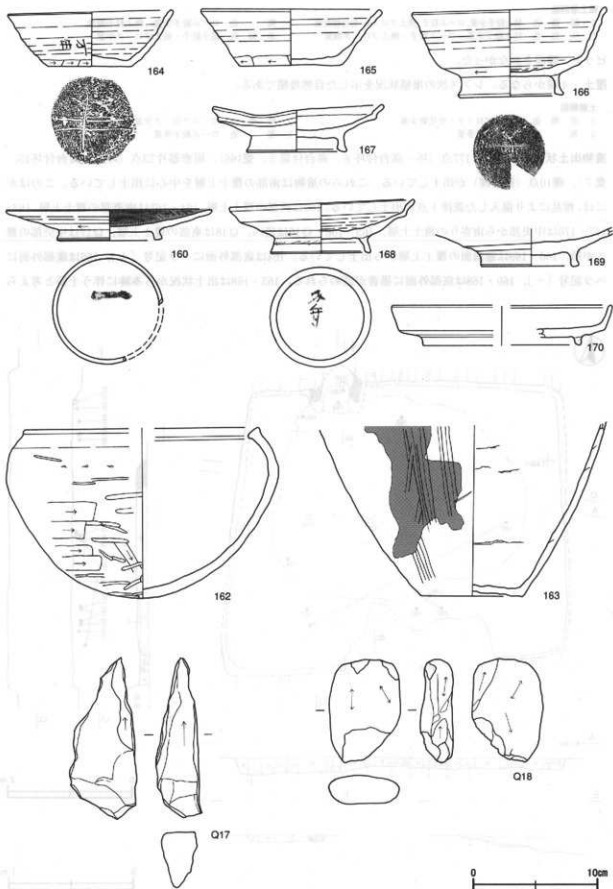
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量 3 暗褐色 ロームブロック少量
 2 褐色 ローム粒子多量 4 褐色 ローム粒子多量

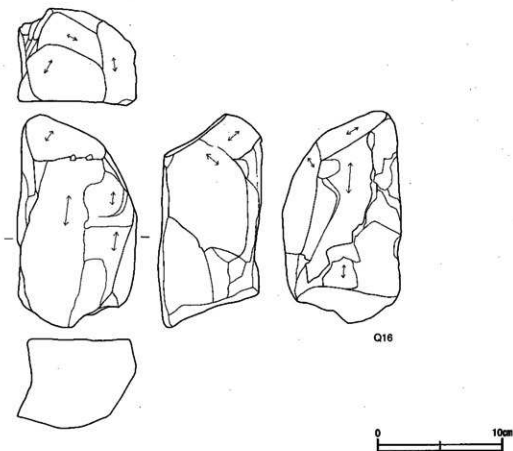
遺物出土状況 土師器片177点(坏・高台付坏8, 高台付皿3, 甕166), 須恵器片73点(坏51, 高台付坏15, 甕7), 礫10点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は南部の覆土上層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した鉄滓1点が出土している。160は西部の覆土上層, 164・165は南東部の覆土上層, 162・167・170は中央部から南寄り土層, 163・168・Q16は竈内, Q18は東部の覆土上層, Q17は中央部の覆土中層, 166・169は竈前面の覆土上層から出土している。164は底部外面にヘラ記号「±」, 166は底部外面にヘラ記号「-」, 160・168は底部外面に墨書が認められる。163・168は出土状況から本跡に伴う土器と考えら



第71図 第49号住居跡実測図



第72图 第49号住居跡出土遺物実測図(1)



第73図 第49号住居跡出土遺物実測図(2)

れる。焼土と共に炭化材が中央部から西部にかけての床面から出土している。

所見 本跡は焼土の広がりや炭化材の出土状況から焼失家屋の可能性はある。時期は、出土土器から9世紀前業と考えられる。

第49号住居跡出土遺物観察表 (第72・73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
160	土師器	高台付皿	16.3	2.4	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き	西部上層	20% 内面彩色見 録第-1 PL.65-70
162	土師器	鉢	[8.5]	13.5	-	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラナデ	南部上層	60%
163	土師器	壺	-	(14.1)	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	体部外面ヘラ磨き	壺内	30% 体部外面 彩色付着
164	須恵器	坏	13.1	4.5	6.6	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部回転ヘラ切り後ナデ	南東部上層	95% 体部彩色 [写真] 底部ヘラ 録第 PL.65-70-81
165	須恵器	坏	14.0	4.6	8.0	長石・白色粒子・微塵	灰黄	普通	ロクロ整形。底部外面回転ヘラ切り後一方向ヘラ削り	南東部上層	60% PL.66
166	須恵器	高台付坏	15.3	7.0	8.1	長石・石英	灰黄	普通	底部外面回転ヘラ切り後高台貼り付け後ナデ	東部上層	70% 底部ヘラ 録第 PL.66-81
167	須恵器	盤	13.4	3.7	7.8	長石・白色粒子・微塵	灰黄	普通	底部外面回転ヘラ切り後高台貼り付け後ナデ	南部上層	80% 器形の 歪み PL.65
168	須恵器	盤	14.6	4.2	7.9	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	底部外面回転ヘラ切り後高台貼り付け後ナデ	壺内	75% 底部彩色 [□□] PL.66

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	須恵器	甃	-	2.6	8.8	長石・石英・黒色粒子	灰オーリーブ	普通	底部外面回転ヘラ切り後高台貼り付け後ナデ	竈前上層	70%
170	須恵器	甃	[17.4]	3.2	[12.5]	長石	暗灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	南部上層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q16	磁石	22.5	12.4	10.8	4100.0	安山岩	磁面は4面、1磁面でも多方向に使用	竈内	被熱痕あり
Q17	磁石	(12.8)	(3.6)	5.3	(190.1)	安山岩	磁面は2面、一方方向に使用	中央部中層	
Q18	磁石	(8.3)	5.7	8.3	(150.2)	安山岩	磁面は3面、1磁面でも多方向に使用	東部上層	

第50号住居跡 (第74図)

位置 中央2区中央部のT46h4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第49号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる掘削を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸2.42m、短軸2.18mで、形状は方形と推測される。主軸方向はN-25°-Eである。壁高は22~24cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。炭化材が床面全域で確認されている。特に表面が焼失してしまい正確な形は不明であるが、丸材と推測される棒状の炭化材が周辺部から中央部に向かって倒れた状態で床面から出土している。

竈 北東壁の中央部の南東寄りに付設されている。掘削を受けて天井部・袖部が破壊されており、状態は不良である。確認できた規模は焚口から煙道部までの長さ100cm、袖部幅120cmほどで、煙道部は壁外へ48cmほど掘り込まれ、緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱で変硬化している。焼土ブロック混じりの赤褐色をした粘土でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第8層が相当する。袖部は地山を掘り残し、その上に天井部同様、焼土混じりの粘土で構築されている。竈土層断面図中、第6・11・12層が相当する。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	8 赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量
3 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	9 灰赤色	焼土ブロック・粘土粒子中量
4 灰褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	10 暗赤褐色	炭化物中量、焼土ブロック少量、粘土粒子微量
5 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11 濃い黄褐色	ローム粒子・炭化物少量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	12 褐色	ロームブロック中量

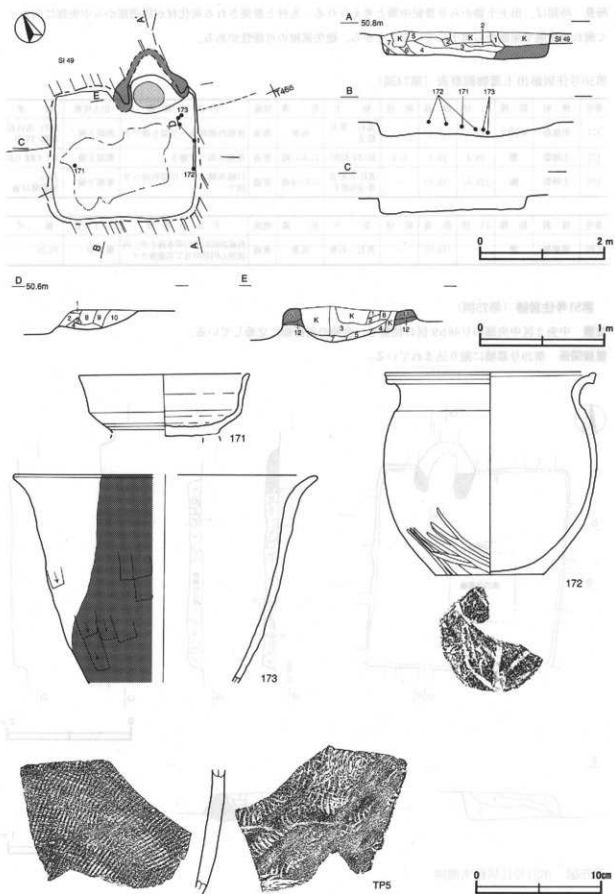
ピット 確認されなかった。

覆土 8層からなる。ブロック状の不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量	7 黒褐色	炭化物多量、ローム粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片248点(坏・高台付坏3, 甕・瓶245), 須恵器片44点(坏14, 蓋1, 甕1, 甕・瓶27, 短頸壺1), 糠17点(破砕糠; 被熱痕あり)が出土している。これらの遺物は中央部及び南部の覆土中層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片4点, 弥生土器片5点, 土師器片1点, 掘削により混入した土師質土器片1点, 鉄洋7点, 粘土塊2点が出土している。171は中央部から西寄りの覆土上層, 172は東壁際の覆土上層, 173は東コーナー部の覆土下層から, それぞれ出土している。173は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。



第74图 第50号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。丸材と推測される炭化材が周辺部から中央部に向かって倒れた状態で床面から出土していることから、焼失家屋の可能性はある。

第50号住居跡出土遺物観察表 (第74図)

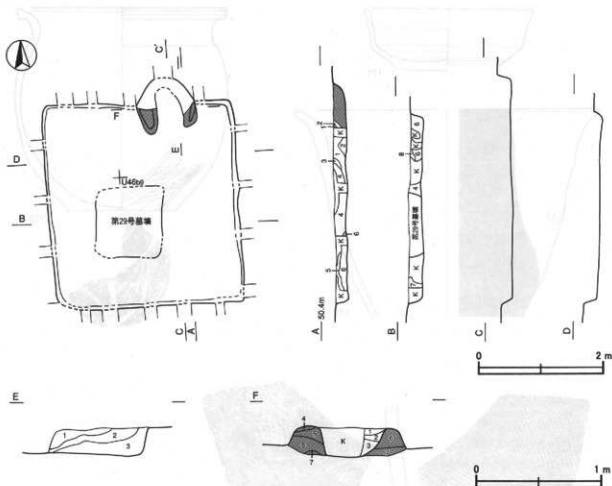
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
171	須恵器	高台付杯	13.5	(5.1)	-	長石・黒色 粒子	灰黄	普通	底部外面回転ヘラ切り後ナデ	西部上層	85% 高台部 剥離 PL66
172	土師器	甕	16.4	16.1	8.4	灰赤・赤褐色	にぶい黒	普通	体部外面ヘラ磨き	東部上層	50% 木炭 PL66
173	土師器	瓶	[24.0]	(16.6)	-	長石・石英・雲 母・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	口縁部横ナデ、体部外面ヘラ 削り	東部下層	20% 外面煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP5	須恵器	甕	-	(10.0)	-	長石・石英	灰黄	普通	外面斜位の平行印き後ナデ、内 面同心円状の当て具痕後ナデ	覆土中	PL78

第51号住居跡 (第75図)

位置 中央2区中央部のU46b9区に位置し、台地の斜面部に立地している。

重複関係 第29号墓塚に掘り込まれている。



第75図 第51号住居跡実測図

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。規模は長軸3.30m、短軸3.05mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は10~21cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、あまり踏み固められていない。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて天井部・火床部・袖部の一部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は袖部幅100cm、壁外への掘り込みは45cmである。煙道部は床面から外傾して立ち上がっている。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ、火床面の状況は攪乱を受けているため、確認できなかった。袖部はロームブロック混じり黒褐色をした粘土で構築されている。竈土層断面図中、第4~6層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|------------------|
| 1 灰 黄 色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 灰 黄 色 | 粘土粒子多量、ロームブロック微量 |
| 3 灰 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | | |

ピット 確認されなかった。

覆土 8層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 黒 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 に近い黄褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 6 黒 褐 色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子中量、炭化物微量 | 7 黒 褐 色 | 炭沼バミス中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック・炭沼バミス少量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック・炭沼バミス中量 |

遺物出土状況 土師器片17点(坏1, 甕16)、須恵器片4点(坏)、破砕礫17点(うち被熱痕5)が覆土中から出土している。このほかには、攪乱により混入した瓦質土器片1点、鉄滓5点、炉壁片2点、粘土塊1点が出土している。出土土器はすべてが細片で、図示できるものはない。

所見 周囲にある同規模及び同形状の住居跡の時期と出土土器から、時期は平安時代初頭と考えられる。

第52号住居跡(第76図)

位置 中央2区中央部のT46j5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

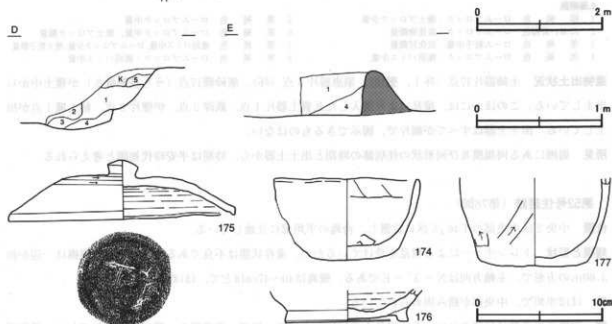
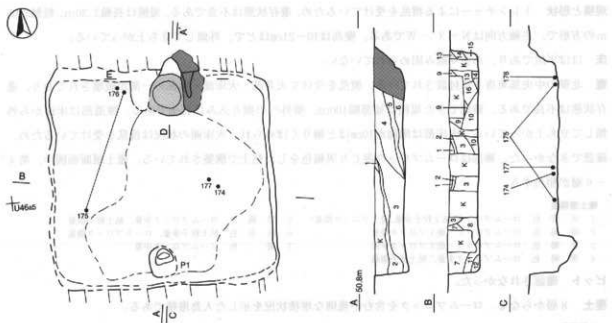
規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は一辺が約3.60mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は40~47cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて、天井部・袖部・煙道部の一部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm、壁の掘り込み幅114cmほどで、煙道部が壁外へ28cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。煙道部の奥壁にも粘土は貼り付けられており、赤変している。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。焼土ブロック・炭化粒子混じりの粘土でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第1層が相当する。左袖部が攪乱を受けて破壊されているが、右袖部は焼土混じりの粘土で構築されている。天井部・袖部の構築材が焼土混じりであることから、作り替えられた可能性がある。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|-----------|---------------------|
| 1 赤 黒 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 3 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量 |
| 2 灰 黄 色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子微量 | 4 灰 赤 色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| | | 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |



第76図 第52号住居跡・出土遺物実測図

ピット P1は深さ52cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 16層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-----------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化物少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 | 14 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量 | 15 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 褐色 | ロームブロック少量 | 16 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片106点(坏・高台付坏4, 甕・甔102), 須恵器片11点(坏1, 蓋3, 甕6, 短頸壺1), 礫50点(破砕礫; うち被熱痕15)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した縄文土器片2点, 攪乱により混入した陶器片1点, 鉄滓7点が出土している。174・177は中央部から東寄りの覆土下層, 175は西部・竈脇の覆土下層, 176は竈脇の覆土下層から出土している。176は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第52号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

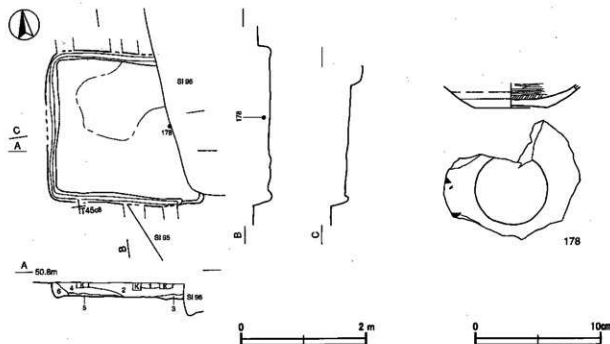
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
174	土師器	坏	11.6	6.5	5.7	長石・石英・ 燧石	褐灰	普通	体部内面ヘラナデ	東部下層	70% 二次焼成のため器面磨減 PL66
175	須恵器	蓋	17.8	4.7	-	長石・石英	灰赤	普通	天井部回転ヘラ削り	西部・竈脇下層	80% 天井部回転ヘラ削り, 二次焼成 PL66
176	灰釉陶器	長頸壺	-	(2.5)	9.6	緻密	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り, 高台削り, 掛けナデ	竈脇下層	5%
177	土師器	小形甕	-	(7.1)	8.3	長石・石英・ 燧石	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	東部下層	50% 二次焼成

第56号住居跡 (第77図)

位置 中央部西寄りのT45b8区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第95号住居跡を掘り込み, 第96号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第96号住居に掘り込まれ, さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸2.92m, 短軸2.45mである。平面形は長方形で, 主軸方向はN-11°-Eである。壁高は16~24cmで, ほぼ直立している。



第77図 第56号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、北東部が踏み固められている。壁溝は深さ4～8cmで、確認された壁際を巡っている。

竈 確認されなかった。第96号住居に掘り込まれている北壁際から焼土や粘土が確認されているので、北壁に付設されていた可能性がある。

ピット 確認されなかった。

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	4 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
2 黒 褐色	ローム粒子微量	5 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
3 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 暗 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片46点(坏3, 甕43), 須恵器片10点(坏1, 甕9)が出土している。これらの遺物は大部分が覆土中で、わずかに中央部の床面から出土している。このほかには、混入した縄文土器片1点, 石器1点が出土している。178は中央部の覆土下層から出土し、体部外面に墨書があるが、文字の残りがわずかであるため判読できなかった。178は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第56号住居跡出土遺物観察表(第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	質	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
178	土師器	甕	-	(1.7)	5.6	長石・赤色 粒子	にぶい赤 褐	普通	普通	体部内面多方向のヘラ磨き、 底部外面圓転ヘラ磨り	中央部下層	40% 墨書「□」

第58号住居跡(第78図)

位置 中央2区中央部西寄りのU46a3区に位置し、緩やかな傾斜の台地平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.40m, 短軸3.24mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は32～42cmほどで、外傾して立ち上がっている。

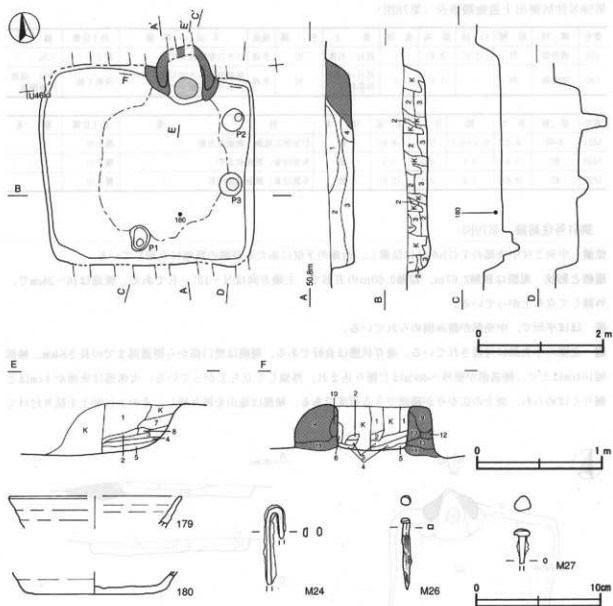
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。擾乱を受けて袖部や煙道部の一部が破壊され、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ92cm, 袖部幅112cmである。煙道部は壁外へ48cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。天井部は崩落し、竈土層断面図中、第1・3層が相当する。袖部は地山を掘り残し、その上にローム混じりのにぶい黄褐色及び灰黄色をした粘土で構築されている。内壁も被熱で赤変している。竈土層断面図中、第9～13層が相当する。

竈土層解説

1 黄 褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック少量	8 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 灰 黄色	粘土粒子多量
3 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量	10 赤 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量
4 赤 褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子少量	11 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
5 褐 赤 灰色	灰中量、焼土粒子少量、粘土粒子微量	12 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
6 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	13 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
7 褐 色	ロームブロック・焼土粒子微量		

ピット 3か所。P1は深さ26cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ45cm・16cmで、柱穴とも考えられるが、対応する柱穴が確認できないことから、その性格は不明である。



第78図 第58号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片69点(坏3, 甕66), 須恵器片20点(坏17, 甕3), 鉄製品6点(不明), 円礫16点(内被熱炭3)が出土している。これらの遺物の多くは覆土中からの出土で, 南部の覆土中層を中心に出土している。このほかには, 攪乱により混入した鉄滓4点が出土している。180は南部の覆土下層から, M24・M26・M27は覆土中から出土している。180は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第58号住居跡出土遺物観察表 (第78図)

番号	種別	器種	口径	径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
179	須壺器	坏	[13.6]	(2.6)	-	-	長石・石英	灰	普通	ロタロ整形後ナデ	覆土中	5%
180	須壺器	坏	-	(1.8)	9.0	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	普通	底部外面ヘラ切り後一方向ヘラ削り、内面ナデ	南部下層	10% 底部 内面擦痕

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	不明	(6.2)	0.3~0.4	0.7	(8.8)	鉄	U字状に屈曲、断面長方形	覆土中	
M26	釘	5.8	0.7	0.3	2.9	鉄	木質付着、断面長方形	覆土中	
M27	釘	(2.6)	1.3	0.4	(2.9)	鉄	木質付着、断面形楕円形	覆土中	

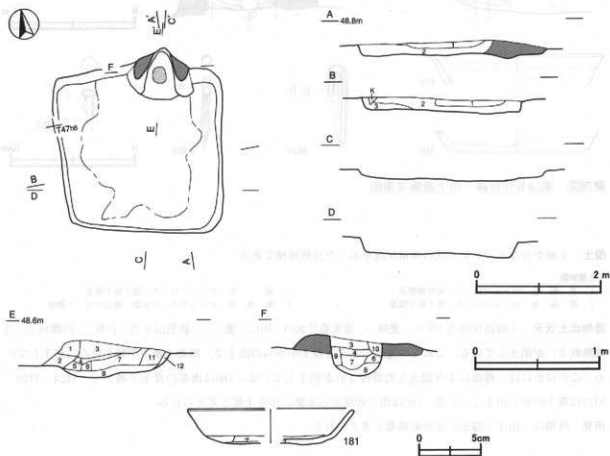
第61号住居跡 (第79図)

位置 中央2区中央部のT47h6区に位置し、台地の下位にあたる谷部の低地に立地している。

規模と形状 規模は長軸2.67m、短軸2.60mの方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は16~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。遺存状態は良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ84cm、袖部幅104cmほどで、煙道部が壁外へ40cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が4cmほど掘りくぼめられ、焼土の広がりの確認できる程度である。袖部は地山を掘り残し、その上に粘土を貼り付けて



第79図 第61号住居跡・出土遺物実測図

構築されている。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック少量、粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量 |
| 4 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・粘土ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、粘土粒子少量 |
| 6 黒褐色 | 粘土粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子微量 |

ピット 確認されなかった。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片12点(坏6, 甕6)が出土している。これらの遺物は竈内の覆土下層を中心に出土している。181は竈内の覆土中から出土しており、本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第61号住居跡出土遺物観察表(第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
181	土師器	坏	[13.0]	2.9	[8.2]	石英・赤色 粒子	において	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部外面多方向のヘラ削り	竈覆土中	5% 二次焼成

第63号住居跡(第80図)

位置 中央2区中央部のT4612区に位置し、台地の斜面部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は長軸5.55m、短軸4.29mの長方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は13~33cmで、外傾して立ち上がっている。

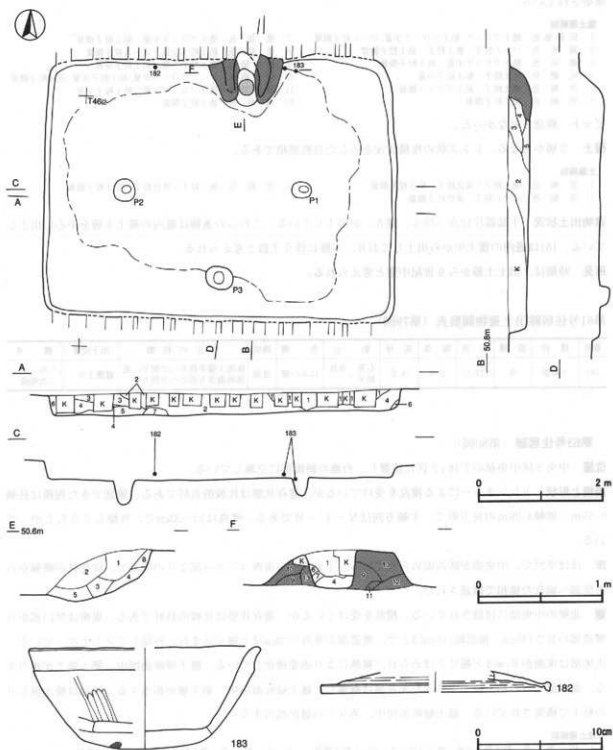
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。中央部から南西コーナー部よりの床面で、炭化材が壁側から中央部へ倒れた様相で確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口から煙道部の長さ115cm、袖部幅118cmほどで、煙道部が壁外へ38cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱により赤変硬化している。竈土層断面図中、第4層下が相当する。焼土混じりの粘土粒子でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第1層が相当する。袖部は焼土混じりの粘土で構築されている。竈土層断面図中、第9~13層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|-----------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 灰褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 灰黄色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 10 灰黄色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 において | 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 において | 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 6 において | 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 7 赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子微量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は深さ35cm・47cmで、東・西壁寄りの中央部に位置し、柱穴と考えられる。P3は深さ21cmで、竈に向かい合う南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第80図 第63号住居跡・出土遺物実測図

覆土 7層からなる。下層の第5・7層は不規則な堆積状況を示す人為堆積で、他はレンズ状の堆積状況をした自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片51点(坏4, 高台付坏1, 甕46), 須恵器片21点(坏6, 蓋1, 鉢8, 甕6), 灰釉陶器片1点(不明), 鉄製品1点(不明), 礫19点(破砕礫; 被熱痕6)が出土している。これらの遺物は竈周辺と東部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した弥生土器片4点, 土師器片2点が出土している。182は北部の覆土下層, 183は竈脇の下層から出土している。182・183は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第63号住居跡出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
182	須恵器	甕	[18.0]	(1.6)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	北部下層	5%
183	土師器	鉢	[18.1]	8.2	-	長石・石英・ 礫	にぶい橙	普通	底部外面下縁へラ削り, 中位へラ磨き	竈脇下層	60% 底部外面係付者

第65号住居跡(第81図)

位置 中央2区中央部のU46c2区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けて, 大部分の壁が破壊されているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.50m, 短軸2.73mの長方形で, 主軸方向はN-3°-Eである。壁高は36cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で, 各コーナー付近を除いて, 踏み固められている。壁溝は深さ8~10cmで, 全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ120cm, 袖幅128cmほどで, 煙道部が壁外へ64cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面が4cmほど掘りくぼめられ, 被熱で赤変硬化している。竈土層断面図中, 第4層下が相当する。焼土混じりの粘土でできた天井部は崩落し, 竈土層断面図中, 第1層が相当する。袖部は地山を掘り残して, その上に焼土混じりの粘土を貼り付けて構築されている。竈土層断面図中, 第9・10層が相当する。土師器甕の破片が煙道部の奥壁に倒れたような状態で出土している。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量	7	灰 褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック微量
2	黒 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量	8	灰 黄褐色	粘土粒子少量, 焼土粒子少量
3	暗 赤 褐色	焼土粒子中量, ロームブロック少量	9	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子・粘土粒子少量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量	10	暗 褐色	ロームブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子微量
5	灰 褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量	11	暗 褐色	ロームブロック中量
6	赤 褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子少量	12	明 褐色	ロームブロック多量

ピット 確認されなかった。

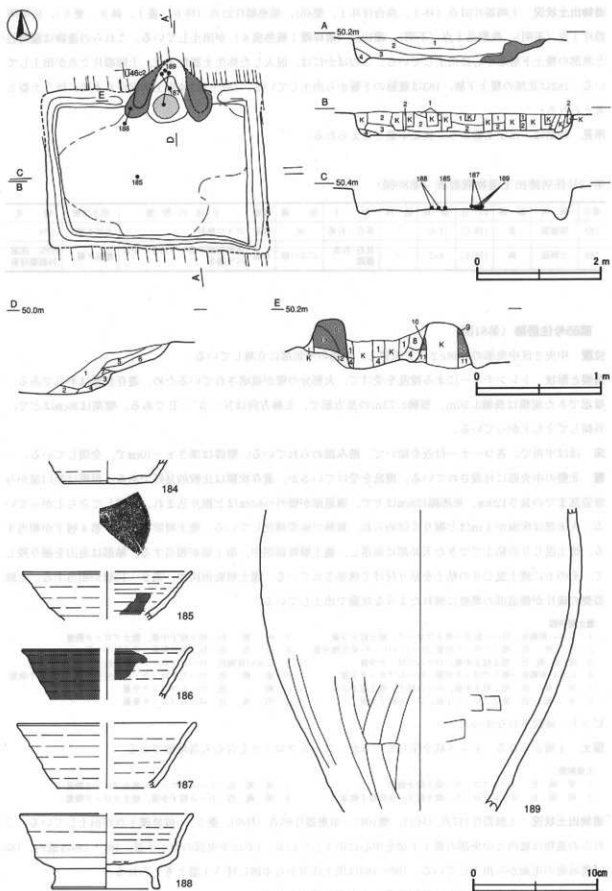
覆土 4層からなる。レンズ状を呈しているが, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1	黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	3	暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片117点(坏11, 甕106), 須恵器片65点(坏60, 甕5), 破砕礫1点が出土している。これらの遺物は竈内と中央部の覆土下層を中心に出土している。185は中央部の覆土下層, 187・189は竈内, 188は竈前面の床面から出土している。186~189は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



第81图 第65号住居跡・出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
184	須恵器	坏	-	(1.8)	[6.8]	長石・石英	灰ナリーブ	普通	ロクロ整形	覆土中	10% 底部外面へう配号
185	須恵器	坏	[13.4]	(3.9)	-	長石・燧石	灰黄	普通	体部ロクロ整形	中央部下層	5% 体部内面係付着
186	須恵器	坏	[13.4]	(3.9)	-	長石・燧石	黄灰	普通	体部ロクロ整形	覆土中	15% 火等, 体部係付着
187	須恵器	坏	[14.0]	5.2	[7.8]	石灰・燧石	灰黄	普通	体部ロクロ整形	窟内	10%
188	須恵器	高台付坏	[13.6]	6.0	8.4	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台張り付け後ナデ	窟前床面	60% 底部外面朱墨
189	土師器	甕	-	(24.1)	-	長石・燧石	いよ赤黒	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	窟内	

第66号住居跡 (第82図)

位置 中央2区中央部のT45g9区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第67号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる掘乱を受けており, 大部分の壁が破壊されているので, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.68m, 短軸3.21mである。平面形は長方形で, 主軸方向はN-10°-Eである。壁高は44~50cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が窪み固められている。壁溝は深さ8~10cmで全周している。西壁側から中央部にかけて, 深さ4cmほどの間仕切り溝が確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。掘乱を受けて, 袖部・火床部の一部が破壊されており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ88cm, 袖部幅114cmほどで, 煙道部が壁外へ40cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面が6cmほど掘りくぼめられ, 被熱で赤変硬化している。竈土層断面図中, 第6層下が相当する。焼土混じりの粘土でできた天井部は崩落し, 竈土層断面図中, 第3・5層が相当する。左袖部は床面に痕跡を残す程度で, 右袖部が半分ほど掘乱を受けている。袖部の全容は不明であるが, 焼土混じりの粘土で構築されていた。窟内から須恵器坏と土師器甕の破片が多数出土している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量 |

ピット 3か所。P1~P3は深さ17~24cmで, その性格は不明である。

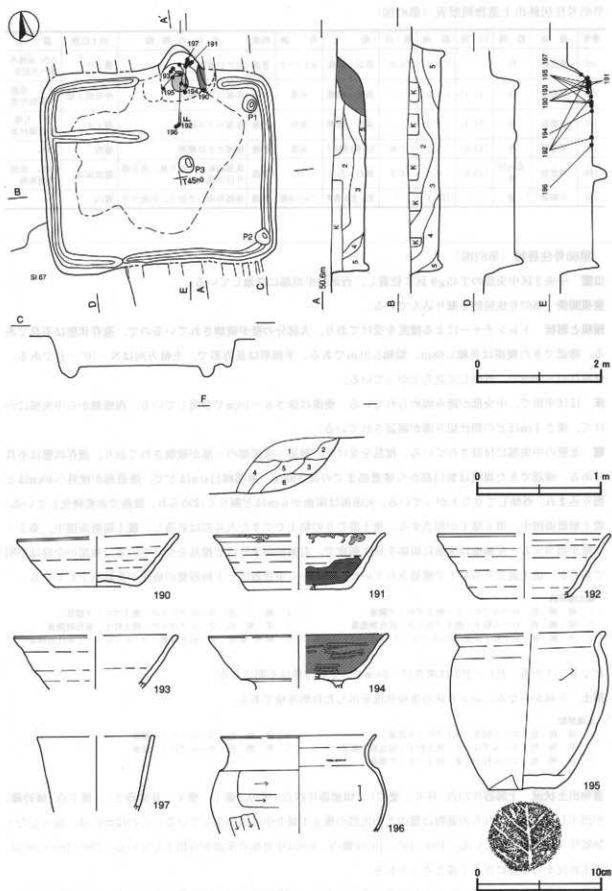
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片73点(坏6, 甕67), 須恵器片27点(坏20, 壺1, 甕4, 長頸壺2), 碟7点(破砕碟)が出土している。これらの遺物は窟内と中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した土師器片3点が出土している。190~195・197は窟内, 196は中央部の床面から出土している。190~195・197は, 出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。当遺跡では間仕切り溝を有する唯一の住居跡である。



第82図 第66号住居跡・出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
190	須恵器	坏	[12.7]	4.2	6.7	長石・白色粒子	灰	普通	底部外面回転ヘラ切り後ナデ	竈内下層	70%
191	須恵器	坏	[13.6]	4.4	[7.8]	長石・石英・雲母	灰白	普通	口クロ整形, 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈内下層	45% 口縁部 剥離・移行者
192	須恵器	坏	[13.7]	5.1	[7.6]	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	口クロ整形	竈・中央部下層	30% 体部外面 焼土付着
193	須恵器	坏	[13.0]	(4.2)	-	長石・雲母・黒色粒子	灰青褐色	普通	体部口クロ整形	竈内下層	10% 体部外面 焼土付着
194	土師器	高台付坏	[14.2]	(4.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈内下層	25% 体部土付着 内面黄色化 凡用
195	土師器	小形壺	[12.0]	12.4	5.4	長石・石英・微塵	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラナデ	竈内下層	60% 二次焼成
196	土師器	小形壺	12.2	(7.6)	-	長石・黒色粒子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	中央部床面	15% 二次焼成
197	須恵器	長頸壺	[9.4]	(6.0)	-	鉄質鉄酸鉄	オリーブ黒	普通	口縁部内外面横ナデ	竈内下層	10%

第67号住居跡 (第83図)

位置 中央2区中央部のT45h9区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第66号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第66号住居に掘り込まれ, さらにトレンチャーによる攪乱を受けており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.64m, 短軸3.11mである。平面形は長方形で, 主軸方向はN-0°である。壁高は38~50cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。北西・南東コーナー付近は地山を掘りくぼめ, その部分に暗褐色土を埋土しているが, あまり踏み固められていない。壁溝は深さ6cmほどで, 北西コーナー部の壁際と南壁際中央部を除いて通っている。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて, 左袖部・火床部の一部が破壊されており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ80cm, 壁の掘り込み幅40cmほどが推測される。煙道部は壁外へ32cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ, 被熱で赤変硬化している一部が確認されている。焼土混じりの粘土でできた天井部は崩落し, 竈土層断面因中, 第3層が相当する。袖部は左袖部が攪乱を受け, 右袖部は第66号住居に掘り込まれ, 確認できなかった。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 4 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック少量 | 5 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 | 褐色 | 粘土粒子少量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | | | |

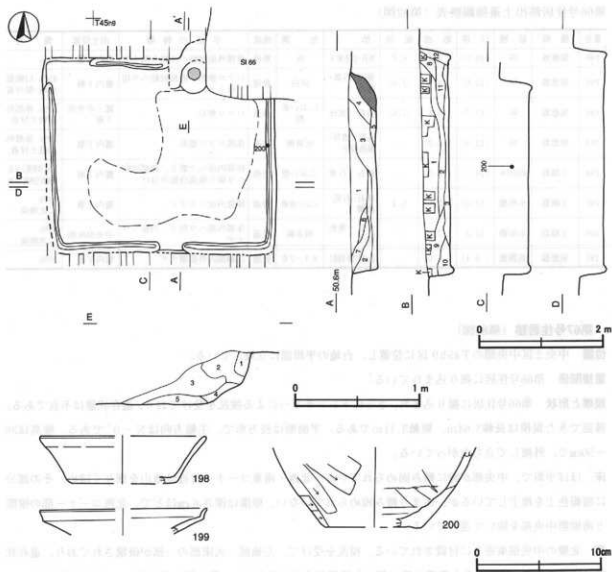
ピット 確認されなかった。

覆土 12層からなる。レンズ状を呈しているが, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------|----|-----|-----------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量 | 8 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 10 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック少量 | 11 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 12 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片62点(坏10, 壺52), 須恵器片26点(坏・高台付坏23, 壺2, 甕1), 鉄製品1点(不明), 礫1点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は東壁際中央部と南西コーナー部付近の覆土下層を中



第83図 第67号住居跡・出土遺物実測図

心に出土している。このほかには、混入した土師器片8点が出土している。200は中央部東寄りの覆土上層から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 9世紀中葉の第66号住居に掘り込まれていることから、時期は9世紀中葉以前と考えられる。

第67号住居跡出土遺物観察表 (第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
198	須恵器	坏	[13.1]	3.9	[8.4]	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	ロクロ整形、体部外面下層へラ削り	覆土中	20% 二次焼成
199	須恵器	盤	[13.0]	(2.1)	-	長石・石英	灰	普通	体部ロクロ整形、外面ナデ	覆土中	10%
200	土師器	甕	-	(6.4)	[7.6]	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り、内面へラナデ	中央東上層	10% 底部木葉痕

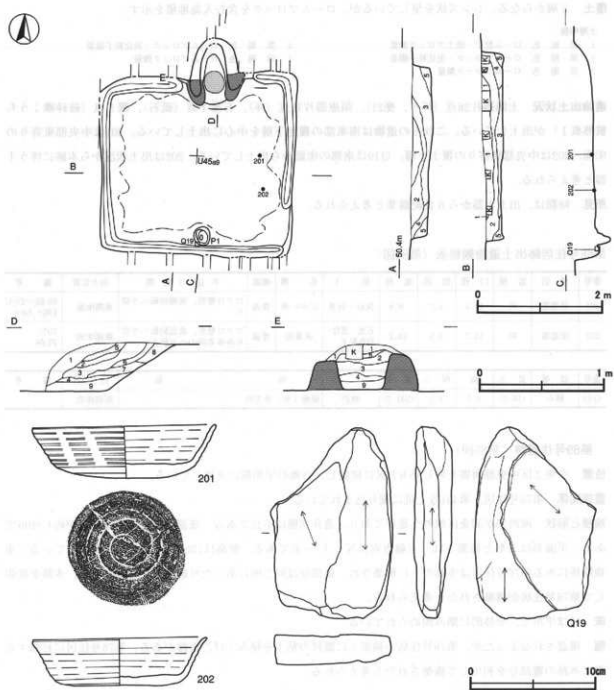
第68号住居跡 (第84図)

位置 中央2区中央部のT45j9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.13m、短軸2.97mの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は35cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6cmほどで、南東コーナー部の壁際を除いて、巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて、煙道部・袖部の一部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ108cm、袖部幅92cmほどで、煙道部が壁外へ60cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部はほぼ床面と同じ高さで、被熱で赤変硬化している。焼土混



第84図 第68号住居跡・出土遺物実測図

じりの粘土でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第3層が相当する。袖部は焼土粒子混じりの灰褐色あるいは灰黄褐色をした粘土で構築されている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|---------------------|
| 1 暗灰黄色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 6 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗灰黄色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 7 灰褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 | 8 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、粘土粒子微量 |

ピット P1 は深さ21cmで、竈に向き合う南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを含む人為堆積を示す。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片26点(坏5, 甕21), 須恵器片11点(坏), 石器1点(砥石), 礫5点(破砕礫;うち被熱痕1)が出土している。これらの遺物は南東部の覆土下層を中心に出土している。201は中央部東寄りの床面, 202は中央部東寄りの覆土下層, Q19は南部の床面から出土している。202は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第68号住居跡出土遺物観察表 (第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
201	須恵器	坏	14.4	4.2	8.8	長石・石英	にぶい黄	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘラ切り	東部床面	55.4cm(計) 4.0cm(口)
202	須恵器	坏	13.7	3.9	10.2	石英・雲母・白色粒子	灰黄褐	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	東部床面	70% PL66

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q19	砥石	(16.2)	9.7	2.5	(541.2)	砂岩	砥面3面, 多方向	南部床面	

第69号住居跡 (第85図)

位置 中央2区中央部南寄りのU45 b7区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第76号住居, 第431号土坑に掘り込まれている。

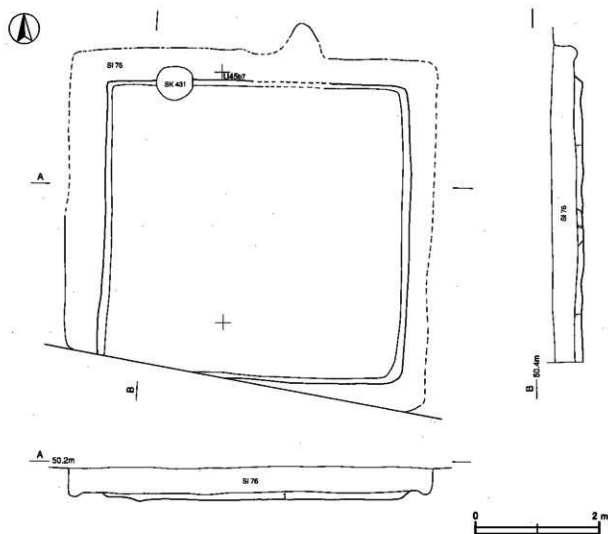
規模と形状 西南部が調査区域外へ延びており, 遺存状態は不良である。確認できた規模は一辺が約4.80mである。平面形は方形と推測され, 主軸方向はN-1°-Eである。壁高は12cmほどで, ほぼ直立している。重複関係にある第76号住居は本跡の上に構築され, 竈部分は同じ所にあった可能性があることから, 本跡を拡張して第76号住居が構築されたと考えられる。

床 ほぼ平坦で, 全体的に踏み固められている。

竈 確認されなかったが, 第76号住居の袖部下に竈材の粘土を積み上げた痕跡がある。第76号住居に拡張する際に本跡の竈部分を利用して構築されたと考えられる。

ピット 確認されなかった。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積である。



第85図 第69号住居跡実測図

土層解説

1 に近い黄褐色 ローム中量、粘土ブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 出土しなかった。

所見 8世紀前葉と推定される第76号住居は本跡を拡張したものと考えられることから、時期は8世紀前葉以前と考えられる。

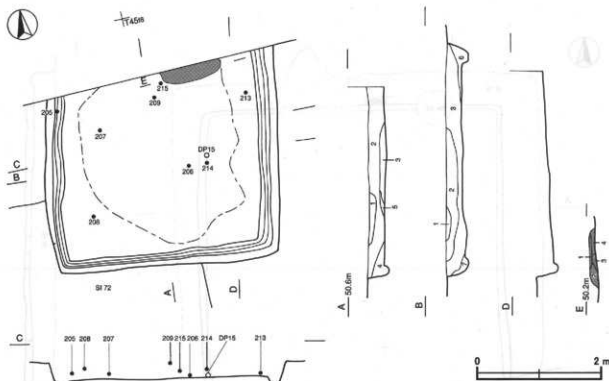
第71号住居跡 (第86・87図)

位置 中央2区中央部のT45f8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第72号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びるため、確認できた規模は長軸が3.70m、短軸3.32mである。平面形は長方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は24cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで、確認された壁際を巡っている。南西・南東両コーナー部の床面は他と異なり暗褐色で、床質も柔らかく、掘り方に埋土をし、床面を構築している。北部の調査区域際の床面直上から、灰褐色をした焼土混じりの粘土塊が確認され、その粘土が竈材であったと考えられる。



第86図 第71号住居跡実測図

粘土層層解説

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 3 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

竈 確認されなかったが, 北部の調査区域際中央部の床面から粘土塊が確認され, 竈材と考えられる。本跡の形状や出土遺物から竈が付設されていたと考えられ, 調査区域外に付設されていると考えられる。

ピット 確認されなかった。

覆土 7層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

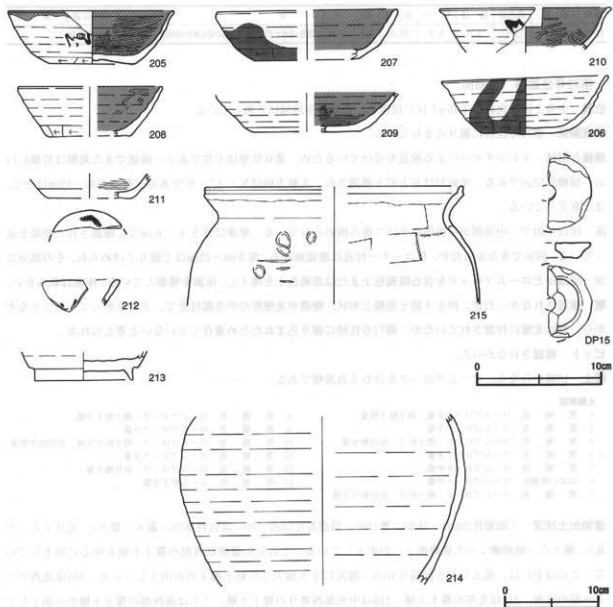
- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片316点(坏56, 甕260), 須恵器片63点(坏40, 蓋6, 甕13, 長頸壺1, 短頸壺3), 土製品1点(紡錘車), 礫7点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は中央部と南西コーナー付近の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 混入した土師器片4点が出土している。205・207は北西コーナー部の覆土中層, 206・DP15は中央部の覆土下層, 208は南西コーナー部の覆土中層, 209は北部の覆土上層, 213は北東部の覆土下層, 214は中央部の覆土中層, 215は北部の覆土中層から出土している。206・213は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 本跡は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第71号住居跡出土遺物観察表(第87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
205	土師器	坏	13.1	4.3	6.8	雲母・白色 粒子	にぶい黄 褐色	普通	体部内面へつ磨き, 外面下階 手持ちへつ磨り	北西部中層	85% 雲母・白 褐色色見出し
206	須恵器	坏	13.2	5.1	6.9	長石・雲母・赤 色粒子・炭粒	にぶい黄 褐色	普通	底部回転へつ切り後多方向 のへつ磨り	中央部下層	85% 雲付 薄 PL.67



第87図 第71号住居跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
207	土師器	環	[14.2]	4.0	[8.4]	長石・雲母	にぶい黄緑	普通	体部下端手持ちヘラ削り	北西部中層	15% 内面黒色処理, 扉付き
208	土師器	環	[11.4]	4.0	[6.4]	白色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き後ナデ	南西部中層	10% 内面黒色処理
209	土師器	環	-	(3.1)	[8.2]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り後ナデ	北部上層	20% 内面黒色処理
210	土師器	環	[13.4]	(3.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	10% 扉書「□」 黄色処理
211	土師器	環	-	(1.6)	[6.7]	長石・白土粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	10% 扉書「□」
212	須恵器	高台付杯	-	(2.3)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10% 扉書「□」
213	須恵器	高台付杯	-	(2.3)	7.7	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け, ナデ	北東部下層	10%
214	須恵器	短頸壺	-	(18.2)	-	長石・赤土粒子	灰	普通	ロクロ整形	中央部中層	10%
215	土師器	壺	[20.4]	(9.4)	-	長石・赤土粒子	にぶい褐	普通	体部外面指漉し, 内面ヘラナデ	北部中層	10%

番号	器種	最大径	口径	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP15	紡車車	[3.5]	1.0	1.3	(25.0)	長石・石英	須恵質,表面ナテ後縁直付,下縁の穿孔部分は回転による磨滅	中央部下層	

第72号住居跡 (第88図)

位置 中央2区中央部のT45g7区に位置し,台地の平坦部に立地している。

重複関係 第71号住居に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる掘削を受けているため,遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.14m,短軸3.52mである。平面形は長方形と推測され,主軸方向はN-1°-Wである。壁高は30~42cmほどで,ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で,中央部から南壁にかけて踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで,確認された壁際を巡っている。図示できなかったが,各コーナー付近は確認面から,深さ68~72cmほど掘りくぼめられ,その部分に28~32cmほどロームブロックを含む暗褐色土または黒褐色土を埋し,床面を構築している。床面は軟らかい。

竈 確認されなかったが,出土土器と規模と形状,壁溝が北壁際の中央部付近で,立ち上がっていることなどから,竈は北壁に付設されていたが,第71号住居に掘り込まれたため遺存していないと考えられる。

ピット 確認されなかった。

覆土 13層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量,焼土粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック少量	9	黒褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量,炭化物微量
4	黒褐色	ロームブロック少量	11	黒褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック中量	12	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
6	ぶい黄褐色	ロームブロック中量	13	黒褐色	ローム粒子少量
7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量			

遺物出土状況 土師器片200点(坏30,甕170),須恵器片50点(坏・高台付坏39,蓋8,甕3),瓦片1点(平瓦),漆5点(破砕漆;うち被熱痕2)が出土している。これらの遺物は西部の覆土下層を中心に出土している。このほかには,混入した土師器片10点,掘削により混入した粘土塊4点が出土している。216は北西コーナー部の床面,217は北部の覆土上層,218は中央部西寄りの覆土下層,T7は南西部の覆土下層から出土している。216は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

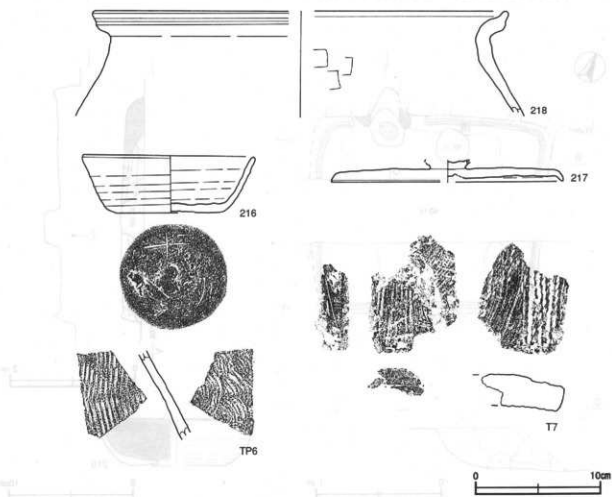
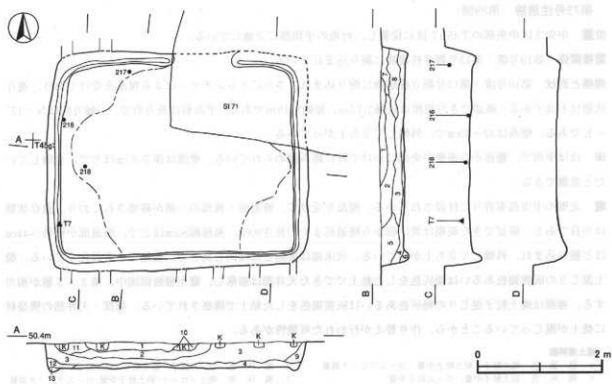
所見 時期は,出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第72号住居跡出土遺物観察表 (第88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
216	須恵器	坏	13.5	4.7	8.1	長石・石英・黒色粒子・黒塵	黄灰	普通	口クロ整形,底部回転ヘラ切り後ナテ	北西部床面	75% 底部ヘラ記号 PL67・81
217	須恵器	甕	[18.4]	(1.8)	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	口クロ整形後ナテ	北部上層	15%
218	土師器	甕	[32.6]	(8.4)	-	長石・石英・黒塵	ぶい橙	普通	口縁部内外面横ナテ,体部内面ヘラナテ	西部下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP6	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	外蓋縁の厚み,内蓋縁の折込の当て具	覆土中	PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
T7	平瓦	(8.7)	(6.6)	2.5	(141.0)	長石・石英	凸縁長い側の向き,凹縁を日傘・糸切り線あり,側面ヘラ切り	南西部下層	



第88図 第72号住居跡・出土遺物実測図

第73号住居跡（第89図）

位置 中央2区中央部のT45h7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第19号溝・第13号掘立柱建物に掘り込まれている。

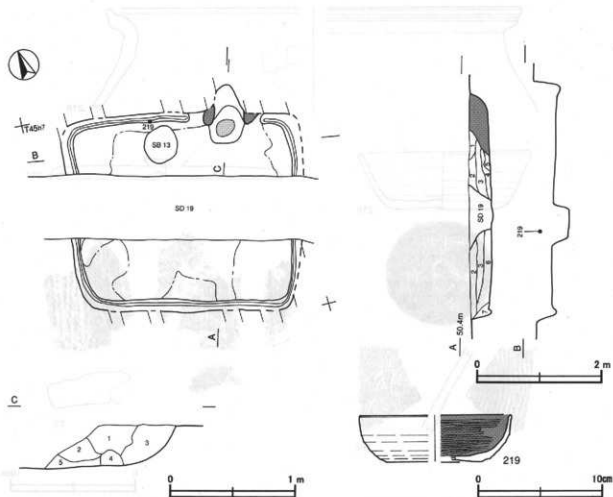
規模と形状 第19号溝・第13号掘立柱建物に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる攪乱を受けており、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.73m、短軸3.19mである。平面形は長方形で、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は32-35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前から南壁中央部にかけて特に踏み固められている。壁溝は深さ8cmほどで、全周していたと推測できる。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて、煙道部・袖部の一部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm、袖部幅80cmほどで、煙道部が壁外へ44cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。焼土混じりの灰黄褐色あるいは褐灰色をした粘土でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第3・5層が相当する。袖部は焼土粒子混じりの褐灰色あるいは灰黄褐色をした粘土で構築されている。袖部・天井部の構築材に焼土が混じっていることから、作り替えが行われた可能性がある。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 褐灰色 粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 5 褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 灰黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック少量 | |



第89図 第73号住居跡・出土遺物実測図

ピット 確認されなかった。

覆土 7層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 5 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片43点(坏11, 甕32), 須恵器片11点(坏8, 甕2, 片面硯1), 礫2点(円礫; うち被熱痕1)が出土している。これらの遺物は北壁際中央部と竈の覆土中を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した粘土塊1点が出土している。219は北部の覆土上層から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 本跡の形状と出土遺物の様相から、時期は9世紀中葉以前と考えられる。

第73号住居跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
219	土師器	坏	[12.0]	3.7	[7.6]	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部内面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り後ナデ	北部上層	30% 内面 黒色処理

第74号住居跡 (第90・91図)

位置 中央2区中央部のT45j7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第432号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸4.12m, 短軸3.60mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は20~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁中央部にかけて特に踏み固められている。壁溝は深さ4cmほどで、南壁中央部から西壁中央部の壁際を巡っている。図示できなかったが、各コーナー部を確認面から48~60cmほど掘り込み、24~40cmほど焼土ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土及び黒褐色土を埋し、床面を構築している。

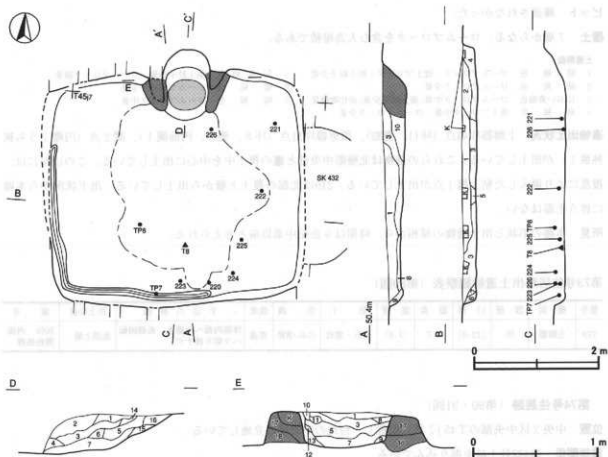
竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて、煙道部・袖部の一部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ114cm, 袖部幅180cmほどで、煙道部は壁外へ44cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。焼土混じりの暗褐色した粘土でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第1層が相当する。袖部は地山を掘り残して、その上にロームブロック混じりの灰黄褐色をした粘土で構築され、竈土層断面図中、第17・18層が相当する。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子・ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 11 灰褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 | 14 灰オレンジ色 | 粘土粒子多量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 黄褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 17 赤褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 8 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 18 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子微量 |
| 9 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | | |

ピット 確認されなかった。

覆土 10層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



第90図 第74号住居跡実測図

土層解説

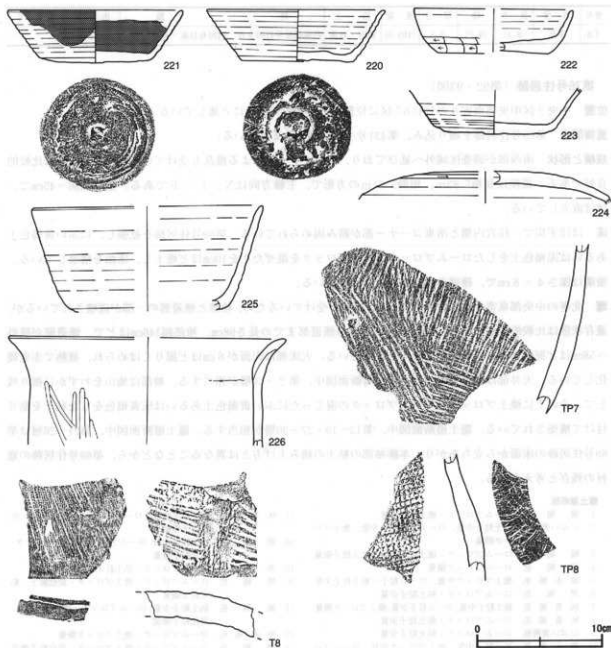
- | | | | |
|---------|----------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土
粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量,
粘土粒子微量 | 8 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 4 濃い黄褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 黒色 | ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 10 灰黄褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量,
粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片244点(坏・高台付坏20, 甕224), 須恵器片84点(坏54, 蓋15, 鉢1, 甕14), 土製品1点(支脚), 瓦片2点(平瓦), 礫7点(破砕礫;うち被熱痕5)が出土している。これらの遺物は南部及び東部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには, 混入した土師器片1点, 攪乱により混入した粘土塊1点が出土している。220・224・TP8は南部の覆土上層, 223・TP7は南部の覆土中層, 221は北東部の覆土下層, 222・225は東部の覆土中層, 226は竈前面の覆土下層, T8は南部の覆土下層から出土している。226は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。9世紀前葉と考えられる220・221・223が覆土上層から出土していることから, 本跡が埋没していく過程にできたくほみに, 9世紀前葉以降に土器が投棄された可能性がある。

第74号住居跡出土遺物観察表(第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
220	須恵器	坏	14.0	4.2	8.8		長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロ整形後内面丁家なナブ, 底部回転ヘラ切り	南部上層	65% PL67



第91図 第74号住居跡・出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
221	須恵器	坏	13.8	4.1	8.9	石英・雲母・微礫	灰白	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ナデ	北東部下層	内外面 磁付着 PL67
222	須恵器	坏	[12.2]	3.5	[9.0]	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ナデ	東部中層	40%
223	須恵器	坏	-	(3.4)	7.2	長石・黒色粒子	灰白	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ナデ	南部中層	30%
224	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・黒色粒子	灰濁	普通	天井部左回転ヘラ削り	南部上層	30%
225	須恵器	鉢	[18.2]	8.3	[11.6]	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形後ナデ、体部下層回転ヘラ削り	東部中層	30% 火傷
226	土師器	甕	[21.8]	(8.6)	-	高粘結性土	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き	電前而下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP7	須恵器	甕	-	(13.5)	-	長石・石英・微礫	暗灰	普通	体部外面は斜位の平行引き、内面はナデ、底成後表面磨った痕跡あり	南部中層	転用炭カ PL77
TP8	須恵器	甕	-	(10.1)	-	長石・石英・黒色粒子	青灰	普通	体部外面格子状の引き、内面同心円状の当て具痕	南部上層	PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	粘土	特 徴	出土地位置	備 考
T8	平瓦	(8.4)	(9.2)	2.3	(199.0)	長石・石英	凸面横位平行印き目、凹面布目状・糸切り痕	南部下層	

第76号住居跡 (第92・93図)

位置 中央2区中央部南寄りのU45b7区に位置し、台地の斜面部に立地している。

重複関係 第69号住居跡を掘り込み、第431号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びており、トレンチャーによる擾乱も受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸5.83m、短軸5.61mの方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は36~45cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、柱穴内側と南東コーナ一部が踏み固められている。第69号住居跡を拡張し、にぶい黄褐色土あるいは黒褐色土をしたロームブロック・粘土ブロックを混ぜた土を10cmほど埋土し、床面を構築している。壁溝は深さ4~8cmで、確認された壁際を全周している。

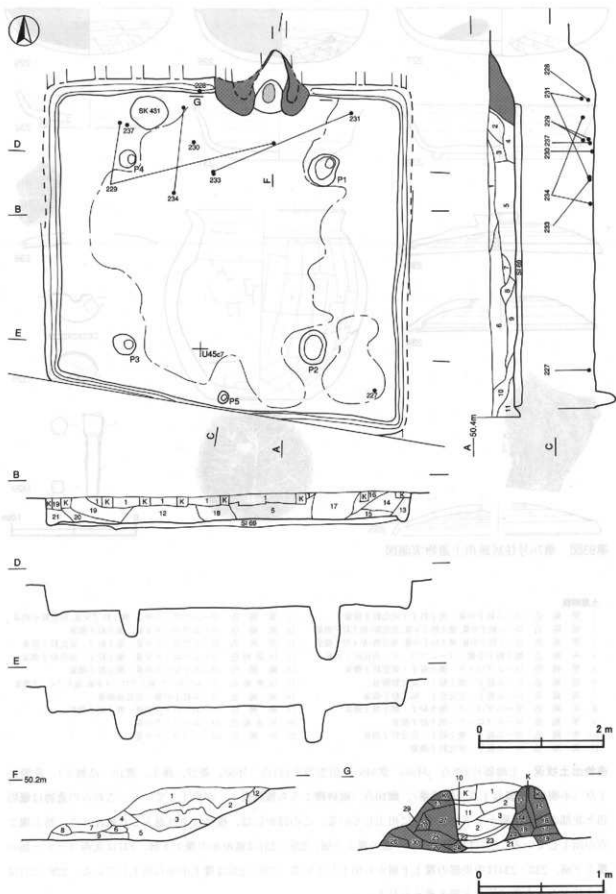
竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。擾乱を受けているため、袖部と煙道部の一部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ98cm、袖部幅146cmほどで、煙道部が壁外へ58cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2・3層が相当する。袖部は地山をわずかに掘り残して、その上に焼土ブロック・ロームブロックの混じったにぶい黄褐色土あるいは灰黄褐色をした粘土を貼り付けて構築されている。竈土層断面図中、第13~19・27~30層が相当する。竈土層断面図中、第21~26層は第69号住居跡の床面から立ちあがり、本跡袖部の粘土の積み上げ方とは異なることなどから、第69号住居跡の竈材の残存と考えられる。

竈土層解説

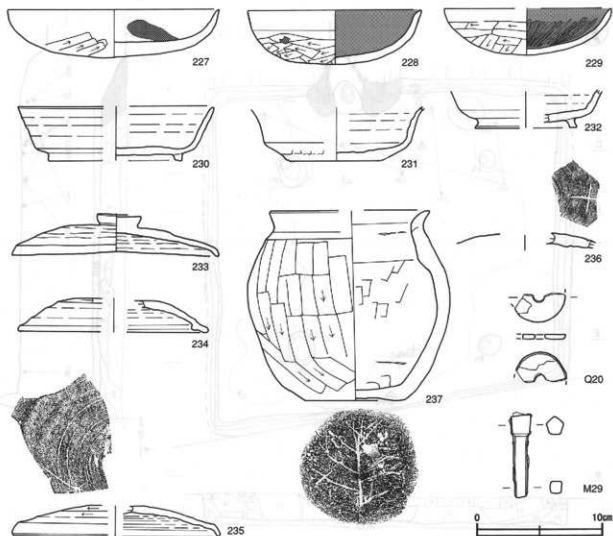
1 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	17 灰黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量	18 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量	19 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	20 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量	21 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	22 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
7 灰黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量	23 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8 灰黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	24 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
9 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	25 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量	26 暗褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
11 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	27 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
12 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	28 灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
13 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	29 灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
14 暗褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	30 暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
15 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量		
16 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量		

ピット 5か所。P1~P4は深さ47~84cmで、各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5は深さ34cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 21層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第92图 第76号住居跡実測図



第93図 第76号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 15 灰黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 17 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 18 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 8 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 20 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 灰褐色 | ロームブロック中量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片426点(坏80, 甕346), 須恵器片111点(坏62, 釜27, 鉢1, 甕19, 高盤2), 鉄製品1点(不明), 石製品1点(紡錘車), 礫10点(破砕礫; うち被熱痕4)が出土している。これらの遺物は竈周辺と北部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには, 擾乱により混入した鉄洋2点, 粘土塊2点が出土している。227は南東コーナー部の覆土下層, 228~231は竈前面の覆土下層, 237は北西コーナー部の覆土下層, 233・234は中央部の覆土下層から出土している。232・235は覆土中から出土している。228~231は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第76号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土師器	坏	16.8	3.7	-	灰赤・赤褐色	明赤褐	普通	底部手持ちへう削り	南東部下層	85% 内面着色見 黒色処理 PL67
228	土師器	坏	13.7	4.1	-	白色粒子・赤色粒子	橙	普通	体部外面手持ちへう削り、内面丁寧ナデ上げ	竈前下層	95% 内面着色見 黒色処理 PL67
229	土師器	坏	[13.2]	3.7	-	長石	赤褐	普通	体部外面へう削り、内面へう磨き	竈前下層	40% 内面 黒色処理
230	須恵器	高台付坏	[15.4]	4.4	[10.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底面回転へう削り後高台削り付、ナデ	竈前下層	60% PL67
231	須恵器	坏	-	(4.1)	7.9	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、体部外面下層に輪轆み痕を残す、底部回転へう削り後ナデ	竈前下層	60%
232	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	[8.0]	長石・石英	灰白	普通	底面回転へう削り後高台削り付、ナデ	覆土中	10%
233	須恵器	壺	16.3	3.2	-	白色粒子・赤褐色	灰白	普通	ロクロ整形、右回転へう削り	中央部下層	85% 内面着色見 黒色処理 PL67
234	須恵器	壺	[14.9]	(2.8)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、天井部回転へう削り	中央部下層	60% PL67
235	須恵器	壺	[16.4]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	浅黄	普通	ロクロ整形、天井部外面手持ちへう削り、内面指頭圧痕	覆土中	15% へう 書き PL81
236	須恵器	壺	-	(1.3)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部外面へう削り	覆土中	85% へう書き PL81
237	土師器	小形甕	[12.5]	15.2	8.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へう削り、内面へうナデ	北西部下層	95% 底面着色見 二次焼成 PL68

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	輪軸車	3.7-3.95	(0.8)	0.45	(4.0)	安山岩	上下部削磨	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	不明	6.2	0.9-1.7	1.0-1.4	(51.7)	鉄	頭部は断面五角形、脚部は断面方形	覆土中	

第77号住居跡 (第94-96図)

位置 中央2区中央部南寄りT45h5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第19号溝、第420-424・435号土坑に掘り込まれている。

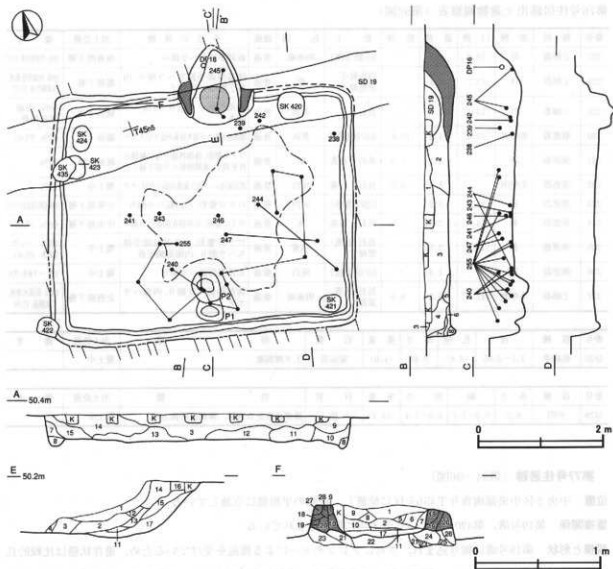
規模と形状 第19号溝に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる擾乱を受けているため、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸4.85m、短軸4.03mの長方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は40-49cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ8-12cmで、全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。第19号溝に掘り込まれ、さらに擾乱を受けて、袖部と煙道部の一部が破壊されているが、溝の底面下位で確認され、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ125cm、袖部幅120cmほどで、煙道部が壁外へ70cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第6層が相当する。袖部は地山をわずかに掘り残し、その上に焼土ブロック・ロームブロックの混じった灰黄褐色をした粘土を貼り付けて構築されている。竈土層断面図中、第18-28層が相当する。竈内の西壁寄りから土製支脚と土師器残片が多数出土している。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
2 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
6 褐灰色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量	14 褐灰色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
7 灰褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
8 灰褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	16 褐灰色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量



第94図 第77号住居跡実測図

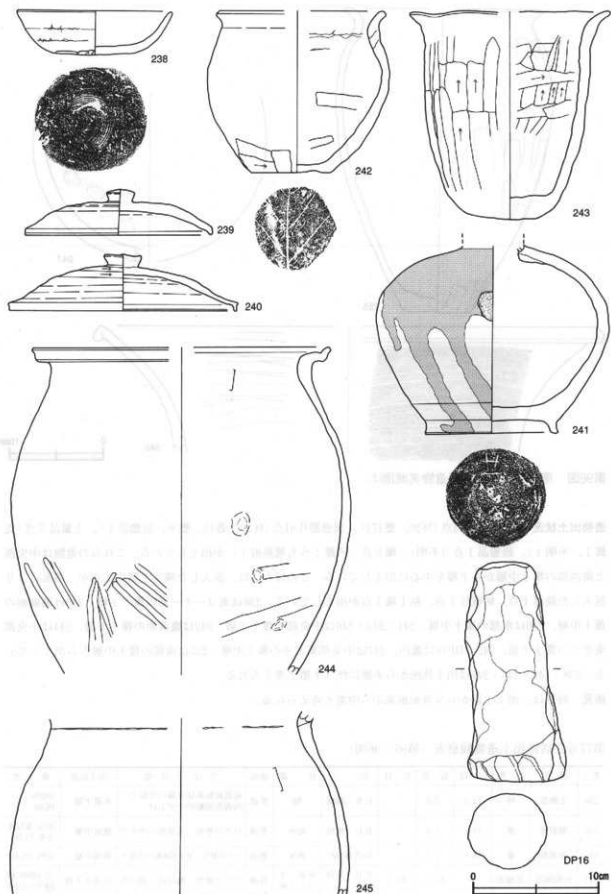
- | | | | |
|----------|-----------------------------|-----------|---------------------|
| 17 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 23 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 18 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子微量 | 24 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 19 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子少量 | 25 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 20 灰黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子微量 | 26 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 21 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 27 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 22 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 | 28 暗褐色 | ロームブロック少量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さ24・20cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、入り口施設に伴うピットと考えられる。

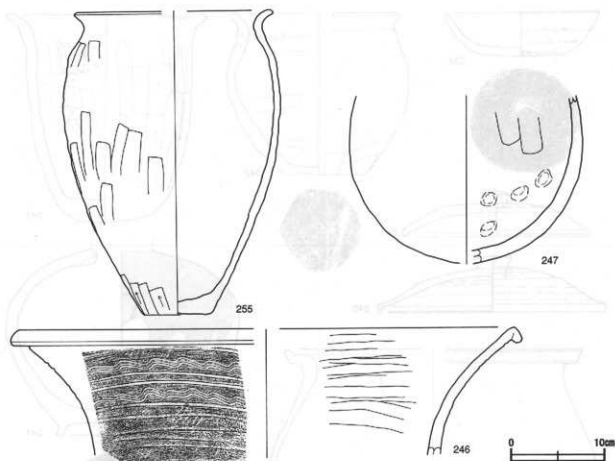
覆土 15層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |



第95図 第77号住居跡出土遺物実測図(1)



第96図 第77号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片194点(坏20, 甕174), 須恵器片61点(坏39, 蓋13, 甕8, 短頸壺1), 土製品5点(支脚1, 不明4), 鉄製品1点(不明), 礫5点(円礫;うち被熱痕1)が出土している。これらの遺物は中央部と南西部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片1点が、攪乱により混入した鉄滓1点, 炉壁片1点, 粘土塊1点が出土している。238は東コーナー部の覆土下層, 239は電前面の覆土中層, 240は南部の覆土中層, 241・243・246は中央部の覆土下層, 242は電前面の覆土下層, 244は中央部東寄りの覆土下層, 245・DP16は竈内, 247は中央部東寄りの覆土中層, 255は南部の覆土中層から出土している。238・242・245・247は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。

第77号住居跡出土遺物観察表(第95・96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
238	土師器	坏	12.3	3.6	-	石英・微塵	橙	普通	底部回転糸切り後へう割り, 内面左回転のナデ上げ	東隅下層	100% PL68
239	須恵器	蓋	14.8	3.6	-	長石・雲母	褐灰	普通	ロクロ整形, 天井部へうナデ	電前中層	95% 重ね焼き痕 PL68
240	須恵器	蓋	18.0	4.5	-	紅緑鉄胎	黄灰	普通	ロクロ整形, 天井部回転へう割り	南部中層	80% PL68
241	灰輪陶器	長頸壺	-	(15.0)	10.5	長石・黒色粒子	灰黄, オリーブ灰	普通	ロクロ整形, 軸は流し掛けカ	中央部下層	95% 電前中に焼成, 黒部はPL68
242	土師器	小形甕	[12.8]	12.9	6.1	白色粒子・黒色粒子・微塵	橙	普通	口縁部横ナデ, 体部下層へう割り	電前下層	75% 底部木炭痕 PL68

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	甕	[15.6]	16.7	5.9	長石・石英・微塵	にぶい橙	普通	体部外面へう削り、内面強いへう削り、底部外面多方向へう削り	中央部下層	80% 瓦部外周縁部の織線痕 PL68
244	土師器	甕	[23.4]	(25.9)	-	長石・石英	褐	普通	体部外面へう磨き、内面へうナテ・指頭圧痕、口縁部横ナテ	南隅下層	15%
245	土師器	甕	-	(14.1)	-	玉石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内面へうナテ	甕内下層	10%
246	須恵器	甕	[52.0]	(13.3)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部1単位を2層の湯船状工具による波状文	中央部下層	5%
247	須恵器	甕	-	(18.0)	-	長石・微塵	灰	普通	体部内面へうナテ、指頭圧痕	中央部下層	20%、丸底
255	土師器	甕	[20.4]	32.2	6.8	長石・石英・微塵	にぶい橙	普通	体部外面下層へう削り、上段へうナテ	南部中層	85% PL68

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP16	支脚	17.5	7.8	6.9	740.0	長石・石英・雲母	表面に指頭圧痕、断面円形	甕内下層	PL85

第86号住居跡 (第97図)

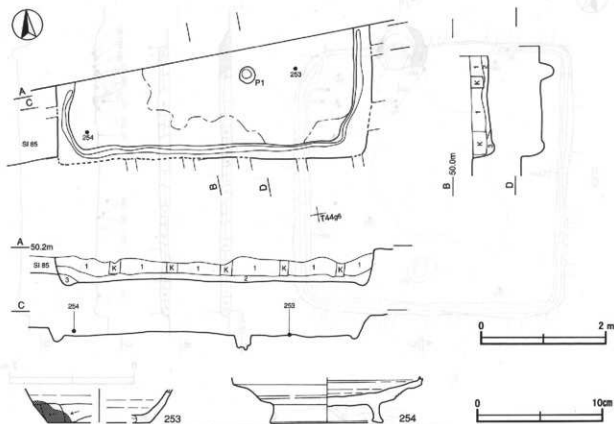
位置 中央2区西部のT44f5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第85号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、さらにトレンチャーによる掘削を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.00m、短軸2.02mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はN-9°-Eである。壁高は30~35cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。壁際は深さ6~11cmで、確認された壁際を巡っている。

炉・竈 確認されていない。



第97図 第86号住居跡・出土遺物実測図

ビット P1は深さ21cmで、南壁の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 須恵器片5点(坏2, 釜1, 甕1, 甕1)が出土している。これらの遺物は南部の覆土下層を中心に出土している。253は東部の床面, 254は南西コーナー部の覆土下層から出土している。253・254は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

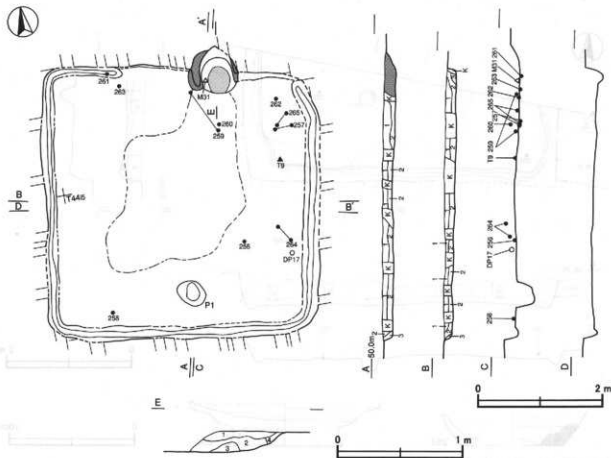
所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。本跡は竈が付設された時期の遺構であることから, 竈は調査区域外に付設されていると考えられる。

第86号住居跡出土遺物観察表(第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
253	須恵器	坏	-	(2.7)	[8.0]	長石・雲母・白色粒子	褐灰	普通	ロクロ整形、体部外面下層手持ちヘラ削り、内面刷毛状工具痕	東部床面	10% 外面僅付着
254	須恵器	甕	-	(3.6)	8.8	石英・白色粒子	灰白	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け後ナデ	南西隅下層	75%

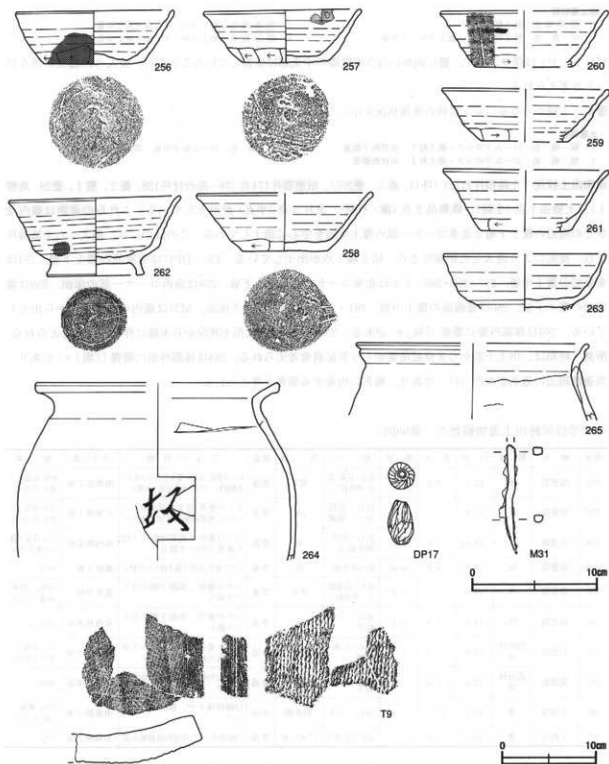
第87号住居跡(第98・99図)

位置 中央2区中央部南寄りT44h5区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第98図 第87号住居跡実測図

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けて、遺存状態は不良である。規模は長軸4.45m、短軸4.40mの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は15~18cmで、ほぼ直立している。床 ほぼ平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで、北壁の一部を除いて廻っている。



第99図 第87号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて、袖部と煙道部の一部が破壊されているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ75cm、袖部幅76cmほどで、煙道部が壁外へ36cmほど張り込まれ、外傾して立ち上がっている。煙道部の奥壁から立位で土師器残片が出土している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第2層が相当する。袖部は焼土混じりの灰黄褐色をした粘土で構築されている。

竈土層解説

- 1 暗灰褐色 粘土粒子中量 3 明赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量
2 灰黄色 粘土粒子少量 焼土ブロック少量 4 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量

ピット P1は深さ35cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片217点(坏11, 壺1, 甕205), 須恵器片171点(坏・高台付环138, 蓋2, 壺1, 甕29, 高壺1), 土製品1点(土錘), 鉄製品2点(鐵・不明), 瓦片5点(平瓦)が出土している。これらの遺物は竈内及びその周辺の覆土下層と北東コーナー部の覆土中層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片1点, 攪乱により混入した炉壁片2点, 粘土塊1点が出土している。256・DP17は南東部の覆土下層, 264は南東部の覆土中層, 257・262・265・T9は北東コーナー部の覆土下層, 258は南西コーナー部の床面, 259は竈前面の覆土下層, 260は竈前面の覆土中層, 261・263は北西部の覆土床面, M31は竈内の覆土下層から出土している。264は体部外面に墨書〔坂〕カがある。259~261・263は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。264は体部外面に墨書〔坂〕カがあり, 当遺跡周辺の地名が坂門(戸)であり, 地名に由来する墨書と考えられる。

第87号住居跡出土遺物観察表 (第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
256	須恵器	坏	12.4	4.3	7.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	ロクロ整形, 体部下端手持ちへつ削り, 底部回転へつ削り後多方向へつ削り	南東部下層	90% 底部へつ削き PL69-82
257	須恵器	坏	12.3	4.2	7.0	長石・黒色粒子・微塵	灰	普通	ロクロ整形, 体部下端手持ちへつ削り, 底部回転へつ削り後ナデ	北東部下層	75% 底部へつ削き PL69-82
258	須恵器	坏	[13.6]	4.6	6.7	長石・雲母・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形, 底部回転へつ削り後多方向へつ削り	南西隅床面	40% 体部下端へつ削き PL82
259	須恵器	坏	[13.0]	4.2	[6.8]	長石・雲母・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形, 体部下端手持ちへつ削り	竈前下層	45%
260	須恵器	坏	[13.0]	4.5	[7.8]	長石・白色粒子・黒色粒子	灰白	普通	ロクロ整形, 体部下端手持ちへつ削り	竈前中層	15% 体部刻書 PL80
261	須恵器	坏	[13.2]	4.9	[7.2]	長石・白色粒子	灰	普通	ロクロ整形, 体部下端手持ちへつ削り	北西部床面	25%
262	須恵器	高台付坏	12.8	6.2	7.4	長石・石英・微塵	灰オリーブ	普通	ロクロ整形, 底部回転へつ削り後高台貼り付け, ナデ	北東部下層	52% 底部へつ削き PL69-82
263	須恵器	高台付坏	[12.8]	(4.3)	-	長石・白色粒子	にぶい黄	普通	底部回転へつ削り後高台貼り付け, ナデ	北西部床面	60%
264	土師器	壺	[19.2]	(14.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部ナデ, 体部内面へつ削り	南東部中層	10% 墨書〔坂〕カ PL79
265	土師器	壺	[18.2]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部ナデ, 体部内面輪組み	北東部下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	管状土錘	2.1	0.7	3.6	14.2	長石・石英	へつナデ, 両側からの穿孔。被熱で黒褐色	南東部下層	PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
T9	平瓦	(11.0)	13.8	3.1	(451.0)	長石・黒色粒子	凸面側目痕、凹面側目痕・糸切り痕あり	北東隅下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M31	鉄	(8.6)	0.7	0.7	(12.3)	鉄	断面円形	竈内下層	土原鑑賞式カ

第88号住居跡 (第100~104図)

位置 中央2区中央部南寄りT44g3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸5.37m、短軸5.28mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は40~46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、竈前面から中央部にかけてと南壁際の中央部が踏み固められている。壁溝は深さ8~10cmで、全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて、煙道部と袖部の一部が破壊されているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ120cmで、推定できる袖部幅131cmほどである。煙道部は壁外へ72cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。天井部は崩落し、竈土層断面図中、第4層が相当する。袖部は焼土混じりの粘土で構築されている。火床部の中央部から右袖部寄りに、被熱で表面が剥離した石製支脚が立てられた状態であり、袖部幅も大きいことから、二掛けの竈であった可能性がある。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 黒沼パミス粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 11か所。P3・P6~P8は深さ61~72cmで、各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P1・P2・P4は深さ47~61cmで、P6~P8に掘り込まれており、P1・P2・P4からP6~P8に作り替えられたと考えられる。P5は深さ31cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P9~P11は深さ19~37cmで、壁際にあることから壁柱穴と考えられる。

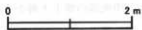
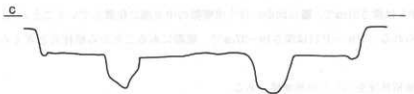
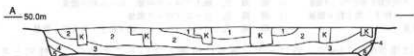
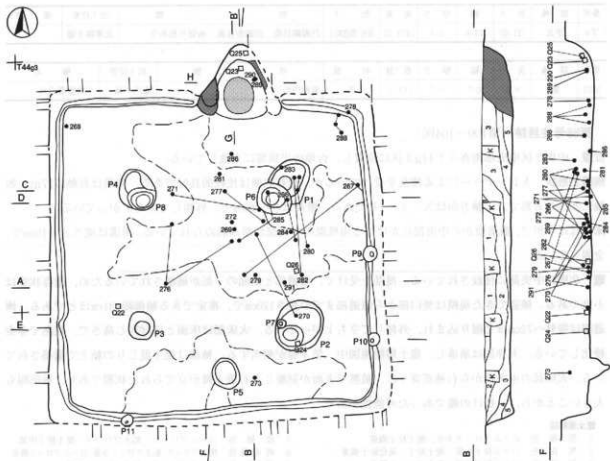
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片415点(坏30、甕・瓶385)、須恵器片247点(坏・高台付坏156、蓋71、甕20)、土製品2点(支脚)、鉄製品1点(鎌)、石器4点(砥石)、鏝37点(破砕鏝;被熱痕12)が出土している。これらの遺物は竈内及びその周辺の覆土下層と中央部の東寄りの覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した縄文土器片3点が、攪乱により混入した陶器片3点、土師質土器1点、粘土塊5点が出土している。

266・269・270~272・276・277・279~282・284・285・291・Q26は中央部の覆土下層、267は東部の覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したもの、268は北西コーナー部の覆土下層、278は北東コーナー部の覆土下層、283はP1内の覆土上層、286は竈前面覆土下層、288は北東コーナー部の覆土下層、289・290・Q23・Q25は竈内、Q22は西部の覆土下層、Q24はP2内から出土している。281・286・287・289・290は出

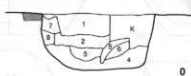


第100图 第88号住居跡実測图(1)

G 50.0m



H



0 1m

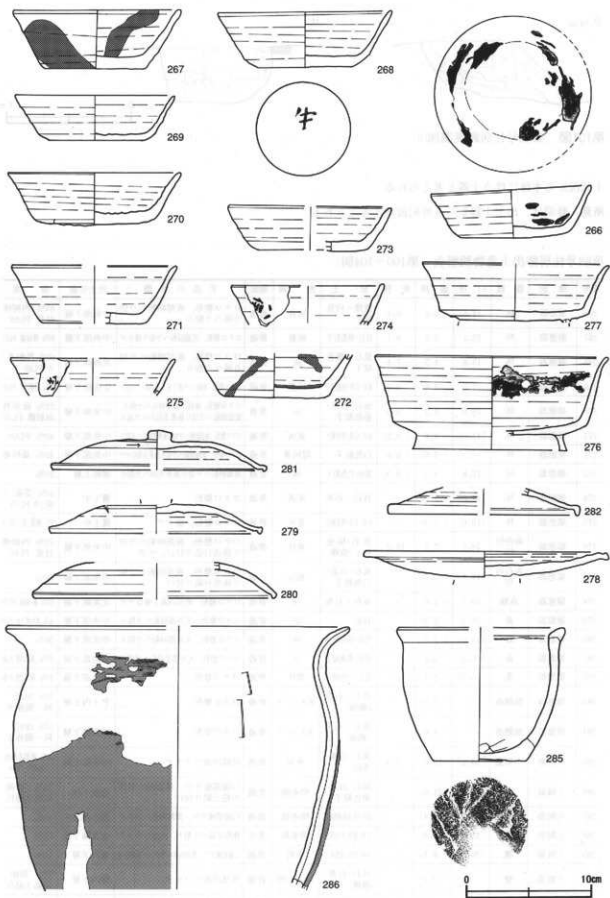
第101図 第88号住居跡実測図(2)

土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

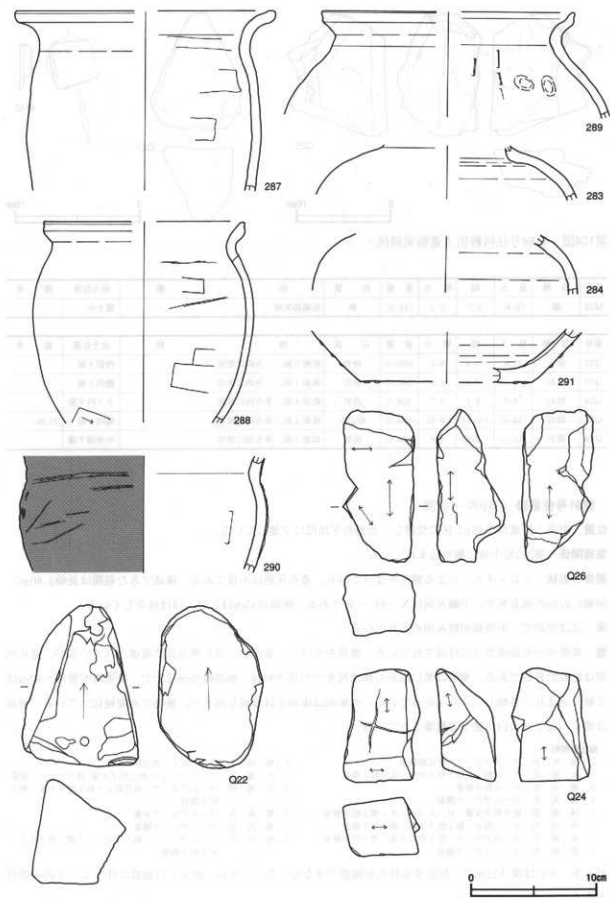
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第88号住居跡出土遺物観察表(第100~104図)

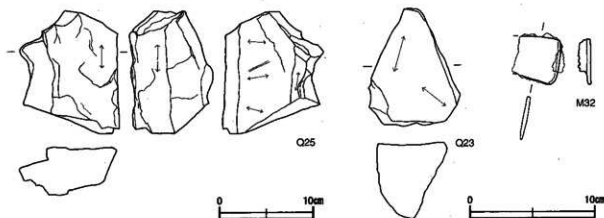
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
266	須恵器	坏	12.6	4.3	8.4	雲母・白色 粒子	灰黄	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	中央部下層	85% 内面漆付着 PL69
267	須恵器	坏	13.1	4.2	8.1	長石・黒色 粒子	灰黄	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ削り後ナデ	中央部下層	85% 裏面付着 PL69
268	須恵器	坏	13.8	4.5	7.4	長石・黒色 粒子	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	北西隅下層	60% 裏面付着 PL69-79
269	須恵器	坏	12.8	3.6	9.2	灰・石灰・赤色 粒子	灰黄	普通	ロクロ整形、横ヘラ削り後1方向ヘラ削り	中央部下層	86% 裏面付着 PL69
270	須恵器	坏	13.6	4.2	9.6	長石・石英・ 赤色粒子	灰	普通	ロクロ整形、各部下層手持ちヘラ削り、 底部回転ヘラ削り後多方向のヘラ削り	中央部下層	55% 底部外面割離 PL70
271	須恵器	坏	[13.0]	4.6	[8.2]	灰・石灰・赤色 粒子	黄灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ削り後多方向のヘラ削り	中央部下層	40% PL69
272	須恵器	坏	-	(3.6)	[8.4]	白色粒子	暗灰黄	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ削り後多方向のヘラ削り	中央部下層	40% 煤付着
273	須恵器	坏	[12.8]	3.5	[9.0]	雲母・白色 粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後多方向ヘラ削り	南面上層	20%
274	須恵器	坏	[11.8]	(3.1)	-	長石・石英	灰黄	普通	ロクロ整形	覆土中	10% 裏面付着 PL79
275	須恵器	坏	[13.0]	(3.0)	-	石灰・赤色 粒子	黄灰	普通	ロクロ整形、横ナデ	覆土中	2% 裏面付着 PL79
276	須恵器	高台付 坏	18.5	7.5	12.2	長石・黒色 粒子・微塵	黄灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け、ナデ	中央部下層	70% 内面漆付着 PL69
277	須恵器	高台付 坏	[14.8]	(4.6)	-	長石・石英・ 白色粒子	褐灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	中央部下層	40%
278	須恵器	高盤	19.2	(2.0)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、底部内面丁寧ナデ	北東隅下層	95% 裏面付着 PL70
279	須恵器	蓋	[16.4]	(2.3)	-	長石	灰	普通	ロクロ整形、天井部回転ヘラ削り	中央部下層	85% 裏面付着 PL70
280	須恵器	蓋	[19.0]	(3.0)	-	長石・白色 粒子	灰	普通	ロクロ整形、天井部回転ヘラ削り	中央部下層	30%
281	須恵器	蓋	[16.3]	3.2	-	長石・黒色 粒子	灰	普通	ロクロ整形、天井部手持ちヘラ削り	中央部下層	25% 裏面付着
282	須恵器	蓋	[15.2]	(2.1)	-	長石・白色 粒子	褐灰	普通	ロクロ整形	中央部下層	10% 裏面付着
283	須恵器	短頸壺	-	(5.7)	-	長石・石英 (微塵)	灰ナリーブ	普通	ロクロ整形	P 1 内上層	5% 284と同一個体
284	須恵器	短頸壺	-	(4.6)	-	長石・石英 (微塵)	灰ナリーブ	普通	ロクロ整形	中央部下層	5% 283と同一個体
285	土師器	小形壺	[13.2]	10.6	[7.4]	長石・石英・ 雲母	赤褐	普通	底部内面ヘラナデ	中央部下層	65% 底部木炭灰、 二次焼成 PL70
286	土師器	壺	[27.2]	(21.0)	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部内・外面 の粘土貼り付け	甕内下層	15% 器面に 粘土貼付
287	土師器	壺	[20.8]	(14.4)	-	石灰・赤色 粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部内面ヘラナデ	甕内覆土中	10%
288	土師器	壺	[15.9]	(16.0)	-	石灰・赤色 粒子	明赤褐	普通	体部下端ヘラ削り、内面ヘラナデ	北東隅下層	25%
289	土師器	壺	[20.0]	(8.4)	-	石灰・赤色 粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ、底部内面ヘラナデ、微塵混入	甕内下層	10%
290	土師器	壺	-	(9.1)	-	長石・石英・ 微塵	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ	甕内下層	5% 器面に 粘土貼付
291	須恵器	壺	-	(3.9)	[13.5]	長石・黒色 粒子	褐灰	普通	ロクロ整形、体部内面貼付	中央部下層	5%



第102图 第88号住居跡出土遺物実測図(1)



第103图 第88号住居跡出土遺物実測図(2)



第104図 第88号住居跡出土遺物実測図(3)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	微	出土位置	備考
M32	鏢	(3.8)	3.7	0.3	(19.3)	鉄	先端部欠損		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	微	出土位置	備考
Q22	礫石	12.8	9.4	8.4	1060.0	砂岩	砥面2面, 一方向に使用		西地下層	
Q23	礫石	(9.3)	(7.2)	(6.0)	(370.0)	砂岩	砥面1面, 二方向に使用		竈内下層	
Q24	礫石	9.0	6.1	4.7	326.0	泥岩	砥面4面, 多方向に使用		P2内下層	
Q25	礫石	(18.0)	(10.5)	(8.8)	(950.0)	安山岩	砥面4面, 多方向に使用		竈内下層	PL86
Q26	礫石	(12.1)	(5.6)	4.8	(420.0)	泥岩	砥面3面, 多方向に使用		中央部下層	

第91号住居跡 (第105~107図)

位置 中央2区東部T43g7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第303号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けており、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.80m、短軸3.27mの長方形で、主軸方向はN-91°-Eである。壁高は35cmほどで、ほぼ直立している。

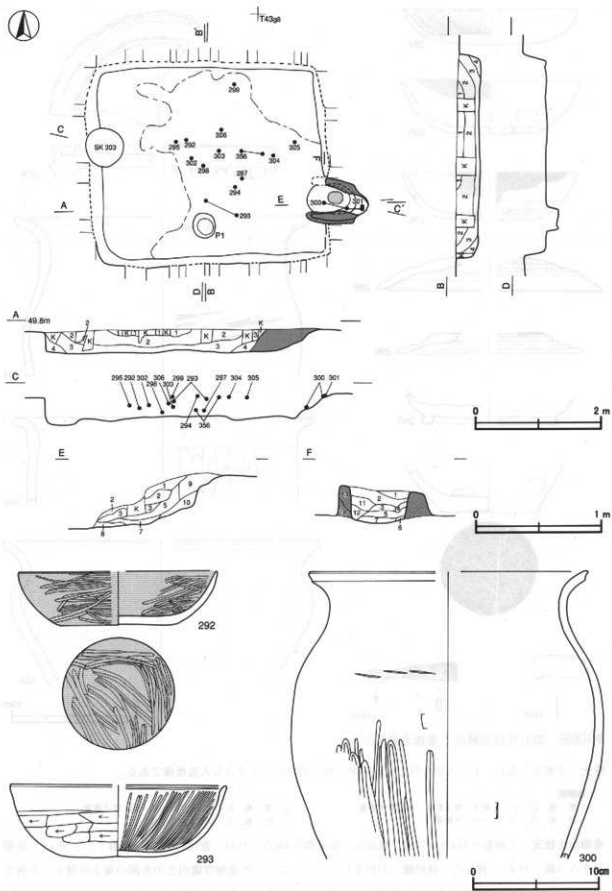
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部南寄りに付設されている。攪乱を受けて、袖部の一部と煙道部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ98cm、袖部幅75cmほどで、煙道部が壁外へ62cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。袖部は焼土の混じった白色粘土で構築されている。

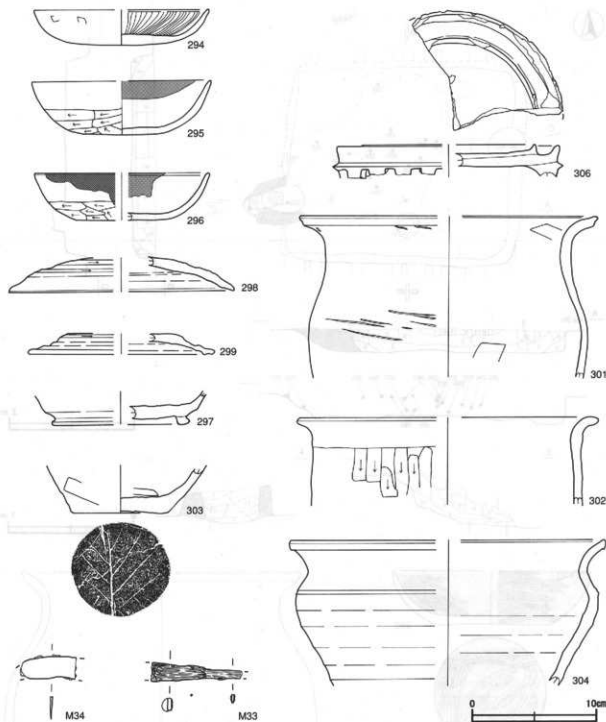
竈土層解説

1	褐	灰	色	ロームブロック・炭化物微量	9	褐	灰	色	ローム砂子・焼土粒子微量
2	灰	褐色		ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	10	灰	褐色		ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
3	褐	灰	色	ローム粒子微量	11	灰	褐色		ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
4	褐	灰	色	ロームブロック微量					
5	灰	褐色		粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	12	褐	灰	色	ロームブロック少量
6	灰	褐色		ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	13	褐	灰	色	ロームブロック微量
7	灰	褐色		ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量	14	褐	灰	色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗	褐色		ロームブロック微量					

ピット P1は深さ21cmで、対応する柱穴が確認できなかったことから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。



第105图 第91号住居跡・出土遺物実測図(1)



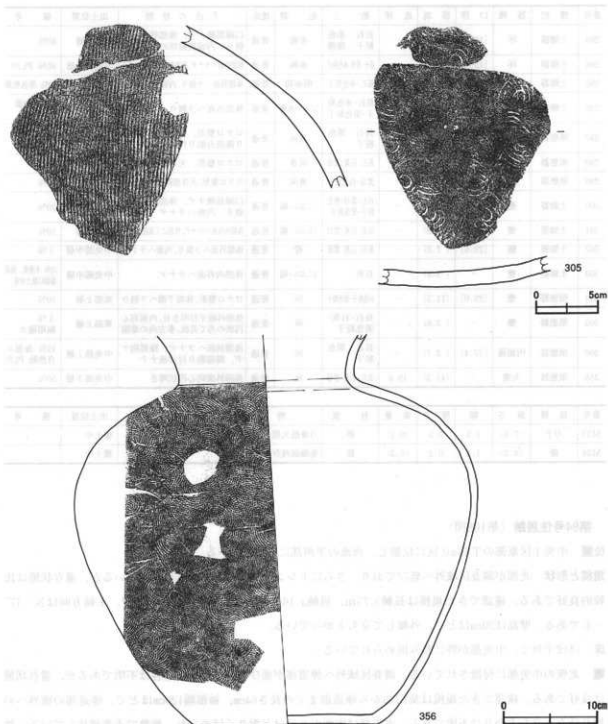
第106図 第91号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 4層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片454点(坏81, 甕373), 須恵器片236点(坏44, 蓋16, 甕174, 高盤1, 不明1), 鉄製品2点(鎌・刀子), 礫10点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は竈内と中央部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した陶器片2点, 粘土塊12点が出土している。292・295・302・303は中央部の覆土中層, 293は南部の覆土上層, 294・306は中央部の覆土上層, 297・298は中央部の覆



第107図 第91号住居跡出土遺物実測図(3)

土下層, 299は北部の覆土上層, 300は竈内の覆土下層, 301は竈内の覆土上層, 304・305は東部の覆土上層, 296・M33・M34は覆土中から出土している。300・301は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第91号住居跡出土遺物観察表(第105~107図)

番号	種別	器種	口径	径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
292	土師器	環	[15.8]	4.3	9.0		長石・石英・黒色粒子	赤	普通	体部内外面へラ磨き, 底部外面へラ磨き	中央部中層	50% 赤彩 PL70

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
293	土埴器	坏	[17.0]	5.8	-	長石・赤色 粒子・微塵	赤褐	普通	口縁部横ナゲ、体部外面へう 削り、内面放射状の磨き	南部上層	40%
294	土埴器	坏	[13.8]	2.9	-	長石・赤色 微塵	赤褐	普通	体部外面へうナゲ、内面放射状の磨き	中央部上層	40% PL70
295	土埴器	坏	[14.2]	4.2	-	長石・赤色 粒子	明赤褐	普通	体部外面へう削り、内面丁寧ナゲ	中央部中層	50% 黒色処理
296	土埴器	坏	[13.7]	3.7	-	長石・赤色 粒子・黒色 粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面へう削り	覆土中	20% 内面 黒色処理
297	須恵器	高台付 坏	-	(2.6)	[10.0]	長石・黒色 粒子	黄灰	普通	ロクロ整形、底部回転へう切 り後高台貼り付け、ナゲ	中央部下層	20% 転用破カ
298	須恵器	蓋	[17.8]	(2.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロ整形、天井部確かなナゲ	中央部下層	20%
299	須恵器	蓋	[14.4]	(1.6)	-	雲母・白色 粒子	黄灰	普通	ロクロ整形、天井部回転へう削り	北部上層	20%
300	土埴器	壺	[21.9]	(22.8)	-	長石・雲母・赤色 粒子・黒色 粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナゲ、体部外面へう 磨き、内面へうナゲ	竈内下層	20%
301	土埴器	甕	[23.1]	(12.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面へうナゲ、外面に工具痕を付す	竈内上層	10%
302	土埴器	甕	[23.6]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう削り、内面へうナゲ	中央部中層	5%
303	土埴器	甕	-	(3.8)	-	石英	にぶい褐	普通	体部内外面へうナゲ	中央部中層	20% 木炭灰、体部 断面に粘土付着
304	須恵器	甕	[25.0]	(11.5)	-	白色粒子・黒色 粒子	灰	普通	ロクロ整形、体部下端へう削り	東部上層	10%
305	須恵器	甕	-	(3.6)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	普通	体部外面平行叩き目、内面両心 円状の当て具痕、多方向の摩擦	東部上層	5% 転用破カ
306	須恵器	円面甕	[17.4]	(2.7)	-	長石・黒色 粒子	灰	普通	海部回転へうナゲ、胎部指ナ ゲ、脚部貼り付け後ナゲ	中央部上層	15% 南部に 自然積 PL70
356	須恵器	大甕	-	(41.3)	19.6	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面両心円状叩き	中央部下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	刀子	(7.3)	1.5	0.3	(9.3)	鉄	刀身部欠損、木質付着	覆土中	
M34	鏃	(4.5)	1.8	0.2	(6.3)	鉄	先端部残存	覆土中	

第94号住居跡 (第108図)

位置 中央1区東部のT45a0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、さらにトレンチャーによる擾乱も受けているが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は長軸3.75m、短軸3.16mである。平面形は長方形で、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は20cmほどで、外傾して立ち上がっている。

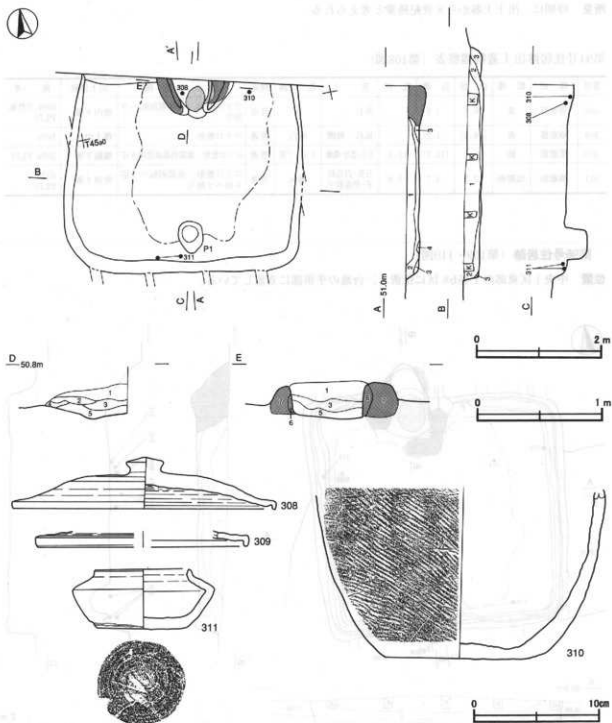
床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。調査区域外へ煙道部が延びているため、全容は不明であるが、遺存状態は良好である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ64cm、袖部幅120cmほどで、煙道部の壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。焼土ブロック・炭化粒子を含む粘土でできた天井部は崩落し、被熱で下部が赤変している。竈土層断面図中、第3層が相当する。袖部は焼土ブロックを含んだ粘土で構築されたもので、内壁も被熱で赤変している。竈土層断面図中、第6・7層が相当する。竈内からは須恵器蓋が正位で、土師器甕が横位でそれぞれ出土している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 6 赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

ピット P1は深さ40cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第108図 第94号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片55点(坏4, 甕51), 須恵器片19点(坏3, 蓋6, 鉢2, 甕6, 長頸壺2)が出土している。これらの遺物は竈内と南部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片3点、攪乱により混入した粘土塊4点が出土している。308は竈内の覆土下層, 310は竈脇の覆土下層, 311は南部の覆土下層から出土している。308・310は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

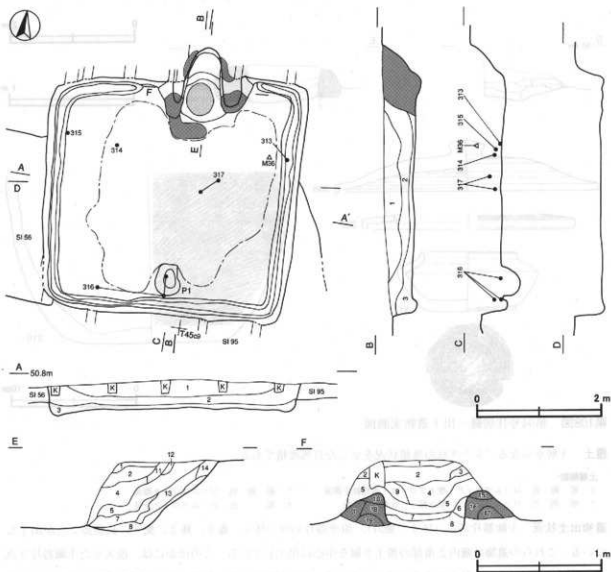
所見 時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。

第94号住居跡出土遺物観察表 (第108図)

番号	種別	器種	口径	径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
308	須恵器	壺	20.7	4.2	-	-	長石	灰	普通	ロクロ整形、天井部回転ヘラ削り	竈内下層	80% 自然釉 PL70
309	須恵器	壺	[16.5]	(1.2)	-	-	長石・霰粒	灰白	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
310	須恵器	鉢	-	(13.7)	11.4	-	長石・雲母・霰粒	オリーブ黒	普通	ロクロ整形、体部外面斜位叩き目	竈基下層	50% PL71
311	須恵器	短頸壺	7.5	4.7	6.9	-	石英・白色粒子・黒色粒子	陶灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	南部下層	85% PL70

第96号住居跡 (第109・110図)

位置 中央1区東部のT45b8区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第109図 第96号住居跡実測図

重複関係 第56・95号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸4.02m、短軸3.87mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は45cmほどで、ほぼ直立している。

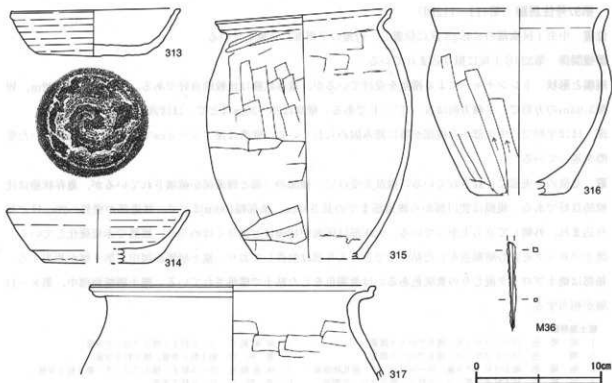
床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4～6cmで、ほぼ全周している。焚口部の南部の床面から竈から崩れた粘土塊が確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて、袖部の一部と煙道部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ142cm、袖部幅146cmほどで、煙道部は壁外へ68cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ、被熱で赤変硬化している。焼土ブロックを含む粘土でできた天井部は崩落し、被熱で下部が赤変している。竈土層断面図中、第7層が相当する。袖部は地山を掘り残し、その基部に焼土ブロック混じりの暗褐色あるいは黄褐色をした粘土を貼り付けて構築している。竈土層断面図中、第8層の下が相当する。

竈土層解説

1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	12 オリーブ黒色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	13 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子少量、ロームブロック微量
3 灰褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・ロームブロック微量	14 オリーブ色	ローム粒子・粘土粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	15 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
5 灰褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	16 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック微量
6 灰褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	17 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7 灰褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量	18 灰黄褐色	粘土粒子中量、ロームブロック微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	19 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量		
10 黄褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック微量		
11 オリーブ黄色	粘土粒子多量		

ピット P1は深さ36cmで、壁に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。



第110図 第96号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 粘土粒子少量、ロームブロック微量
2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土器片260点(坏5, 甕255), 須恵器片79点(坏45, 甕5, 甕27, 長頸壺1, 短頸壺1), 礫4点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土上層と南部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した粘土塊1点が出土している。313は東部の覆土下層, 314は西部の覆土下層, 315は北西コーナ一部分の覆土下層, 316は南部の覆土下層, 317は中央部の覆土下層, M36は東部の覆土上層からそれぞれ出土している。313・315・316は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第96号住居跡出土遺物観察表(第110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
313	須恵器	坏	13.8	3.8	8.5	長石・雲母	灰	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘラ切り	東部下層	80% PL71
314	須恵器	坏	[14.2]	4.2	[9.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形, 直器回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	西部下層	40% 火摩
315	土師器	甕	13.9	19.9	[8.4]	長石・石英・微塵	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ, 体部上半ヘラナゲ下端ヘラ削り	北西部下層	60% FL72
316	土師器	甕	[13.7]	14.9	[7.7]	長石・石英・微塵	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ, 体部外面ヘラ削り	南部下層	60% FL71
317	土師器	甕	22.4	(7.6)	-	長石・石英・微塵	橙	普通	口縁部横ナデ, 体部内面ヘラナゲ	中央部下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M36	甕	(7.0)	0.4	0.3	(4.2)	鉄	線部欠損	東部上層	

第97号住居跡(第111・112図)

位置 中央1区東部のS45j5区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第326号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.22m, 短軸3.03mの方形で, 主軸方向はN-3°-Eである。壁高は25~36cmほどで, ほば直立している。

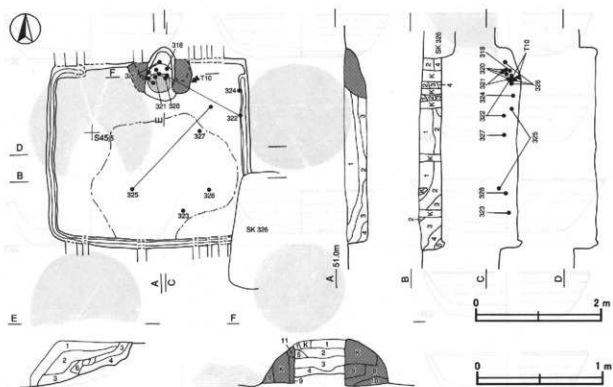
床 ほば平坦で, 中央部から南部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで, 北壁の一部を除いた壁際を巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて, 袖部の一部と煙道部が破壊されているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ86cm, 袖部幅100cmほどで, 煙道部が壁外へ20cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面が12cmほど掘りくぼめられ, 被熱で赤変硬化している。

焼土ブロックを含む暗褐色をした粘土でできた天井部は崩落しており, 竈土層断面図中, 第4層が相当する。袖部は焼土ブロック混じりの黄灰色あるいは黄褐色をした粘土で構築されている。竈土層断面図中, 第8~11層が相当する。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量
2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 8 黄灰色 粘土粒子少量, 焼土粒子少量
3 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 9 灰黄褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量
4 暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土ブロック微量 10 黄褐色 ローム粒子少量
5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 11 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量
6 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第111図 第97号住居跡実測図

ピット 確認されなかった。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

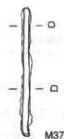
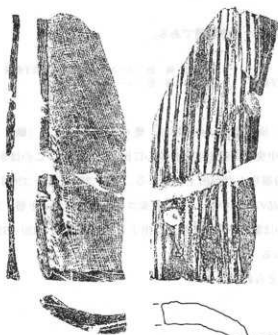
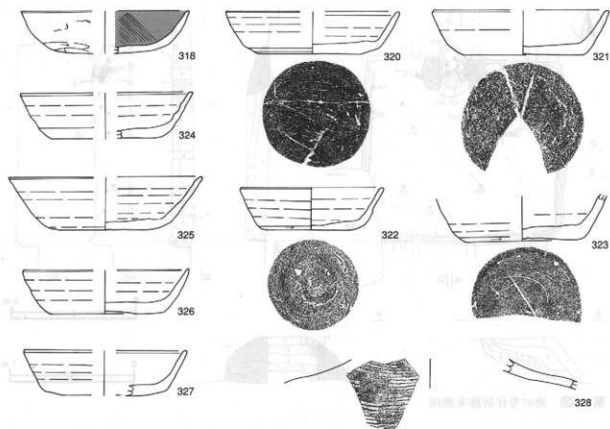
- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片45点(坏7, 甕38), 須恵器片38点(坏32, 甕6), 鉄製品1点(鐵), 瓦2点, 石17点が出土している。これらの遺物は室内及び中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点、攪乱により混入した陶器片1点が出土している。318・320・321・326は室内の覆土中層, 322は室内と東部の覆土中層, 323は南東部の覆土中層, 324は北東コーナー部の覆土下層, 325は中央部の覆土下層, 327・328は中央部の覆土中層, T10は竈脇の覆土下層から出土している。318・320・321・324・326・327は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第97号住居跡出土遺物観察表(第112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
318	土師器	坏	[13.2]	4.4	-	長石・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端へラ削り、内面へラ磨き	室内中層	35% 内面黒色化粧
320	須恵器	坏	[13.6]	3.5	7.9	長石	灰白	普通	ロクロ整形、底部回転へラ切り後一方方向へラ削り	室内中層	70% へラ記号「キ」 PLR2
321	須恵器	坏	[13.9]	3.6	9.7	長石	灰	普通	ロクロ整形、底部回転へラ切り	室内中層	95% へラ記号「キ」 PLR2
322	須恵器	坏	11.2	3.5	7.1	長石・赤色粒子	灰	普通	ロクロ整形、底部回転へラ削り後チナ	室内中層	70% PL71
323	須恵器	坏	-	(3.6)	8.9	長石・白色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形、底部回転へラ削り	南東部中層	80% へラ記号「キ」 PLR3



第112図 第97号住居跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
324	須恵器	坏	[13.6]	3.7	[8.8]	長石・石英	灰白	普通	ロクロ成形, 底部回転ヘリ切り後ナデ	北東隅下層	50%
325	須恵器	坏	[15.8]	4.2	7.5	粘土・磁子・燧	黄灰	普通	ロクロ成形, 底部回転ヘリ切り	中央部下層	50%

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
326	須恵器	坏	[13.0]	3.5	9.0	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形、底部回転へう切り後一方のへう削り	竈内中層	35%
327	須恵器	坏	[12.8]	3.6	[9.6]	長石・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	底部回転へう切り後一方へう削り	中央部中層	20% 底部に植物繊維痕
328	灰陶胎器	短蓋	-	(2.4)	-	鐵密	鉛黄1-7	普通	ロクロ整形、掛け焼	中央部中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	徴	出土位置	備考
M27	鐵	(10.3)	(0.5)	0.4	(4.3)	鐵	鐵身部欠損、断面方形		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特	徴	出土位置	備考
T10	平瓦	(22.5)	(7.5)	1.9	(411)	長石・赤色粒子	凸面平行叩き痕、凹面叩き痕・未切り痕あり		竈脇下層	PL84

第98号住居跡 (第113・114図)

位置 中央1区東部T45a5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸5.11m、短軸5.06mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は34cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4-10cmで、全周している。北東コーナー部の床面に焼土や粘土を含む円形形状の掘り込みが確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて、袖部の一部と煙道部が破壊されており、遺存状態は不良である。規模は奥口部から煙道部までの長さ122cm、袖部幅121cmほどで、煙道部が壁外へ48cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほほ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。焼土ブロックを含む粘土でできた天井部は崩落し、竈土層断面図中、第4層が相当する。袖部は焼土ブロック混じりの灰黄褐色あるいは暗褐色をした粘土で構築されている。竈土層断面図中、第16-18層が相当する。竈土層断面図中、第2層は天井部の崩落しなかった土層であり、第15層は煙道部に貼り付けられた粘土で、両層とも被熱で赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 12 褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 14 褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 17 灰黄褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量 |
| 9 灰褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 18 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |

ピット 7か所。P1-P4は深さ54-76cmで、中央部から各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5は深さ27cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ28cmで、北東コーナー部に位置し、断面U字状で、覆土に焼土や粘土が確認され、遺物の出土がないことから、灰溜まりのような住居内土坑の可能性はあるが、不明である。P7は深さ13cmで中央部東寄りに位置しているが、対応する柱穴が確認できないことから、その性格は不明である。

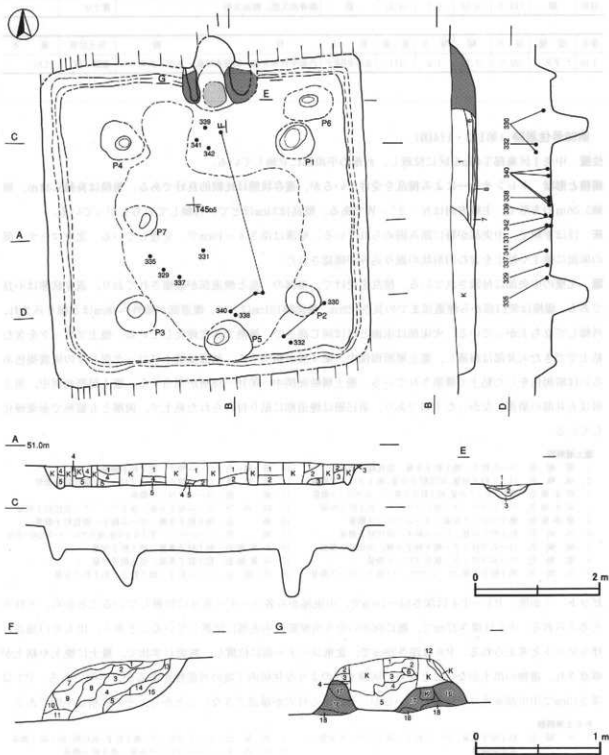
P6土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-------------------------|
| 1 灰褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 |
| | | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

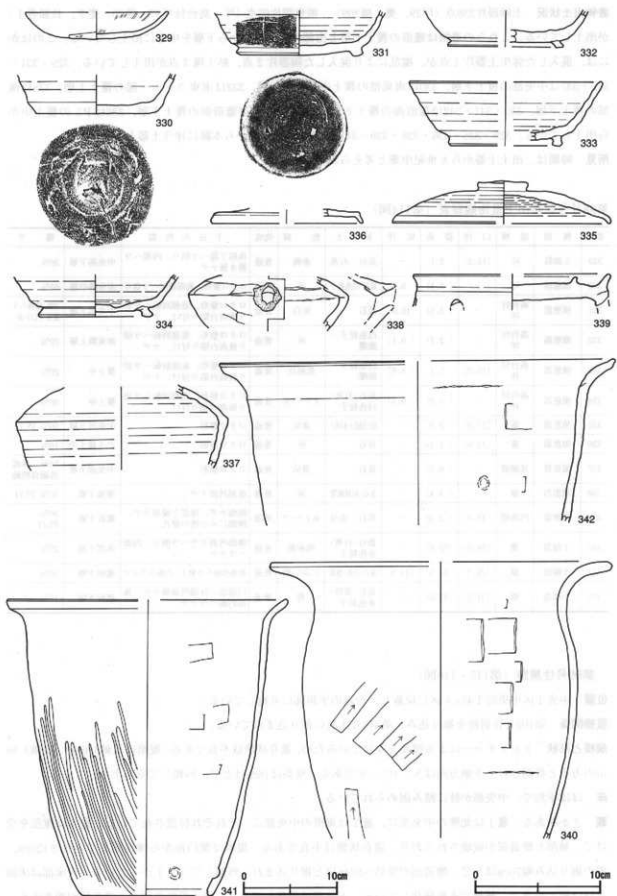
覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック少量 |



第113図 第98号住居跡実測図



第114图 第98号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片238点(坏29, 甕・瓶209), 須恵器片65点(坏・高台付坏37, 壺20, 甕7, 長頸壺1)が出土している。これらの遺物は竈前の覆土下層と南部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには, 混入した弥生土器片1点が, 攪乱により混入した陶器片2点, 粘土塊3点が出土している。329・331・335・337は中央部の覆土下層, 330は南東部の覆土中層及び上層, 332は南東コーナー部の覆土上層, 338は南部の覆土下層, 339・341・342は竈前面の覆土下層, 340は南部及び竈前面の覆土下層, 336はP5の覆土中から出土している。329・335・336・338・339・341・342は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第98号住居跡出土遺物観察表(第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
329	土師器	坏	[11.2]	2.1	-	長石・石英	赤褐色	普通	外部下縁へう削り, 内面へう磨き後ナデ	中央部下層	30%
330	須恵器	坏	-	(3.1)	9.4	長石・白色粒子	灰	普通	ロクロ整形, 底部回転へう切り	南東隅中層	60%
331	須恵器	高台付坏	-	(3.5)	10.0	長石	灰白	普通	ロクロ整形, 底部回転へう切り後高台貼り付け, ナデ	中央部下層	70% 外部へう磨き PL71-61
332	須恵器	高台付坏	-	(2.7)	[9.1]	白色粒子・隈礫	灰	普通	ロクロ整形, 底部回転へう切り後高台貼り付け, ナデ	南東隅上層	20%
333	須恵器	高台付坏	[15.2]	5.1	[8.6]	白色粒子・隈礫	黒褐色	普通	ロクロ整形, 底部回転へう切り後高台貼り付け, ナデ	覆土中	20%
334	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	[9.0]	長石・石英・白色粒子	オリブ黒	普通	ロクロ整形, 底部回転へう切り後高台貼り付け	覆土中	30%
335	須恵器	壺	[17.2]	3.3	-	珪藻類・粘土	黄灰	普通	ロクロ整形	中央部下層	50% PL71
336	須恵器	壺	[11.8]	(1.1)	-	長石	灰	普通	ロクロ整形	P5覆土中	10%
337	須恵器	長頸壺	-	(6.5)	-	長石	黄灰	普通	ロクロ整形	中央部下層	10% 外部外面自然釉
338	須恵器	甕	-	(4.4)	-	長石・骨状動物	灰	普通	外部外面ナデ	南部下層	30% PL71
339	須恵器	円面甕	[15.4]	(2.3)	-	長石・雲母	灰オリブ	普通	縦面ナデ, 海部と縁部ナデ, 脚部に6か所の穿孔	竈前下層	30% PL71
340	土師器	甕	[26.5]	(22.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外部外面下半へう削り, 内面へうナデ	南部下層	25%
341	土師器	瓶	[29.2]	31.5	[13.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外部外面へう磨き, 内面へうナデ	竈前下層	50%
342	土師器	瓶	[31.2]	(13.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部~外部外面横ナデ, 内部内面へうナデ	竈前下層	15%

第99号住居跡(第115・116図)

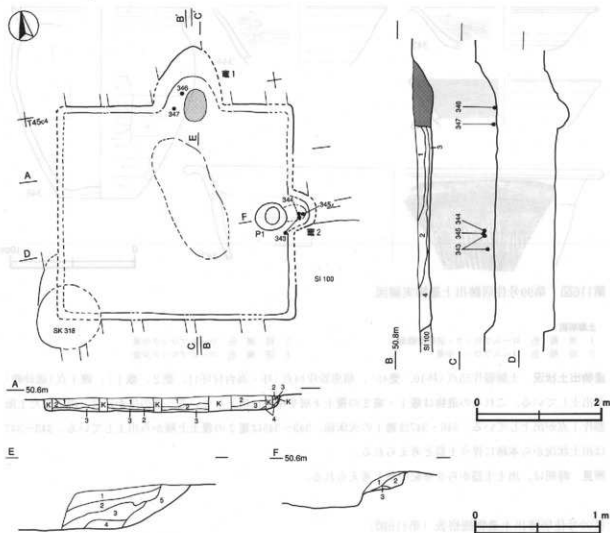
位置 中央1区中央部T45c4区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第100号住居跡を掘り込み, 第318号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。規模は長軸3.65m, 短軸3.45mの方形と推測され, 主軸方向はN-10°-Eである。壁高は18cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。

竈 2か所ある。竈1は北壁の中央部に, 竈2は東壁の中央部に, それぞれ付設されている。竈1は攪乱を受けて, 袖部と煙道部が破壊されており, 遺存状態は不良である。規模は焚口部から煙道部までの長さ120cm, 壁の掘り込み幅76cmほどで, 煙道部が壁外へ92cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで, 被熱で赤変硬化している。天井部は崩落しており, 竈土層断面図中, 第5層が相当する。袖部はわずかな痕跡を残存している。残存部分から天井部同様の焼土泥じりのにぶい黄褐色の粘土で構築され



第115図 第99号住居跡実測図

ていたと推測される。袖部は中央部への張り出しがあまり見られない形態と推測される。竈2も攪乱を受けて、袖部と煙道部が破壊されているため、遺存状態は不良である。規模は壁の掘り込み幅76cmほどで、煙道部が壁外へ38cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱による焼土の広がりにはわずかに確認できる程度である。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第1層が相当する。袖部は残存していない。竈1からは土製支脚と土師器甕、須恵器甕が、竈2からは被熱痕のある礫片と土師器甕片が出土している。竈1、竈2の遺存状態とP1の位置から、竈2から竈1に作り替えられたと考えられる。

竈1土層解説

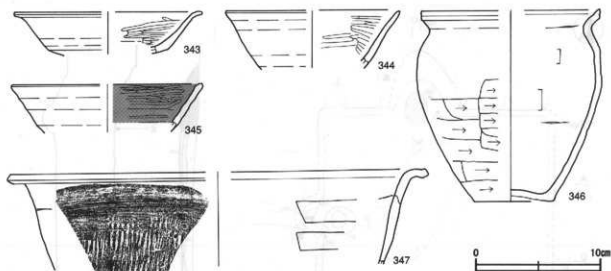
- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 にぶい赤褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック微量 | |

竈2土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 3 赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |

ピット P1は深さ20cmで、竈2の前面に位置する。硬化面の広がり具合から、竈1の時期の出入り施設に伴うピットとも考えられるが、その性格は不明である。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



第116図 第99号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック中量
 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片55点(環10, 甕45), 須恵器片14点(環・高台付環11, 甕2, 甌1), 碟1点(破砕碟)が出土している。これらの遺物は竈1・竈2の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片1点が出土している。346・347は竈1の火床面, 343~345は竈2の覆土上層から出土している。343~347は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第99号住居跡出土遺物観察表 (第116図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
343	土師器	環	[14.8]	(3.4)	-	-	灰赤褐色	にぶい橙	普通	ロクロ成形, 体部内面ヘラ磨き	竈内上層	20%
344	土師器	環	[13.6]	(4.4)	-	-	灰赤褐色	明赤褐	普通	ロクロ成形, 体部内面ヘラ磨き	竈内上層	10%
345	土師器	環	[15.0]	(3.8)	-	-	長石・石英	橙	普通	ロクロ成形, 体部内面ヘラ磨き	竈内上層	10% 内面黒色処理
346	土師器	甕	[14.1]	15.3	6.3	-	灰赤褐色	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	竈内底面	95% PL71
347	須恵器	甌	[32.8]	(7.6)	-	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	竈内底面	10%

第100号住居跡 (第117・118図)

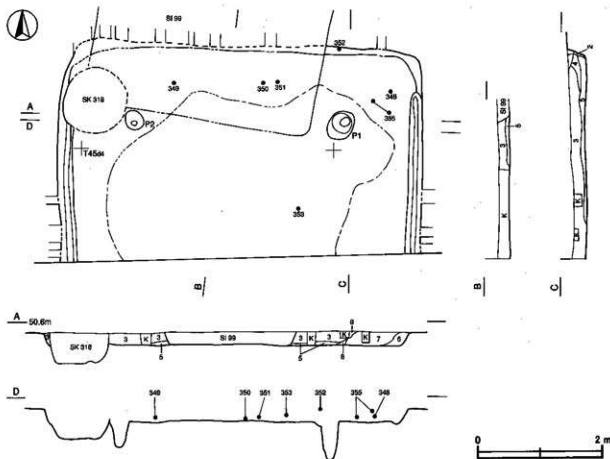
位置 中央1区中央部のT45c4区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第99号住居・第318号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部は調査区域外へ延びており, 北部は第99号住居に掘り込まれ, さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸5.80m, 南北軸3.35mで, 平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はN-90°-Eである。壁高は20cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで, 東壁際と西壁際で確認された。

竈 北壁の中央部付近の床面から焼土と粘土が確認されていることから, 北壁に付設されていた可能性があ



第117図 第100号住居跡実測図

り、第99号住居に掘り込まれた際に破壊されたと考えられる。

ピット 2か所。P1・P2は深さ60・50cmで、中央部の北東コーナー寄り・北西コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。

覆土 8層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

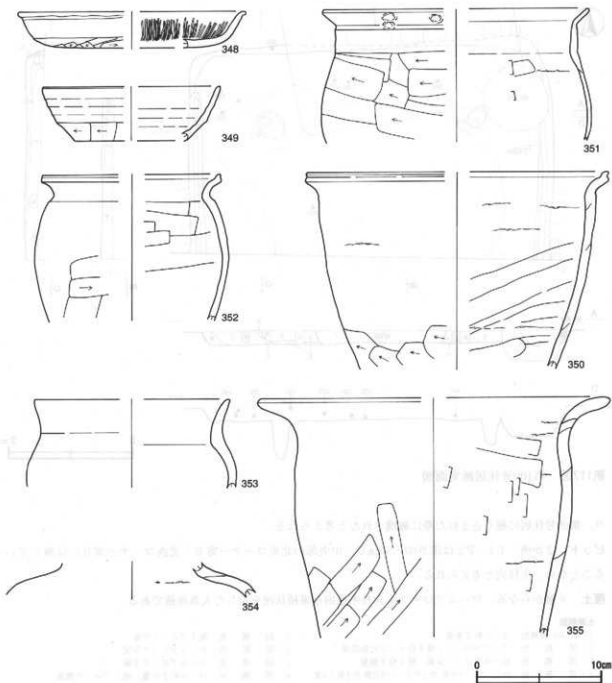
- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------------|---|-----|------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子多量 | 5 | 暗褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 8 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片150点(坏21, 甕129), 須恵器片28点(坏11, 蓋1, 甕6)が出土している。これらの遺物は北部の覆土中層を中心に出土している。このほかには、擾乱により混入した陶器片2点, 粘土塊2点が出土している。348は北東コーナー部の覆土下層, 349は北西部の覆土下層, 350・351は中央部北寄りの覆土下層, 352は北部の覆土上層, 353は中央部の覆土中層, 355は北東コーナー部の覆土中層及び下層から出土している。348~351は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第100号住居跡出土遺物観察表(第118図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
348	土師器	坏	[17.9]	4.0	-		白色粒子	赤褐	普通	体部下端ヘラ削り、内面ヘラ磨き	北東層下層	30%



第118図 第100号住居跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
349	須恵器	坏	[13.8]	(4.3)	-	長石・黒耀	灰	普通	ロクロ整形, 体部下端手持ちヘラ削り	北西隅下層	10%
350	土師器	飯	[23.8]	(15.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端ヘラ削り, 内面ヘラナゲ	北部下層	10%
351	土師器	甕	[20.0]	(10.6)	-	石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナゲ	北部下層	10%
352	土師器	甕	[14.0]	(11.7)	-	長石・赤色粒子	灰	普通	体部外面ヘラ削り, 内面明確なヘラナゲ	北部上層	10%
353	土師器	甕	[15.2]	(7.1)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内外面床面ナゲ	中央部下層	10%
354	須恵器	長頸壺	-	(3.7)	-	雲母・黒色粒子・赤色粒子	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10% 輪痕み痕

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
355	土師器	瓶	[27.2]	(19.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面へウナナ、内面へウナナ	北東隅下層	30%

第102号住居跡 (第119・120図)

位置 中央1区中央部南西寄りT44d7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びており、トレンチャーによる攪乱も受けて、竈部分が破壊されているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.40m、短軸2.32mで、平面形は方形または長方形と推測される。主軸方向はN-7°-Eである。壁高は32~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8~12cmで、確認できた壁際を巡っている。
竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。攪乱を受けて、煙道部と袖部が破壊されおり、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ107cm、両袖幅136cmほどで、煙道部が壁外へ68cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。奥壁も被熱で変色している。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ、被熱で変色硬化している。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第5層が相当する。袖部は痕跡である粘土が床面で確認できる程度である。竈内から土師器壺と共に、ほぼ完形の丸瓦が凸面を火床面にした状態で出土している。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック微量
5	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック微量
6	黒褐色	ローム粒子少量	12	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ43・63cmで、北東・北西各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

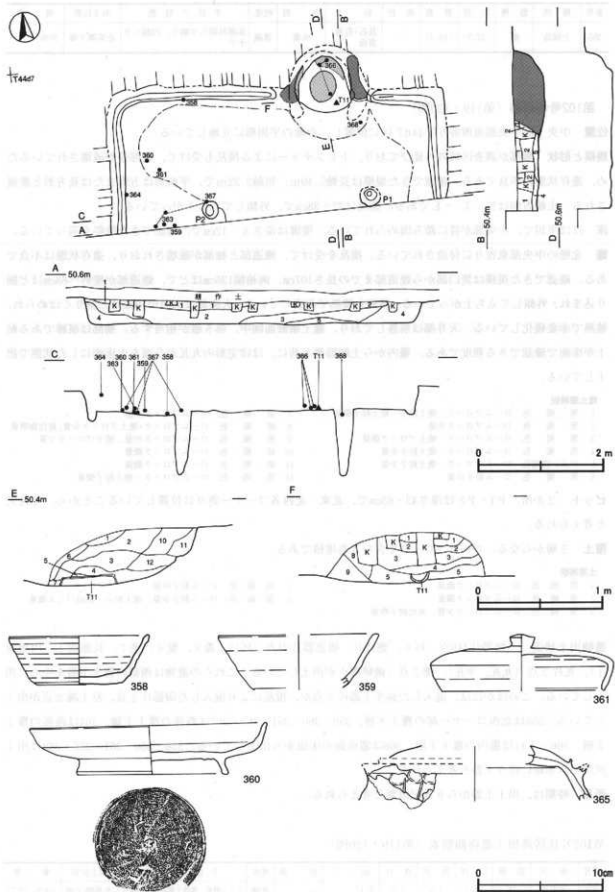
1	黒褐色	ロームブロック微量	4	黒褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ロームブロック微量	5	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・鹿沼パミス微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片119点(坏6, 壺113), 須恵器片31点(坏10, 蓋8, 盤4, 甕7, 長頸壺1, 円面碗1), 瓦片2点(丸瓦, 平瓦), 礫2点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は西部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片2点が、攪乱により混入した陶器片2点, 粘土塊2点が出土している。358は北西コーナー部の覆土下層, 359・360・361・363・367は西部の覆土下層, 364は西部の覆土上層, 366・T11は竈内の覆土下層, 368は竈前面の床面から出土している。358・360・361・366・368は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

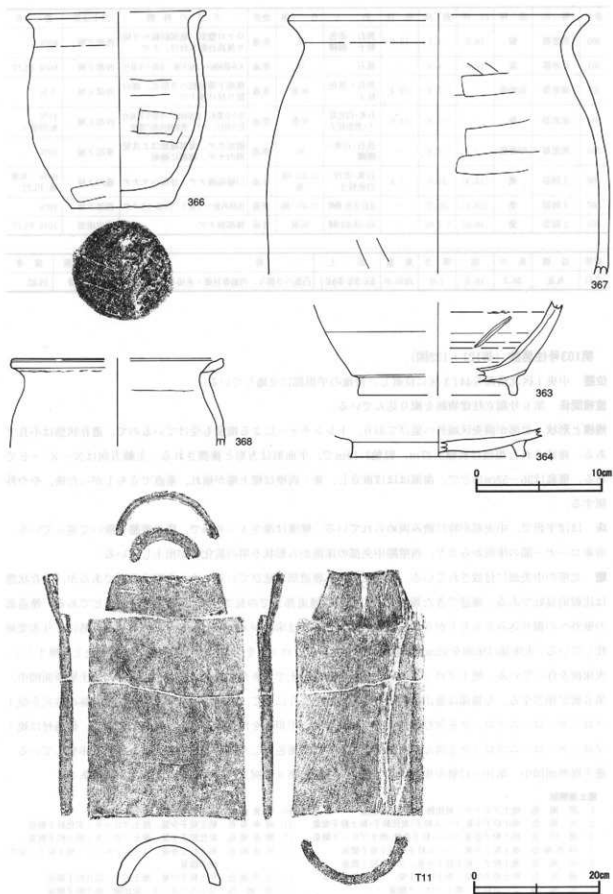
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第102号住居跡出土遺物観察表 (第119・120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
358	須恵器	坏	11.0	4.9	7.0	長石	灰	普通	口クロ整形, 体部下部回転へウナナ	北西隅下層	100% PL72
359	須恵器	坏	[12.6]	(4.3)	-	長石	灰	普通	口クロ整形	西部下層	10%



第119図 第102号住居跡・出土遺物実測図(1)



第120图 第102号住居跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
360	須臾器	盤	18.6	4.1	12.0	長石・赤色 粒子・微塵	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け、ナデ	西部下層	60%
361	須臾器	蓋	[12.8]	4.5	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ切り後一方ヘラ振り	西部下層	60% PL72
363	須臾器	短頸鉢	-	(7.4)	[12.4]	長石・黒色 粒子	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り、高台貼り付け後ナデ	西部下層	5%
364	須臾器	盤	-	(2.2)	[14.0]	石英・白色 粒子・黒色 粒子	灰黄	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け、ナデ、後後内面の磨削	西部上層	15% 転用磁 _ホ
365	須臾器	円蓋	-	(4.4)	-	長石・石英・ 微塵	灰	普通	砥面ナデ、海部線部は工具使用のナデ、脚部に磨削	東部下層	10%
366	土師器	甕	[13.9]	15.6	7.8	石英・霞母・ 白色 粒子	にぶい赤 褐	普通	口縁部横ナデ、体部ヘラナデ	壺内下層	60% 木葉 痕 PL72
367	土師器	甕	[23.4]	(20.7)	-	長石・石英・ 微塵	にぶい褐	普通	体部外側ヘラ削り、内面ヘラナデ	西部下層	10%
368	土師器	甕	[16.6]	(7.0)	-	灰石・赤土 微塵	灰黄	普通	体部横ナデ	壺内床面	10% PL72

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
T11	瓦丸	38.7	16.5	1.9	2270.0	長石・霞母・黒色 粒子	凸面ヘラ削り、凹面布目痕・糸切り、横骨痕あり	壺内下層	PL85

第103号住居跡 (第121・122図)

位置 中央1区北西部S44f3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第6号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、トレンチャーによる掘削も受けているので、遺存状態は不良である。確認された規模は長軸3.27m、短軸3.19mで、平面形は方形と推測される。主軸方向はN-8°-Eである。壁高は36~52cmほどで、南部はほぼ直立し、東・西壁は壁上端が崩れ、垂直で立ち上がった後、やや外傾する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで、甕の東脇を除いて通っている。

南東コーナー部の床面からカヤ、西壁際中央部の床面から形状不明の炭化材が出土している。

甕 北壁の中央部に付設されている。調査区域外へ煙道部が延びているため、全容は不明であるが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ72cm、袖部幅131cmほどである。煙道部の壁外への掘り込みと立ち上がりは不明である。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱により赤変硬化している。火床部は床面を32cmほど掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土あるいは黒褐色土を埋土して、火床面を作っている。焼土ブロック・炭化粒子を含む粘土でできた天井部は崩落しており、甕土層断面図中、第6層が相当する。左袖部は地山に粘土を貼り付けたようにして、右袖部は第6号掘立柱建物跡の柱穴を焼土ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土で埋土して、平坦部を作り、その上に構築している。構築材は焼土ブロック・ロームブロックを含んだ灰黄褐色あるいは暗褐色をした粘土である。内壁も被熱で赤変している。

甕土層断面図中、第10~17層が相当する。第7・9層は第6号掘立柱建物跡を埋土した土層である。

甕土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	10	灰黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
2	灰褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	11	暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3	褐灰色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量	12	暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子微量	13	灰黄褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量			
6	褐灰色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	14	灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量	15	暗褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子少量	17	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット 確認されなかった。

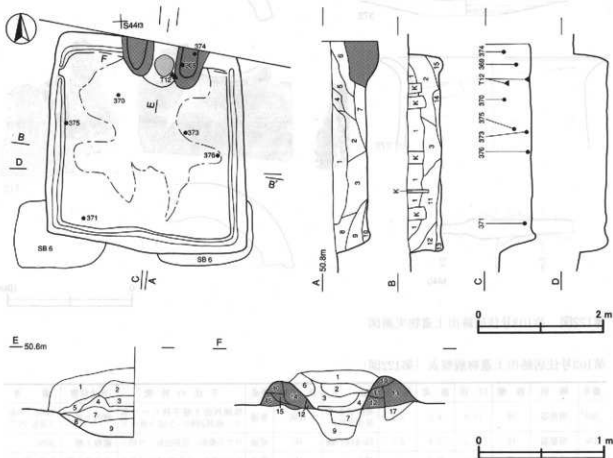
覆土 15層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

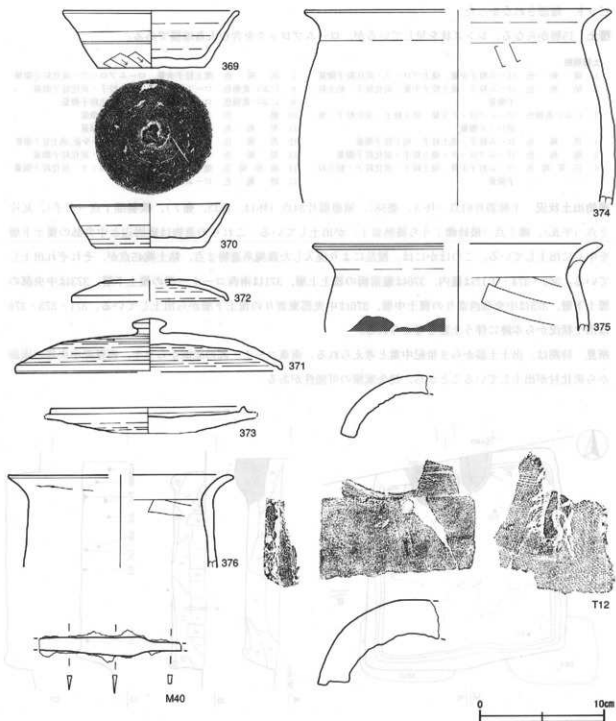
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7 灰褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	8 にぶい黄褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい黄褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量	9 にぶい黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
6 灰黄褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
		13 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
		14 暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量
		15 暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片61点(坏3, 甕58), 須恵器片34点(坏14, 壺13, 甕7), 鉄製品1点(刀子), 瓦片2点(平瓦), 礫7点(破砕礫;うち被熱痕1)が出土している。これらの遺物は竈周辺と中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した鉄塊系遺物2点, 粘土塊45点が、それぞれ出土している。369・374・T12は竈内, 370は竈前面の覆土上層, 371は南西コーナー部の覆土下層, 373は中央部の覆土下層, 375は中央部西寄りの覆土中層, 376は中央部東寄りの覆土下層から出土している。371・373・376は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。南東コーナー部の床面からカヤ、西壁際中央部の床面から炭化材が出土していることから、焼失家屋の可能性がある。



第121図 第103号住居跡実測図



第122図 第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
369	須恵器	坏	13.8	4.6	8.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面下瀬手持ちヘラ削り、底部回転ヘラ切り後ナダ	竈内上層	100% 外面工具痕 PL72
370	須恵器	坏	[12.5]	3.4	8.7	長石・赤土・黒土	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り	竈内上層	30%
371	須恵器	蓋	[21.0]	9.2	-	長石	灰	普通	ロクロ整形、天井部回転ヘラ削り	南西隅下層	50% PL72
372	須恵器	蓋	[12.3]	(1.7)	-	長石・赤土・黒土	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	25%
373	須恵器	高盤	15.3	(2.1)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、体部下瀬回転ヘラ削り	中央部下層	筋転削り 欠片

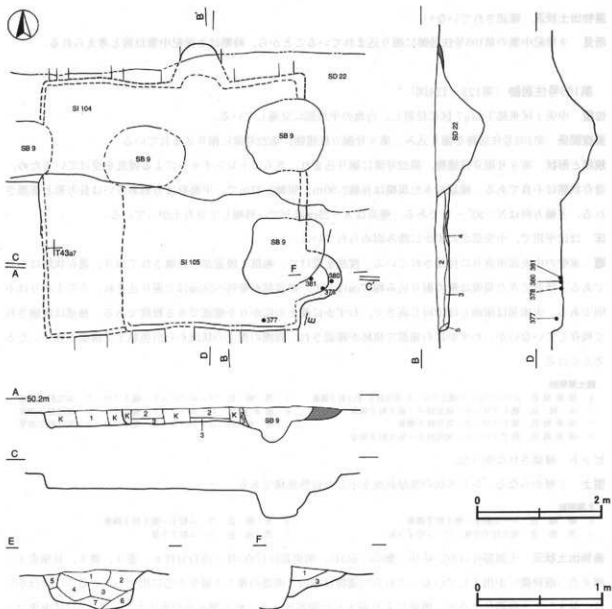
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	土師器	壺	[24.2]	(15.6)	-	灰緑黄緑灰	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ, 体部ヘラナデ	竈内上層	10% 二次焼成
375	土師器	壺	[22.5]	(7.0)	-	灰石・赤色胎土	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	西部中層	10% 保付着
376	土師器	瓶	[17.4]	(7.4)	-	灰石・赤色胎土	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	東部下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M40	刀子	(11.2)	1.6	0.4	(20.8)	鉄	刀身先端部・基部先端欠損		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特	徴	出土位置	備考
T12	瓦丸	(11.0)	(9.6)	3.0	(304.0)	灰石・赤色胎土	凸面平行引き紙, 凹面赤目板・糸切り痕あり, 唇面ヘラ切り		竈内上層	

第104号住居跡 (第123図)

位置 中央1区西部S43j7区に位置し, 台地の平坦部に立地している。



第123図 第104・105号住居跡実測図

重複関係 第289号土坑を掘り込み、第105号住居、第9号掘立柱建物、第22号溝にそれぞれ掘り込まれている。
規模と形状 第105号住居、第9号掘立柱建物、第22号溝にそれぞれ掘り込まれ、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.23m、短軸4.12mで、平面形は方形と推測される。主軸方向はN-1°-Wである。壁高は20~26cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面・壁溝は確認できなかった。

竈 北壁の中央部に付設されている。第22号溝に掘り込まれているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は壁の掘り込み幅88cmで、煙道部の壁外への掘り込みが62cmで、外傾して立ち上がっている。火床部と考えられる焼土の広がりかわずかに確認されただけである。

ピット 確認されなかった。

覆土 単一層である。残存部分が少なく不明な点が多いが、堆積状態は自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 確認されていない。

所見 9世紀中葉の第105号住居跡に掘り込まれていることから、時期は9世紀中葉以前と考えられる。

第105号住居跡 (第123・124図)

位置 中央1区東部T43a7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第104号住居跡を掘り込み、第9号掘立柱建物、第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第9号掘立柱建物、第22号溝に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸2.90m、短軸2.37mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はN-93°-Eである。壁高は8~25cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部がわずかに踏み固められている。

竈 東壁の中央部南寄りに付設されている。攪乱を受けて、袖部と煙道部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は壁の掘り込み幅87cmほどで、煙道部が壁外へ56cmほど掘り込まれ、立ち上がりは不明である。火床部は床面とほぼ同じ高さで、わずかに焼土の広がりを確認できる程度である。袖部は破壊されて残存していないが、わずかに右袖部で痕跡が確認され、周囲の覆土の状況から白色粘土で構築されていたと考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | |

ピット 確認されなかった。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

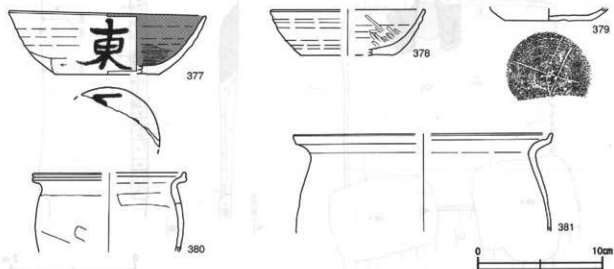
土層解説

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片113点(坏16, 甕63, 壺34), 須恵器片17点(坏・高台付坏6, 蓋4, 甕6, 長頸壺1), 礫8点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は竈内と南部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片2点が、攪乱により混入した陶器片2点、粘土塊8点が出土している。377は南東コーナー部の覆土中層、378・380・381は竈内から出土している。378・380・381は出土状況から本跡に伴う土器と

考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第124図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表 (第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
377	土師器	坏	15.5	(4.7)	8.2	長石・石英	にぶい椀	普通	体部下端手持ちへら削り・内面黒色処理後へら磨き	南東隅中層	50% 体部磨き 〔東〕 底部磨き □ FL27-79
378	土師器	坏	[12.2]	3.7	7.5	長石・黒色 粒子	明燭	普通	体部内面へら磨き、底部回転へら切り後ナデ	竈内下層	25%
379	土師器	坏	-	[1.0]	7.0	長石・赤色 粒子・黒色 粒子	にぶい椀	普通	底部回転へら切り後ナデ	覆土中	20% へら 記号「十」
380	土師器	羹	[12.0]	(6.3)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面ナデ、内面へらナデ	竈内下層	10%
381	土師器	羹	[20.4]	(7.8)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部内外面ナデ	竈内下層	10%

第108号住居跡 (第125図)

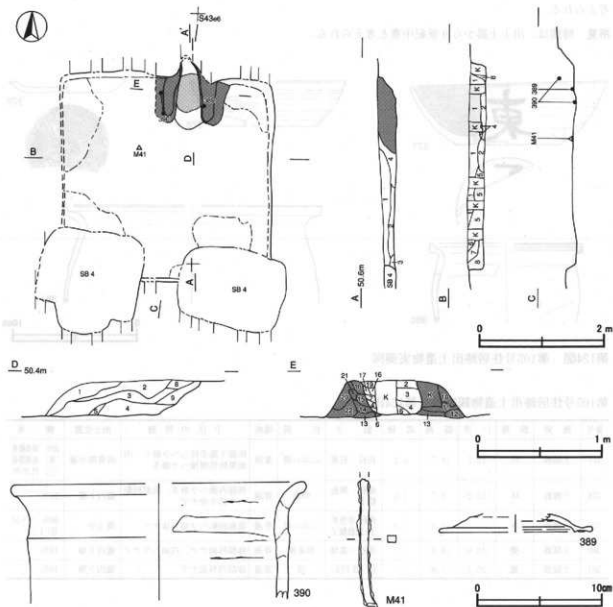
位置 中央1区西部北寄りS43e5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第4号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.36m、短軸2.70mの長方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は16~26cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、四隅を除いて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。擾乱を受けて、袖部の一部と煙道部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ120cm、袖部幅118cmほどで、煙道部が壁外へ32cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、被熱で赤変硬化している。焼土ブロックを含む粘土でできた天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第4層が相当する。袖部は焼土ブロック混じりの灰黄褐色をした粘土で構築されている。竈土層断面図中、第10~15・20~22層が相当する。



第125図 第108号住居跡・出土遺物実測図

竪土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 灰黄褐色 | 炭化粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック微量 | 17 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量 | 18 灰黄褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 19 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 9 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 21 暗褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 22 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 11 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 12 褐色 | ローム粒子多量 | | |

ピット 確認されていない。

覆土 8層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	6 黒褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子中量、焼土粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片37点(坏1, 甕35, 不明1), 須恵器片3点(坏2, 不明1), 土製品1点(不明), 鉄製品1点(鏃)が出土している。これらの遺物は竈前及び中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点が、攪乱により混入した炉壁片1点がそれぞれ出土している。389は右袖部の覆土下層, 390は左袖部の覆土下層, M41は中央部の覆土下層から出土している。389・390は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。

第108号住居跡出土遺物観察表(第125図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
389	須恵器	甕	[12.0]	(1.4)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	右袖部下層	10%
390	土師器	甕	[23.0]	(9.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ・内面ヘラナデ	左袖部下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M41	不明	(10.3)	0.7	0.5	(25.1)	鉄	断面方形	中央部下層	

第109号住居跡(第126・127図)

位置 中央1区西部S43i5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第9号掘立柱建物, 第22号溝, 第294・295号土坑に掘り込まれている。

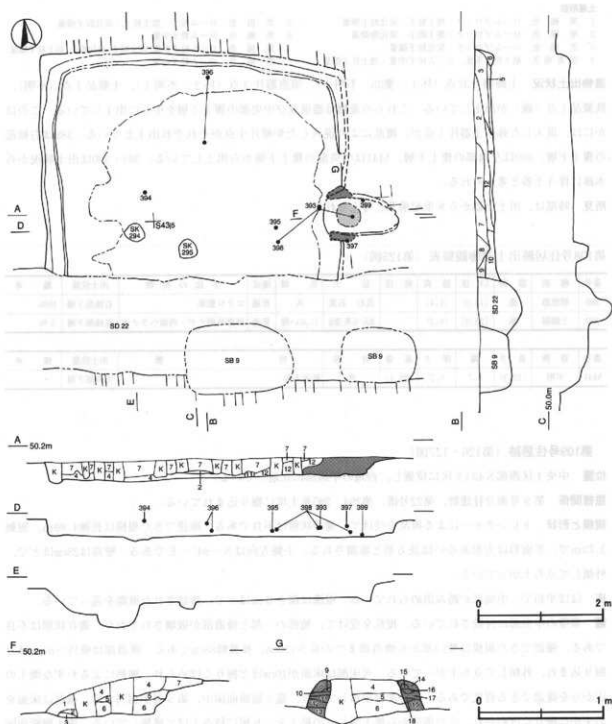
規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けて、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.89m, 短軸3.73mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はN-94°-Eである。壁高は28cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ8cmほどで、確認された壁際を巡っている。

竈 東壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて、袖部の一部と煙道部が破壊されており、遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ120cm, 袖部幅88cmである。煙道部は壁外へ84cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ、被熱によるわずかな焼土の広がりを確認できる程度である。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第5層が相当する。袖部は床面をわずかに掘りくぼめられ、その部分から焼土混じりの粘土を、互層に積み上げて構築している。竈土層断面図中、第8～19層が相当する。

竈土層解説

1 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量	
2 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	12 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	
3 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 灰褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	
4 黒褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 灰褐色	粘土粒子多量	
5 黒褐色	焼土ブロック少量	15 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	
6 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	16 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子中量	
7 暗褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量	17 灰黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量	
8 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量	18 灰褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量	
9 黒褐色	粘土粒子多量	19 褐色	灰褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
10 灰褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量			



第126図 第109号住居跡実測図

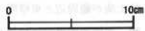
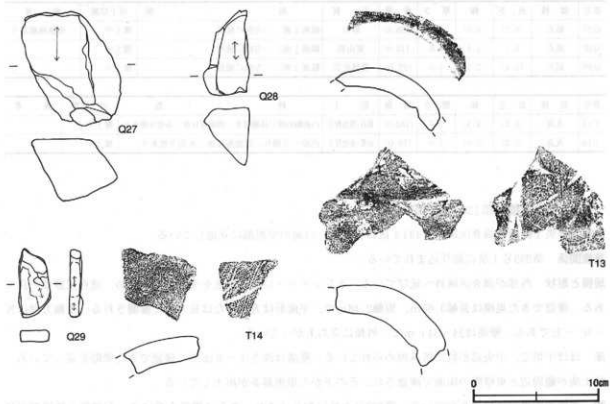
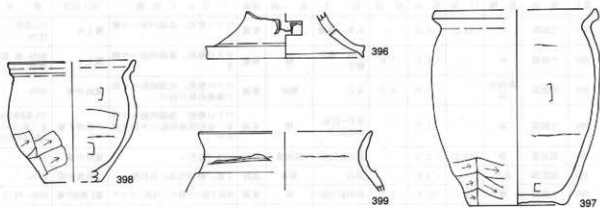
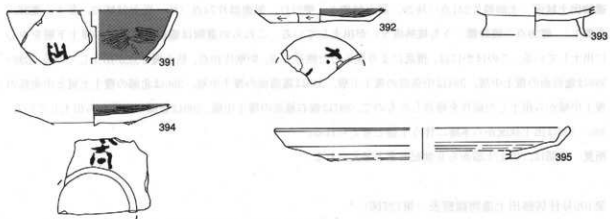
ピット 確認されなかった。

覆土 12層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 | 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |

- | | | |
|----|--------|----------------|
| 7 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 | にぶい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 9 | 灰黄褐色 | ローム粒子・粘土ブロック微量 |
| 10 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 11 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 12 | にぶい黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |



第127图 第109号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片241点(坏29, 高台付皿1, 甕211), 須恵器片74点(坏・高台付坏43, 蓋4, 甕26, 高盤1), 礫59点(破砕礫:うち被熱痕5)が出土している。これらの遺物は竈前と中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには, 攪乱により混入した鉄滓1点, 炉壁片10点, 粘土塊2点が出土している。393・398は竈前面の覆土中層, 394は中央部の覆土上層, 395は竈前面の覆土中層, 396は北部の覆土上層と中央部の覆土中層から出土した破片を接合したもので, 397は竈右袖部の覆土中層, 399は竈面の床面から出土している。395・399は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第109号住居跡出土遺物観察表(第127図)

番号	種別	器種	口径	径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
391	土師器	坏	[13.2]	(4.2)	-	-	石英・微塵	橙	普通	ロクロ整形, 体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□」FL79
392	土師器	坏	-	(1.1)	7.8	-	長石・赤色粒子	橙	普通	ロクロ整形, 体部内面ヘラ磨き	覆土中	10% 底部墨書「□□」
393	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[8.2]	-	長石	橘灰	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈前中層	30%
394	土師器	皿	-	(1.7)	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロ整形, 体部内面ヘラ磨き, 底部外面回転ヘラ切り後ナデ	中央部上層	30% 墨書年号片「□」※片 黒色焼痕FL79
395	須恵器	甕	[23.2]	(2.5)	-	-	胚骨・黒色粒子	暗灰黄	普通	ロクロ整形	竈前中層	20%
396	須恵器	高坏	-	(3.6)	-	-	長石	黄灰	良好	4部, 脚部外面に自然軸	中央部中層	20%
397	土師器	甕	[12.7]	15.6	7.7	-	胚骨・黒色粒子	灰	普通	体部下端ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	竈右袖部中層	60% FL73
398	土師器	小形甕	[10.0]	9.5	[4.4]	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部下端ヘラ磨り, 内面ヘラナデ	竈前中層	40% FL73
399	土師器	小形甕	[13.7]	(4.7)	-	-	胚骨・黒色粒子	橙	普通	体部内外面ヘラナデ, 裏部に工具痕	竈内床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q27	砥石	(9.2)	(8.0)	4.9	(358.0)	砂岩	砥面1面, 一方向に使用	覆土中	一部被熱痕あり
Q28	砥石	6.7	3.6	4.6	110.0	安山岩	砥面1面, 一方向に使用	覆土中	
Q29	砥石	(5.4)	(2.5)	1.0	(22.0)	雲母片岩	砥面2面, 二方向に使用	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T13	瓦丸	(9.2)	(9.3)	2.7	(182.0)	長石・黒色粒子	凸面幅の狭い長縄罫き, 西面有目痕・赤切り痕あり	覆土中	
T14	瓦丸	(5.2)	(6.0)	1.9	(78.0)	石英・赤色粒子	凸面ヘラ磨り, 西面有目痕・赤切り痕あり	覆土中	

第111号住居跡(第128・129図)

位置 中央1区西部調査区域際S43f4区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

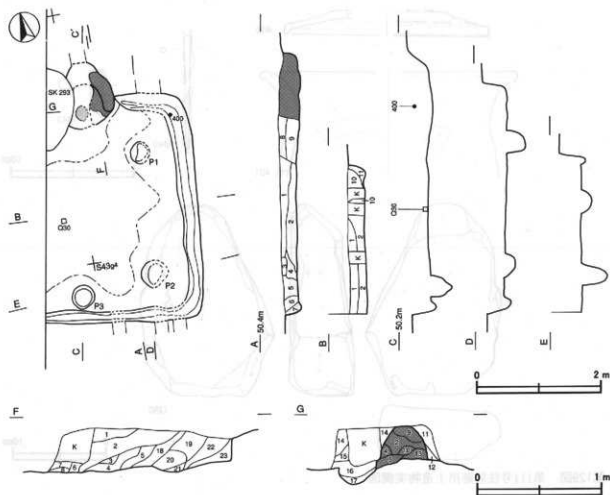
重複関係 第293号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びている。トレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.65m, 短軸2.48mで, 平面形は方形または長方形と推測される。主軸方向はN-9°-Eである。壁高は24~34cmで, 外傾に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで, 確認できた壁際を巡っている。

粘土塊が竈周辺と東壁際の床面で確認され, その下から須恵器蓋が出土している。

竈 北壁の中央部に付設されている。第293号土坑に掘り込まれ, さらに攪乱を受けて, 左袖部と煙道部が破壊されているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は焚口部から煙道部までの長さ104cm, 壁の掘り



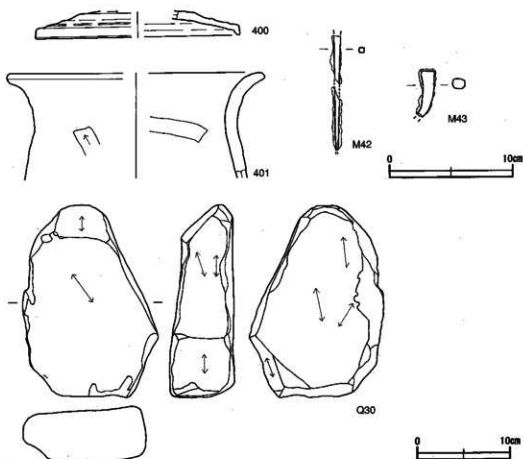
第128図 第111号住居跡実測図

込み幅68cmほどである。煙道部は壁外へ52cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっていたと推測される。火床部は床面が8cmほど掘りくぼめられ、被熱で亦変硬化している。焼土粒子・ロームブロック混じりの粘土でできた天井部は崩落しており、竈土層断面图中、第2層が相当する。袖部は地山を掘り残し、その上に焼土粒子・ロームブロック混じりの粘土を貼り付けるように構築されている。竈土層断面图中、第9・11~13層が相当する。

竈土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子少量	13 褐 灰 色	粘土ブロック多量、ローム粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量	14 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 黒 褐 色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	15 黒 褐 色	粘土粒子中量、ローム粒子少量
4 暗 灰 色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	16 暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5 灰 褐 色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	17 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
6 黄 灰 色	粘土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	18 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7 暗 褐 色	ローム粒子中量、粘土粒子少量	19 灰 褐 色	粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗 灰 色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	20 灰 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
9 灰 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	21 黒 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10 暗 褐 色	粘土粒子少量、ローム粒子微量	22 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
11 にぶい黄褐色	ローム粒子中量	23 黒 褐 色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
12 暗 褐 色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量		

ピット 3か所。P1・P2は深さ33・19cmで、中央部から北東・南東各コーナー寄りに位置していることから、支柱穴と考えられる。P3は深さ43cmで、竈に向かい合う南壁際中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第129図 第111号住居跡出土遺物実測図

覆土 11層からなる。ロームブロックを含んだ不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック少量 | 9 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 濃い褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片33点(坏3, 甕30), 須恵器片6点(坏1, 釜3, 甕2), 石器・石製品1点(砥石), 鉄製品2点(鉄鈷), 瓦片1点(平瓦), 礫6点(破碎礫)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した粘土塊7点が出土している。400は北東コーナー部の覆土中層の粘土塊の下から、正位で出土している。Q30は中央部の覆土下層から出土している。400は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第111号住居跡出土遺物観察表(第129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
400	須恵器	甕	[16.2]	(2.1)	-	長石・微礫	灰	普通	ロクロ整形, 天井部回転ヘラ周り	北東隅中層	10%
401	土師器	甕	[20.0]	(8.4)	-	長石・雲母・赤色粒子	褐	普通	体部外面ヘラ削り・内面ヘラナデ	覆土中	10%

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	出土位置	備 考
Q30	礎石	(20.4)	(14.3)	(7.0)	(2660.0)	砂岩	縦横3面、二方向に使用	中央部下層	微熱痕あり

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M42	竈カ	(9.2)	0.6	0.4	(9.6)	灰	先端部欠損	覆土中	
M43	竈カ	(3.9)	(1.5)	0.8	(8.5)	灰	先端部欠損、断面長方形	覆土中	

第112号住居跡 (第130～132区)

位置 中央1区西部S43h3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第296・417号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びており、トレンチャーによる攪乱も受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸6.15m、確認できた短軸3.95mで、平面形は方形または長方形と推測される。主軸方向はN-5°-Eである。壁高は30～49cmで、外傾に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6～10cmで、確認できた壁際を巡っている。

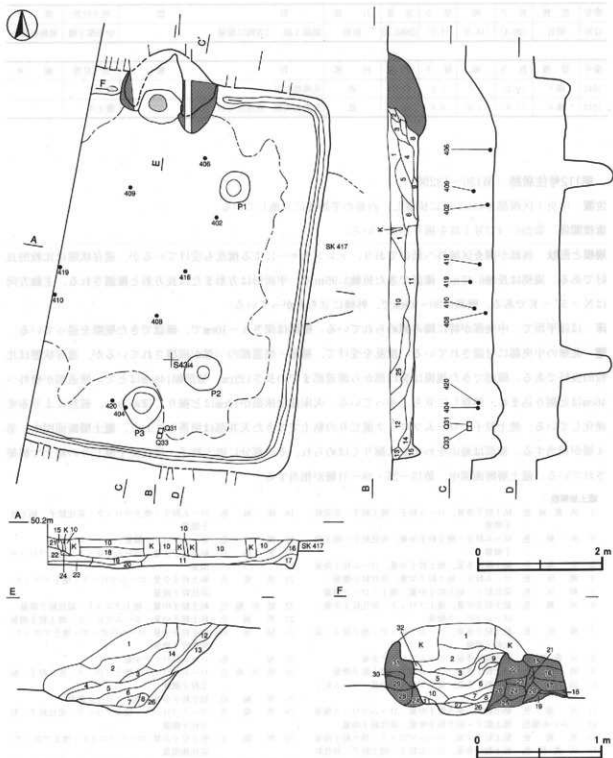
竈 北壁の中央部に付設されている。攪乱を受けて、袖部・煙道部の一部が破壊されているが、遺存状態は比較的良好である。確認できた規模は突出口から煙道部までの長さ122cm、袖部幅148cmほどで、煙道部が壁外へ46cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。火床部は床面が12cmほど掘りくぼめられ、被熱により赤変硬化している。焼土粒子・ロームブロック混じりの粘土でできた天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第4層が相当する。袖部は地山をわずかに掘りくぼめられ、その部分に焼土粒子・炭化粒子混じりの粘土で構築されている。竈土層断面図中、第15～25・28～31層が相当する。

竈土層解説

1 灰 黄 褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	18 暗 褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2 灰 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	19 暗 褐色	ロームブロック微量
3 灰 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子微量	20 黒 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
4 濁 灰色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	21 黒 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5 濁 灰色	炭化粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック微量	22 暗 赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6 灰 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量	23 黒 褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量
7 濁 灰色	粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	24 暗 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8 灰 黄 褐色	粘土粒子多量、ロームブロック少量	25 褐色	ロームブロック少量
9 濁 褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量	26 暗 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10 濁 灰色	粘土粒子多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量	27 黒 褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量
11 灰 褐色	粘土粒子・焼土粒子中量、ロームブロック微量	28 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量	29 黒 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
13 黒 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	30 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
14 灰 黄 褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	31 にぶい赤褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
15 黒 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量	32 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
16 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子微量		
17 黒 褐色	粘土粒子・ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量		

ピット 3か所。P1・P2は深さ80・83cmで、中央部から北東・南東各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P3は深さ15cmで、竈に向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 25層からなる。ロームブロックを含んだ不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

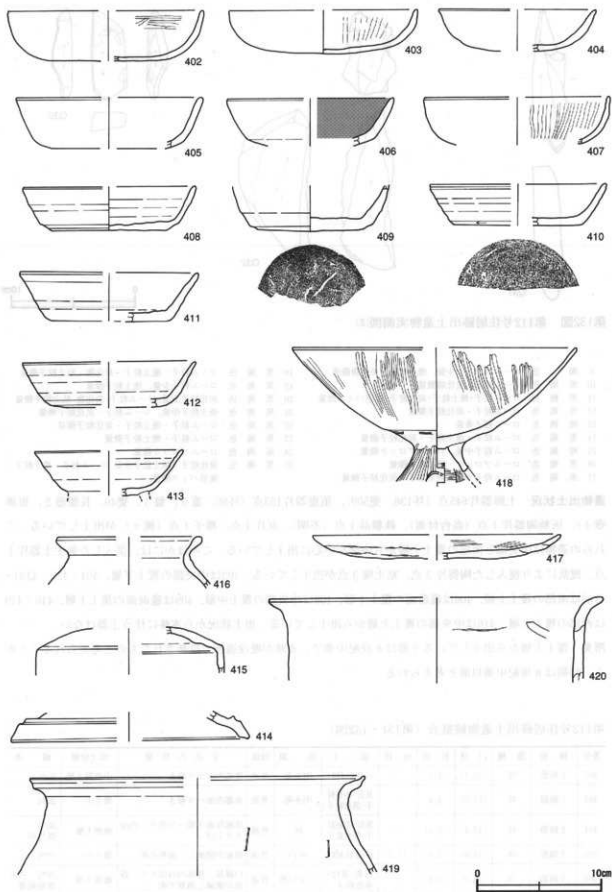


第130図 第112号住居跡実測図

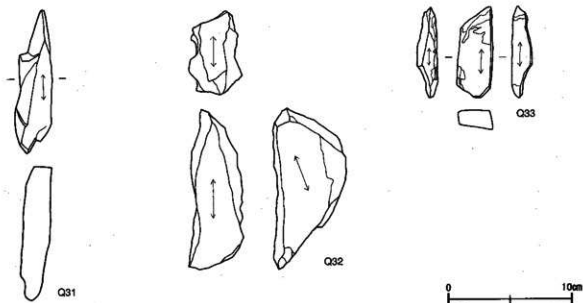
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子炭化物・粘土粒子微量
 4 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量
 7 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 8 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量



第131图 第112号住居跡出土遺物実測图(1)



第132図 第112号住居跡出土遺物実測図(2)

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|---------------------------------|
| 9 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 18 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | 19 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 11 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭屑・灰質パミス微量 | 20 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量 |
| 12 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 21 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 13 暗褐色 | ローム粒子多量 | 22 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 14 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 23 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 15 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック微量 | 24 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 25 黒褐色 | 炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭屑・パミス微量 |
| 17 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片645点(坏136, 甕509), 須恵器片153点(坏95, 壺9, 盤3, 甕40, 長頸壺2, 短頸壺4), 灰釉陶器片1点(高台付皿), 鉄製品1点(不明), 瓦片1点, 種子1点(桃カ)が出土している。これらの遺物は中央部と南部の覆土上層から中層を中心に出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点, 攪乱により混入した陶器片3点, 粘土塊3点が出土している。402は中央部の覆土下層, 404・420・Q31・Q33は南部の覆土上層, 406は竈前面の覆土下層, 408は中央部の覆土中層, 409は竈前面の覆土上層, 410・419は西部の覆土上層, 416は中央部の覆土上層から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 覆土上層から出土している土器は8世紀中葉で、本跡が埋没過程で投棄されたものと考えられることから、時期は8世紀中葉以前と考えられる。

第112号住居跡出土遺物観察表(第131・132図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底徑	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
402	土師器	坏	[15.4]	4.0	-	灰緑・緑胎	明赤褐	普通	体部内面へラ磨き	中央部下層	20%
403	土師器	坏	[15.0]	3.4	-	灰石・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	20%
404	土師器	坏	[12.4]	(3.3)	-	雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰	普通	体部外面下層へラ磨り・内面ナゲ上げ	南部上層	30% 煤付着
405	土師器	坏	[14.6]	(4.1)	[11.6]	灰緑群緑胎	灰白	普通	器面が磨減し、調整不明	覆土中	10%
406	土師器	坏	[13.2]	(3.8)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部内外面ナゲ、器面が磨減し調整不明	竈前下層	30% 内面 黒色処理
407	土師器	坏	[14.6]	(3.8)	-	灰石・雲母・白色粒子	明赤褐	普通	体部外面器面磨減し調整不明・内面へラ磨き	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
408	須恵器	環	[13.6]	3.5	8.9	灰白・黒色粒子	黄灰	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘウ切り後ナデ	中央部中層	45% PL72
409	須恵器	環	-	(3.7)	[8.4]	黄母・白色粒子 黒色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘウ切り後ナデ	甕前上層	30% ヘウ 記号「-」
410	須恵器	環	[14.0]	3.3	[10.2]	長石・白色粒子 赤色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形, 体部下端回転ヘウ削り, 底部回転ヘウ切り後ナデ	西部上層	30% ヘウ 記号「-」
411	須恵器	環	[14.0]	3.9	[10.0]	長石・石英・ 黒色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形, 外部外置工具による洗滌が高, 底部回転ヘウ切り後ナデ	覆土中	15%
412	須恵器	環	[13.6]	3.7	[9.4]	長石・白色粒子	灰	普通	ロクロ整形, 体部下端回転ヘウ削り	覆土中	40%
413	須恵器	高台付環	[11.6]	(3.3)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形, 高台貼り付け後削磨	覆土中	30%
414	須恵器	円面鏡	-	(2.3)	-	長石・石英	灰白	普通	ロクロ整形	覆土中	5%
415	須恵器	長頸壺	-	(3.7)	-	長石	暗灰	普通	ロクロ整形	覆土上層	10%
416	須恵器	壺	[11.0]	(3.8)	-	長石・黒色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形, 口縁部横ナデ	中央部上層	10%
417	土師器	皿	[19.5]	(1.9)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	外面に輪轆み痕を残し, 横ナデ, 体部下端ヘウ削り	覆土中	20%
418	土師器	高杯	[22.6]	(10.7)	-	長石・黒色 粒子	にぶい橙	普通	外部外置工具による洗滌, 内面ヘウ磨き, 厚縁孔, 外置ヘウ磨き・内面ヘウ目調整	覆土中	45% PL73
419	土師器	甕	[26.4]	(7.8)	-	灰赤・黒色 粒子	橙	普通	体部外面ナデ, 内面ヘウナデ	西部上層	10%
420	土師器	甕	[26.4]	(6.8)	-	石英・黄母・ 赤色粒子	赤褐	普通	体部内外面ヘウナデ, 外面に 工具痕を残す	南部上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q31	磁石	11.4	2.9	10.6	294.0	泥岩	紙面1面, 一方向に使用	南部上層	
Q32	磁石	12.2	5.9	4.2	300.2	泥岩	紙面3面, 一方向に使用	覆土中	
Q33	磁石	7.3	2.9	1.6	38.1	泥岩	紙面3面, 一方向に使用	南部上層	

第113号住居跡(第133図)

位置 中央2区西部T45h3区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

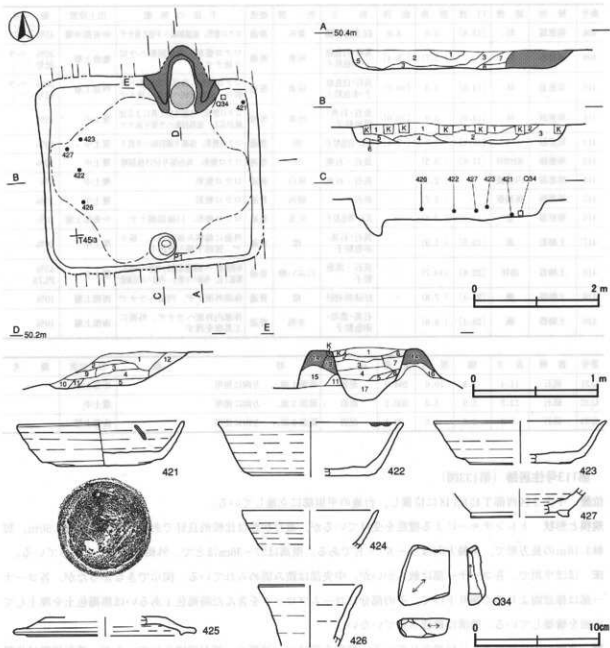
規模と形状 トレンチャーによる掘削を受けているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.50m, 短軸3.16mの長方形で, 主軸方向はN-6°-Eである。壁高は27~36cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で, 各コーナー部は軟らかいが, 中央部は踏み固められている。図示できなかったが, 各コーナー部は確認面より深く掘り下げて, その部分にロームブロックを含んだ暗褐色土あるいは黒褐色土を埋土して床面を構築している。壁溝は確認されていない。

竈 北壁の中央部東寄りに付設されている。掘削を受けて, 袖部の一部が破壊されているが, 遺存状態は比較的良好である。規模は焚口部から煙道部までの長さ110cm, 袖部幅114cmほどで, 煙道部が壁外へ52cmほど掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。火床部は床面が10cmほど掘りくぼめられ, 被熱で赤炭硬化している。焼土ブロック・ロームブロックの混じった粘土でできた天井部は崩落しており, 竈土層断面図中, 第4層が相当する。袖部は地山を掘り残して, その上に焼土ブロック・ロームブロック混じりの粘土を貼り付け構築されている。竈土層断面図中, 第13~16層が相当する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|------------------------|
| 1 灰白色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 灰黄色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗灰黄色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック・炭化物少量, 粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| | | 13 赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 14 灰赤褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子少量 |
| 6 暗灰黄色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 16 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 灰黄色 | 粘土粒子中量, 炭化物少量, ロームブロック微量 | 17 暗褐赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |



第113図 第113号住居跡・出土遺物実測図

ピット P1は深さ30cmで、竈に向かい合う南壁中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片64点(坏8, 甕・瓶56), 須恵器片27点(坏・高台付坏26, 蓋1), 灰釉陶器片3点(長頸壺), 石器1点(砥石), 鏝4点, 種子1点(桃カ)が出土している。これらの遺物は西部の覆土上層と竈周辺の覆土下層を中心に出土している。このほかには、攪乱により混入した陶器片1点, 粘土塊1点が出土して

いる。421・Q34は北東コーナ一部の覆土下層，422・426・427は西部の覆土中層，423は西部の覆土上層から出土している。421は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第113号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
421	須恵器	坏	13.1	3.5	7.0	長石・石英・白色粒子	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘウ切り後一方向のヘウ削り	北東隅下層	90% 煤付着 PL73
422	須恵器	坏	[14.6]	4.2	[9.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘウ切り	西部中層	35% 煤付着 PL73
423	須恵器	坏	[13.5]	3.4	[8.0]	長石・白色粒子	灰	普通	底部回転ヘウ切り後ナア，口唇部内面焼成後削り	西部上層	40%
424	須恵器	坏	[10.8]	(3.1)	-	石英・白色粒子	黄灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
425	須恵器	壺	[12.0]	(4.5)	-	石英・雲母	灰白	普通	ロクロ整形，天井部手持ちヘウ削り	覆土中	10%
426	須恵器	長頸壺	[8.2]	(4.9)	-	長石	灰	普通	ロクロ整形，内面自然釉	西部中層	10%
427	須恵器	長頸壺	-	(2.3)	[7.8]	白色粒子	黄灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘウ切り後高台貼り付け，ナア	西部中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q34	磁石	4.8	4.0	1.4	84.2	凝灰岩	紙面3面，三方向に使用	北東隅下層	

第115号住居跡（第134図）

位置 中央2区中央部西寄りT43a0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.64m，短軸3.24mで，平面形は正方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はN-4°-Eである。壁高は46～54cmほどで，ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6～10cmで，壁際で確認されている。

竈 確認されなかった。北壁に付設されていたものと考えられるが，第22号溝に掘り込まれたため，不明である。

ピット P1は深さ34cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

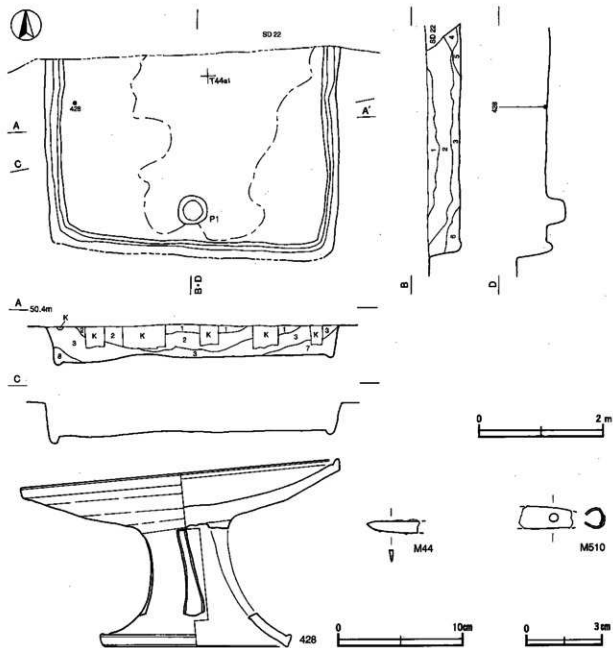
覆土 8層からなる。レンズ状を呈しているが，ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	5	灰黄褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック多量	6	黒褐色	ローム粒子少量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック少量	7	にぶい黄褐色	ロームブロック中量
4	灰黄褐色	ロームブロック少量	8	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片57点(坏5，甕52)，須恵器片28点(坏18，壺1，甕8，高甕1)，土製品1点(不明)，礫12点(破砕葉)が出土している。これらの遺物は西部と南部の覆土下層を中心に出土している。このほかには，混入した弥生土器片1点，攪乱により混入した伊壁片1点，粘土塊1点が出土している。428は西部の床面から逆位で出土している。428は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第134図 第115号住居跡・出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表 (第134図)

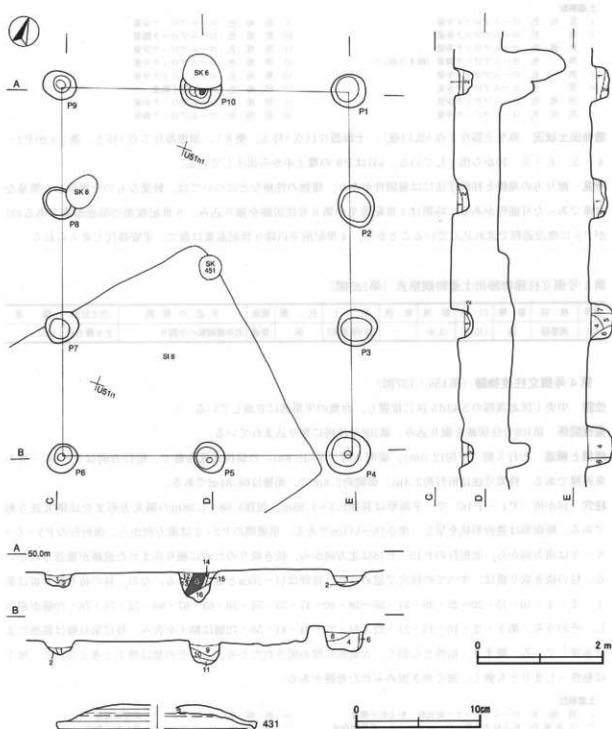
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
428	須臾器	高籠	25.0	14.9	14.5	長石・褐色胎子	灰	普通	口クロ彫刻、脚部4葉、耳部・鼻部に自彫線	西部床面	100% PL73

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M44	刀子	(4.1)	1.0	0.3	(5.1)	鉄	刀身先端部残存	覆土中	
M510	不明	(2.1)	(0.9)	0.6	(2.2)	銅	穿孔(孔径:0.35cm)あり、一部重なり合う部分あり	覆土中	

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第135図)

位置 東区東部のU51h1区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第135図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第8号住居跡を掘り込み、第6・8号土坑に掘り込まれている。なお、重複している第451号土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間（平均5.85m）、梁間2間（平均4.55m）の側柱式建物跡で、桁行方向はN-21°-Wの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.00m、梁間約2.2mで、面積は26.62㎡である。

柱穴 10か所。平面形は長径0.4~0.7m、短径0.3~0.7mの円形または楕円形である。断面形は逆台形またはU字状を呈し、深さ14~41cmである。また、柱の抜き取り痕はP10で認められ、その第4層がそれである。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	9	黒褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック多量	10	黒褐色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック多量	11	黒褐色	ロームブロック少量
4	黒色	ロームブロック微量(締まり弱い)	12	黒褐色	ロームブロック少量
5	黒色	ロームブロック少量	13	黒褐色	ロームブロック中量
6	黒色	ロームブロック少量	14	暗褐色	ローム粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック少量	15	明褐色	ロームブロック中量
8	黒褐色	ロームブロック中量	16	黒褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 弥生土器片2点(広口壺), 土師器片11点(坏3, 甕8), 須恵器片5点(坏2, 甕3)がP2・4・5・6・9・10から出土している。431はP9の覆土中から出土している。

所見 掘り方の規模と柱間寸法には規則性があり, 建物の性格などについては, 軽量なものを保管した簡易な倉庫であった可能性がある。時期は4世紀前半の第8号住居跡を掘り込み, 9世紀前葉の須恵器甕である431がP9に埋没過程で流れ込んでいることから, 4世紀前半以降9世紀前葉以前で, 平安時代と考えられる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
431	須恵器	壺	[15.6]	(1.9)	-	灰-赤灰-黒粘土	灰	普通	天井部凹縁ヘラ削り	P9覆土中	10%

第4号掘立柱建物跡(第136・137図)

位置 中央1区北西部のS43d5区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

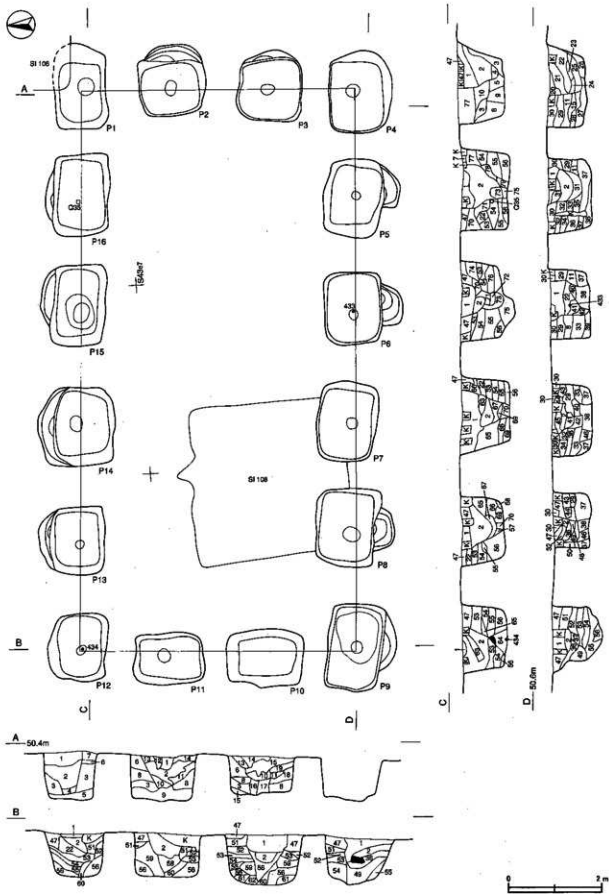
重複関係 第108号住居跡を掘り込み, 第106号住居に掘り込まれている。

規模と構造 桁行5間(平均12.0m), 梁間3間(平均5.8m)の欄柱式建物跡で, 桁行方向はN-86°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.4m, 梁間約1.8mで, 面積は68.84㎡である。

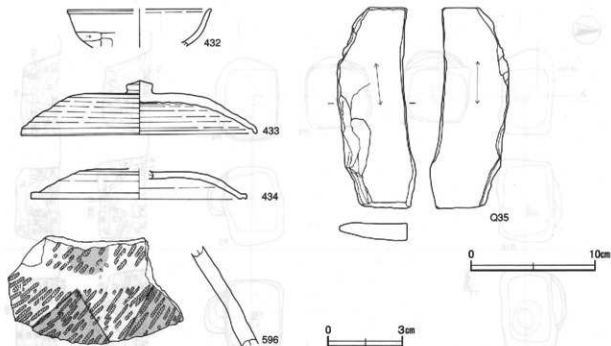
柱穴 16か所(P1~P16)で, 平面形は長径1.3~1.85m, 短径1.08~1.38mの隅丸方形または隅丸長方形である。断面形は逆台形状を呈し, 深さ78~111cmである。東梁間のP2・3は東方向から, 南桁行のP5・6・8・9は南方向から, 北桁行のP13~P16は北方向から, 抜き取りのために掘り込まれた痕跡が確認されている。柱の抜き取り痕は, すべての柱穴で認められ, 柱径は14~20cmと推定される。なお, 柱の抜き取り痕は第1・2・4・10~15・20~25・29~31・36~38・40~47・53・54・58・63・67・69~73・75・78・79層が相当し, そのうち, 第1・2・10~15・21・22・24・25・31・41・58・72層は粘土を含み, 特に第41層は被熱により赤変している。締まり・粘性とも弱く, 人為的に埋め戻されたと考えられる。その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりとも強く, 強く突き固められた形跡がある。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
2	灰黄褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物微量	17	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
3	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量(締まり強い)	18	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	19	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・粘土粒子微量
5	褐色	ロームブロック少量	20	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量(締まり強い)	21	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・粘土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック少量	22	黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック微量	23	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック微量
9	暗褐色	ロームブロック少量	24	暗褐色	粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
10	灰黄褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物微量	25	黒褐色	炭化物少量, ロームブロック・粘土粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量	26	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
12	暗褐色	粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量	27	褐色	ロームブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量
13	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量	28	暗褐色	ロームブロック微量
14	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	29	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
15	暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物微量	30	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
			31	黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量



第136图 第4号掘立柱建物跡実測图



第137図 第4号掘立柱建物跡出土遺物実測図

32	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	56	褐色	ロームブロック微量
33	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	57	黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
34	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	58	黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
35	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	59	褐色	ロームブロック少量
36	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	60	暗褐色	ロームブロック微量
37	褐色	ロームブロック少量	61	暗褐色	ロームブロック微量
38	褐色	ロームブロック多量・鹿沼パミス粒子微量	62	褐色	ロームブロック少量
39	褐色	ロームブロック中量	63	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
40	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	64	黒褐色	ロームブロック微量
41	黒褐色	粘土粒子少量・ロームブロック・炭化物微量	65	褐色	ロームブロック少量
42	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	66	褐色	ロームブロック少量
43	暗褐色	炭化粒子少量・ロームブロック・焼土ブロック微量	67	褐色	ロームブロック微量
44	黒褐色	炭化粒子少量・ロームブロック微量	68	暗褐色	ロームブロック微量
45	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	69	暗褐色	ロームブロック微量
46	黒褐色	ロームブロック微量	70	暗褐色	ロームブロック微量
47	黒褐色	炭化粒子少量・ロームブロック微量	71	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
48	黒褐色	炭化粒子少量・ロームブロック微量	72	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
49	黒褐色	ロームブロック微量	73	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
50	黒褐色	ロームブロック微量	74	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
51	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	75	暗褐色	ロームブロック少量・鹿沼パミス粒子微量
52	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	76	暗褐色	ロームブロック微量
53	褐色	ロームブロック少量	77	黒褐色	炭化粒子少量・ロームブロック微量
54	褐色	ロームブロック微量	78	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
55	暗褐色	ロームブロック微量	79	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器片1点(広口壺), 土師器片86点(坏17, 壺1, 高坏1, 甕67), 須恵器片18点(坏7, 壺11), 粘土塊1点, 鉄洋1点, 円礫13点がP1・P4～P10・P10～P16から出土している。432はP16の掘り方の埋土, 433はP6の覆土中層, 434はP12の抜き取り部の覆土下層, Q35はP16の抜き取り部の覆土中層, 596はP14の掘り方の埋土から出土している。また, 平板状の雲母片岩がP1・P9～12・P15・P16の柱抜き取り部分の覆土中層・下層から出土している。

所見 柱穴の掘り方も大規模で, 埋土が互層に突き固められていること, 筒柱式の建物跡であることなどから見て, 初など収納施設としての用途が考えられる。また, 時期は第6・7・9号掘立柱建物跡と桁行方向・規模も同一であることから, 同時期で一連の施設として機能していたものと考えられる。また, 平板状の雲母片岩がP1・P9～12・P15・P16の柱抜き取り部分の覆土中層・下層から出土しているので, 礎石建物跡に作

り替えられた可能性もある。8世紀前葉の第108号住居跡を掘り込み、8世紀中葉と考えられる須恵器蓋の434が柱の抜き取り痕から出土していることなどから、時期は8世紀前葉から中葉と考えられる。

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
432	土師器	坏	[11.4]	(2.5)	-	白色粒子	明赤褐色	普通	係部外下巻手背ちへり削り、内面ナデ	P16掘り方埋土	5%
433	須恵器	蓋	18.8	4.4	-	長石・黒色粒子・微塵	灰	普通	天井部回転へり削り	P6覆土中	70% 火事重 お焼き痕 PL74
434	須恵器	蓋	17.2	(2.5)	-	白色粒子・黒色粒子・微塵	灰	普通	天井部回転へり削り	P12覆土下層	70% 重お焼 き痕 PL74
596	弥生土器	壺	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	縄文の施した後編曲状の沈線により区画し赤彩	P14掘り方埋土	70% 外面赤彩

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特 徴	出土位置	備考
Q85	砥石	16.1	6.2	1.6	217	泥岩	砥面2面、一方向に使用	P16覆土中	

第5号掘立柱建物跡(第138・139図)

位置 中央1区中央部のT45a2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と構造 桁行3間(平均7.5m)、梁間3間(平均5.4m)の側柱式建物跡で、桁行方向はN-3°-Eの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.5m、梁間約1.8mで、面積は40.65㎡である。

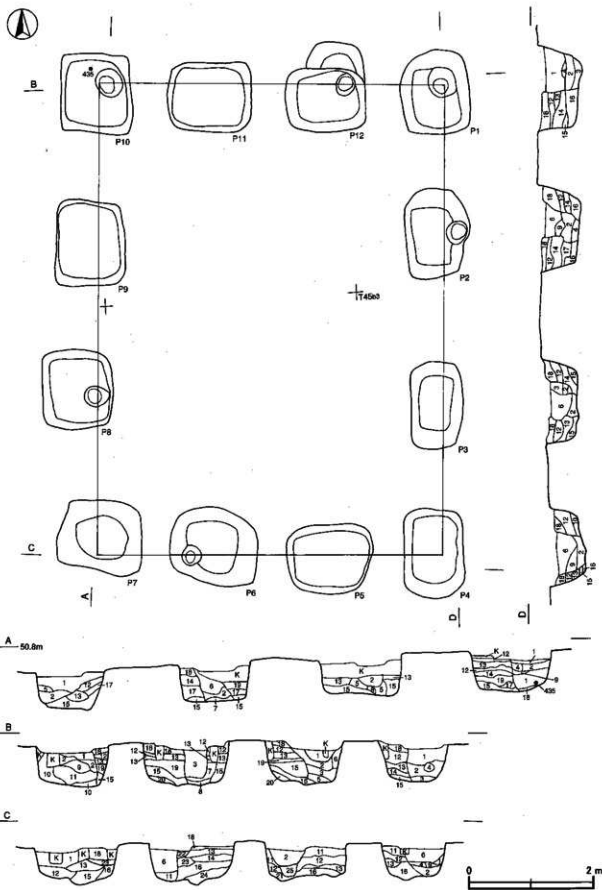
柱穴 12か所(P1~P12)で、平面形は長径1.26~1.40m、短径0.85~1.23mの方形または長方形である。断面形は逆台形状を呈し、深さ52~71cmである。東梁間のP2は東方向から、北桁行のP12は北方向から、抜き取りのための掘り込まれた痕跡が確認されている。柱の抜き取り痕はすべての柱穴で認められ、柱径は20~22cmと推定される。なお、柱の抜き取り痕は第1~11・25層が相当し、締まり・粘性とも弱い。その他は埋土と考えられる。第11・12層は粘性・しまりとも強く、突き固められている。その他はしまりの弱い埋土が多く、強く突き固められた形跡はない。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	14 明褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量	15 黒褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック少量	16 にぶい褐色	ローム粒子中量、ロームブロック微量
4 灰黄褐色	粘土粒子少量、ロームブロック微量	17 明褐色	ロームブロック少量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック中量	18 黒褐色	ロームブロック微量
6 黒褐色	ロームブロック少量	19 黒褐色	ロームブロック微量
7 黒褐色	ロームブロック中量	20 明褐色	ロームブロック少量
8 黒褐色	ロームブロック中量	21 明黄褐色	ロームブロック多量
9 暗灰黄色	粘土粒子中量、ロームブロック少量	22 暗褐色	ローム粒子中量
10 黒褐色	ローム粒子少量	23 にぶい褐色	ロームブロック少量
11 暗褐色	ロームブロック少量	24 黒褐色	ロームブロック微量
12 にぶい褐色	ロームブロック中量	25 にぶい褐色	ロームブロック微量
13 橙褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片80点(坏2, 甕78), 須恵器片14点(坏9, 蓋2, 甕3), 陶器片1点(碗), 鉄滓1点(P1~P8・P10~P12)から出土している。435はP10の掘り方の埋土, 436はP3の埋土中, 437はP8の覆土中から出土している。

所見 柱穴の掘り方も大規模で、埋土の一部が互層に突き固められていること、側柱式の建物跡であることなどから見て、枌などの取納施設としての用途が考えられる。また、当遺跡では、このような柱穴の掘り方をもつ南北棟は本跡だけである。8世紀中葉と考えられる435・436が埋土から出土していること、周辺の掘立柱建物跡の時期から、時期は8世紀中葉以降で、9世紀前葉以前と考えられる。



第138图 第5号掘立柱建物跡実測图



第139図 第5号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
435	須臾器	高合付杯	[13.0]	5.5	8.1	長石・石英・燧石	灰	普通	底部回転へう切り、高合付り付後ナア	P19掘り方下層	75% PL73
436	須臾器	壺	[15.6]	(2.3)	-	長石・石英・燧石	灰	普通	口クロ整形	P3掘り方埋土	5%
437	須臾器	壺	[14.4]	(1.2)	-	長石	灰	普通	口クロ整形	P8埋土中	5%

第6号掘立柱建物跡 (第140・141図)

位置 中央1区中央部のS44f1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号円形周溝状遺構を掘り込み、第103号住居に掘り込まれている。なお、重複している第291土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。

規模と構造 北部が調査区域外へ延びるため、規模は桁行5間(平均12.6m)、確認できた梁間3間(平均6.8m)の欄柱式建物跡で、桁行方向はN-86°-Wの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.5m、梁間約1.8mで、面積は85.68㎡である。

柱穴 9か所(P1~P9)で、平面形は長径1.22~1.53m、短径0.98~1.20mの隅丸長方形である。断面形は逆台形状または方形状を呈し、深さ70~94cmである。また、柱の抜き取り痕はP3~P7で認められ、柱径は20~24cmと推定される。なお、第1・9~11・13~16・22~26層は柱の抜き取り痕で、その他は埋土と考えられる。埋土は粘性が弱いが、しまりが強く、強く突き固められた形跡がある。また、P9は第103号住居跡の右袖部下及びその周辺の床面下で確認され、南方向から柱の抜き取りのための掘り込みが確認されている。

P1土層解説

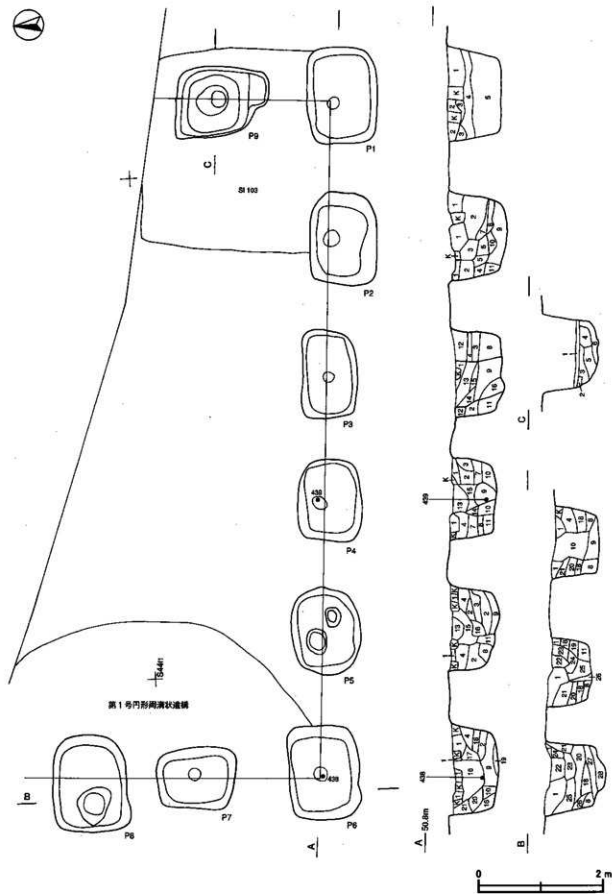
- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | |

P2~P8土層解説

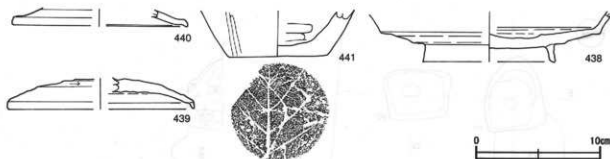
- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 ロームブロック微量 | 16 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック微量 | 18 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 19 褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 20 褐色 ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック微量 | 21 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック少量 | 22 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 9 褐色 ロームブロック少量 | |
| 10 暗褐色 ロームブロック少量 | |
| 11 黒褐色 ロームブロック微量 | 23 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 24 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 13 灰褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 25 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 14 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 26 暗褐色 ロームブロック微量 |
| | 27 黒褐色 ロームブロック少量 |
| | 28 褐色 ロームブロック少量 |

P9土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック少量 |



第140图 第6号掘立柱建物跡実測图



第141図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片55点(坏2, 甕52, 高坏1), 須恵器片10点(坏2, 蓋4, 高盤3, 甕1), 鉄製品1点(不明), 粘土塊1点, 礫4点(円礫)がP1~P8から出土している。438はP6の柱抜き取り痕の覆土中層, 439はP4の覆土下層, 440はP8の柱抜き取り痕の覆土中, 441はP3の柱抜き取り痕の覆土中から出土している。所見 柱穴の掘り方も大規模で, 埋土が互層に突き固められていること, 圓柱式の建物跡であることなどから見て, 棚などの収納施設としての用途が考えられる。また, 時期は第4・7・9号掘立柱建物跡と桁行方向・規模もほぼ同じと考えられることから, 同時期で一連の施設として機能していたものと考えられる。本跡は9世紀中葉の第103号住居跡に掘り込まれ, 9世紀前葉と考えられる438が柱の抜き取り痕から出土していることから, 時期は9世紀前葉以前と考えられる。

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第141図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
438	須恵器	盤	(4.0)	[10.4]		白色粒子・微塵	黄灰	普通	底脚縁ヘラ削り, 高台縁付け袋ナデ	P6覆土中層	30%
439	須恵器	蓋	[14.8]	(2.5)		長石・黒色粒子	灰	普通	天井部手持ちヘラ削り	P4覆土下層	20%
440	須恵器	蓋	[13.5]	(1.0)		長石	灰	普通	ロクロ整形	P8覆土中	10%
441	土師器	甕	(3.7)		7.9	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	P2覆土中	10% 底部木炭痕

第7号掘立柱建物跡 (第142図)

位置 中央1区南西部のT43c5区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

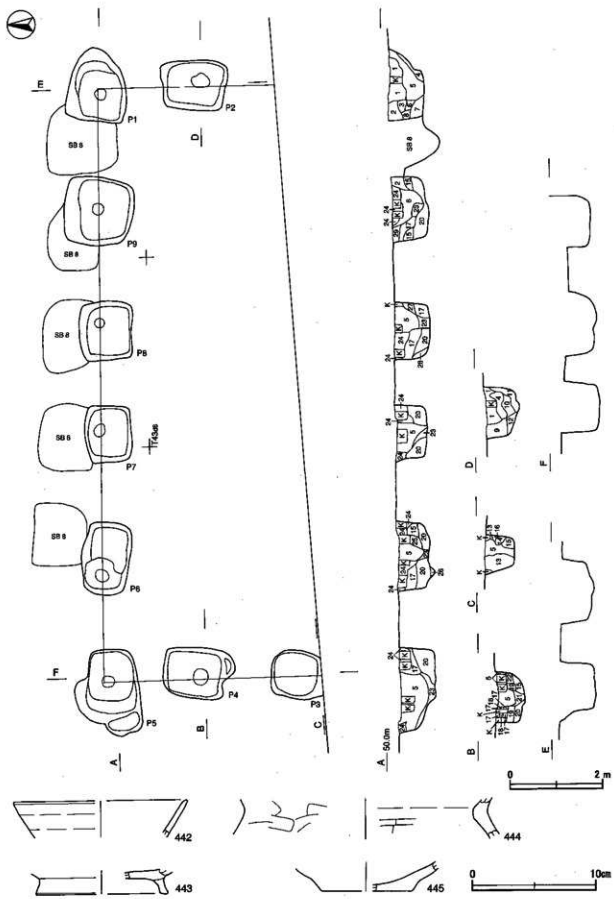
重複関係 第8号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 南部が調査区域外へ延びているため, 規模は桁行5間(平均12.5m), 確認できた梁間2間(平均4.02m)の圓柱式建物跡で, 桁行方向はN-89°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.5m, 梁間約2.1mで, 面積は50.25m²である。

柱穴 9か所(P1~P9)で, 平面形は長径1.02~1.83m, 短径0.80~1.52mの長方形あるいは方形である。断面形は逆台形状または方形状を呈し, 深さ54~80cmである。また, 柱の抜き取り痕はすべての柱穴で認められ, 柱径は16~22cmと推定される。なお, 第1・4・5・10・21・23層は柱の抜き取り痕で, その他は埋土と考えられる。埋土は粘性が普通で, しまりが強く, 強く突き固められた形跡がある。P1は東方向から, P4は南方向から, P5は西方向から, 柱の抜き取りのための掘り込みが確認できた。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |



第142图 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

7	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	19	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
8	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック微量	20	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	21	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・粘土粒子微量
10	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	22	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
11	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	23	暗褐色	粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
12	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	24	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
13	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	25	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
14	褐色	ロームブロック少量	26	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
15	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	27	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
16	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	28	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
17	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	29	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
18	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片61点(坏4, 高坏2, 甕55), 須恵器片10点(坏5, 甕1, 甕4), 陶器片1点(碗), 炉壁1点, 鉄滓1点, 円礫2点, 貝殻1点(二枚貝)がP1~P9から出土している。442はP1の柱の抜き取り痕, 443はP1の柱の抜き取り痕, 444はP9の埋土, 445はP4の埋土から出土している。

所見 柱穴の掘り方も大規模で, 埋土が互層に突き固められていること, 欄柱式の建物跡であることなどから見て, 棚などの収納施設としての用途が考えられる。また, 時期は第4・6・9号掘立柱建物跡と桁行方向が同一であることから, 同時期で一連の施設として機能していたものと考えられる。P4・P9の埋土から出土している444・445は古墳時代の土器片で, 柱の抜き取り痕から出土している。442・443は9世紀前葉と考えられることから, 時期は9世紀前葉以前と考えられる。

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
442	須恵器	坏	[13.7]	(2.9)	-	白色粒子	灰	普通	ロクロ整形	P1覆土中	5%
443	須恵器	高台坏	-	(1.7)	[10.4]	長石・石英	灰	普通	底縁回転ヘラ切り, 高台彫り付け兼代	P1覆土中	10%
444	土師器	甕	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部内外面ヘラナデ	P9覆土中	10%
445	土師器	甕	-	(1.8)	[7.2]	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	底縁外面多方向のナデ	P4覆土中	10%

第8号掘立柱建物跡(第143・144図)

位置 中央1区南西部のT43b6区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第110号住居跡を掘り込み, 第7・9号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 規模は桁行5間(平均10.6m), 梁間2間(平均5.7m)の欄柱式建物跡で, 桁行方向はN-85°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.1m, 梁間約1.8mで, 面積は58.88㎡である。

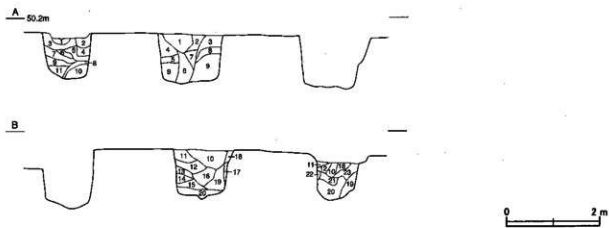
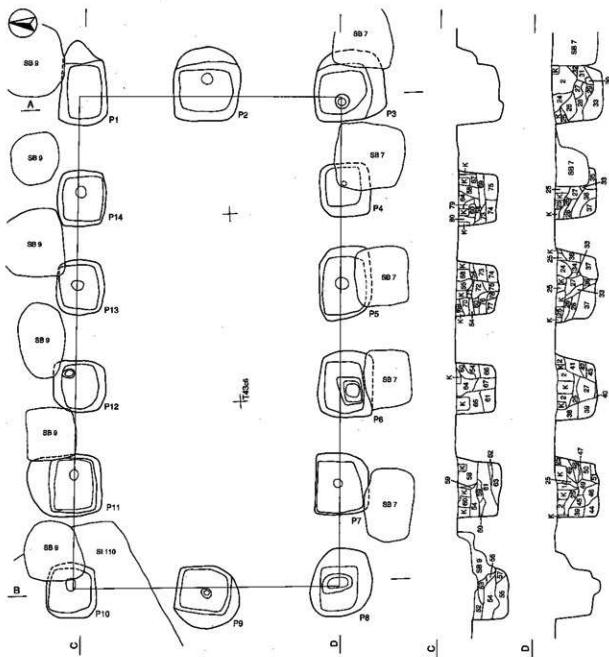
柱穴 14か所(P1~P14)で, 平面形は長径1.12~1.77m, 短径1.02~1.49mの隅丸長方形あるいは隅丸方形である。断面形は逆台形状を呈し, 深さ83~108cmである。また, 柱の抜き取り痕はP2・P4~P7・P12~P14で認められ, 柱径は14~22cmと推定される。なお, 第1・2・6・7・25・27・33・36・40・45・46・49・58・64・67・69・71・72・75層は柱の抜き取り痕で, その他は埋土と考えられる。埋土は粘性が普通で, しまりが強く, 強く突き固められた形跡がある。

P1土層解説

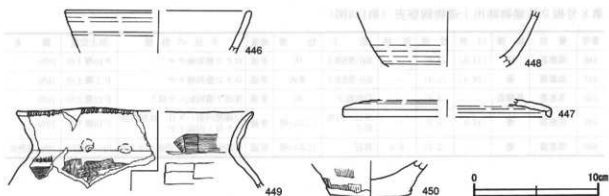
1	黒褐色	ロームブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ローム粒子少量	8	灰黄褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	9	暗褐色	ロームブロック少量
4	にぶい黄褐色	ローム粒子中量, ロームブロック微量	10	灰黄褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ロームブロック中量	11	にぶい黄褐色	ローム粒子中量, ロームブロック微量
6	灰黄褐色	ロームブロック少量			

P2~P14土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量



第143图 第8号掘立柱建物跡实测图



第144図 第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|--------------------------|
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 43 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック微量 | 44 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 45 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 46 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック少量 | 47 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 48 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 49 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 50 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 51 褐色 | ロームブロック中量 |
| 14 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 52 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 15 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 53 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 16 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 54 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 17 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 55 褐色 | ロームブロック少量 |
| 18 暗褐色 | ロームブロック微量 | 56 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 19 暗褐色 | ロームブロック微量 | 57 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 20 暗褐色 | ローム粒子少量, ロームブロック微量 | 58 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 21 暗褐色 | ロームブロック微量 | 59 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 22 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 60 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 23 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 61 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 24 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 62 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 25 黒褐色 | ロームブロック微量 | 63 褐色 | ロームブロック少量 |
| 26 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 64 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 27 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 65 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 28 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 66 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 29 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 67 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 30 暗褐色 | ローム粒子少量, ロームブロック・炭化物微量 | 68 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 31 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 69 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 32 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 70 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 33 黒褐色 | ロームブロック微量 | 71 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 34 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 72 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 35 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 73 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 36 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 74 褐色 | ロームブロック少量 |
| 37 褐色 | ロームブロック少量 | 75 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 38 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 76 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 39 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 77 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 40 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 78 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 41 黒褐色 | ロームブロック微量 | 79 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 42 黒褐色 | ロームブロック微量 | 80 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片54点(坏2, 甕52), 須恵器片2点(坏1, 壺1)がP1・P2・P4・P9~P14から出土している。446はP10の覆土中, 447はP2の埋土, 448はP12の柱の抜き取り痕, 449はP10の覆土中, 450はP11・P13の埋土から出土している。

所見 柱穴の掘り方も大規模で, 埋土が互層に突き固められていること, 個性柱の建物跡であることなどから見て, 柵などの収納施設としての用途が考えられる。また, 時期は第4・6・7・9号掘立柱建物跡と桁行方向も同一であることから, 第7・9号掘立柱建物跡と隣接し重複関係から, 本跡から第7号掘立柱建物跡に, 本跡から第9号掘立柱建物跡へ建て替えられたと推定される。時期は出土土器から9世紀前葉以前と考えられる。

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
446	須恵器	坏	[14.6]	(3.4)	-	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形後ナデ	P10覆土中	10%
447	須恵器	蓋	[16.4]	(1.4)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	ロクロ整形後ナデ	P2覆土中	10%
448	須恵器	長頸壺	-	(4.4)	-	白色粒子	灰	普通	体部下周回転ヘラ削り	P12覆土中	10%
449	須恵器	壺	[18.6]	(6.3)	-	長石・白色	にぶい橙	普通	口縁部内面ハケ目・体部外面ハケ目・内面ナデ	P10覆土中	10%
450	須恵器	壺	-	(2.5)	6.4	長石	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目・内面ヘラナデ	P11-P13覆土中	10%, 被熱痕

第9号掘立柱建物跡 (第145図)

位置 中央1区南西部のT43a5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第104・105・110号住居跡、第8号掘立柱建物跡、第327号土坑を掘り込み、第22号溝に掘り込まれている。

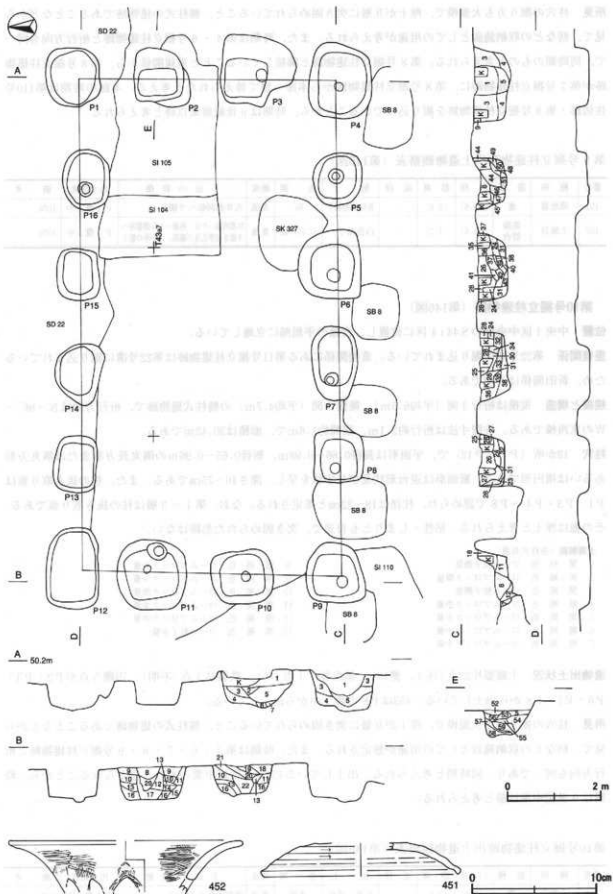
規模と構造 規模は桁行5間(平均10.8m)、確認できた梁間3間(平均5.7m)の隅柱式建物跡で、桁行方向はN-89°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.0m、梁間約1.9mで、面積は61.81㎡である。

柱穴 16か所(P1~P16)で、平面形は長径1.10~1.58m、短径0.9~1.45mの隅丸長方形あるいは隅丸方形である。断面形は逆台形状及びU字形を呈し、深さ47~80cmである。また、柱の抜き取り痕はP2~P9で認められ、柱径は16~20cmと推定される。なお、第1・5・8・12・17・22・28~32・37~46層は柱の抜き取り痕で、その他は埋土と考えられる。埋土は粘性が弱く、しまりは強く、強く突き固められた形跡がある。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒褐色	ロームブロック微量	31 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	32 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック微量	33 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	34 褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	35 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック微量	36 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
7 黒褐色	ロームブロック微量	37 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	38 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
9 暗褐色	ロームブロック微量	39 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	40 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
11 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	41 黒褐色	ロームブロック微量
12 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	42 暗褐色	ロームブロック少量
13 暗褐色	ロームブロック微量	43 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
14 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	44 黒褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
15 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	45 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
16 黒褐色	ロームブロック微量	46 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量
17 褐色	ロームブロック少量	47 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
18 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	48 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量
19 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	49 褐色	ロームブロック少量
20 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	50 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック微量
21 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	51 極暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
22 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	52 黒褐色	ロームブロック微量
23 暗褐色	ロームブロック微量	53 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
24 褐色	ロームブロック少量	54 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
25 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	55 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
26 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	56 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
27 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	57 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
28 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	58 黒褐色	ロームブロック微量
29 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	59 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
30 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片57点(坏5, 壺2, 裝飾器台1, 高坏4, 甕45), 須恵器片8点(坏3, 蓋3, 甕2), 石器1点(剝片), 瓦片1点(平瓦)がP1~P4・P6~P14から出土している。451はP1の覆土中、452はP3の埋土から出土している。



第145図 第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

所見 柱穴の掘り方も大規模で、埋土が互層に突き固められていること、側柱式の建物跡であることなどから見て、初などの取納施設としての用途が考えられる。また、時期は第4・6号掘立柱建物跡と桁行方向も同一で、同時期のものと考えられる。第8号掘立柱建物跡と隣接していることと重複関係から、第8号掘立柱建物跡が第7号掘立柱建物跡に、第8号掘立柱建物跡から本跡へ建て替えられたと考える。本跡の時期は第110号住居跡・第8号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、時期は9世紀前葉以降と考えられる。

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
451	須恵器	壺	[15.6]	(2.6)	-	長石・白色粒子	灰	普通	天井部回転へう削り	P1 覆土中	10%
452	土師器	鉄釜 器台	[18.6]	(4.2)	-	白色粒子	にぶい濁	普通	杯部内面ハナ目・外周ハナ目調整後へう削り 器底穿孔及び縁部、12か所の器口	P3 覆土中	10%

第10号掘立柱建物跡 (第146図)

位置 中央1区中央部のS4414区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。重複関係にある第11号掘立柱建物跡は第22号溝に掘り込まれているため、新旧関係は不明である。

規模と構造 規模は桁行3間(平均6.5m)、梁間3間(平均4.7m)の側柱式建物跡で、桁行方向はN-86°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.1m、梁間約1.6mで、面積は30.42㎡である。

柱穴 12か所(P1~P12)で、平面形は長径0.86~0.98m、短径0.65~0.96mの隅丸長方形または隅丸方形あるいは楕円形である。断面形は逆台形状及びU字状を呈し、深さ46~75cmである。また、柱の抜き取り痕はP1・P3・P4~P8で認められ、柱径は18~22cmと推定される。なお、第1~3層は柱の抜き取り痕である。その他は埋土と考えられる。粘性・しまりとも普通で、突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

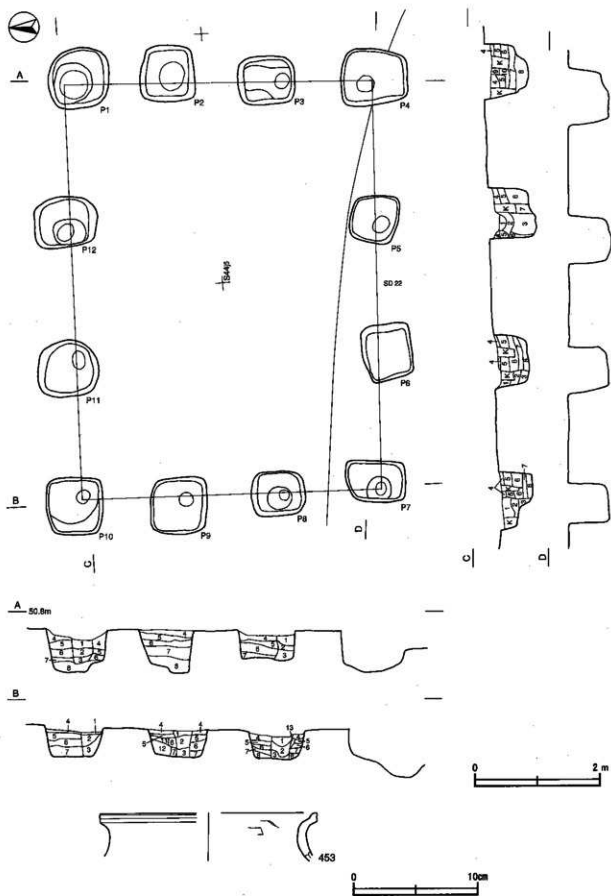
1 黒褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	11 黒褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック中量	13 黒褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片23点(坏4, 甕19), 須恵器片1点(坏), 鉄製品1点(不明), 円礫5点がP2・P3・P6・P7・P8から出土している。453はP8の覆土中から出土している。

所見 柱穴の掘り方も大規模で、埋土が互層に突き固められていること、側柱式の建物跡であることなどから見て、初などの取納施設としての用途が想定される。また、時期は第4・6・7・8・9号掘立柱建物跡と桁行方向も同一であり、同時期と考えられる。出土している453が9世紀中葉のものと考えられることから、時期は9世紀中葉以前と考えられる。

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第146図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
453	土師器	壺	[17.0]	(3.8)	-	石英・雲母	赤褐	普通	杯部内面へうナデ	P8 覆土中	10%



第146图 第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第11号掘立柱建物跡 (第147図)

位置 中央1区中央部のT44a5区に位置し、台地平坦部に立地している。

重複関係 第22号溝に掘り込まれている。重複関係にある第10号掘立柱建物跡は第22号溝に掘り込まれているため、新旧関係は不明である。

規模と構造 確認できた規模は桁行2間(平均3.6m)、梁間1間(平均1.9m)の総柱式建物跡で、桁行方向はN-7°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約1.8m、梁間約1.9mで、面積は6.91㎡である。

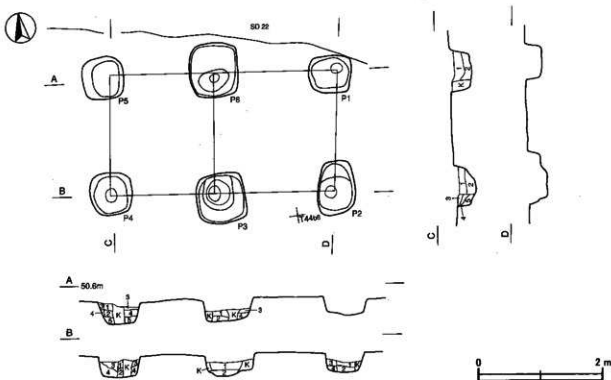
柱穴 6か所(P1~P6)で、平面形は長径約0.66m、短径0.58~0.74mの隅丸長方形あるいは隅丸方形である。断面形は逆台形状及びU字状を呈し、深さ31~37cmである。また、柱の抜き取り痕はP2~P6で確認され、柱径は16~18cmと推定される。なお、第1・2層は柱の抜き取り痕で、その他は埋土である。埋土は粘性・しまりとも普通で、強く突き固められた形跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|--------|-------------------|------|-----------|
| 1 時 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 時 褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 時 褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点(莖)がP1・P2・P5・P6から出土している。出土土器のすべてが細片で、図示できるものはない。

所見 柱穴の掘り方も大規模であるが、埋土が突き固められていない。当遺跡では当該期の総柱式の建物跡は唯一であり、他の掘立柱建物跡とは異なる施設と考えられる。第22号溝に掘り込まれているため、全容は不明で、桁行・梁間とも2間以上の総柱式の建物跡であると推測される。第10号掘立柱建物跡と隣接しているため、同時期には存在しないが、規模と形状から時期は平安時代と考えられる。



第147図 第11号掘立柱建物跡実測図

第12号掘立柱建物跡 (第148図)

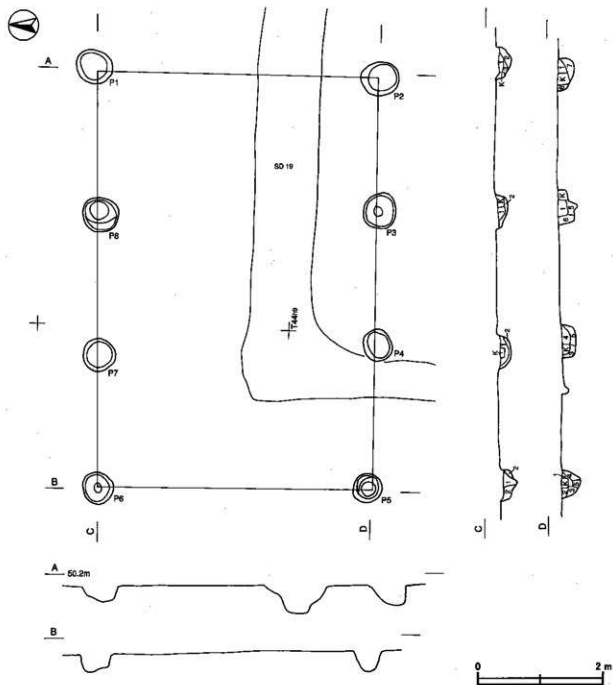
位置 中央2区西部のT44g8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第19号溝に掘り込まれている。

規模と構造 確認できた規模は桁行3間(平均6.6m)、東梁間1間、西梁間2間(平均4.4m)の獨柱式建物跡で、桁行方向はN-89°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行・梁間とも約2.2mで、面積は28.8㎡である。

柱穴 8か所(P1~P8)で、平面形は長径0.47~0.60m、短径0.44~0.55mの円形あるいは楕円形である。

断面形はU字状を呈し、深さ19~33cmである。また、柱の抜き取り痕は確認できなかった。



第148図 第12号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

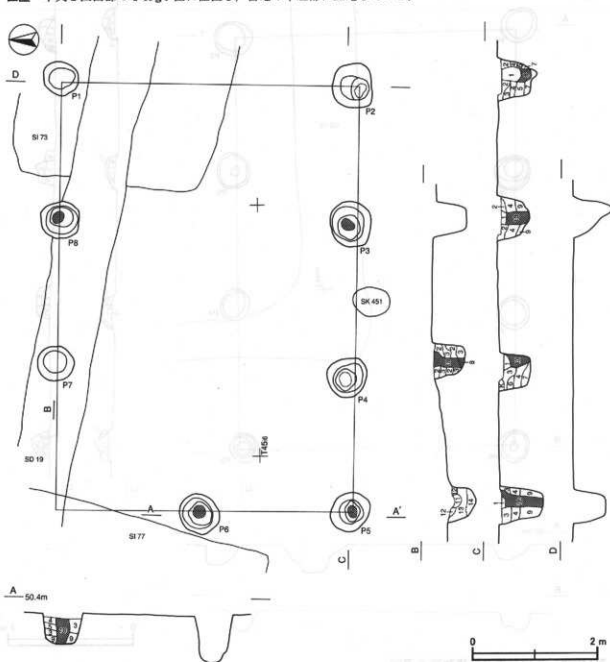
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 確認されなかった。

所見 柱穴の掘り方は中央1区で見られたような大規模なものではなく、また、埋土が互層に突き固められていないことから、軽量の物資を納める倉庫としての用途に使用されていたと考えられる。時期は9世紀中葉以降と推定される第19号溝跡に掘り込まれていること、規模や桁方向などから9世紀中葉以前と考えられる。

第13号掘立柱建物跡 (第149図)

位置 中央2区西部のT45g6区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第149図 第13号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第73号住居，第19号溝に掘り込まれている。重複関係にある第77号住居と本跡は第19号溝に掘り込まれて，第451号土坑とは切り合いがないため，新旧関係は不明である。

規模と構造 第19号溝に掘り込まれているため，確認できた規模は桁行3間（平均6.8m），梁間2間（平均4.8m）の側柱式建物跡で，桁行方向はN-88°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.3m，梁間約2.4mで，面積は32.07㎡である。本来は桁行・梁間3間の建物跡と推定される。

柱穴 8か所（P1～P8）で，平面形は長径0.56～0.75m，短径0.54～0.66mの円形または楕円形である。断面形は逆台形状あるいはU字状を呈し，深さ50cmほどである。柱の抜き取り痕はP3・P5・P6・P8で認められる。なお，柱の抜き取り痕は第8・10層が相当し，その他は埋土と考えられる。埋土は粘性・しまりとも普通で，強く突き固められた形跡がない。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	8 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ロームブロック中量
3 にぶい褐色	ロームブロック中量	10 黒褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック少量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック中量	12 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック少量	13 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
7 にぶい黄褐色	ロームブロック中量	14 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 確認されなかった。

所見 柱穴の掘り方の規模や側柱式の建物跡であることなどから見て，第4・6～9号掘立柱建物跡と比べて規模や形状で小規模であることから，穀倉などの収納施設としての用途が考えられる。また，時期は第4・6・7・9・10号掘立柱建物跡と桁行方向と同一であることから，同時期で一連の施設として機能していたものと考えられる。本跡は第73号住居に掘り込まれていることから，時期は9世紀中葉以前と考えられる。

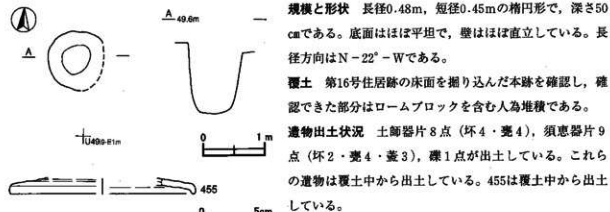
(3) 土坑

今回の調査で，368基の土坑が確認された。そのうち5基が当該期に該当する。以下，遺構と遺物について記述する。

第17号土坑（第150図）

位置 中央2区東部のU49h9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係 第16号住居跡を掘り込んでいる。



第150図 第17号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径0.48m，短径0.45mの楕円形で，深さ50cmである。底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長径方向はN-22°-Wである。

覆土 第16号住居跡の床面を掘り込んだ本跡を確認し，確認できた部分はロームブロックを含む人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片8点（坏4・甕4），須恵器片9点（坏2・甕4・壺3），礫1点が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。455は覆土中から出土している。

所見 8世紀中葉の第16号住居跡を掘り込んでいるので，時期は8世紀中葉以降と考えられる。性格は不明である。

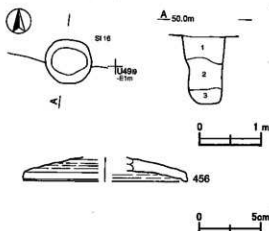
第17号土坑出土遺物観察表 (第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
455	須恵器	蓋	[14.5]	(1.3)	-	黒色粒子	灰白	普通	口ロ口整形	覆土中	10%

第22号土坑 (第151図)

位置 中央2区東部のU49h9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第16号住居跡を掘り込んでいる。



規模と形状 径0.37mの円形で、深さ52cmである。底面は皿状で、壁はほぼ直立している。長径方向はN-23°-Wである。

覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片15点 (坏5・甕10)、須恵器片8点 (蓋3・甕5)、礫1点 (円礫)、炭化材が覆土中から出土している。456は覆土中からで、炭化材は覆土上層から出土し、投棄されたものと考えられる。

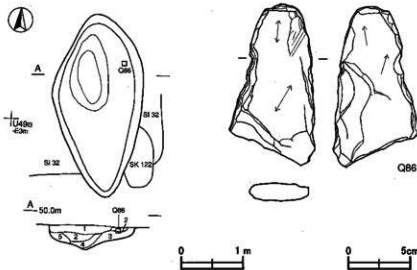
第151図 第22号土坑・出土遺物実測図

所見 時期は8世紀中葉の第16号住居跡を掘り込み、出土遺物から住居跡と時期差がないことから、8世紀中葉の住居跡廃絶後間もない時期と考えられる。性格は不明である。

第22号土坑出土遺物観察表 (第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
456	須恵器	蓋	[13.0]	(1.9)	-	白色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%

第59号土坑 (第152図)



位置 中央2区東部のU49h4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第32号住居跡、第122号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.92m、短径1.45mの楕円形で、深さ37cmである。底面は皿状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-5°-Wである。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

第152図 第59号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量
 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片20点(坏15, 甕5), 石器2点(打製石斧, 砥石)が出土している。Q86は北東部の覆土上層から出土している。

所見 9世紀中葉の第32号住居跡を掘り込んでいるので, 時期は9世紀中葉以降と考えられる。また, 性格は不明である。

第59号土坑出土遺物観察表 (第152図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特 徴	出土位置	備 考
Q86	砥石	(12.7)	6.8	1.4	(146.0)	緑泥片岩	砥面2面, 二方向に使用	北東部上層	PL87

第177号土坑 (第153図)

位置 中央2区東部のV49a7区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.15m, 短径1.05mの楕円形で, 深さ8cmである。底面はほぼ平坦で, 壁面は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-34°-Eである。

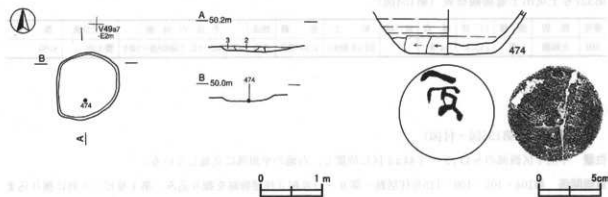
覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 須恵器片2点(坏), 礫1点(円礫)が中央部の中層から下層を中心に出土している。474は南部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第153図 第177号土坑・出土遺物実測図

第177号土坑出土遺物観察表 (第153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備 考
474	須恵器	坏	-	(3.3)	7.4	長石	灰	普通	ロクロ整形, 体部手持ちヘラ削り, 底部ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	南部床面	60%, 墨書「一宮」カ PL74

第327号土坑（第154図）

位置 中央1区西部のT43a7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第9号掘立柱建物のP6に掘り込まれている。

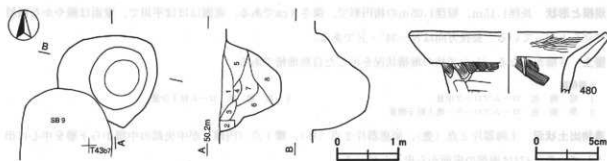
規模と形状 長径1.62m、短径1.50mの楕円形で、深さは70cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-75°-Eである。

覆土 8層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説	
1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片6点（壺）が覆土中から出土している。480は覆土中から出土し、埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 9世紀中葉以前と推定される第9号掘立柱建物に掘り込まれているので、時期は9世紀中葉以前と考えられる。性格は不明である。



第154図 第327号土坑・出土遺物実測図

第327号土坑出土遺物観察表（第154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
480	土師器	壺	[15.4]	(4.8)	-	灰石-褐色胎子	にぶい黄橙	普通	腹部内外面ハケ目、口縁部内面ハケ目	覆土中	10%

(4) 溝跡

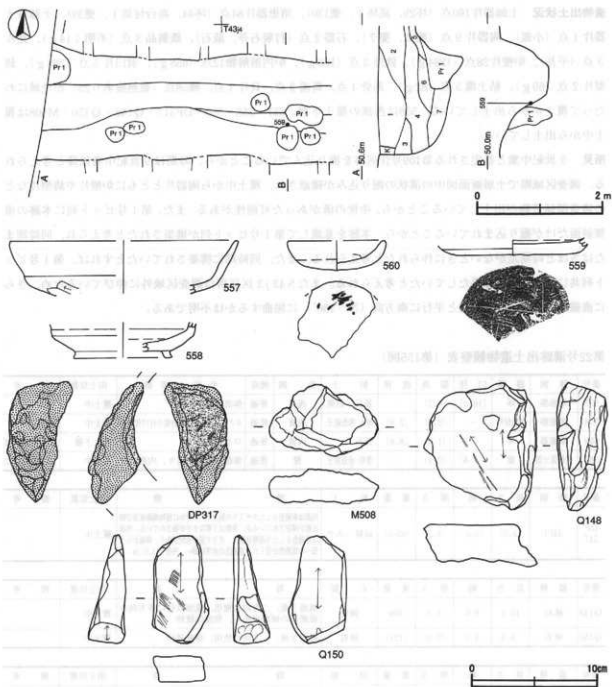
第22号溝跡（第155図・付図）

位置 中央1区西部のS43j3～T44a8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第104・105・109・115号住居跡・第9～11号掘立柱建物跡を掘り込み、第1号ビット列に掘り込まれている。

規模と形状 西部は調査区域外へ伸びているため、全容は不明である。確認できたのはS43j3区からわずかな蛇行はあるもののほぼ直線的に東方向（N-90°-E）へ伸びており、確認できた長さは61.34mである。規模は上幅1.64～2.52m、下幅0.34～0.74m、深さ89～94cmで、形状は底面が皿状で、壁面が緩やかな傾斜あるいは外傾して直線的に立ち上がる。

覆土 7層からなる。北側の覆土下層の第1号ビット列に掘り込まれていることから、溝の埋没後過程で他の遺構によって掘り込まれたと考えられる。その遺構については土坑あるいは溝跡の可能性もあるが、詳細につ



第155図 第22号溝跡・出土遺物実測図

いては不明である。その覆土は、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。下層の第7層もロームブロックを含む人為堆積であるが、他の土層は自然堆積である。上層の第1層の上位は現地表面で、土層断面図中、U字状の掘り込みが確認されていることから、溝のような遺構があった可能性が考えられるが、遺構としては確認できなかった。その第1層の上位が現在は耕作面で、それよりわずかに高く、蒲鉾状になっている部分が、道路として使用されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片160点(坏29, 高坏1, 甕130), 須恵器片84点(坏44, 高台付皿1, 甕39), 土師質土器片1点(小皿), 陶器片9点(碗2, 甕7), 石器2点(打製石斧, 敲石), 鉄製品3点(不明; 14g), 瓦片3点(平瓦), 炉壁片28点(1284g), 鉄滓3点(188g), 炉内溶解物12点(658g), 羽口片5点(368g), 鋳型片2点(69g), 粘土塊3点(82g), 馬骨4点, 馬歯2点, 貝片1点, 礫58点(被熱痕あり23)が全域にわたって覆土中から出土している。559は西部の覆土下層, 557・558・560・DP317・Q148・Q150・M508は覆土中から出土している。

所見 9世紀中葉と推定される第109号住居跡を掘り込んでいることから, 時期は9世紀中葉以降と考えられる。調査区域際で土層断面図中の溝状の掘り込みが確認され, 覆土中から陶器片とともに炉壁片や鋳型片などの鋳造関係遺物が出土していることから, 中世の溝があった可能性がある。また, 第1号ビット列に本跡の南側斜面だけが掘り込まれていることから, 本跡を意圖して第1号ビット列が構築されたと考えられ, 同時期またはさほど時期差がないときに作られたと考えられる。また, 同時期に構築されていたとすれば, 第1号ビット列共に防衛的役割を果たしていたと考えられる。またS43j3区以西は調査区域外に伸びているため, さらに直線的に伸びるか, 道路と平行に南方向(N-180°)に屈曲するかは不明である。

第22号溝跡出土遺物観察表(第155図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
557	須恵器	坏	[18.0]	(4.2)	-	-	長石・石英	浅黄	普通	体部下端へツ削り	覆土中	10%
558	須恵器	高台付坏	-	(2.8)	[7.8]	-	長石・褐色粒子	灰黄	普通	ロクロ製形, 蓋部高台取り付け後ナデ	覆土中	10%
559	須恵器	坏	-	(1.3)	[8.8]	-	長石	灰黄	普通	ロクロ製形	覆土下層	30%炭粉付, PL10
560	土師質土器	皿	[7.6]	(2.4)	-	-	富母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へツ削り, 内面ナデ	覆土中	30%炭粉付, PL10

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP317	羽口	(9.5)	(5.2)	(4.3)	(83.0)	砂粒・スサ	内面は赤褐色をしたスサ入りの粘土で, わずかに植物繊維痕及び凹凸が確認されているが, 裏面は丁寧なナデが施されている。外面は黒褐色をした半面解状で, ガラス質の充積があり, 断面から下部への浸透性が窺われ, 導電性は非常に低い。内径 [13.6] cm	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q148	磁石	10.1	9.0	4.0	399	泥岩	底面1面, 二方向に使用, 底面以外に多方向の縦割状の研磨痕あり。他面は破砕	覆土中	
Q150	磁石	8.5	4.5	(2.9)	(124)	砂岩	底面3面, 一方向に使用, 側面破砕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M508	碗状滓	(8.7)	(5.6)	(2.7)	(165.3)	鉄	側面破砕, 裏面中央部平坦で, 表面やや突出	覆土中	PL100

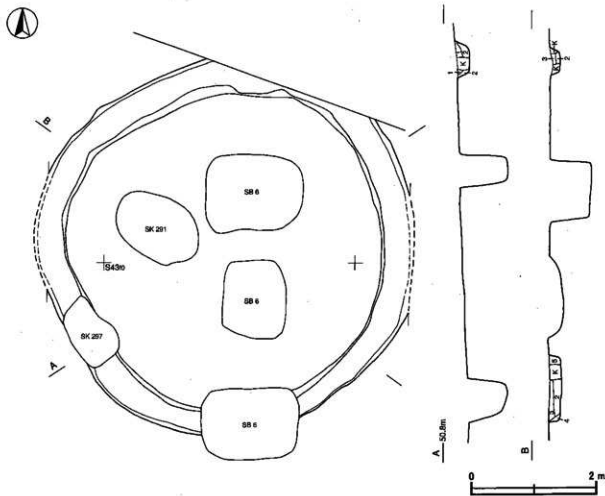
(5) 円形周溝状遺構

第1号円形周溝状遺構(第156図)

位置 中央1区西部のS43e0区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第6号掘立柱建物, 第291・297号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため, 確認できた規模は周溝を含めた径6.0mの円形で, 周溝内径5.0mである。長径方向はN-47°-Eである。周溝内は平坦でわずかに硬化している。填丘の封土などは確認されなかった。



第156図 第1号円形周溝状遺構実測図

周溝 全周している。上幅0.42～0.58m、下幅0.28～0.46m、深さ14～20cmで、底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形状をしている。

土層解説

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 にぶい黄褐色 ローム粒子中量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 甕), 須恵器片1点(坏)が周溝の覆土中から出土している。出土遺物は細片で、図示できるようなものはない。

所見 形状から円形周溝墓とも考えられたが、周溝内面が平坦で硬化しており、踏み固められるような行為が行われた場所または住居などのように人が日常的に使用されていた場所であった可能性があるが、その性格については不明である。時期は8世紀後葉以前と推定される第6号掘立柱建物跡に掘り込まれているので、それ以前と考えられる。

(6) 不明遺構

第3号不明遺構 (第157~162図)

位置 中央2区中央部のU47a6区に位置し、台地の斜面部に立地している。

規模と形状 規模は長軸7.07m、短軸4.40mの隅丸長方形で、主軸方向はN-85°-Wである。壁高は8~35cmほどで、外傾して立ち上がっている。本跡の付属施設である井戸跡が中央部西寄りに位置している。規模は長径1.68m、短径1.50mの楕円形で、確認面から深さ1.30mまで掘り込んだ時点で、湧水のため、それ以下の調査を中止した。また、東部には等高線に直交するように溝跡が付設されている。この部分の規模は上幅66~70cm、下幅40~54cmの逆台形状で、深さ10cmである。長さは谷部へ注いでいるため、確認できた長さは2.20mである。井戸跡の覆土中及びその周辺の床面から多数の土器片が出土している。

床 西壁から井戸跡までは平坦で、井戸跡から東部は緩やかな傾斜をしており、全体的に踏み固められているが、特に井戸周辺の踏み固めが顕著である。

ピット 5か所。P1~P4は深さ30~57cmで、不規則な配置である。柱穴の底面がくぼみ硬化していることから、主柱穴と考えられる。P5は深さ24cmで、他のピットの形状と規模が異なり、性格は不明である。

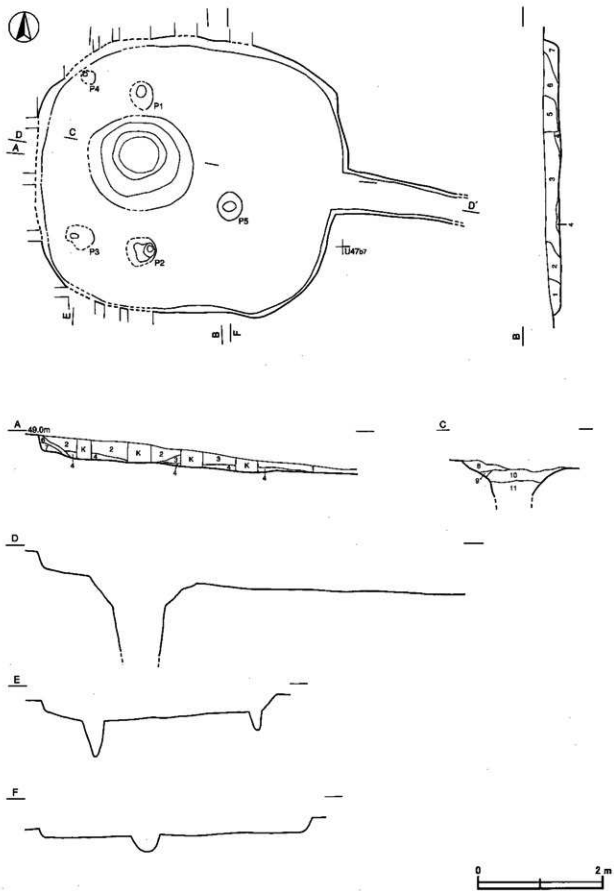
覆土 11層からなる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

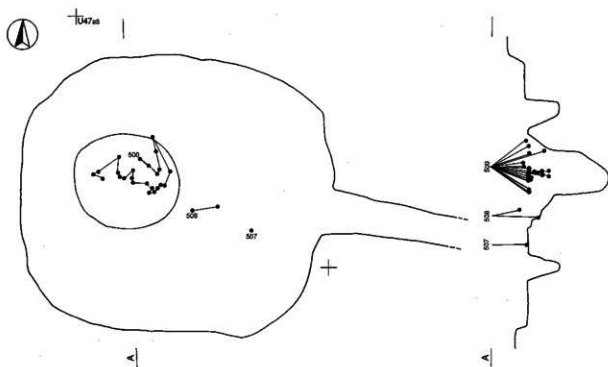
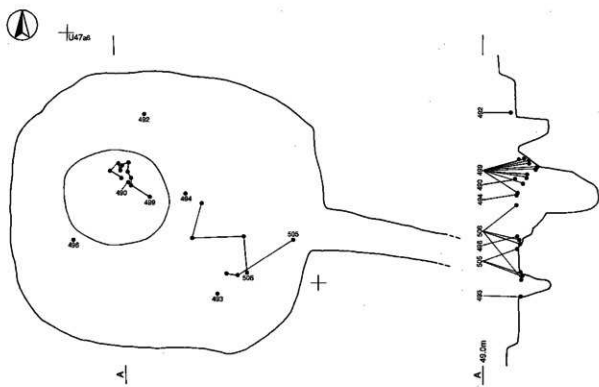
1 暗褐色	ローム粒子微量	7 濃い褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5 褐色	ロームブロック微量	11 黒褐色	ロームブロック微量
6 濃い褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土器片949点(坏5, 高坏12, 壺1, 台付壺1, 甕930), 須恵器片116点(坏6, 高台付坏1, 盤4, 壺1, 甕64), 土師質土器片3点(焙烙), 陶器片1点(瓶), 瓦片2点(平瓦), 礫7点(破砕礫; 被痕あり)が出土している。これらの遺物は中央部の井戸跡内とその周辺の床面及び覆土下層を中心に出土している。489~491・494・495・498~504・508は中央部の覆土下層, 492は北部の覆土下層, 496は南部の覆土下層, 493・505~507は南東部の覆土下層から出土している。

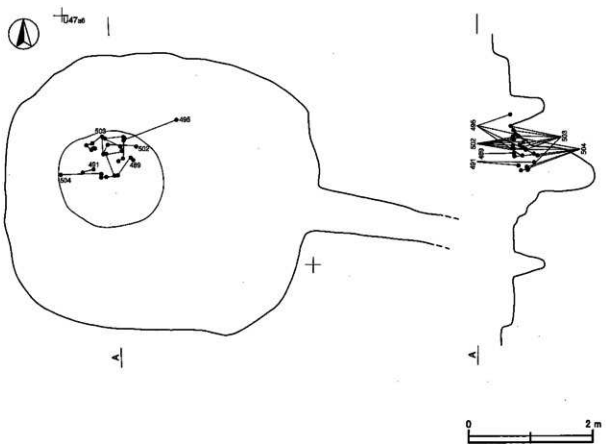
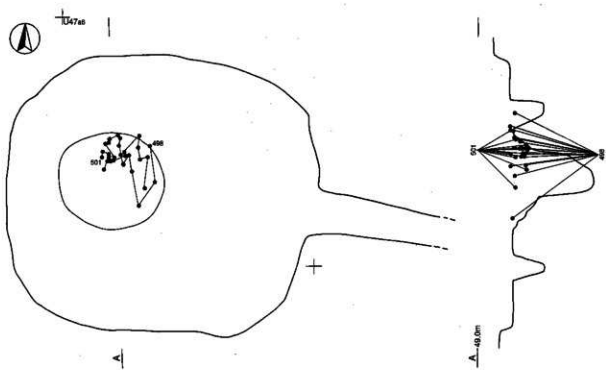
所見 本跡は中央部に井戸を持つ隅丸長方形の掘り込みであり、その井戸を囲むように4か所の柱穴があり、東壁から溝跡が等高線に直交して付設されている。溝跡は斜面を利用しているので、井戸から出た水を排水するために付設されたと考えられる。井戸跡周辺のピットは、その規模と形状から井戸を覆うような簡易な上屋構造の柱穴であったと考えられる。このような簡易の上屋構造であったことから、井戸跡は生活用水として使用されたと同時に、土器あるいは鋳型あるいは炉壁などのような粘土の加工などの作業を行った水場としての施設であった可能性がある。遺物の時期は長期にわたっており、中央部の井戸が使用しなくなった後に、投棄されたと考えられる土器片・須恵器片が多数出土している。時期の特定は難しいが、出土遺物の多くは9世紀中葉以前であることから、時期は9世紀中葉以前と考えられる。



第157图 第3号不明遺構実測図(1)



第158図 第3号不明遺構実測図(2)



第159图 第3号不明遺構実測図(3)



491



489



490



492



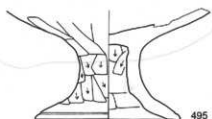
493



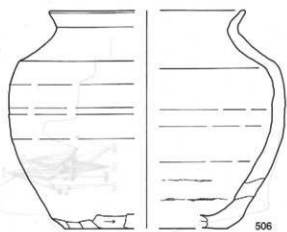
494



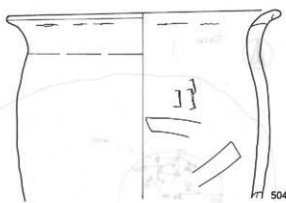
496



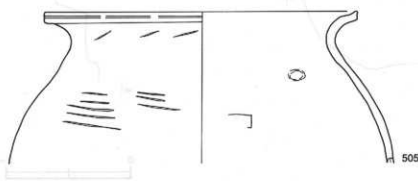
495



506



504



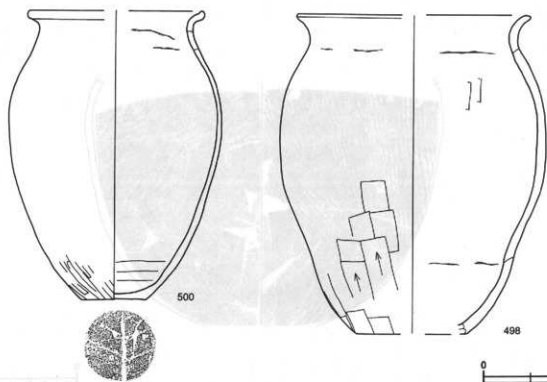
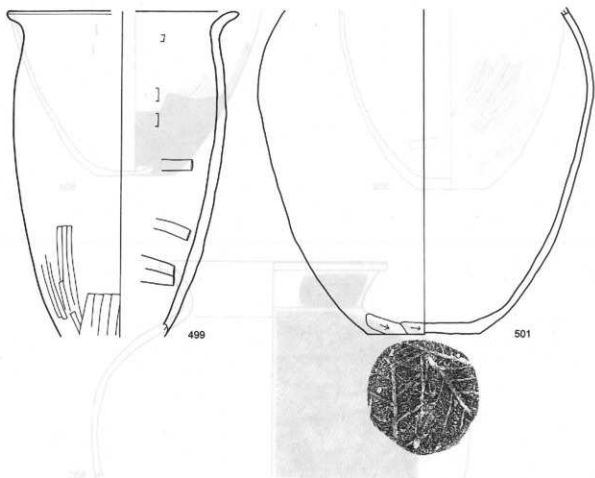
505



497

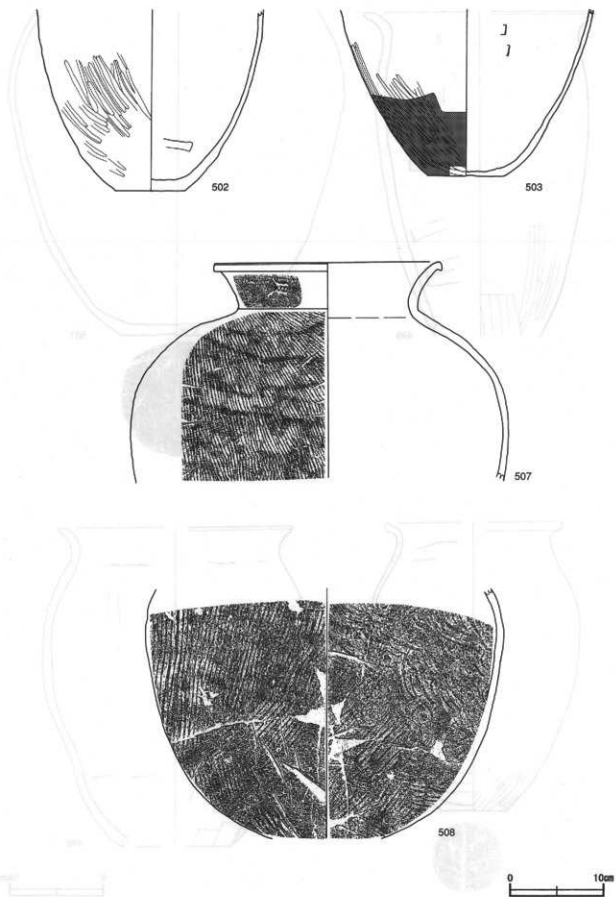


第160图 第3号不明遺構出土遺物実測図(1)



第161図 第3号不明遺構出土遺物実測図(2)

0 10cm



第162図 第3号不明遺構出土遺物実測図(3)

第3号不明遺構出土遺物観察表 (第160~162図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
489	須恵器	坏	[13.4]	3.6	9.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	中央部下層	50%、ヘラ記号
490	須恵器	坏	[12.6]	3.4	9.3	白色粒子・黒色粒子	黄灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	中央部下層	30%、ヘラ記号 PL83
491	須恵器	坏	[13.0]	2.3	9.2	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	中央部下層	60%、ヘラ記号
492	須恵器	坏	[14.4]	3.6	[8.4]	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロ整形	北部下層	15%、器面磨減
493	須恵器	高台付坏	10.8	4.3	[6.0]	長石・石英・白色粒子	灰	普通	ロクロ整形、体部内面丁寧なナデ、底部回転ヘラ切り、高台貼り付け後ナデ	南東部下層	70% PL75
494	須恵器	高甕	-	(3.0)	12.0	白色粒子・微塵	灰	普通	ロクロ整形、体部回転ヘラ削り、底部回転ヘラ切り、高台貼り付け後ナデ	中央部下層	50%
495	土師器	高坏	-	(8.6)	11.2	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	胴部内外面ヘラ削り、内面下端指ナデ	中央部下層	50%
496	土師器	高坏	-	(7.2)	12.6	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	胴部内面ヘラ削り、外都ハケ目後ヘラ磨き、外面からの穿孔3か所	南西部下層	55% PL75
497	陶器	瓶 ^a	-	(2.9)	-	長石	灰オリーブ	普通	ロクロ整形、刷毛塗り	覆土中	10%
498	土師器	甕	[24.6]	33.9	[11.6]	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	中央部下層	40% PL75
499	土師器	甕	[24.4]	(34.5)	-	長石・石英・微塵	にぶい赤	普通	体部外面下端に縦方向のヘラナデ、内面ヘラナデ	中央部下層	85%、甕材付着 PL75
500	土師器	甕	[20.2]	33.8	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端ヘラ磨き、内面上端工具痕・下端ヘラナデ、底部木葉痕	中央部下層	70% 甕材付着 PL75
501	土師器	甕	-	(34.7)	11.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り、底部木葉痕	中央部下層	50% 二次焼成
502	土師器	甕	-	(19.5)	9.1	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	中央部下層	30%
503	土師器	甕	-	(21.3)	8.0	長石・石英・雲母・微塵	明赤褐	普通	体部外面下端ヘラ磨き、内面ヘラナデ	中央部下層	30%、体部外面付着、二次焼成
504	土師器	甕	21.4	(15.0)	-	長石・石英・雲母	陶灰	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	中央部下層	10%、甕熱により器面磨減
505	土師器	甕	24.7	(12.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ、工具痕を残す、内面ヘラナデ、指痕あり	南東部下層	10%
506	須恵器	甕	[16.4]	17.3	[12.8]	長石・微塵	黄灰	普通	ロクロ整形、体部下端ヘラ削り	南東部下層	30%
507	須恵器	甕	23.7	(23.4)	-	長石・微塵	灰	普通	体部外面縦方向の平行叩き	南東部下層	5%、器面に磨減 [見] ≠ PL74
508	須恵器	甕	-	(26.5)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き、内面同心円状の当て具痕	中央部下層	10%

3 中世の遺構と遺物

今回の調査で方形竪穴遺構13基、掘立柱建物跡1棟、地下式塚1基、井戸跡12基、土坑3基、溝跡17条、さらに鑄造関連遺構として炉跡7基、鑄造関連土坑18基、排滓場2か所を確認した。以下、検出された遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

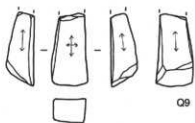
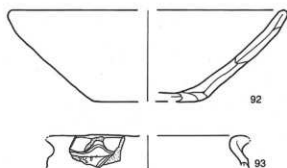
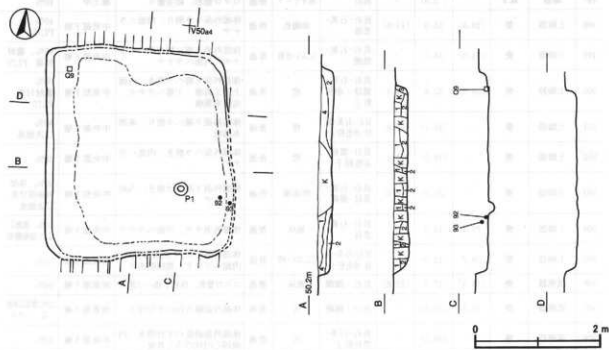
第1号方形竪穴遺構 (第163図)

位置 東区北西部のV50a3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けており、遺存状態は不良である。規模は長軸3.45m、短軸3.00mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は25cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

ピット P1は深さ10cmほどで、中央部から南東コーナー寄りに位置しているが、掘り込みが浅く、性格は不明である。



第163図 第1号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

覆土 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量 3 黒褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック中量 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物少量

遺物出土状況 陶器片3点(香炉1, 不明2), 瓦質土器1点(鉢), 石製品1点(砥石), 鉄滓9点(炉内溶解物8, 白色滓1), 礫18点(破砕礫;うち被熱痕5)が出土している。これらの遺物は北西部の覆土下層と南部の覆土中層から下層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片53点, 須恵器片24点, 灰釉陶器片1点が出土している。92・93は南東コーナー部の覆土下層, Q9は北西コーナー部の覆土下層から, それぞれ出土している。92・93は出土状況から本跡に伴う土器と考えられる。

所見 床面が全体的に硬化し, 使用頻度が高かったと考えられる。鉄滓等の出土から工房として使用されたと考えられる。時期は出土遺物から14世紀後葉と考えられる。

第1号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第163図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
92	瓦質土器	鉢	[31.7]	10.6	[11.9]	長石・黒色粒子・赤色粒子	褐灰	普通	内外面貼り付け後成形, 内面焼成後の擦痕あり	南東隅下層	20%, 種鉢 ○ PL73
93	陶器	香炉カ	[11.4]	(3.7)	-	黒色粒子	褐灰・灰 オリーブ	普通	口クロ整形後ナダ, 刷毛塗り	南東隅下層	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q9	砥石	(5.8)	2.9	2.1	(47.0)	凝灰岩	砥面4面, 二方向に使用, 一部欠損	北西隅下層	

第2号方形竪穴遺構(第164図)

位置 中央2区中央部のU48e8区に位置し, 台地の斜面肩部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸1.86m, 短軸1.78mの方形で, 主軸方向はN-87°-Eである。壁高は14cmほどで, ほぼ直立している。東壁の中央部に幅84cmで, 壁外へ46cmほど三角状に掘り込まれている部分を確認した。この掘り込み部分から多量の鉄滓とともに焼土・粘土・砂粒が出土している。

東壁掘り込み部分土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・鉄滓少量, 炭化粒子・砂粒微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック・鉄滓少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

床 ほぼ平坦で, あまり踏み固められていない。壁溝は確認されていない。

炉 中央部に付設されている。攪乱のため全容は不明であるが, 確認できた規模は長径92cm, 短径60cmで, 楕円形と推測される。深さは10cmほど掘りくぼめられ, さらにその中央部が5cmほど掘りくぼめられている。底面にはわずかに焼土が広がり, 硬化している。覆土にはロームブロック・焼土ブロック・小礫とともに鉄滓や炉壁片が含まれている。

炉土層解説

- 1 褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・炭化物微量 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・鉄滓微量
2 灰褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス・鉄滓微量
3 におい黄褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量, 粘土粒子微量 7 黒褐色 炭化物・鹿沼パミス微量
4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 8 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量

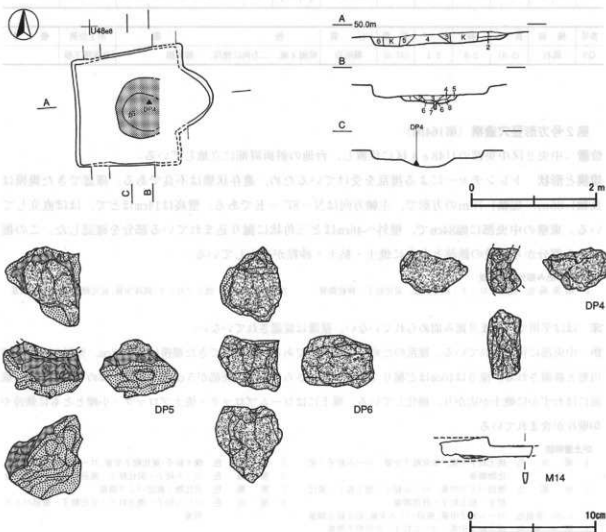
覆土 4層からなる。焼土ブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|----------------|
| 3 黒褐色 | 流沼バミス少量、ロームブロック少量 | 5 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・鹿沼バミス・鉄滓微量 | 6 明褐色 | ロームブロック中量、鉄滓微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(坏), 須恵器片1点(甃), 陶器片1点(碗), 鉄製品1点(刀子), 鉄滓248点(炉内溶解物), 炉壁片49点, 羽口片35点, 礫45点(破砕礫30, 円礫15; 被熱痕あり)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層を中心に出土している。DP4は炉跡の底面から出土している。

所見 本跡は出土遺物から中世における製鉄・鑄造関連遺構と考えられる。床面の中央部に付設された炉から砂粒や焼土とともに、鉄滓や炉壁片, 被熱痕のある小礫などが出土し, 底面は焼土の広がりが確認できる程度であることから, 住居に付設されているような炉ではなく, 溶解炉または鑄込みのための土坑の可能性もある。また, 東壁の中央部にある三角形状の掘り込みを竈として調査を始めたが, 火床部, 袖部及び甕材などが確認されていないので, 廃棄時に破壊されたと考えられたが, 本跡における三角形状の掘り込み部分の割合が大きいく, その三角形状の掘り込み部分の覆土からは多量の鉄滓とともに, 炉壁片や焼土や粘土・砂粒が含まれていることから, 竈ではなく, 製鉄・鑄造関連遺構に伴う施設があったと考えられる。この施設については送風部分や排煙部または溶解炉から鉄を鑄型へ流し込むための樋が設置された場所とも考えられたが, 周辺で樋に伴



第164図 第2号方形竈穴遺構・出土遺物実測図

う土坑やピット、または溶解炉が確認されていないことから、掘り込み部分の用途については不明である。また、同時期の第10～18号方形竪穴遺構や時期不明の第4号方形竪穴遺構などととも、鑄造関連遺構群が形成され、本跡はその一部であった可能性がある。

第2号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特 徴	出土位置	備 考
DP4	羽口	(5.4)	(3.4)	(2.9)	(40.0)	粘土(砂粒・微塵・スサ)	内外面は赤褐色をした、内面は砂粒を多く含み、表面ナデ、外縁はスサを含み、基部は割離し、残存部分にナデ、内径[7.5]cm、外径[11.4]cm	炉跡床面	10%
DP5	羽口	(6.3)	(6.4)	(4.5)	(81.0)	粘土(長石・砂粒)	内面は赤褐色をし、砂粒を含む粘土で、表面ヘラナデ、外面は黒褐色をした半溶解状が付着、内径[10.4]cm	覆土中	10%、羽口受部カ
DP6	羽口	(5.7)	(4.7)	(4.6)	(82.0)	粘土(長石・砂粒・微塵)	内外面は赤褐色をした砂粒を含む粘土で、外面の一部は割離し、内外面ナデ、内径[10.2]cm、外径[12.0]cm	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M14	刀子	(7.4)	(1.6)	(0.4)	(11.0)	鉄	断面三角形、刃部欠損、木質付着	覆土中	

第3号方形竪穴遺構（第165～167図）

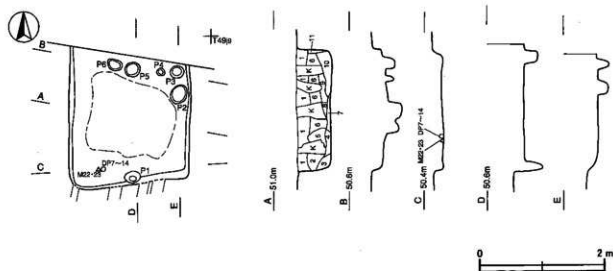
位置 中央2区北東部のT49j8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は長軸2.26m、短軸1.90mの長方形で、長軸方向はN-0°である。壁高は16cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は確認されていない。北東部のP2付近の床面に焼土の広がりやわずかに確認された。

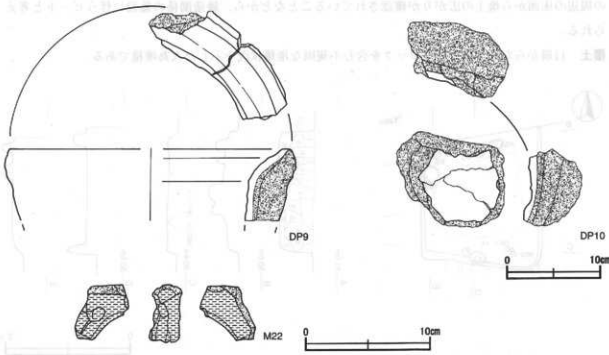
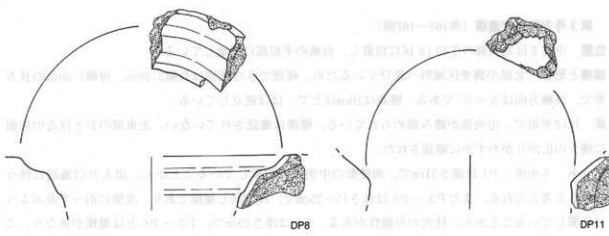
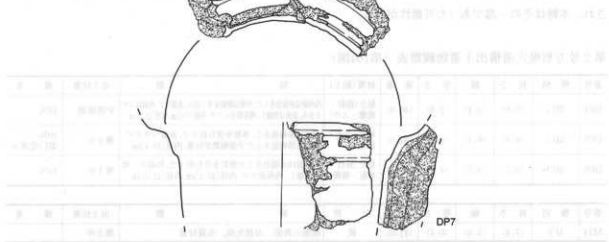
ピット 6か所。P1は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。またP3～P6は深さ15～25cmで、ほぼ同じ規模であり、北壁に沿って並ぶように位置していることから、柱穴の可能性がある。P2は深さ19cmで、P3～P6とは規模が異なり、この周辺の床面から焼土の広がりが確認されていることなどから、鑄造関係の施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

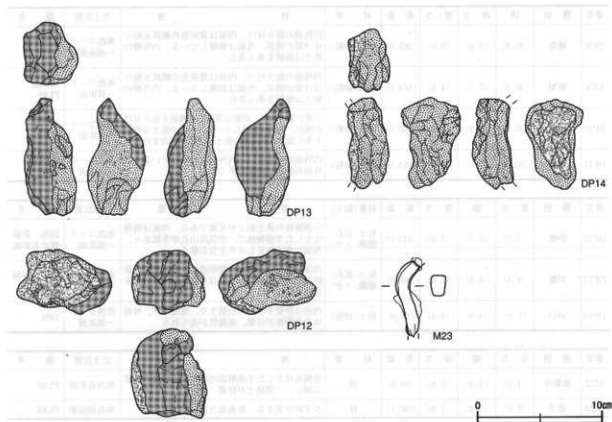


第165図 第3号方形竪穴遺構実測図

主 3号方墳出土の「土師器」の破片。破片は、口縁部から胴部にかけての間にあり、口縁部は厚く、胴部は薄く、口縁部と胴部の間に溝がある。破片の断面は、口縁部は厚く、胴部は薄く、口縁部と胴部の間に溝がある。破片の断面は、口縁部は厚く、胴部は薄く、口縁部と胴部の間に溝がある。



第166図 第3号方形竖穴遺構出土遺物実測図(1)



第167図 第3号方形竪穴遺構出土遺物実測図(2)

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 鋤型片92点(6430g)、炉壁片7点、羽口片1点、鉄製品1点(鍋把手)、鉄滓1点(流動滓)が出土している。これらの遺物は南西部の覆土下層を中心に出土している。DP7~14・M22・M23は南西コーナー部の床面から出土している。DP7~11は鉄鍋の鋤型で、鋤込みの時とは逆位で出土している。DP7~11は同一個体である。M22は流動滓で、溶解炉内のものと考えられる。M23は形状から鉄鍋の把手と考えられる。DP11~14・M23は本跡に伴う遺物と考えられる。

所見 鉄鍋の把手片と推定される鉄製品が出土し、さらに鉄鍋の鋤型が良好な状態で出土していることから、鋤造したものを製品化するための工房跡と考えられる。出土遺物と周辺の工房跡と推定される方形竪穴遺構との関係から、時期は中世と考えられる。また、本跡は第2・5・10~18号方形竪穴遺構が第7号溝跡の南部に位置するのに対して、本跡は第7号溝跡で区画された内部に位置する唯一の工房跡と考えられる。

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第166・167図)

番号	種別	径	高さ	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP7	鋤型	[30.0]	(10.3)	(5.0)	(1620.0)	粘土(砂粒・スチ)	3度の貼り付け、内面は青灰色の釉状を貼り付けが残存。外面は剝離している。内面の胎土は砂粒を多く含み、外周部の胎土にはスチが含まれる	南西コーナー部床面	鍋の外型 PL92

番号	種別	径	高さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP8	鐘型	[30.8]	(5.5)	(5.6)	(265.0)	粘土(砂粒)	内外面の貼り付け、内面は青灰色の膜状を貼り付け部が残存、外面は剥離している、内外面の粘土は砂粒を多く含む	南西コーナー一部床面	銀外型 PL91
DP9	鐘型	[30.0]	(7.7)	(4.5)	(604.0)	粘土(砂粒)	内外面の貼り付け、内面は青灰色の膜状を貼り付け部が残存、外面は剥離している、内外面の粘土は砂粒を多く含む	南西コーナー一部床面	銀外型 PL91
DP10	鐘型	[30.0]	(8.1)	(5.3)	(550.0)	粘土(砂粒)	3度の貼り付け、内面は青灰色の膜状を貼り付け部が残存、外面は剥離している、内面の粘土は砂粒を多く含む、外周部の粘土にはスサが含まれる	南西コーナー一部床面	銀外型 PL91
DP11	鐘型	[30.0]	(5.0)	(5.0)	(153.0)	粘土(砂粒)	内外面の貼り付け、内外面は剥離している、内外面の粘土は砂粒を多く含む	南西コーナー一部床面	銀外型 PL91

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質(粘土)	特徴	出土位置	備考
DP12	炉壁	(5.7)	(5.0)	(7.2)	(141.0)	粘土(長石・微塵・スサ)	半溶解性の鉄と粘土が互層である、内面は暗褐色をした半溶解状で、空気排出孔が多数あり、外面は青灰色をしスサを含む粘土	南西コーナー一部床面	10%、炉側壁から炉底
DP13	炉壁	(9.4)	(4.4)	(2.6)	(87.0)	粘土(長石・微塵・スサ)	内面は黒褐色をした半溶解状で、破砕面に空気排出孔が多数あり、外面は青灰色をしたスサを含む粘土	南西コーナー一部床面	10%、炉側壁*
DP14	羽口	(7.2)	(4.9)	(3.3)	(56.0)	粘土(砂粒)	内面は砂粒を多く含む粘土で、表面ナダ、外面は半溶解鉄が付着、流動性が見られる	南西コーナー一部床面	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M22	波動弁	(4.5)	(4.4)	(2.6)	(28.8)	鉄	青褐色化した半溶解状の鉄で、着磁性が非常に弱い、一部粘土が付着	南西部床面	PL99
M23	把手	(6.0)	(1.3)	(1.6)	(46.1)	鉄	S字状を呈する、断面長方形	南西部床面	PL88

第4号方形型遺構 (第168図)

位置 中央2区中央部のU45a5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第378号土坑を掘り込み、第352・353・354・365・379号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 土坑に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる擾乱を受けているため、遺存状態は不良である。

確認できた規模は長軸3.47m、短軸3.11mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は6cmほどで、ほぼ直立している。

床 確認面の一部床面が露呈している部分がある。ほぼ平坦で、炉の周辺とその南側が踏み固められている。壁溝は深さ4cmほどで、北壁際を巡っている。

炉 中央部に付設されている。第378号土坑に掘り込まれているため、確認できた規模は長径40cm、短径38cmの円形と推測され、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉底が被熱により赤変硬化している。炉の焼土から鉄滓が少量出土している。

炉土層解説

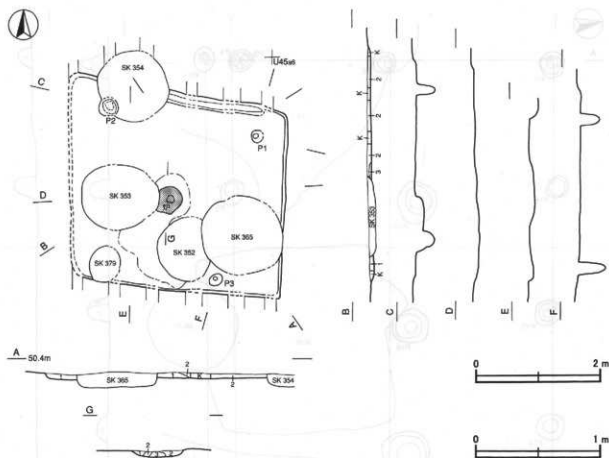
- 1 黒灰色 粘土粒子中量、焼土粒子微量
 2 赤褐色 焼土粒子多量
 3 灰褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・灰微量

ピット 3か所。P1・P2は深さ29・30cmで、北東・北西コーナー付近に位置する柱穴であるが、それに対応する南部では確認されていない。P3は深さ28cmで、性格は不明である。

覆土 3層からなる。浅いため、判断が困難であるが、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
 2 黒褐色 ロームブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量



第168図 第4号方形竪穴遺構実測図

遺物出土状況 土師器片 8点 (甕), 須恵器片 2点 (蓋, 甕), 陶器片 1点 (皿), 礫 1点が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土土器はすべてが細片で、図示できるものはない。

所見 坑内の焼土中から鉄滓が出土し、周辺には還元焼成による青灰色化した炉底も確認されていることから、住居跡ではなく、鉄関係の工房跡と考えられる。また、出土土器が少なく、さらにすべてが細片であるため、時期判断は困難であるが、周辺の遺構との関係から、時期は中世と考えられる。第2排滓場よりも西側で、当該期の工房跡である方形竪穴遺構が確認されているのは、本跡が唯一である。

(2) 掘立柱建物跡

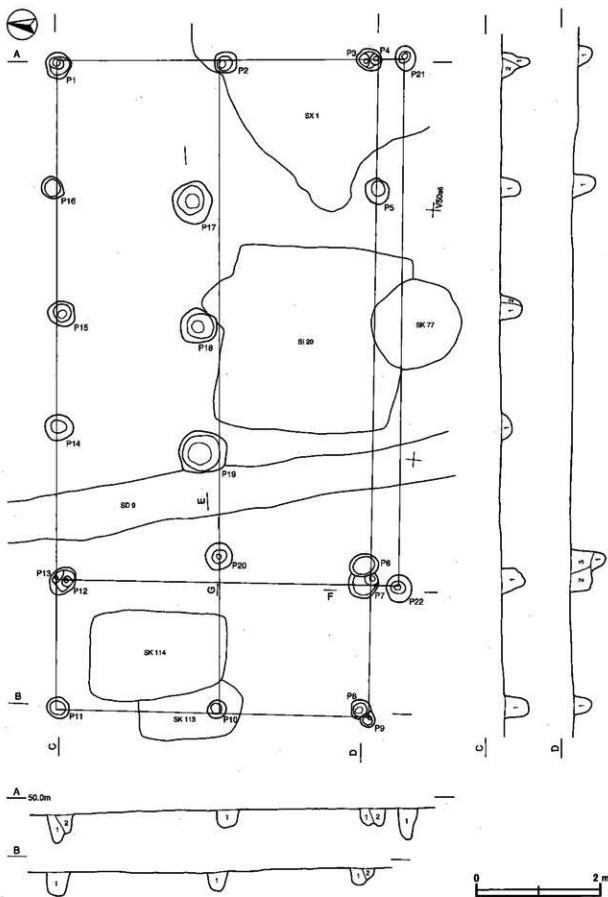
第3号掘立柱建物跡 (第169・170図)

位置 東区西部のU5013～U5016区に位置し、台地の平坦部に立地している。

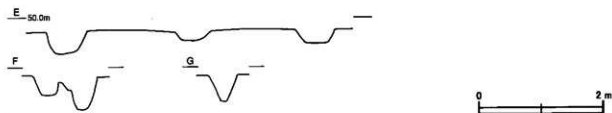
重複関係 第20号住居跡、第77・113・114号土坑、第9号溝跡・第1号不明遺構を掘り込んでいる。

規模と構造 北桁行5間・南桁行3間 (平均7.2m)、梁間2間 (平均3.5m) の総柱式建物跡で、桁行方向はN-88°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行1.44m、梁間1.75mで、面積は25.20㎡である。P4とP7の柱筋の南側に、平行にP21とP22があり、庇などの付属施設があった可能性がある。

柱穴 22か所。(P1～P22)で、平面形は長径0.24～0.72m、短径0.20～0.65mの円形または楕円形である。断面形はU字状を呈し、深さ10～60cmである。なお、柱痕は確認できなかった。P17～P19はP2・P10の柱筋よりも北側に位置し、柱筋は通らないが、規模と形状で本跡の柱穴と類似していることから、本跡に伴うと



第169图 第3号掘立柱建物踏实测图(1)



第170図 第3号掘立柱建物跡実測図(2)

考えられる。また、P21・P22は南桁行に平行して位置していることから、本跡に付属しているものと考えられる。柱材の寸法は不明である。覆土はすべて柱の抜き取り後に埋没した土層である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 中世と推定される第9号溝跡を掘り込んでいることと柱穴や規模と構造から、時期は中世以降と考えられる。なお、その想定が許されれば、南桁行で確認されなかった場所については平板状の礎を礎石において、柱を立てた可能性がある。周囲にあるピット群7は、本跡との関連が考えられる。

(3) 地下式竈

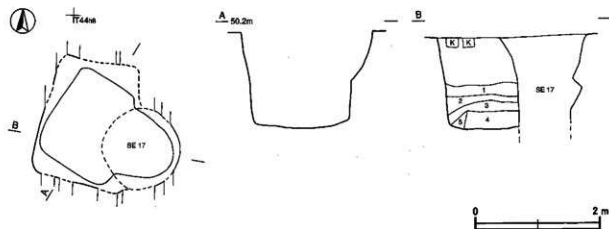
第1号地下式竈 (第171図)

位置 中央2区西部のT44b8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第17号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 竈坑周辺が第17号井戸に掘り込まれているため、規模と形状は不明である。主室は長軸1.68m、短軸1.44mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは1.44mで、底面から天井部までの高さが80cmである。天井部は崩落せずに遺存している。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 5層からなる。竈坑から主室に流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積である。天井部が遺存しているため、主室の上部は中空であった。



第171図 第1号地下式竈実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 | 5 明褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、遺物の形態から中世と考えられる。

(4) 井戸跡

第1号井戸跡 (第172図)

位置 中央1区東部のV51d9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

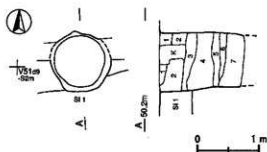
重複関係 第1号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 上部は長径0.95m、短径0.92mの円形で、長径方向はN-17°-Wである。形状は円筒形に掘り込まれて、確認面から135cmまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

覆土 7層からなる。ロームブロック・鹿沼パミスを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------|------|-------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・鹿沼パミス微量 | 5 黒色 | 鹿沼パミス中量、粘土粒子少量 |
| 2 黒色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 | 6 黒色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒色 | ロームブロック微量 | 7 黒色 | ロームブロック少量、鹿沼パミス微量 |
| 4 黒色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量 | | |



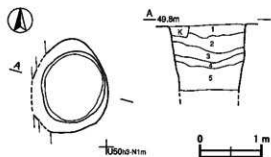
第172図 第1号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片11点(壺7, 埴3, 高坏1), 須恵器片1点(甕), 鉄滓1点(炉内溶解物), 礫1点(円礫; 被熱痕)が覆土中から出土している。出土した遺物はすべてが細片で、図示できるものはない。

所見 時期は、4世紀前半の第1号住居跡を掘り込んでいるので、それ以降であるが、形状及び中世の鑄造に関係した鉄滓や被熱痕のある円礫が混入していることから、中世以降と考えられる。

第2号井戸跡 (第173図)

位置 中央1区東部のU50g2区に位置し、台地の平坦部に立地している。



第173図 第2号井戸跡実測図

規模と形状 上部は長径1.48m、短径1.25mの楕円形で、長径方向はN-41°-Eである。形状は円筒形に掘り込まれて、確認面から101cmまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片5点(坏1, 甕4), 須恵器片2点(甕・壺), 炉壁片15点, 鋤型片1点, 鉄滓4点(流動滓2, 白色滓2), 礫2点(円礫; うち被熱痕1)が覆土中から出土している。出土遺物のすべてが細片で, 図示できるようなものはない。

所見 時期は, 形状及び中世の鋤造に關係した鉄滓や被熱痕のある円礫が混入していることから, 中世以前と考えられる。

第4号井戸跡 (第174図)

位置 中央1区東部のV50d5区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 上部は長径2.48m, 短径2.28mの不整形円で, 長径方向はN-34°-Wである。確認面から深さ0.92mまでは漏斗状で, 下部は長径1.56m, 短径1.48mの円筒形に掘り込まれている。確認面から127cmまで掘り込んだ時点で湧水のため, それ以下の調査を中止した。

覆土 9層からなる。第4～9層は壁際から流れ込んだ自然堆積の状況を示し, 上層及び中層はロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

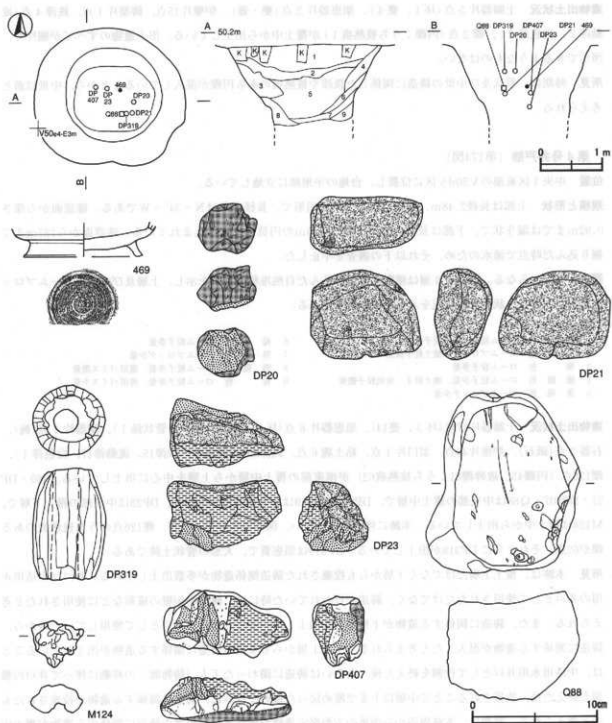
1 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ローム粒子多量	8 明褐色	ローム粒子多量, 炭沼バミス微量
4 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量, 炭沼バミス少量
5 黒褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片17点(坏3, 甕14), 須恵器片8点(坏3, 甕3, 瓶1, 管状鍾1), 陶器片1点(碗), 石器2点(砥石), 炉壁片40点, 羽口片1点, 粘土塊6点, 鉄滓35点(鉄塊2, 鉄滓15, 流動滓17, 白色滓1), 礫126点(円礫45, 破砕礫81; うち被熱痕62)が南東部の覆土中層から上層を中心に出土している。469・DP21・DP407・Q88は中央部の覆土中層で, DP20・DP319は中央部の覆土上層で, DP23は中央部の覆土下層で, M124は覆土中から出土している。本跡に伴う遺物はない。図示できなかったが, 礫126点のうち被熱痕のある礫が62点, それと共にDP319が出土している。DP319は須恵質で, 大形の管状土鍾である。

所見 本跡は, 覆土上層だけでなく下層からも投棄された鋤造関係遺物が多数出土している。井戸は生活用水用の井戸として使用されただけでなく, 鋤造が行われていた時には, 鋤型や炉壁の成形などに使用されたと考えられる。また, 鋤造に關係する遺物が下層からも出土していることから, 井戸として使用していた時から, 鋤造に關係する遺物が混入したと考えられる。また上層からも多量の鋤造に關係する遺物が出土していることは, 生活用水用井戸として役割を終えた後, あるいは鋤造に関わった工人(鋤物師)の移動に伴って井戸の機能が終了後, 放置されることで中層以上まで埋め戻った後のくぼみに, 鋤造に關係する遺物が投棄されたものと考えられる。時期は, 本跡周辺から中世の方形竪穴遺構が確認され, 中世の鋤造に關係する遺物が覆土中層以上で多量に出土していることから, 中世と考えられる。

第4号井戸跡出土遺物観察表 (第174図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
469	須恵器	高合付 坏	-	(2.4)	[9.2]	長石・石英・ 微礫	灰	普通	底部内面丁寧なナデ・外周面 転ヘラ切り, 高台貼り付け後 ナデ	中央部中層	ヘラ記号 PL83



第174図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP20	伊壁	(4.7)	(3.9)	(3.5)	(40.0)	砂粒・スサ	溶解鉄部には多数の空気排出孔, 粘土は繊維痕あり	中央部上層	
DP21	粘土塊	(7.1)	(8.8)	(4.6)	(240.0)	長石・砂粒	一部割離, 未調整	中央部中層	
DP23	羽口	(5.5)	(8.7)	(5.5)	(220.0)	長石	内面は赤褐色をし, ナテ調整, 外面は黒褐色をし溶解状鉄が付着, 内径 [10.6] cm	中央部下層	
DP407	伊壁	(10.1)	(4.2)	(3.6)	(122.2)	砂粒	外面は暗青灰色をしたスサ入りの粘土で, 内面は暗褐色をした半溶解鉄が付着し, 多数の空気排出孔あり	中央部中層	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質(胎土)	特	徴	出土位置	備考
DP319	管状土甎	5.8	2.0	8.9	292.0	土・長石	須恵質, 表面へラ削り		中央部上層	95%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	徴	出土位置	備考
Q88	砥石*	14.1	12.2	8.5	1170.0	泥岩	砥面1面, 一方向		中央部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M124	鉄塊	(4.1)	(3.6)	(2.2)	(42.0)	鉄	溶解した鉄塊		覆土中	PL100

第5号井戸跡 (第175図)

位置 中央1区東部のV50d5区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第3号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた規模は, 長径1.65m, 短径1.30mの楕円形で, 長径方向はN-23°-Eである。形状は円筒形で, 確認面から182cmまで掘り込んだ時点で湧水のため, それ以下の調査を中止した。

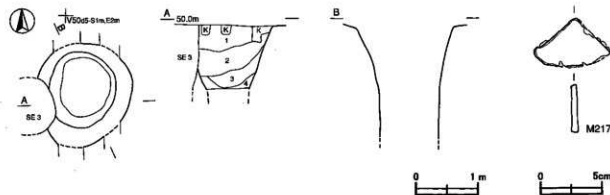
覆土 4層からなる。ロームブロック・鹿沼バミスを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 鹿沼バミス少量, ロームブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 4 黒褐色 鹿沼バミス少量, ローム粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 弥生土器片1点(広口壺), 土師器片24点(坏5, 甕19), 須恵器片6点(坏3, 甕3), 炉壁20点, 鉄製品1点(火打金), 鉄滓15点(炉内溶解物13, 流動滓2), 褐鉄鉱3点, 礫2点(破砕礫; うち被熱痕2)が覆土中から出土している。M217は覆土中から出土している。

所見 時期は, 近世と想定される第3号井戸に掘り込まれていることから, 中世と考えられる。また, 第4号井戸跡とは近接し, 鑄造に関係する遺物の出土量が少ないことから, 鑄造が行われる以前に使用されていたと想定され, 本跡は第4号井戸跡よりも古いと考えられる。



第175図 第5号井戸跡・出土遺物実測図

第5号井戸跡出土遺物観察表 (第175図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M217	火打金	3.8	6.1	0.6	(58.2)	鉄	三角形状, 断面長方形		覆土中	PL88

第6号井戸跡 (第176図)

位置 東区西部のU50a1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 北・西部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は、長径1.18m、短径0.95mで、平面形は楕円形と推測される。長径方向はN-20°-Wである。形状は円筒形に掘り込まれて、確認面から110cmまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

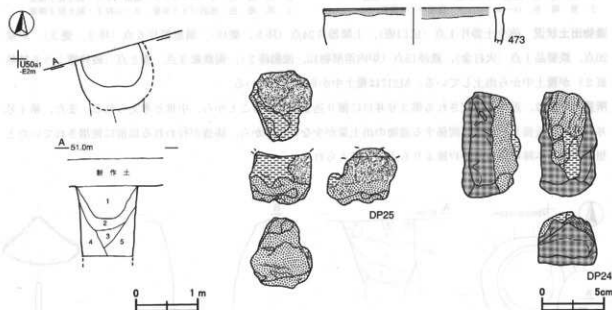
覆土 5層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片5点(坏1, 甕4), 須恵器片2点(甕), 陶器片1点(鉢), 炉壁片6点, 羽口片2点, 鉄滓2点(流動滓), 礫1点(円礫; 被熱痕あり)が覆土中から出土している。473・DP24・DP25は覆土中から出土している。

所見 出土している遺物の多くが中世の製造に関係する遺物で、覆土下層から出土していることから、時期は中世と考えられる。



第176図 第6号井戸跡・出土遺物実測図

第6号井戸跡出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
473	陶器	鉢	[14.2]	(2.9)	-		長石, 緻密	灰白色	普通	灰輪の掛け掛け	覆土中	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴			出土位置	備考	
DP24	炉壁	(8.0)	(4.7)	(4.7)	(123.0)	砂粒・スサ	炉壁は還元焼成を受ける, 内面に黒褐色をした半溶解状鉄が付着, 外面は赤褐色をし, 砂粒・スサを含む粘土で, 未調整			覆土中		
DP25	羽口	(5.6)	(4.1)	(4.4)	(81.0)	砂粒・スサ	内面は赤褐色をし砂粒を含む粘土で, 表面はナ字調整, 外面は青灰色をした半溶解状鉄で, 着磁性が強い, 空気排出孔多数			覆土中		

第7号井戸跡 (第177図)

位置 中央2区東部のV49c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第24号住居跡・第24号溝跡を掘り込み、第283号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 規模は長径2.10m、短径2.05mの楕円形で、長径方向はN-53°-Eである。確認面から深さ1.20mまでは漏斗状に、下部は長径1.34m、短径1.24mの円筒形に掘り込まれている。確認面から165cmまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

覆土 12層からなる。最下層の第7層と上層の1層はロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積で、壁際は三角状の堆積状況を示した自然堆積である。本跡は廃棄後途中まで埋め戻された後、自然堆積をし、上部のくぼみに土器と共に土が投棄されたと考えられる。

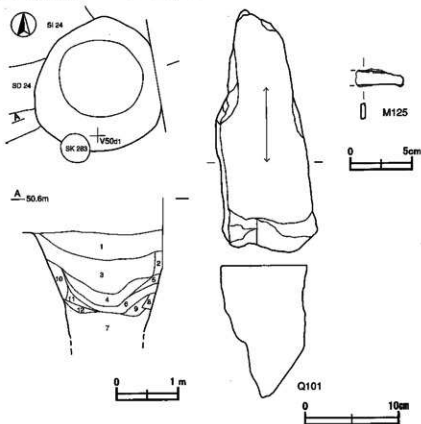
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片26点

(甕), 須恵器片8点(坏1, 蓋3, 甕4), 鉄製品6点(火打金カ1, 不明5), 炉壁片8点, 鉄滓7点(鉄塊3, 炉内溶解物4)が覆土中から出土している。Q101・M125は覆土中から出土している。

所見 4世紀前半の第24号住居跡を掘り込んでいることから、4世紀前半以降であるが、当遺跡で確認されている第4号井戸跡と規模及び形状で類似していることから、時期は中世と考えられる。



第177図 第7号井戸跡・出土遺物実測図

第7号井戸跡出土遺物観察表 (第177図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q101	磁石	25.6	10.7	13.9	4220.0	泥岩	底面1面、一方向に使用	覆土中	
M125	不明	(3.8)	(1.2)	0.4	(5.0)	鉄	断面長方形	覆土中	

第8号井戸跡 (第178図)

位置 中央2区東部のU49e9区に位置し、台地の平坦部に立地している。
 重複関係 第15号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東部が調査区域外へ伸びているため、確認できた規模は長径1.50m、短径1.30mで、平面形は楕円形と推測される。長径方向はN-50°-Wである。確認面から深さ0.8mまでは漏斗状で、下部は径1.0mの円筒形に掘り込まれているが、西側が崩れて構築当時の状態を保たれていない。確認面から132cmまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

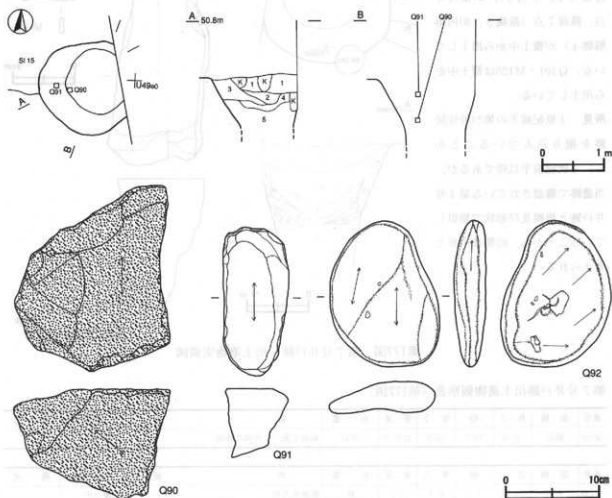
覆土 5層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片4点(莞), 陶器片2点(碗), 石器3点(砥石), 炉壁片20点, 鉄滓12点(炉内溶解物2, 流動滓10), 礫6点(円礫2点, 破砕礫4点; うち被熱痕3)が西部の覆土中層から上層を中心に出土している。Q90は西部の覆土下層, Q91は西部の覆土中層, Q92は覆土中から出土している。Q90は被熱痕のある砥石である。

所見 砥石や炉壁片などの铸造に関係する遺物が出土していることから、周辺に铸造に関係する遺構が存在し



第178図 第8号井戸跡・出土遺物実測図

ていたと考えられる。また、本跡周辺にある井戸跡の形状と類似していることや鋳造に関する遺物が出土していることなどから、時期は中世と考えられる。

第8号井戸跡出土遺物観察表 (第178図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q90	砥石	19.7	16.4	11.5	3370.0	泥岩	砥面2面、二方向に使用	覆土下層	全面被熱痕・塵付着 PL86
Q91	砥石	15.7	7.0	11.6	109.0	泥岩	砥面2面、二方向に使用	覆土下層	
Q92	砥石	15.5	11.7	3.5	777.0	泥岩	砥面3面、多方向に使用	覆土中	凹石の転用か PL86

第9号井戸跡 (第179～181図)

位置 中央2区中央部のU47f3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第14号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 規模は長径1.30m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。形状は円筒形で、確認面から134cmまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

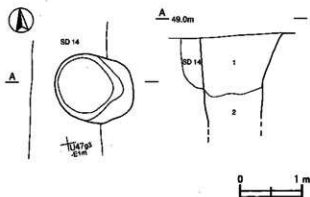
覆土 2層からなる。ロームブロック・鉄滓などを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・鉄滓・砂粒微量

2 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・砂粒・小石微量

遺物出土状況 土師器片1点(坏), 須恵器片2点(坏・蓋), 石器2点(砥石・敲石), 鉄製品7点(不明), 炉壁片121点, 羽口片29点, 鋳型片3点, 粘土塊94点, 鉄滓152点(炉内溶解物87, 流動滓25点, ガラス質滓25, 銅発色滓1, 白色滓14), 礫12点(円礫4, 破砕礫8;うち被熱痕5)が覆土中から出土している。DP32~DP34・DP36~DP42・Q93・Q94・M218~M221は覆土中から出土している。

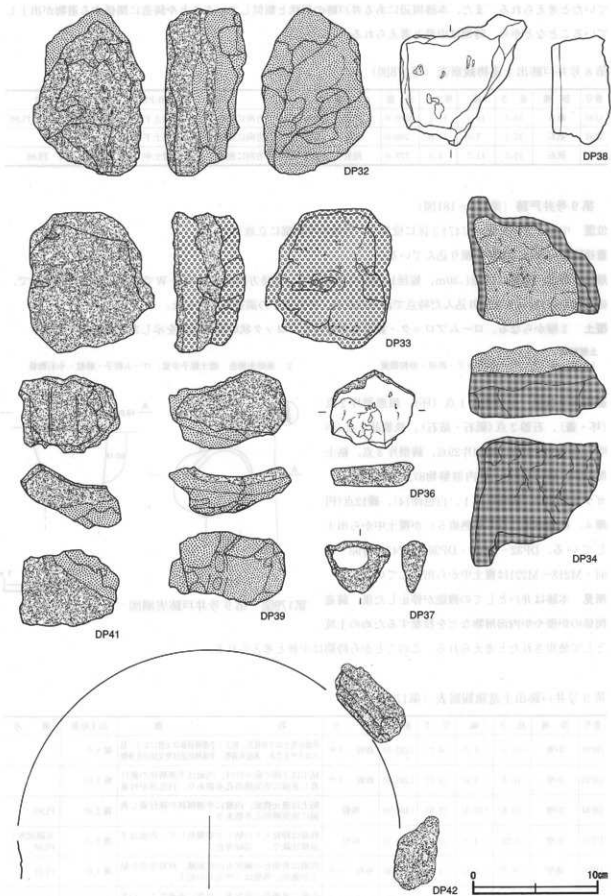


所見 本跡は井戸としての機能が停止した後、鋳造関係の炉壁や炉内溶解物などを投棄するための土坑として使用されたと考えられる。このことから時期は中世と考えられる。

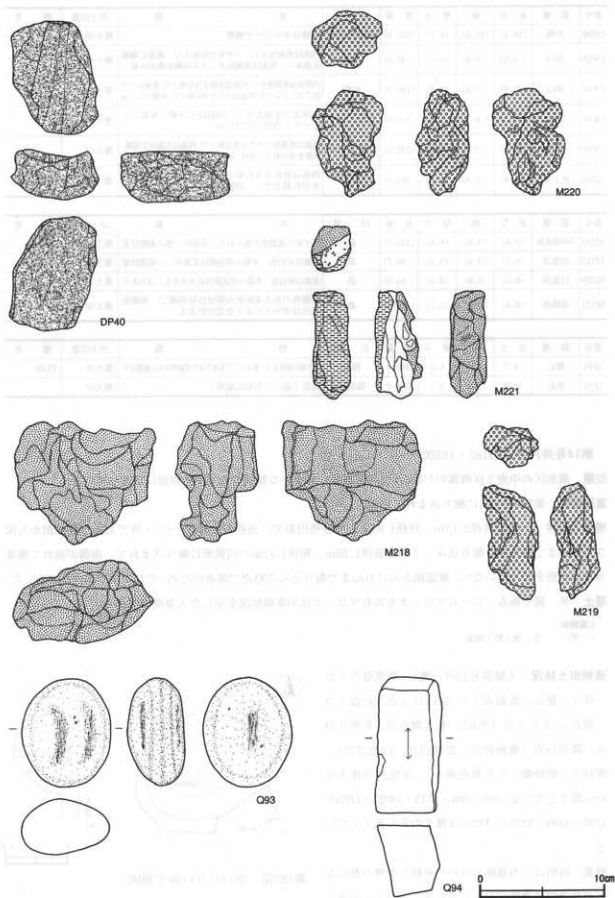
第179図 第9号井戸跡実測図

第9号井戸跡出土遺物観察表 (第179～181図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP32	炉壁	(13.5)	(8.7)	(6.2)	(432.0)	砂粒・スサ	外面の胎土は2層厚。胎土と半溶解状は互層になり、胎土はスサを含み、表面未調整。半溶解状は空気排出孔多数	覆土中	
DP33	炉壁	(10.4)	(9.8)	(5.7)	(385.0)	砂粒・スサ	胎土は2回の貼り付け。内面は半溶解状の鉄付着し表面に空気排出孔多数あり。白色滓が付着	覆土中	
DP34	炉壁	(10.4)	(10.4)	(5.5)	(450.0)	砂粒	胎土は還元焼成。内面に半溶解状の鉄付着し表面に空気排出孔多数あり	覆土中	FL95
DP35	炉壁	(4.25)	(4.2)	(3.6)	(50.0)	砂粒	外面は砂粒入りの胎土で赤褐色して、内面は半溶解状鉄で、一部緑青色	覆土中	実測図無し FL96
DP36	鋳型	(6.2)	(6.6)	(1.9)	(60.0)	砂粒・スサ	内面は青褐色の塊状ものが割離。砂粒を含む粘土が露出。外面はスサ入りの胎土	覆土中	FL91
DP37	鋳型	(4.0)	(5.2)	(1.9)	(30.0)	砂粒・スサ	内面に青褐色の塵付着。外面に赤褐色で、わずかに縦線圧痕あり	覆土中	FL91



第180図 第9号井戸跡出土遺物実測図(1)



第181图 第9号井戸跡出土遺物実測図(2)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP38	不明	(10.4)	(10.0)	(4.7)	(345.0)	赤色粒子・雲母	内壁は平らにナゲ調整	覆土中	
DP39	羽口	(6.2)	(9.8)	(3.3)	(92.0)	砂粒	内面は赤褐色をし、スヤを含む粘土で、表面に縦筋圧痕あり、外面は暗褐色をした半溶融状が付着	覆土中	
DP40	羽口	(3.9)	(8.9)	(3.6)	(180.0)	砂粒	内外面は赤褐色をし、内面は砂粒を含む粘土で、表面はへう状工具によるナゲ、外面はスヤを含む粘土で、内径[11.4]cm	覆土中	
DP41	羽口	(6.7)	(8.1)	(5.1)	(122.0)	砂粒・スヤ	内外面は赤褐色をし、内面はへう状工具痕によるナゲ、内径 [17.2] cm	覆土中	
DP42	罎形	(5.8)	(7.0)	(3.5)	(122.0)	砂粒・スヤ	外面は暗褐色でスヤを含む粘土で、内面は大部分が剥離、砂粒を含む粘土、外径 [37.0] cm、内径 [30.0] cm	覆土中	
DP43	粘土塊	(8.6)	(6.3)	(5.3)	(203.0)	雲母・砂粒・スヤ	内面は砂粒を含む粘土を貼り付け、外面にスヤを含む粘土で、一部剥離	覆土中	実測図無し

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M218	炉内蓋部	(9.8)	(9.6)	(6.6)	(310.0)	鉄	わずかに流動性が見られる。表面の一部に赤錆付着	覆土中	PL98
M219	白色滓	(9.1)	(4.4)	(3.8)	(96.7)	鉄	表面は灰白色。多数の空気層孔あり、一部錆付着	覆土中	
M220	白色滓	(8.5)	(5.6)	(4.9)	(94.4)	鉄	表面は灰白色。多数の空気層孔や大きなくぼみあり	覆土中	
M221	流動滓	(8.4)	(3.0)	(3.7)	(79.4)	鉄	腐蝕性のある青灰色の部分は粒状塊で、赤紫色部分はガラスのような光沢がある	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	出土位置	備 考
Q93	磨石	8.7	7.0	4.3	350.0	砂岩	上下面に磨痕あり、砥石として転用された可能性のある磨痕あり	覆土中	PL86
Q94	砥石	10.8	5.3	5.7	508.0	凝灰岩	砥面1面、一方方向に使用	覆土中	

第14号井戸跡 (第182・183図)

位置 調査区の中央2区西部のU45a3区に位置し、緩やかな傾斜の台地の平坦部に立地している。

重複関係 第359号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上部は長径2.13m、短径1.82mの不整形円形で、長径方向はN-61°-Wである。確認面から深さ1.00mまで漏斗状に掘り込み、下部は長径1.20m、短径1.12mの円筒形に掘り込まれて、南側が崩れて構築当時の状態を保っていない。確認面から1.41mまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

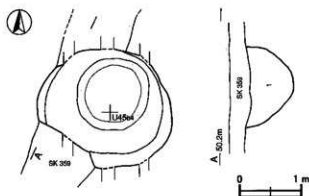
覆土 単一層である。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

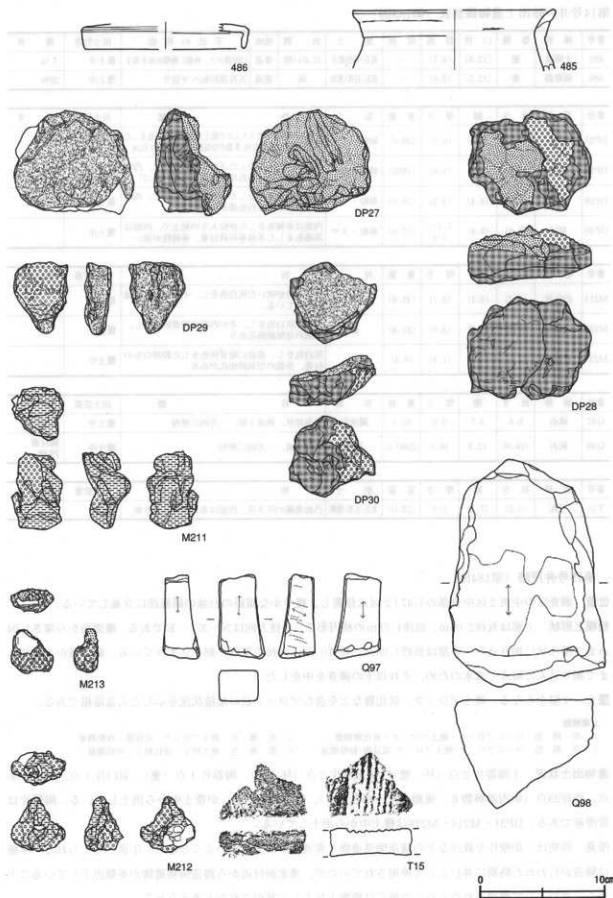
1 黒 色 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片12点(甕)、須恵器片7点(坏3、甕3、長頸壺1)、羽口片2点、石器3点(砥石)、瓦片4点(平瓦)、粘土塊6点、炉壁片54点、鉄滓79点(製錬滓37、流動滓19、白色滓23)、礫18点(破砕礫；うち被熱痕8)、炭化材が覆土中から出土している。485・486・T15・DP27~DP30・Q97~Q99・M211~M213は覆土中から出土している。

所見 時期は、当遺跡の井戸の形状と炉壁や鉄滓などの建造関係遺物が混入していることから、中世と想定される。



第182図 第14号井戸跡実測図



第183图 第14号井戸跡出土遺物実測図

第14号井戸跡出土遺物観察表 (第183図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
485	土師器	甕	[15.8]	(4.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部ナゲ、外面に輪痕み痕を残す	覆土中	5%
486	須恵器	甕	[12.5]	(2.0)	-	長石・赤・黄緑	灰	普通	天井部回転ヘラ切り	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特	徴	出土位置	備考
DP27	伊壁	(8.4)	(9.4)	(6.2)	(39.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色をしたスサ入りの粘土で、内面は暗褐色をした半溶解状鉄で、東向き、多数の空気挿出孔、外径[49.0]cm		覆土中	
DP28	伊壁	(8.1)	(9.9)	(4.6)	(1660)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入りの粘土で、内面は半溶解状鉄は白色滓が付着、外径[45.2]cm		覆土中	
DP29	伊壁	(5.7)	(4.4)	(2.2)	(39.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入りの粘土で、内面は半溶解状鉄は白色滓が付着		覆土中	
DP30	羽口	(6.4)	(5.9)	2.3~3.9	(57.0)	砂粒・スサ	内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で、内面は黒褐色をした半溶解状鉄付着、着磁性が強い		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M211	白色滓	(6.2)	(4.1)	(3.7)	(45.6)	鉄	表面が粉が吹いた灰白色をし、その内面は暗緑灰色をしている		覆土中	
M212	白色滓	(4.3)	(4.3)	(3.0)	(21.8)	鉄	表面は灰白色をし、その内面は暗青灰色をし、多数の空気挿出孔あり		覆土中	
M213	白色滓	(3.4)	(3.4)	(1.9)	(8.3)	鉄	灰白色をし、表面に暗青灰色をした粒状のもの付着、多数の空気挿出孔がある		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	徴	出土位置	備考
Q97	磁石	6.6	3.7	2.9	93.1	凝灰岩	四角柱状、縦面4面、二方向に使用		覆土中	PL86
Q98	磁石	(18.0)	12.3	18.6	(2380.0)	凝岩	縦面1面、一方向に使用		覆土中	備付着PL86

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特	徴	出土位置	備考
T15	平瓦	(5.2)	(7.2)	2.2	(72.0)	長石・赤・黄緑	凸面荒縄の叩き目、凹面は布目痕、糸切り痕		覆土中	

第15号井戸跡 (第184図)

位置 調査区の中央2区中央部のU47f2区に位置し、緩やかな傾斜の台地の斜面部に立地している。

規模と形状 上部は長径2.05m、短径1.71mの楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。確認面から深さ1.04mまで漏斗状に掘り込み、下部は長径1.08m、短径0.92mの楕円筒形に掘り込まれている。確認面から1.48mまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

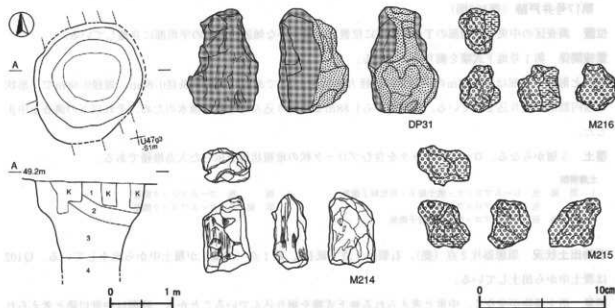
覆土 4層からなる。焼土ブロック・炭化物などを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 4 黒褐色 焼土粒子・炭化物・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 甕), 須恵器片2点(坏, 甕), 陶器片1点(甕), 羽口片1点, 伊壁片30点, 鉄滓23点(炉内溶解物8, 流動滓8, 礫1点(円礫)が覆土中から出土している。陶器片は常滑産である。DP31・M214~M216は覆土中から出土している。

所見 時期は、伊壁片や鉄滓などの鍛造関係遺物と常滑産が出土していることから、中世と考えられる。本跡は鍛造が行われた時期に井戸として使用されていたが、湧水面付近から鍛造関係遺物が多数出土していることから、井戸として使用されなくなった後には廃棄土坑として使用されたと考えられる。



第184図 第15号井戸跡・出土遺物実測図

第15号井戸跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	備考
DP31	炉壁	(8.2)	(5.5)	(5.7)	(42.3)	砂粒・スサ	外面は赤褐色を呈し、砂粒・スサ入りの粘土で、表面は未塗装、内面は暗褐色をした半溶融状態で、空気排出孔多数あり	覆土中
M214	鉄片	(6.7)	(3.8)	(2.8)	(42.3)	鉄	一部割離、断面台形	覆土中
M215	白色滓	(3.7)	(4.2)	(3.9)	(33.1)	鉄	白色部には大小の空気排出孔が多数あり、着磁性的のある青灰色の粒状鉄附着	覆土中
M216	白色滓	(3.6)	(3.2)	(3.4)	(29.6)	鉄	白色部には多数の空気排出孔あり、青灰色にはわずかな着磁性がある	覆土中

第16号井戸跡 (第185図)

位置 中央2区東部のT49i4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 上部は長径1.10m、短径1.00mの円形で、長径方向はN-49°-Eである。形状は円筒形に掘り込まれている。確認面からの深さ1.45mである。底面は平坦で、ほぼ直立している。

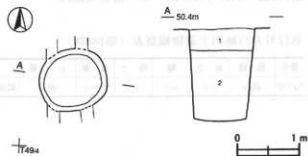
覆土 2層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・青色粘土ブロック・炭沼バミス微量
- 褐色 ロームブロック少量、青色粘土ブロック・炭沼バミス微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 中世の鍛造遺構である第3号方形竪穴遺構や第7号溝跡などが本跡に隣接する場所から確認されていることから、時期は中世の可能性が想定される。



第185図 第16号井戸跡実測図

第17号井戸跡 (第186図)

位置 調査区の中央2区西部のT44h8区に位置し、緩やかな傾斜の台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号地下式墳を掘り込んでいる。

規模と形状 上部は径1.24mの円形で、長径方向はN-0°である。下部は長径0.88m、短径0.68mで、形状は楕円筒形に掘り込まれている。確認面から1.88mまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

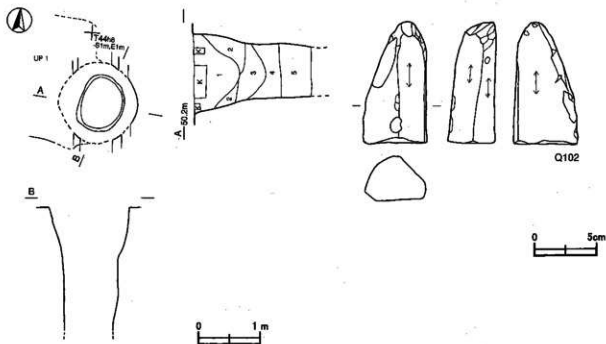
覆土 5層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 須恵器片2点(壳)、石製品1点(砥石)、礫1点(円礫)が覆土中から出土している。Q102は覆土中から出土している。

所見 出土遺物が少なく、中世と考えられる地下式墳を掘り込んでいることから、時期は中世以降と考えられる。



第186図 第17号井戸跡・出土遺物実測図

第17号井戸跡出土遺物観察表 (第186図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	微	出土位置	備考
Q102	砥石	9.6	5.0	3.7	240.0	泥岩	砥面3面、一方向に使用		覆土中	採付者

(5) 土坑 10号土坑・11号土坑・12号土坑・13号土坑・14号土坑・15号土坑・16号土坑・17号土坑・18号土坑

第20号土坑 (第187図)

位置 中央2区東部のU49j7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第17号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.22m、短径1.14mの円形で、深さが27cmである。底面はほぼ平坦で、長径方向はN-39°-Wであり、壁は直立している。

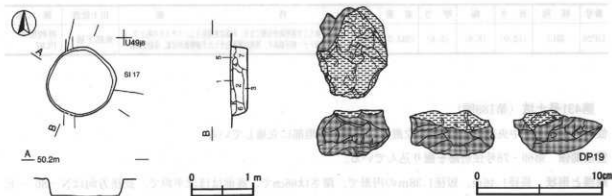
覆土 7層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点(壳)、須恵器片1点(長頸甕)、石器1点(砥石)、埴壁片2点、鉄滓1点、礫3点が覆土中から出土している。DP19は覆土中から出土している。

所見 9世紀前葉の第17号住居跡を掘り込んでいることと、遺構の形状や中世の建造に関係する遺物が出土していることから、時期は中世と考えられる。性格は不明である。



第187図 第20号土坑・出土遺物実測図

第20号土坑出土遺物観察表 (第187図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP19	炉壁	(7.3)	(5.7)	(3.4)	(72.0)	砂粒・スサ	内面は暗灰色を呈し、スサ入りの粘土で、外面は暗褐色を呈し平滑解決で、流動性が見られ、粒状の層付着	覆土中	

第137号土坑 (第188図)

位置 東区西部のV49b9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 径約1.00mの円形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、長径方向はN-0°であり、壁は外傾して立ち上がっている。

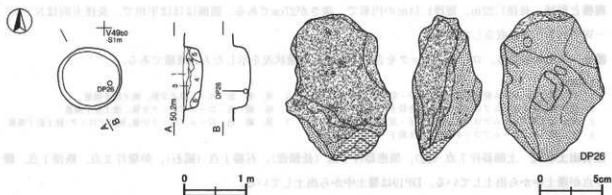
覆土 6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(莞), 羽口片1点, 炉壁片6点が北・東部の覆土下層を中心に出土している。DP26は東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は出土遺物から中世と考えられる。性格は不明である。



第188図 第137号土坑・出土遺物実測図

第137号土坑出土遺物観察表 (第188図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP26	羽口	(12.0)	(8.4)	(5.6)	(283.0)	砂粒・スサ	粘土と土器破片が混在し、内面は赤褐色を呈し、スサ入りの胎土で、裏面ナデ・筋玉あり、外面は黒褐色をした半透明状が特徴。産地不明	東部下層	再利用か PL97

第431号土坑 (第189図)

位置 中央2区中央部U45b6区に位置し、台地の平坦部に立地している。

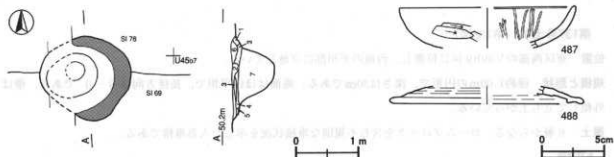
重複関係 第69・76号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.46m、短径1.38mの円形で、深さは66cmで、底面はほぼ平坦で、長径方向はN-86°-Eで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層からなる。粘土・焼土・炭化物・灰の混じった不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	褐灰色	灰中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	4	黒褐色	炭化物・灰中量
2	暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック微量	5	褐色	ロームブロック中量
3	にがい黄褐色	焼土ブロック・灰中量、粘土粒子少量、炭化物微量	6	灰白色	灰多量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量
			7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量



第189図 第431号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片11点(坏6・甕5), 須恵器片2点(蓋・甕), 鉄滓2点, 礫1点(円礫;被熱痕あり)が中央部の覆土中層を中心に出土している。487・488は中央部の覆土中層から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 本跡は8世紀前葉の第76号住居跡を掘り込んでおり, 規模と形状や鉄滓と被熱痕のある円礫などが出土していることから, 時期は中世と考えられる。

第431号土坑出土遺物観察表(第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
487	土師器	坏	[14.0]	(3.2)	-	白色粒子・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り, 工具痕を残す・内面ヘラ磨き	覆土中	10%
488	須恵器	甕	[15.0]	(1.4)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10%

(6) 溝跡

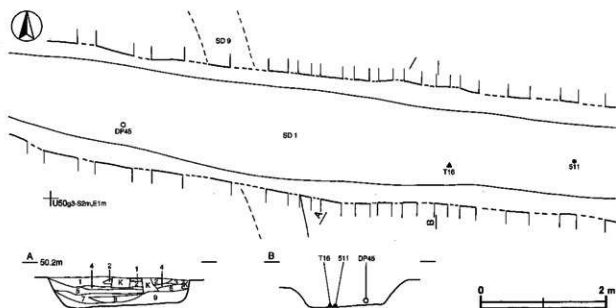
今回の調査で22条の溝跡を確認されており, そのうち, 第1・3・5~12・14・15・17・19~21・24号溝跡の17条が当該期に該当する。第5~7号溝跡から銕型片・羽口片・炉壁片・鉄滓・被熱痕がある礫などの鑄造に関係する遺物が多量に出土していることから, 鑄造関連遺構との関係が考えられる。なお, 鑄造に関係する遺物については, 個数と重量を記載する。

第1号溝跡(第190・191図・付図)

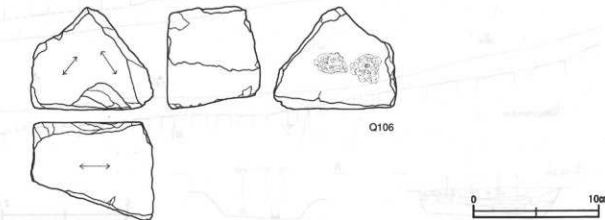
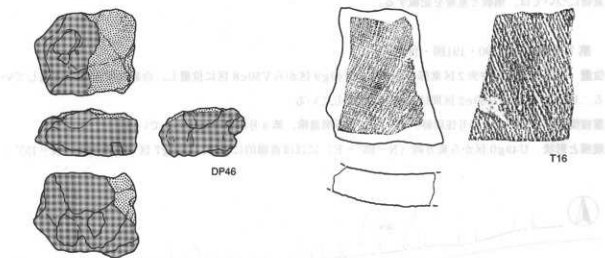
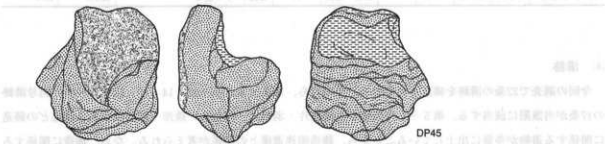
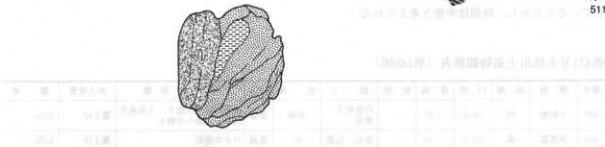
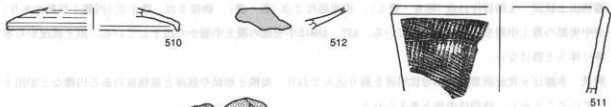
位置 東区西部から中央2区東部にかけてのU49g9区からU50c8区に位置し, 台地の平坦部に立地している。U49g0区からU50e2区間は町道下に位置している。

重複関係 第11・12・16号住居跡, 第1・2号不明遺構, 第9号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 U49g0区から東方向(N-85°-E)にほぼ直線的に延び, U50g7区で南東方向(N-155°-



第190図 第1号溝跡実測図



第191图 第1号沟跡出土遺物実測図

E)に屈曲して、南方向へ延びている。確認できた長さは55.25mで、規模は上幅152～197cm、下幅82～142cm、深さ46～55cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁が外傾して立ち上がり、断面逆台形状を呈している。

覆土 9層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量	6 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量	7 黒褐色	ロームブロック少量
3 極暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	8 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
4 黒褐色	ローム粒子少量	9 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、弥生土器片6点(広口壺)、土師器片1089点(環・高台付環171, 高台付環11, 器台1, 甕906), 須恵器片380点(環・高台付環255, 蓋33, 短頸壺3, 長頸壺4, 鉢1, 甕84), 土師質土器片1点(小皿), 瓦質土器片2点(焙烙), 灰釉陶器片3点(皿1, 壺2), 陶器片6点(碗), 瓦片1点(平瓦), 土製品6点(不明; 540g), 伊壁片51点(6487g), 羽口片6点(642g), 鍔型片1点(5g), 粘土塊18点(95g), 鉄製品8点(不明; 118g), 鉄滓313点(1617g)〔黒色滓47(235g), 炉内溶解物片230(702g), 流動滓23(109g), 白色滓6(76g), 銅発色滓4(15g), 碗状滓3(480g)〕, 礫195点(破砕礫; 被熱痕あり56)がほぼ全域から散在した状態で出土している。510・512・DP46・Q106は覆土中, 511・T16は北部の覆土下層, DP45は北西部の覆土下層から出土している。

所見 本跡は等高線に直交し, 台地の上部から下部に伸びていることから, 排水の役割を持っていたことも考えられ, 逆台形状の溝がL字状に配置されていることから, 区画溝の可能性もある。また, 周辺の遺構から伊壁片や鉄滓, 被熱痕のある礫などの中世の構造に関する遺物が多数出土していることから, 時期は中世と考えられる。また, 本跡を含めた一帯は, 中世と推定される第1号方形型穴遺構・第3号掘立柱建物跡・第9号溝跡, 第4・5号井戸跡などが確認されており, 中世遺構の集中する区域と考えられる。

第1号溝跡出土遺物観察表(第191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S10	須恵器	蓋	[13.6]	(1.6)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
S11	須恵器	鉢	[16.6]	(6.9)	-	白色粒子・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面上位平行印き, 下位棒状の沈線, 内面ナメ	北部下層	10%
S12	灰釉陶器	皿	-	(1.4)	-	長石	灰白	普通	ロクロ整形	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
DP45	伊壁	(10.8)	(9.7)	(8.4)	(408.0)	砂粒・スサ	外面の粘土は砂粒を含む赤褐色で, 植物の繊維圧痕あり, 内面の半溶解鉄は暗褐色をした流動性があり, 着磁性のある青黒色の粒付着	北西部下層	
DP46	伊壁	(6.7)	(8.3)	(3.8)	(161.0)	砂粒・スサ	外面は灰褐色をした砂粒・スサ入りの粘土で, その圧痕がある。内面は黒褐色をした半溶解鉄で, 表面に多数の空気排出孔あり, 着磁性のある粒付着	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q106	砥石	(8.1)	(9.7)	7.4	(727.0)	砂岩	砥面2面, 多方向に使用, 裏面の中央部がわずかにくぼむ	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T16	平瓦	(11.0)	(8.5)	2.6	(303.0)	白色粒子	凸面側の叩き目, 凹面は布目痕	北部下層	

第3号溝跡 (第192図・付図)

位置 東区北西部のU50b8区~U50e2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第9号溝跡を掘り込み、第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 U50e2区から北東方向(N-61°-E)にほぼ直線的に伸びている。長さは27.02mで、規模は上幅0.46~0.87m、下幅0.25~0.51m、深さ15~33cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁が外傾して立ち上がり、断面逆台形状を呈している。

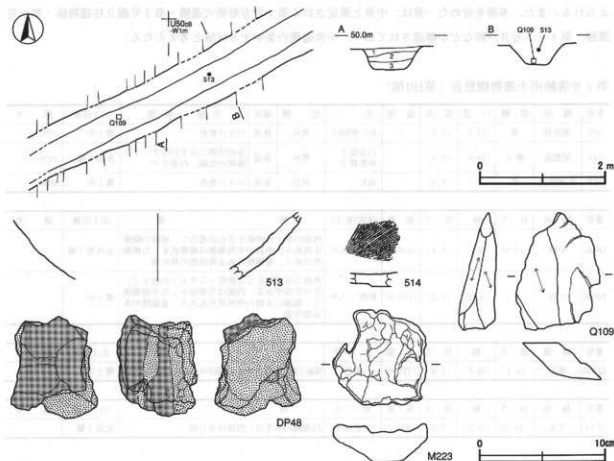
覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 紫褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 弥生土器片3点(甕), 土師器片45点(坏13, 甕32), 須恵器片17点(坏11, 甕2, 短頸甕1, 甕1, 高盤1, 控鉢1), 土師質土器片2点(小皿), 緑釉陶器片1点(碗), 炉壁片16点(920g), 鉄滓28点(566g)[製錬滓11(46g), 碗状滓1(50g), 炉内溶解物9(444g), 流動滓7(26g)], 礎24点等; 全域にわたって散在した状態で出土している。513は東部の覆土上層, 514・DP48・M223は覆土中, Q109は中央部の覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 本跡の南西側で中央2区東部に位置している第5号溝跡とは、位置関係では一連の遺構と考えられるが、規模と形状が異なるため、遺構番号を別に付けた。位置関係から第5号溝跡と繋がる可能性もある。時期は出土遺物等から第5号溝跡と同じ14世紀後半と考えられる。性格は等高線に直交し、台地の上部から下部へ伸び



第192図 第3号溝跡・出土遺物実測図

ているため、排水的役割を持っていたとも考えられる。規模では異なるが区画溝的性格を持つ第7号溝跡とはほぼ平行に延びているので、何らかの関係が考えられる。

第3号溝跡出土遺物観察表 (第192図)

番号	種別	器種	口径	径高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
513	須恵器	鉢	-	(3.8)	-	長石・黒色 粒子	灰白	普通	外面器面の荒れ調整不明、内 面縞り痕跡あり	東部上層	10%
514	陶器	雑鉢	-	(1.1)	-	長石・石英	灰白	普通	内面に輪索、縞り目	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP48	炉壁	(8.0)	(6.8)	(6.3)	(242.0)	砂粒・スサ	1度の粘土と半量腐敗物が互層になり、粘土は黄灰色をしたスサが含まれ、表は緑黄色をした半量腐敗物で、塑性性非常に弱い	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M223	碗状滓	(7.5)	(7.5)	(3.1)	(232.4)	鉄	中央部が凹む、表面錆付着	覆土中	PL100

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q109	砥石	9.2	(6.5)	3.0	(148.0)	泥岩	底面2面、二方向に使用、破砕層の使用カ	中央部下層	

第5号溝跡 (第193・194図・付図)

位置 中央2区東部のU48j0区からU49f0区に位置し、台地の平坦部から斜面部に立地している。

重複関係 第33・62号住居跡を掘り込み、第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 U48j0区から北東方向(N-43°-E)にほぼ直線的に延びている。長さは44.68mで、規模は上幅0.76~1.42m、下幅0.34~0.92m、深さ25~50cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がり、断面逆台形状を呈している。

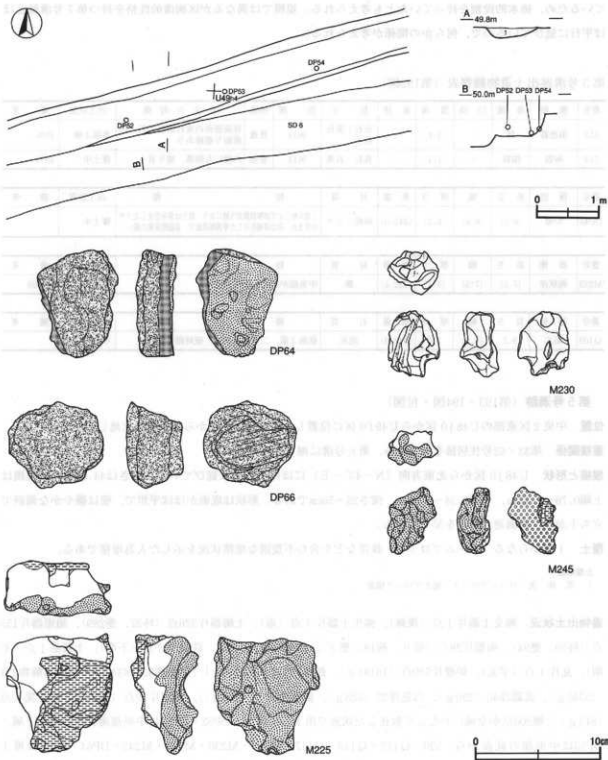
覆土 1層からなる。ロームブロック・鉄滓などを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

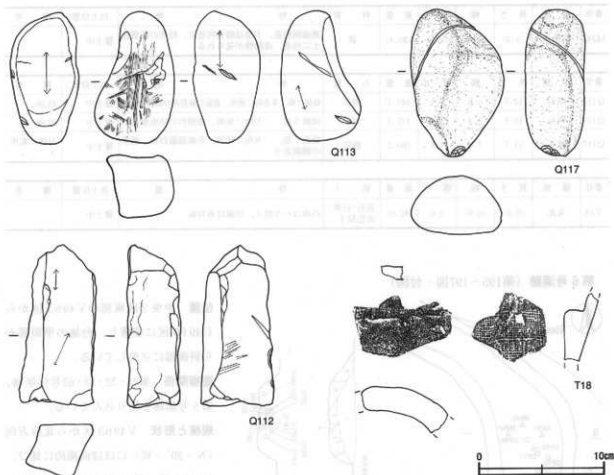
1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック堆積

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、弥生土器片1点(壺)、土師器片326点(坏37、甕289)、須恵器片153点(坏59、甕94)、陶器片26点(皿6、碗18、甕2)、磁器片2点(碗)、鉄製品3点(不明)、土製品1点(不明)、瓦片1点(平瓦)、炉壁片520点(16194g)、鉄滓382点(6695.0g)[黒色滓83(634g)、炉内溶解物231(5340g)、流動滓40(290g)、白色滓25(328g)、銅発色滓3(103g)]、羽口片19点(970g)、粘土塊40点(813g)、礫200点が全域にわたって散在した状態で出土している。DP52・DP54は中央部南寄りの覆土下層、DP53は中央部の底面から、520・Q112・Q113・Q117・M225・M230・M234・M245・DP64・DP66は覆土中から出土している。DP52~DP54・M234は写真と計測値のみを掲載する。

所見 本跡の北東側の東区北西部に位置する第3号溝跡とは、位置関係では一連の遺構とも考えられるが、規模と形状が異なることから、遺構番号を別に付けた。位置関係から第3号溝跡と繋がる可能性もある。時期は近隣の13世紀後半以前の第7号溝跡から出土したものと同様の鉄滓・炉壁・羽口・被熱痕のある礫など出土していることから、時期は14世紀後半以前と考えられる。性格は等高線に直交し、台地の上部から下部へ延びていることから、排水的役割を持っていたとも考えられるが、第3号溝跡の延長線上にあり、第7号溝跡とはほぼ平行に位置していることから、区画溝の可能性もある。



第193图 第5号沟跡・出土遺物実測图(1)



第194図 第5号溝跡出土遺物実測図(2)

第5号溝跡出土遺物観察表 (第193・194図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP52	伊壁	(7.2)	(4.8)	3.8	(112.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色をし、砂粒・スサ入りの粘土で、内面は暗青灰色をした半溶解状の鉄が付着し、2層をなしている	中央部南下層	実測図無し PL94
DP53	伊壁	(12.5)	(8.5)	(6.9)	(496.0)	砂粒・スサ	粘土・半溶解状の鉄が2度の互層で、粘土は青灰色をし、スサ入りの粘土で、半溶解状鉄は1層目は着磁性あり、2層目は光沢がある	中央部底面	実測図無し PL94
DP54	伊壁	(10.0)	(9.3)	(6.1)	(464.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色で砂粒・スサ入りの粘土で、下部の暗青灰色粘土が層状で、内面は暗褐色で半溶解状鉄で、表面に赤錆・白色滓が付着	中央部南下層	実測図無し PL94
DP64	伊壁	(8.5)	(6.3)	(3.2)	(110.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色で砂粒・スサ入りの粘土で、下部の暗青灰色粘土が層状で、内面は暗褐色で半溶解状鉄で、表面は暗褐色である	覆土中	
DP66	羽口	(7.4)	(6.7)	(4.5)	(177.0)	砂粒・スサ	内外面とも赤褐色で、スサ入りの粘土と砂粒入りの粘土の3層を貼り合わせたもので、内面はヘラナダあり、外径 [18.0] cm	覆土中	

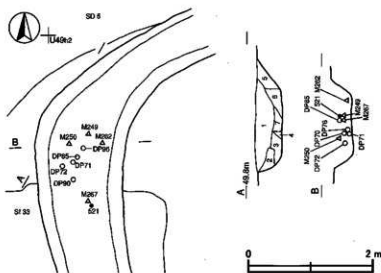
番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M225	伊内 溶解物	(9.7)	(8.6)	(5.2)	(203.4)	鉄	赤褐色の粘土にナデ調整あり、灰色の鉄には破砕面があり、空気排出孔多数、備付着	覆土中	PL98
M230	伊内 溶解物	(5.1)	(4.1)	(3.1)	(25.4)	鉄	表面暗赤褐色、錆の膨張による空洞化	覆土下層	PL98
M234	鉄滓	4.45	3.85	2.9	86.0	鉄	直方体状の塊、一部に赤錆付着、着磁性强い	覆土上層	実測図無し

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M245	白色澤	(5.3)	(3.8)	(2.7)	(30.4)	鉄	表面灰白色、下部は暗青灰色で、粒状の砂質粘土に付着、流動性が見られる	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	出土位置	備 考
Q112	磁石	(12.7)	6.8	4.1	(443.1)	泥岩	底面2面、多方向に使用、表面に幾何状の研磨痕あり	覆土中	PL86
Q113	磁石	10.5	6.4	5.4	427.0	泥岩	底面3面、二方向に使用、幾何状の研磨痕あり	覆土中	PL86
Q117	磁石	11.7	7.4	4.8	560.2	砂岩	底面1面、一方向に使用、先端部敲打痕、線状の磨痕あり	覆土中	石臼に転用*

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
T18	丸瓦	(6.0)	(6.9)	2.6	(87.0)	長石・石英・赤色粒子	凸面はへら削り、凹面は布目痕	覆土中	

第6号溝跡 (第195～197図・付図)



第195図 第6号溝跡実測図

位置 中央2区東部のV49b3区からU49f0区に位置し、台地の平坦部から斜面部に立地している。

重複関係 第25・32・33・62号住居跡、第5号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 V49b3区から北西方向(N-20°-W)にはほぼ直線的に伸び、U49h2区で東方向(N-75°-E)に屈曲し、U49b3区で調査区域外へ延びている。確認できた長さは49.54mで、規模は上幅0.72～1.44m、下幅0.34～0.98m、深さ50～58cmである。底面がほぼ平坦で、壁は緩やかな傾斜で立

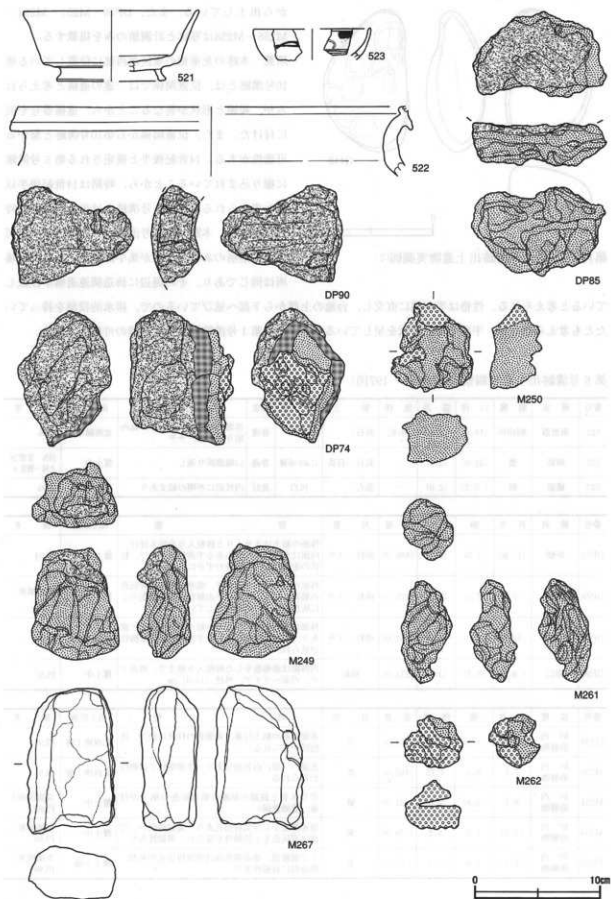
ち上がり、断面逆台形状を呈している。

覆土 7層からなる。第33号住居跡付近からは鉄滓・羽口・被熱痕のある破砕礫などが出土し、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

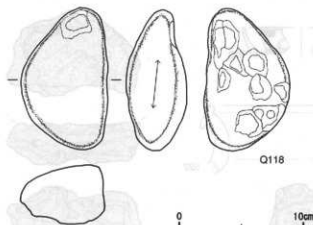
土層解説

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・鉄滓微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| | 7 暗褐色 炭化粒子少量・ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片160点(坏23, 甕137), 須臾器片76点(坏29, 甕6, 甕41), 灰釉陶器片1点(甕), 陶器片2点(碗・甕), 磁器片1点(碗), 鉄製品24点(不明; 56g), 炉壁片2349点(41515g), 鉄滓1146点(19117g), [炉内溶解物915(16589g), 流動滓82(615g), 白色滓105(1472g), 銅発色滓43(172g), 鉄塊1(269g)], 羽口片135点(8733g), 粘土塊483点(1269g), 礫93点(破砕礫; うち被熱痕58)が全域にわたって散在した状態で出土している。特にU49h2区からU49h5区にかけては集中的に出土している。521・M262は北西コーナー部の覆土中層, DP85・M250は北西コーナー部の覆土上層, M249は北西コーナー部の覆土下層, 522・523・DP74・DP76・DP90・Q118・M251・M254・M261は覆土中, M256～M258は覆土下層



第196图 第6号沟跡出土遺物実測図(1)



第197図 第6号溝跡出土遺物実測図(2)

ていると考えられる。性格は等高線に直交し、台地の上部から下部へ延びているので、排水的役割を持っているとも考えられるが、平面形がL字状を呈していることから、第1号溝跡同様に区画溝の可能性もある。

第6号溝跡出土遺物観察表 (第196・197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S21	須臾器	高台付杯	[14.0]	5.6	[8.6]	長石	黄灰	普通	体部下層回転へら削り、高台貼り付け後、ナデ	北西隅中層	20%
S22	陶器	甕	[31.0]	(5.5)	-	長石・石英	にびい赤褐	普通	口縁部折り返し	覆土中	10% 番号S20と同一個体-A
S23	磁器	碗	[9.2]	(2.6)	-	長石	灰白	良好	内外面に不明の絵文あり	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP74	伊壁	(10.6)	(7.5)	(8.2)	(406.0)	砂粒・スサ	外面の粘土はスサ入りと砂粒入りを貼り付け、内面は青褐色の光沢のある半溶解状の鉄で、粒状の赤錆付着、着磁性わずかにあり	覆土中	PL94
DP76	伊壁	(7.0)	(7.1)	(5.1)	(178.0)	砂粒・スサ	外面の粘土はスサ入りで、暗赤褐色と暗青灰色の層状になり、内面の半溶解状鉄は暗褐色の上には灰白色したものが付着している	覆土中	実測図無し PL94
DP85	羽口	(10.5)	(7.0)	(3.4)	(352.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色のスサ入りの粘土で、ヘラナデ面あり、内面は暗褐色をした半溶解状鉄で流動性が見られ、凹凸多数	北西隅上層	PL97
DP90	羽口	(9.6)	(7.7)	(3.9)	(213.0)	砂粒	内外面は赤褐色をした砂粒入り粘土で、外面ナデ、内面ヘラナデ、外径 [15.0] cm	覆土中	PL97

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M249	炉内溶解物	(9.0)	(7.0)	(4.3)	(204.5)	鉄	赤褐色系の粘土付着、赤紫色の柱状の鉄で、流動性が見られる	北西隅下層	PL99
M250	炉内溶解物	7.1	6.5	4.15	(182.0)	鉄	表面の一部に白色部分あり、半溶解状で流動性が見られる	北西隅上層	PL98
M251	炉内溶解物	6.1	(3.8)	2.0	(21.0)	鉄	ガラス質と鉄渣の倒離に暗青灰色の粘土が付着、着磁性弱い	覆土中	実測図無し PL98
M254	炉内溶解物	(5.5)	7.3	3.2	(79.0)	鉄	暗赤紫色をし空気排出孔あり、着磁性弱い、片面は青灰色をし流動性が見られ、着磁性あり	覆土中	実測図無し PL98
M256	炉内溶解物	(5.4)	4.9	3.3	(63.0)	鉄	上下部破損、暗赤紫色部は空気排出孔が多数、部分的に着磁性あり	覆土下層	実測図無し PL98

から出土している。また、DP76・M251・M254・M256～M258は写真と計測値のみを掲載する。

所見 本跡の北東側の東区北西部に位置している第10号溝跡とは、位置関係では一連の遺構と考えられるが、規模と形状が異なることから、遺構番号を別につけた。また、位置関係から第10号溝跡と繋がる可能性がある。14世紀後半と推定される第5号溝跡に掘り込まれていることから、時期は14世紀後半以前と考えられるが、第5号溝跡とは出土遺物から時期差はない。本跡と第5号溝跡とも鉄洋・伊壁・羽口・被熱痕のある礫などが集中的に出土している場所は同じであり、その周辺に鋳造関連遺構が位置し

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M257	鉄滓	(5.1)	(1.5)	(0.8)	(4.0)	鉄	平面長楕円形状で、片面は割離	覆土下層	実測無し PL98
M258	鉄滓	(4.5)	(1.8)	(1.45)	(6.0)	鉄	一面は割離面、他面は赤錆付着	覆土下層	実測無し PL98
M261	流動滓	(8.1)	(4.1)	(3.9)	(58.3)	鉄	表面は暗灰色、截断面に多数の空気隙孔あり、流動性あり	覆土中	PL99
M262	白色滓	4.6	4.1	3.9	45.0	鉄	表面は白色、一部に暗褐色の鉄あり、磁性弱い	北西隅中層	PL99
M264	白色滓	(7.4)	6.6	5.5	(142.0)	鉄	表面は灰白色、多数の空気隙孔あり、粒状の備着	覆土中層	実測無し PL99
M266	銅発色滓	(3.2)	(2.8)	(2.5)	(66.0)	鉄	表面は光沢のある青銅色をし、全面が破損	覆土中層	実測無し PL98
M267	鉄塊	(11.5)	7.0	4.5	(271.0)	鉄	柱状で、一部欠損	北西隅下層	PL100

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	出土位置	備 考
Q118	磁石	11.3	6.8	4.8	456.0	泥岩	断面が縦長1面、一方に発射、裏面1面に凹みによる割離あり	覆土中	PL86

第7号溝跡 (第198~202図・付図)

位置 東区北西部から中央2区中央部のU48d3区からU50a3区にかけて位置し、台地の平坦部から斜面部に立地している。

重複関係 第39号住居跡・第12号溝跡を掘り込んでいる。

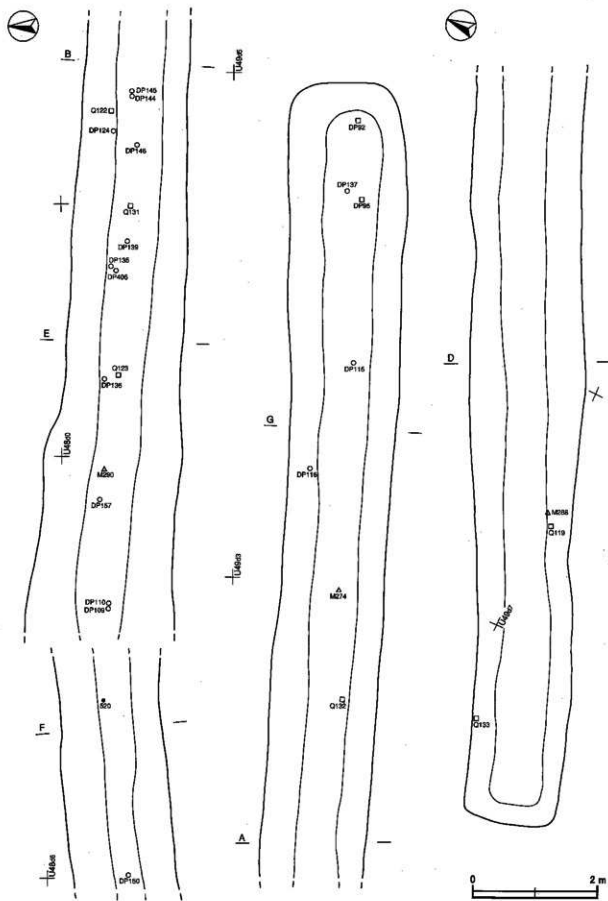
規模と形状 東区のU50a3区から南西方向(N-112°-W)にはほぼ直線的に伸び、U48d3区以西は谷部で確認されなかった。その間、U50a1区からU49b9区にかけては町道下に、U49d4区からU49d6区にかけては地山を掘り残した土橋が付設されている。規模は上幅1.44~2.50m、下幅0.41~0.92m、深さ91~150cmで、確認できた長さは82.46mである。形状は底面がほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面逆台形状を呈している。

覆土 17層からなる。北壁際の下層である第11~14層は北部からの流れ込んだ自然堆積である。南壁際の下層である第16・17層と中層の第9層からは大きな被熱痕のある破砕礫や炉壁が出土し、これらの遺物と共に南部から投げ込まれた人為堆積であり、上層の第1~8層もロームブロックを含む人為堆積である。第11~14層は第16・17層が投棄された時期と変わらない時期に堆積したと考えられ、第9層の上層と下層では含有物による相違があり、埋め戻される過程でわずかな時間的差があったと考えられる。

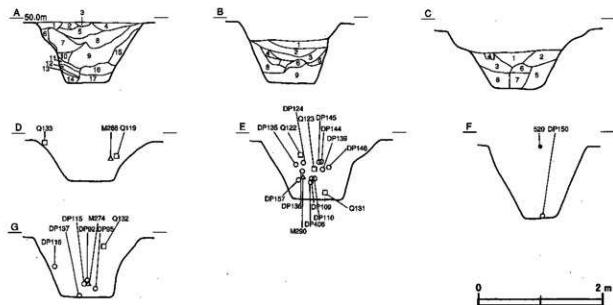
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	11 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	12 黒褐色	炭化物少量、ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	13 黒褐色	ロームブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック微量
6 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック微量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	16 暗褐色	ロームブロック微量
8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・産沼バミス微量	17 黒褐色	ロームブロック微量
9 黒褐色	ロームブロック・炭化材微量		

遺物出土状況 縄文土器片11点(深鉢)、弥生土器片13点(壺)、土師器片925点(坏125、甕784、高坏16)、須恵器片276点(坏144、蓋3、甕129)、陶器片57点(碗8、皿3、甕46)、青磁片2点(碗、皿)、瓦片5点(平瓦)、土製品2点(球状土錘)、石器5点(鎌2、砥石3)、鉄製品135点(842g)〔鍋13(103g)、不明122(739g)〕、炉壁片3775点(173374g)、鉄滓2295点(57455g)〔炉内溶解物1327(49917g)、流動滓692(4819g)、白色滓254(2625g)、銅発色滓22(94g)〕、羽口片470点(38480g)、鋳型片133点(11429g)〔外型127(11304g)、中型6(125g)〕、粘土塊155点(3030g)、褐鉄鉱27点(395g)、骨片8点(獸骨カ)、礫915点(破砕礫754、円礫161;うち被熱痕あり874)が全域にわたって散在している。特にU48d0区からU49d4区の覆土中層から下層にかけて集中的に出土している。また、覆土下層からは鋳型片や炉内溶解物などの鋳造関連遺物、



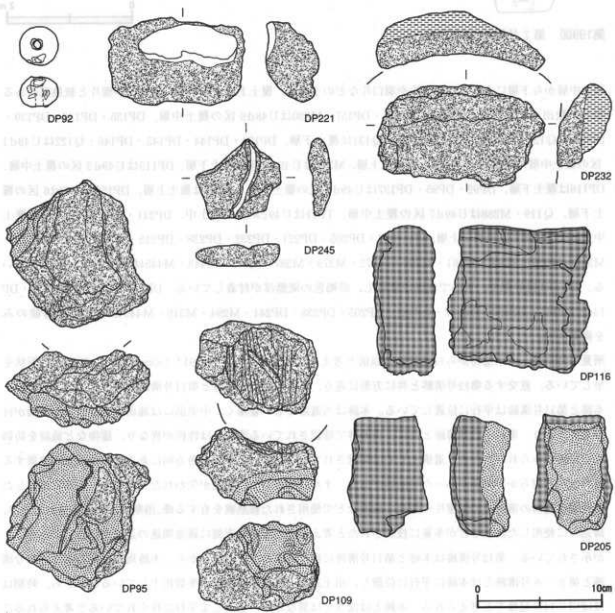
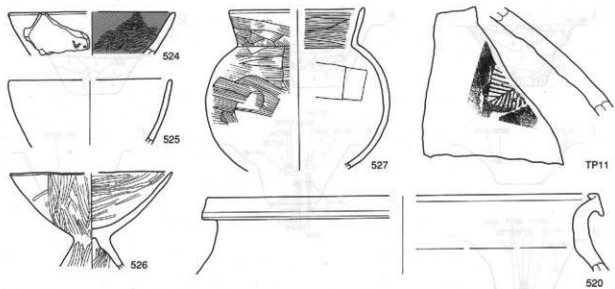
第198图 第7号沟跡实测图(1)



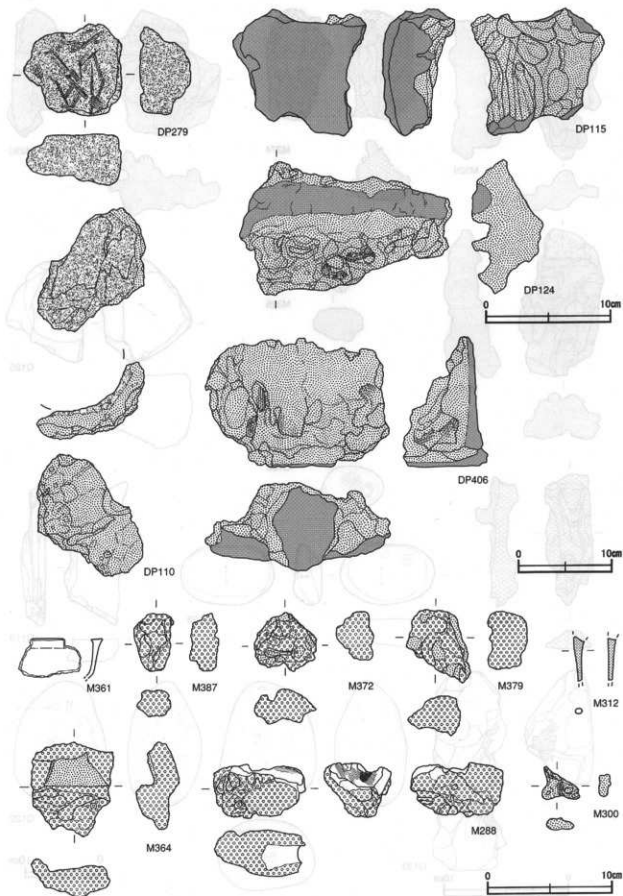
第199図 第7号溝跡実測図(2)

覆土中層から下層にかけては炉壁片や羽片などの土製品、覆土上層から中層にかけて炉壁片と被熱痕のある礫が多数出土している。DP109・DP110・DP157・M290はU48d9区の覆土中層、DP135・DP136・DP139・DP406・Q123はU48d0区の覆土中層、Q131は覆土下層、DP124・DP144・DP145・DP146・Q122はU49d1区の覆土中層、Q132はU49d2区の覆土上層、M274はU49d2区の覆土下層、DP115はU49d3区の覆土中層、DP116は覆土下層、DP92・DP95・DP137はU49d4区の覆土下層、Q133は覆土上層、DP150はU48d6区の覆土下層、Q119・M288はU49d7区の覆土中層、TP11はU49c8区の覆土中、DP241・DP249・DP279は覆土中、520はU48d6区の覆土上層、524～527・DP205・DP221・DP232・DP238・DP245・Q125・Q128・M294・M315・M325・M329・M361・M364・M372・M379・M387・M409・M443・M445は覆土中から出土している。Q133は破砕礫で、被熱で表面が変色し、暗褐色の流動滓が付着している。DP115・DP136・DP137・DP144・DP145・DP150・DP157・DP181・DP205・DP238・DP241・M294・M319・M445は写真と計測値のみを掲載する。

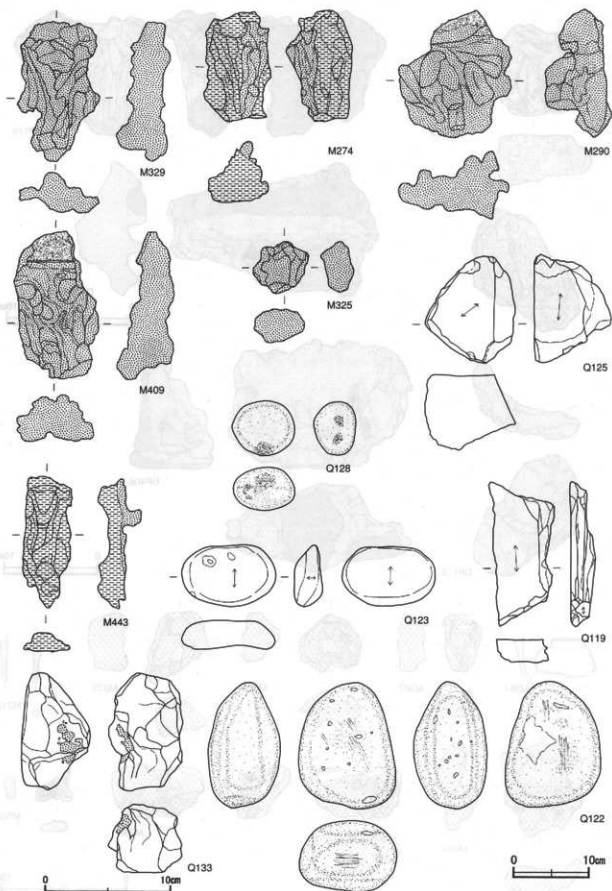
所見 時期は、出土遺物から14世紀後半以前と考えられる。本跡は深さが91～150cmと深く、断面逆台形状を呈している。直交する第12号溝跡と共に方形に廻り、さらに第12号溝跡と第11号溝跡は直交していることで、本跡と第11号溝跡は平行に位置している。本跡は当遺跡でも一番深く、中央部には地山を掘り残した土橋が付設されており、第11・12号溝跡と共に、当遺跡で確認されている溝跡とは性格が異なり、建物など施設を防御する目的で作られたもので、遺構としては確認されていないが、土橋の北西方向にある城山の頂上に位置する坂戸城跡と何らかの関係があった可能性がある。また、溝としての機能が失われたところから、南部に位置した鑄造関連遺構の溶解炉の炉壁片や鑄造の施設などで使用された被熱痕を有する礫、溶解炉から排出された鉄滓、鑄込みを使用した鑄型などが多量に投棄されたと考えられ、本跡の南側に鑄造関連の遺構が位置していることが示されている。第12号溝跡は本跡と第11号溝跡に掘り込まれていることから、本跡周辺にある第3・10号溝跡と第5・6号溝跡とは本跡に平行に位置し、出土遺物も鑄造関係遺物が多数出土していることから、時期はほぼ同じ14世紀後半と考えられる。本跡とは深さでは異なるが、意識して平行に作られていると考えられることから、第7号溝跡と何らかの関係のあるものと考えられる。



第200图 第7号沟跡出土遺物実測図(1)



第201图 第7号沟跡出土遺物実測图(2)



第202图 第7号沟跡出土遺物実測図(3)

第7号溝跡出土遺物観察表(第200~202図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	質	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
520	陶器	甕	[31.0]	(11.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通		口縁部の折り返し	覆土上層	10%, 常滑, 522と同一器体々
524	土師器	坏	[13.0]	(3.4)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通		内面へう磨き, 黒色処理	覆土中	3%, 外周縁部口
525	青磁	甕	[12.7]	(5.2)	-	紙密	オリーブ灰	良好		ロクロ整形	覆土中	5%
526	土師器	高坏	[12.7]	(7.5)	-	長石	褐	普通		坏部内外面へう磨き, 脚部内外面へう磨き	覆土中	60%
527	土師器	甕	[10.7]	(12.7)	-	長石・赤色粒子	橙	普通		外面・口縁部内面ハケ目, 体部内面ヘラナア	覆土中	15%
TF11	陶器	甕	-	(8.7)	-	白色粒子	明赤褐色	普通		体部片, 方形のスタンプ文あり	覆土中	PL78

番号	種別	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	取	出土位置	備考
DF92	球状土鏝	3.1	0.6	2.2	25.0	土	片側からの穿孔, 表面一部割離		U48d区覆土層	PL85

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	取	出土位置	備考
DF96	羽口	(11.7)	(11.3)	(6.2)	(564.0)	砂粒・スサ	内面は赤褐色の砂粒入り粘土で, ナテ調整が残り, 外面は暗褐色の半溶融状で, 裏方への透水性が見られる, 内径 [10.0] cm		U49d4区覆土下層	PL97
DP109	羽口	(7.4)	(9.7)	6.2	(257.0)	砂粒	内面は赤褐色の砂粒入りの粘土で, 表面はへう状工具によるナテ, 外面は暗褐色の半溶融状が付着, 内径 [8.6] cm		覆土中層	
DP110	羽口	(12.9)	11.2	(3.1)	(317.0)	砂粒	内面は赤褐色の砂粒入り粘土で, 大部分が割落し, 外面は黒褐色をした半溶融状が付着, 内径 [11.6] cm		覆土中層	PL97
DP115	炉壁	(10.2)	(10.6)	(5.6)	(232.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色をしたスサ入り粘土で, 内面は黒褐色をした半溶融状が付着, 凹凸・流動性あり		U49d3区覆土中層	実測図無し PL93
DP116	炉壁	(11.8)	(11.4)	4.9	(587.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色をしたスサ入り粘土で, 内面は砂粒が多く含む粘土で, 白褐色の空気滞留孔を多数ある半溶融状で付着		U49d3区覆土下層	炉頂部々 PL93
DP124	炉壁	(10.6)	(16.8)	(8.1)	(567.0)	砂粒・スサ	外面は暗赤褐色をしたスサ入りの粘土で, 先端部が鋭角状に暗褐色であり, 内面は黒褐色をした半溶融状で, 黒酸化木炭付着		U49d1区中層	PL93
DP135	炉壁	(10.6)	(5.0)	(2.4)	(137.0)	砂粒・スサ	外面は暗赤褐色をしたスサ入りの粘土で, 内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で, ナテ調整あり		U48d0区中層	実測図無し PL92
DP136	鑄型	(8.5)	(7.75)	(2.9)	(190.0)	砂粒・赤色粒子・スサ	鑄の口縁部周辺の鑄型片, 内面は青灰色の縦状が剥離, わずかに残存, 外面は植物繊維の圧痕		U48d0区覆土中層	実測図無し PL92
DP137	炉壁	(19.3)	(22.5)	(8.6)	(2460.0)	砂粒・スサ	外面が砂粒・スサ入りの粘土で, 上段は赤褐色, 下段は青灰色で, 内面は凹凸のある半溶融状で, 表面に炭が付着		U49d4区覆土下層	実測図無し PL96
DP139	炉壁	(23.2)	(9.8)	5.4	(896.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色をし, スサ入りの粘土で, その下部は黒褐色で縦状になり, 内面は黒褐色をし, 半溶融状で, 炭の粒が付着		中央部覆土中層	実測図無し PL94
DP144	炉壁	(10.5)	(7.6)	(4.8)	(368.0)	砂粒・スサ	2度の使用, 外面はスサ入りの粘土で赤褐色をして, 内面の半溶融状の状で, 表面が白色化している		U49d1区覆土中層	実測図無し
DP145	炉壁	(7.4)	(10.8)	(6.1)	(339.0)	砂粒・スサ	外面はスサ入りの粘土で暗褐色をし, 内面の半溶融状の状は2層になり, 最も内側の半溶融状は充満気がある暗褐色		U49d1区覆土中層	実測図無し PL94
DP146	炉壁	(7.5)	(5.0)	(4.8)	(204.0)	砂粒・スサ	粘土と半溶融状が2度の互層していたものが剥離, 外面はスサ入り粘土が赤褐色と暗褐色, 半溶融状は薄い		U49d1区覆土中層	実測図無し PL93
DP150	粘土塊	(14.4)	(13.6)	(8.9)	(2110.0)	砂粒・炭塵・スサ	直方体状, 断面長方形		中央部覆土7層	実測図無し PL94
DP157	羽口	(14.4)	(10.0)	(3.1)	(368.0)	砂粒・スサ	内面は砂粒を多く含む粘土でナテ調整, 外面はスサを含む粘土で, 内外面の貼り付け		覆土中層	実測図無し
DP184	炉壁	(11.4)	(9.8)	(3.8)	(366.0)	砂粒・スサ	外面はスサ入りの粘土で赤褐色をし, 内面の半溶融状の状は空気滞留孔が多数あり, 着磁性あり		U48d1区覆土中層	実測図無し PL94
DP205	炉壁	(9.5)	(6.4)	(5.0)	(249.0)	砂粒・スサ	内外面は赤褐色をした砂粒入り粘土で, 内面は暗褐色をした縦状のものがわずかに残存		覆土中	実測図無し
DP221	鑄型	(7.0)	(10.8)	4.3	(211.0)	砂粒	内面は青灰色の縦状のものがわずかに残存し, 下部は砂粒が多く含む粘土		U49d1区覆土中層	鑄の鑄型 PL92
DP228	鑄型	(13.2)	(11.8)	(5.15)	(730.0)	雲母・砂粒・スサ	内面は黒褐色と赤褐色で, 煤付着, 外面スサ入り粘土, 内外面の貼り付け, 胎土に白色帯を含む		覆土中	実測図無し PL92
DP232	鑄型	(8.1)	(13.3)	(3.5)	(305.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色をしたスサを含む粘土で, 内面は赤褐色をした砂粒を含む粘土を貼り合わせた, 内径 [22.8] cm		覆土中	PL92
DP238	鑄型	(8.5)	(5.7)	(3.8)	(172.0)	砂粒・スサ	外面にスサを多く含む粘土で, 植物繊維・粉状炭あり, 内面煤状の物付着		覆土中	実測図無し PL92
DP241	鑄型	(8.6)	(7.3)	0.9~2.1	(112.0)	砂粒・スサ	外面にスサを多く含む粘土で, 植物繊維・粉状炭あり, 内面煤・粒状の炭付着		U48d2区覆土中層	実測図無し PL92

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP245	銅型	(6.9)	(6.2)	(1.7)	(63.0)	砂粒	上面に波状の沈積。沈積底面に被熱痕あり、下面は雑なナメ調整	覆土中	審の銅型カ PL91
DP249	羽口	(11.1)	(12.6)	(3.6)	(307.0)	砂粒	内面は赤褐色の粘土で、表面割離し、外面は半溶解状の鉄付着、末端は鉄の折り返しあり、内径 12.0 cm	U48d8 区 覆土中	型及び型周部、 実面無し PL91
DP279	粘土塊	(7.3)	(7.8)	4.0	(182.0)	砂粒・スサ	不定形で、粘土は赤褐色をし、表面には繊維状圧痕あり	U48d3 区 覆土中層	PL96
DP281	銅型	(3.2)	(3.0)	(2.8)	(23.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色の砂粒を含む粘土が厚く盛り付け、その下部が砂粒を含む粘土で、その下部がスサ入り粘土の3層からなる	U47a8 区 覆土中	中置カ、実面 実面無し PL92
DP282	銅型	(6.2)	(7.6)	(3.9)	(142.0)	砂粒・スサ	内面は砂粒を含む粘土で一部残存、沈積が一糸あり、外面はスサを含む粘土で、表面割離	覆土中	実面無し PL92
DP283	銅型	(6.9)	(3.3)	(2.9)	(63.0)	砂粒	断面三角形、全面火熱を受けている	覆土中	中置カ、裏付者、 実面無し PL92
DP406	炉壁	(13.7)	(19.2)	(8.7)	(1050.0)	鉄・粘土	外側・底面は青灰色の粘土で、スサや小礫が混じる、内側は暗褐色をした半溶解状である	U48d0 区 中層	PL96

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M274	炉内 溶解物	(8.8)	(5.4)	(5.2)	(114.0)	鉄	表面のはとんどが白色で、一部暗褐色の鉄、着磁性は弱い、流動性見られる	U49d2 区 覆土下層	PL98
M288	白色滓	(4.3)	(7.4)	(5.3)	(83.0)	鉄	表面は白色、一部破砕のための鋸の断面露呈	覆土中層	PL99
M290	炉内 溶解物	(10.1)	(8.9)	(5.3)	(208.0)	鉄	赤褐色系の粘土の下位に流動性が見られる暗赤色の半溶解鉄あり	覆土中層	PL98
M294	炉内溶解物	13.2	12.7	7.7	648.0	鉄	全面錆付着、鉄の割離やガラス質の流動渣の塊	覆土中	実面無し PL98
M300	流動滓	(2.6)	(3.0)	0.95	7.0	鉄	暗青灰色をした不定形状の半溶解鉄	U48d0 区 中層	PL99
M312	流動滓	(3.5)	0.8	0.6	(1.0)	鉄	黒色をしたガラスのような光沢があり、円盤形状	覆土中	
M319	流動滓	5.1	2.0	2.4	15.0	鉄	逆円錐状、ガラス状の光沢あり、粒状の錆付着、着磁性は弱い	覆土中	実面無し PL99
M325	鉄滓	4.1	4.5	2.6	35.0	鉄	黒褐色をした半溶解鉄、全面破断面	覆土中	PL100
M329	鉄滓	(11.1)	(6.6)	(4.3)	(162.0)	鉄	黒褐色をした半溶解鉄状で、流動性が見られる	覆土中	PL99
M364	白色滓	(7.5)	(6.5)	(3.6)	(121.0)	鉄	表面は灰白色で、一部破砕した部分から暗褐色をした部分を露呈	U48d8 区 の覆土中	PL99
M372	白色滓	4.6	5.0	3.8	30.2	鉄	表面は灰白色で、裏が貼ったようで、その下部から暗褐色の半溶解鉄あり	覆土中	PL99
M379	白色滓	(5.8)	(5.0)	(3.1)	(145.0)	鉄	表面は灰白色で、裏が貼ったようで、その下部から暗褐色の半溶解鉄あり	U48d2 区 覆土中	PL99
M387	白色滓	4.7	3.2	2.45	23.0	鉄	全面は灰白色で、わずかに流動性が見られる	覆土中	PL99
M409	炉内 溶解物	11.7	6.3	4.6	208.3	鉄・粘土	上部に赤褐色をした粘土（羽口受け部カ）が付着、黒褐色の半溶解鉄は流動性が見られる	覆土中	PL99
M443	炉内 溶解物	(10.5)	(3.9)	(3.4)	(76.4)	鉄	表面は灰白色をし、流動性が見られ、裏面は黒褐色をし、空気排出孔が多数ある	覆土中	PL98
M445	炉内 溶解物	(15.0)	(10.6)	(3.5)	(426.0)	鉄	両面半溶解状の鉄あり、弧状部にわずかに粘土が付着、着磁性は弱い	覆土上層	型及び型周部、 実面無し PL91

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
M361	鍋	-	(3.2)	-	(52.0)	鉄	口縁端部は平坦で、内面にわずかな後を持つ	覆土中	PL88

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	出土位置	備 考
Q119	砥石	(11.4)	5.2	2.0	(127.1)	凝灰岩	砥面2面、一方向に使用、3面割離	U49d7 区 中層	
Q122	砥石	13.3	10.1	7.6	(1420.0)	泥岩	砥面2面、一方向に使用、他の2面は線刻状の研磨痕あり、円盤を使用	U49d1 区 中層	
Q123	砥石	4.8	7.5	2.2	121.2	泥岩	砥面3面、二方向に使用	U48d0 区 中層	流動滓付着
Q125	砥石	(8.5)	(7.2)	6.1	351.0	雲母片岩	砥面2面、二方向に使用	覆土中	被熱痕あり
Q128	砥石	5.0	4.2	3.4	105.0	泥岩	先端部最打痕	覆土中	PL86
Q131	礫	12.5	9.1	7.6	665.0	花崗岩	全面が被熱で割離	U48d9 区 下層	実面無し PL97
Q132	礫	11.4	6.2	6.8	637.0	花崗岩	一部被熱により割離、半溶解状の鉄の滴下痕	U49d2 区 上層	実面無し PL97
Q133	礫	9.3	5.8	5.4	(288.0)	砂岩	破砕層に流動滓が付着	覆土上層	型及び型周部、 実面無し PL91

第8号溝跡 (第203図・付図)

位置 東区東部のV52i9区からW52a8区にかけて位置し、台地の斜面部に立地している。

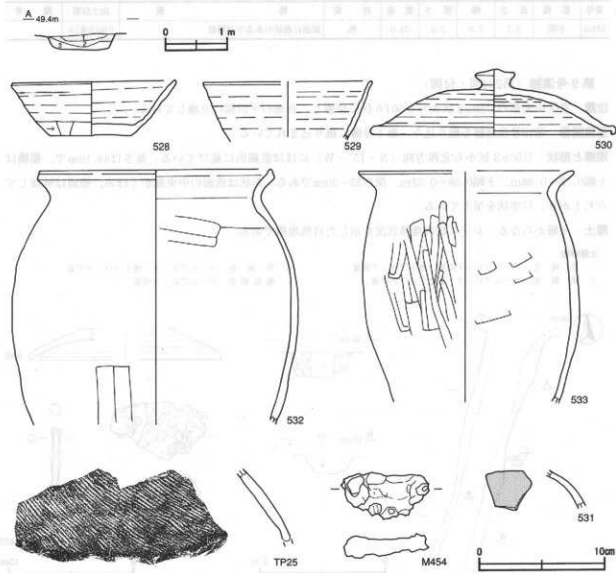
規模と形状 南部は調査区域外へ延びており、W52a8区から北東方向(N-30°-E)にはほぼ直線的に延びている。確認できた長さは8.75mで、規模は上幅0.88~1.04m, 下幅0.63~0.82m, 深さ24cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して直線的に立ち上がり、逆台形状を呈している。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 弥生土器片2点(壺), 土師器片49点(坏1, 甕48), 須恵器片26点(坏11, 蓋7, 甕8), 土師質土器片1点(小皿), 陶器片1点(碗), 炉壁片11点(558g), 鉄滓16点(90g)[流動滓3(7g), 炉内溶解物9(72g), 白色滓4(11g)], 礫30点(被熱痕あり)が全域にわたって散在した状態で出土している。528~533・TP25・M454は覆土中から出土している。



第203図 第8号溝跡・出土遺物実測図

所見 低地部へ向けて延びていることから排水的役割を持った溝と考えられるが、時期は出土遺物から中世と考えられる。

第8号溝跡出土遺物観察表 (第203図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
528	須臾器	坏	12.9	4.4	6.3	長石・石英	灰	普通	底部下層手持ちヘラ磨り、底層回転ヘラ磨り後一方角のヘラ磨り	覆土中	80% PL74
529	須臾器	坏	[13.4]	(4.7)	-	長石・石英	灰	普通	ロタロ整形	覆土中	20%
530	須臾器	蓋	19.2	5.2	-	長石・石英・黒色粒子	輪灰	普通	ロタロ整形	覆土中	90% 口縁部に自然輪 PL74
531	灰輪陶器	長頸壺か	-	(2.9)	-	長石	灰赤系ナア	良好	洗け輪	覆土中	10%
532	土師器	壺	[18.4]	(20.2)	-	新骨片・黒子	靑	普通	体部内外面ヘラナア	覆土中	40% PL74
533	土師器	甕	22.5	(24.7)	-	紅砂・赤鉄質	明赤褐	普通	体部内外面ヘラナア	覆土中	60% PL74

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP25	須臾器	鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・黒子	灰	普通	外面斜位の平行写り、内面塗色ナア	覆土中	PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M454	不明	3.7	7.0	2.0	79.0	鉄	表面に瘤状のある半溶鉄鉄	U66群区覆土中	

第9号溝跡 (第204図・付図)

位置 東区中央部のU50e3区からU50f6区に位置し、台地の平坦部に立地している。

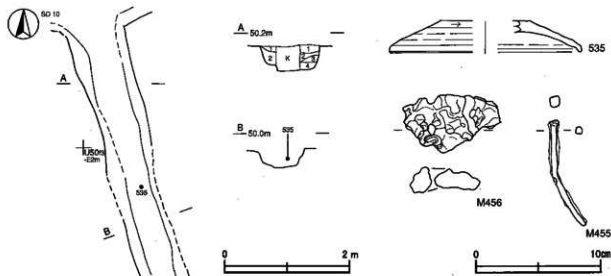
重複関係 第19号住居跡を掘り込み、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 U50e3区から北西方向(N-15°-W)にほぼ直線的に延びている。長さは44.10mで、規模は上幅0.78-0.98m、下幅0.08-0.52m、深さ33-39cmである。形状は底面の中央部がくぼみ、壁面は外傾して立ち上がり、U字状を呈している。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量



第204図 第9号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 弥生土器片1点(壺),土師器片101点(坏11,高坏2,甕88),須恵器片36点(坏13,壺6,甕17),陶器片2点(碗,皿),鉄製品4点(不明;17g),炉壁片18点(189g),羽口片1点(13g),鉄滓9点(128g)[炉内溶解物7(119g),流動滓1(1g),白色滓1(8g)],鋳型片3点(95g),標34点(破砕標;うち被熱痕20)が出土している。

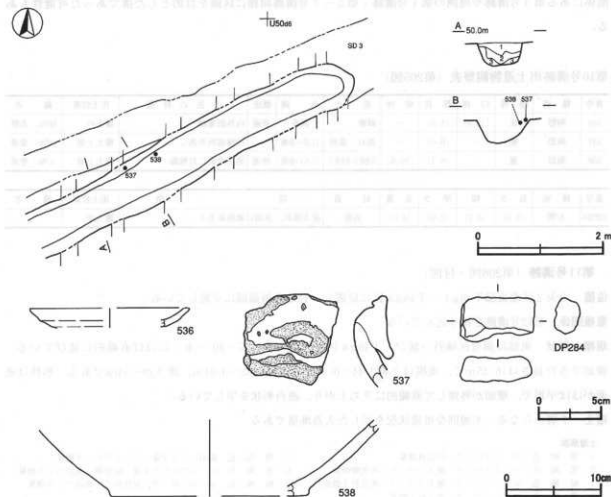
所見 中世と推定される第1号溝に掘り込まれているので,時期は中世以前と考えられる。第1号溝跡とはほぼ並行になり,周囲には方形竪穴遺構や井戸跡などの中世の遺構が集中している区域であることから,区画溝的な性格を持っていた可能性がある。

第9号溝跡出土遺物観察表(第204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
535	須恵器	壺	[15.2]	(2.5)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘタ削り	覆土中層	30%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M455	釘	(8.4)	0.8	0.5	(9.2)	鉄	基部は円形で,断面方形	覆土中	
M456	鉄塊	(7.7)	(4.6)	(2.1)	73.2	鉄	表面に瘤状のある半溶鉄	覆土中	PL98

第10号溝跡(第205図・付図)



第205図 第10号溝跡・出土遺物実測図

位置 東区西部U50d6区からU50e2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第7号住居跡，第3・9号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 U50d6区から北東方向(N-75°-E)にはほぼ直線的に延びている。長さは17.07mで、規模は上幅0.45-0.85m，下幅0.45-0.61m，深さ13-37cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して直線的に立ち上がり、逆台形状を呈している。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量 3 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 弥生土器片1点(甕)，土師器片73点(坏7，高坏1，甕6)，須恵器片19点(坏9，蓋1，甕9)，陶器片5点(碗1，皿2，甕2)，土製品1点(不明)，鉄製品9点(不明9；34g)，炉壁片13点(375g)，鉄滓6点(261g)[炉内溶解物5(249g)，流動滓1(12g)]，羽口片1点(100g)，粘土塊4点(23g)，礫22点(被熱痕)，が全域にわたって散在した状態で出土している。537・538は東部の覆土上層，DP284は覆土中からそれぞれ出土している。DP284は不明土製品としたが，銚型の可能性もある。

所見 出土遺物は，いずれも流れ込みによる混入である。常滑甕口縁部片や炉壁片・炉内溶解物などの銚造関連遺物が出土していること，中世と推定されている第5～7号溝跡の主軸方向から，時期は中世以降と推測される。等高線に直交し，台地から低地へ向かっているため，排水的役割も持っていたとも考えられるが，重複関係にある第3号溝跡や周囲の第1号溝跡・第5～7号溝跡同様に区画を目的とした溝であった可能性もある。

第10号溝跡出土遺物観察表(第205図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
536	陶器	皿	[12.0]	(1.6)	-	緻密	淡黄	普通	内外面施釉	覆土中	10%，志野
537	陶器	甕	-	(6.0)	-	長石・雲母 に多い赤褐色			口縁部折り返し	覆土上層	10%，常滑
538	陶器	甕	-	(8.1)	[20.6]	白磁土・赤磁土 に多い赤褐色		普通	底部内面に自然釉	覆土上層	5%，常滑

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP284	不明	(5.8)	(3.7)	(2.0)	(4.0)	砂粒	直方体状，表面に被熱痕あり	覆土中	

第11号溝跡(第206図・付図)

位置 中央2区北東部T48g4～T48g8区に位置し、台地の斜面部に立地している。

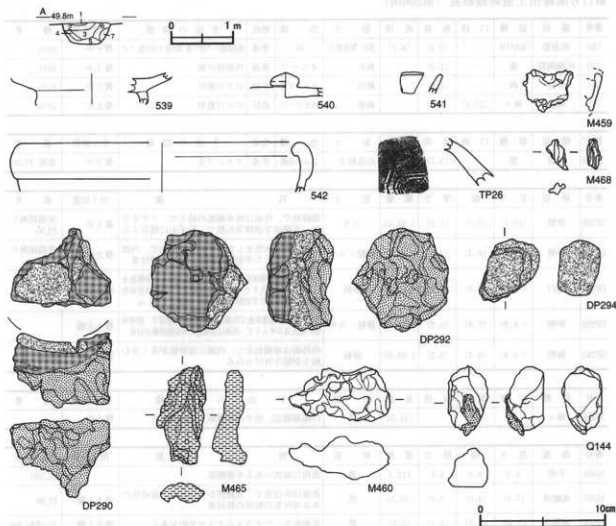
重複関係 第12号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東部は調査区域外へ延び、T48g8区から西方向(N-89°-E)にはほぼ直線的に延びている。確認できた長さは16.45mで、規模は上幅0.44-0.94m，下幅0.33-0.64m，深さ29-34cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して直線的に立ち上がり、逆台形状を呈している。

覆土 7層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化材微量 5 明褐色 炭沼バミス少量，ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 6 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物・炭沼バミス微量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・炭沼バミス微量
4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量



第206図 第11号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 弥生土器片1点，土師器片31点（坏6，甕25），須恵器片17点（坏・高台付坏10；内1点が転用碗か，甕7），陶器片7点（碗2，皿3，蓋1，甕1），青磁片1点（碗），土製品1点（不明），鉄製品4点（不明；187g），如壁片422点（9282g），羽口片34点（1892g），鉄滓230点（4766g）〔炉内溶解物166（4394g），流動滓38（253g），白色滓25（105g），銅発色滓1（14g）〕，銅型片8点（420g），粘土塊27点（310g），礫94点（破砕礫；うち被熱痕93，鉄付着1）が全域にわたって散在した状態で出土している。DP292・DP294・M465・M468は覆土上層で，他は覆土中から出土している。DP288・DP290は写真・計測値のみを掲載する。所見 第7号溝跡とは平行で，第12号溝跡とは直交し，断面が逆台形状を呈していることから，時期は中世の可能性が高い。性格は第7号溝跡のように深く掘り込んでではなく，等高線に直交し，平坦部から低地部に立地していることから，排水的役割を持っていた可能性が考えられる。周辺に位置している中世と推定される第1・3・5～7・10・12号溝跡の性格を考えたとき，区画を目的とした溝の可能性も考えられる。

第11号溝跡出土遺物観察表 (第206図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
539	灰容器	高台付杯	-	(2.4)	[8.7]	長石・黒色粒子	灰	普通	底部回転へつり状, 高台縁り付け残, ナテ	覆土中	20%
540	灰胎陶器	蓋	-	(2.0)	-	長石	オリーブ	普通	外面焼け輪	覆土中	10%
541	青磁	碗	-	(1.6)	-	緻密	オリーブ灰	良好	ロクコ整形	覆土中	10%
542	陶器	鉢	[21.8]	(3.9)	-	緻密	灰オリーブ	良好	ロクコ整形	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP26	陶器	壺	-	(3.7)	-	白色粒子	にぶい赤陶	普通	スタンブ文	覆土中	常滑 PL78

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP288	炉壁	(10.7)	(4.0)	(1.9)	(61.0)	スサ	圓錐状で、外面は暗赤褐色の粘土で、スサを含む、内面は半溶解状の灰で、わずかに残存する	覆土中	実面図無し PL95
DP289	炉壁	(7.6)	(6.3)	(3.2)	(69.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入りの粘土で、内面は黒褐色をした半溶解状灰で、粒状の附着	覆土中層	実面図無し PL93
DP290	羽口	(6.3)	(7.9)	(5.9)	(136.0)	砂粒	内面は赤褐色と青灰色をした粘土が層状になり、赤褐色をした粘土は砂粒入りで、表面は丁寧なナテ、下部は青灰色であり、黒褐色の手塗層状灰が付着、内径 [10.0] cm	覆土中	
DP292	炉壁	(8.2)	(7.6)	(5.2)	(203.0)	砂粒・スサ	粘土は外面が暗青灰色で内面が赤褐色をした層状で、暗青灰色の粘土はスサ入りで、内面は黒褐色の半溶解状灰が付着	覆土上層	
DP294	鉢型	(4.9)	(4.7)	(3.2)	(54.0)	砂粒	内外面は赤褐色をし、内面には砂粒が多く含む粘土が貼り付けられる	覆土上層	PL91

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	手法の特徴	出土位置	備考
M459	鍋	-	(3.4)	-	(21.0)	鉄	口縁部周辺、把手の刺離痕、全周鋸あり	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M460	不明	4.3	8.0	3.4	112.1	鉄	表面に瘤状のある半溶解鉄	覆土上層	PL100
M465	流動鉢	(7.8)	(4.0)	2.8	(45.3)	鉄	表面は灰白色で、流動性が見られる、着磁性的のある青灰色の粒状の鉄付着	覆土上層	PL98
M468	流動鉢	(2.45)	(1.7)	(1.1)	(2.2)	鉄	黒褐色をしたガラスのような光沢がある	覆土上層	ガラス片 PL9

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q144	砥石	5.5	3.2	3.0	(47.0)	砂岩	縦面1面、一方向に使用	覆土中	使用後に焼結痕・流動付着

第12号溝跡 (第207・208図・付図)

位置 中央2区東部のT48g8区からU48c8区に位置し、台地の斜面肩部に立地している。

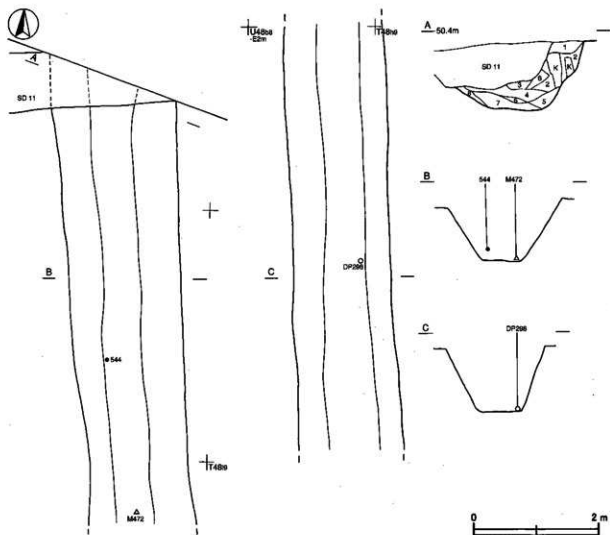
重複関係 第7・11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 T48g9区以北は調査区域外へ延びており、U48c8区から北方向(N-3°-W)にほぼ直線的に延びている。確認できた長さは25.62mで、規模は上幅1.53~1.94m、下幅0.52~0.83m、深さ95~102cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して直線的に立ち上がり、逆台形状を呈している。底面はわずかに北から南へ下がついている。

覆土 8層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

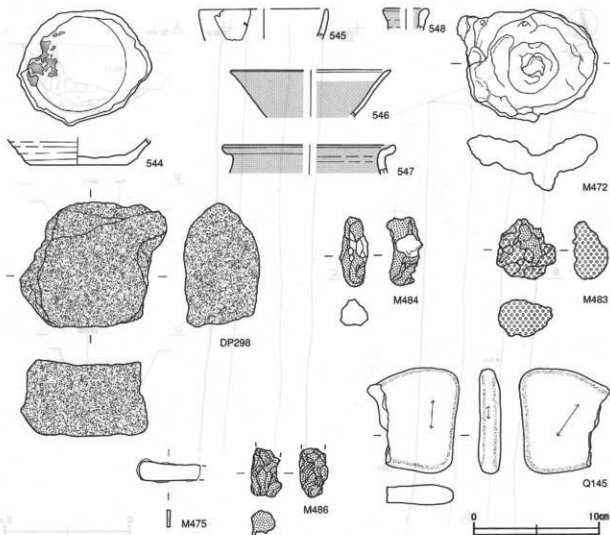
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・産沼バミス微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、産沼バミス微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・産沼バミス微量 |



第207図 第12号溝跡実測図

遺物出土状況 弥生土器片10点(壺), 土師器片51点(坏11, 甕40), 須恵器片21点(坏), 陶器片13点(碗6, 皿7), 鉄製品7点(釘1; 13g, 刀子3; 43g, 不明3; 34g), 炉壁片194点(2957g), 羽口片2点(124g), 鉄滓190点(2070g)【伊内溶解物121(1426g), 流動滓55(378g), 白色滓13(115g), 碗状滓1(151g)], 鋳型片1点(143g), 粘土塊40点(293g), 礫49点(破砕礫; うち被熱痕37)が全域の覆土中層から下層を中心に出土している。544は北部の覆土下層, DP298は南部の底面, M472は中央部の底面から, それぞれ出土している。そのほかQ145・M472は覆土下層, 545・546・547・548・M475は覆土中層, M483・M484・M486は覆土上層から出土している。

所見 第7・11号溝跡と直交し, 第7号溝跡と規模がほぼ同じであることから, 第7号溝跡の曲折したものが本跡と考えて調査を進めた。第7号溝跡は本跡よりもさらに西に延び, 第2号排滓場になっている埋没谷まで伸びていることから, 別遺構と判断した。規模と形状から本跡と第7号溝跡はほぼ同時期に存在し, 性格も第7号溝同様の区画を目的とした溝と考えられるが, 深い逆台形状であることから, 防衛的な目的もあったと推測できる。時期は, 炉壁片・炉内溶解物や鋳型片などの鋳造に関する遺物が出土していることから, 中世と考えられる。また, 規模は第7号溝跡とほぼ同じであるにもかかわらず, 鋳造に関する遺物の出土量が非常に少ないことから, 本跡周辺には鋳造関連遺構はなかったと考えられる。



第208図 第12号溝跡出土遺物実測図

第12号溝跡出土遺物観察表 (第208図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
544	須恵器	環	-	(2.0)	7.7	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ切り	北部下層	60%, 底部内面治癒
545	磁器	碗	[10.0]	(2.4)	-	緻密	灰白	良好	ロクロ整形, 体部外面に不明絵文あり	覆土中	10%
546	磁器	皿	[12.7]	(3.8)	-	緻密	灰白	良好	ロクロ整形, 口縁部内面無輪	覆土中	10%
547	磁器	鉢カ	[13.6]	(2.4)	-	緻密	灰ナリブ	良好	ロクロ整形	覆土中	10%
548	磁器	板カ	[3.6]	(1.7)	-	緻密	灰ナリブ	良好	ロクロ整形	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	整	出土位置	備考
DP298	鉢型	(11.5)	(9.8)	(6.0)	(607.0)	砂較	内外面は赤褐色をし, 内面には砂較が多く含む 粘土が貼り付けられる		中央部底面	PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	整	出土位置	備考
M472	輪状滓	9.0	11.2	4.4	(413.2)	鉄	凸面は中央部が突出し, 凹面の中央部がくぼみ, 皿状を呈す		中央部底面	PL100
M475	刀子	(4.9)	1.6	0.2	(13.0)	鉄	先端部残存, 錆による膨張あり		覆土中層	PL100

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M483	白色滓	(4.7)	(4.7)	(3.0)	(45.1)	鉄	表面灰白色で、一部暗褐色の鉄が表出、鋸行の平溶解鉄による凹凸あり	U48b9区 覆土上層	PL99
M484	流動滓	(5.5)	(2.3)	(2.9)	(22.1)	鉄	流動性が見られる黒褐色の平溶解鉄	U48e6区 覆土中層	PL99
M486	炉内溶解物	(3.8)	2.4	2.1	(16.0)	鉄	流動性が見られる黒褐色の平溶解鉄	U48e9区 覆土上層	PL98

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	出土位置	備 考
Q145	瓦石	8.3	7.1	1.8	(147.0)	砂岩	紙面3面、二方向に使用、円座の一部破砕	覆土下層	

第14号溝跡 (第209・210図・付図)

位置 中央2区中央部のT47e5区からU47g3区に位置し、台地の斜面部に立地している。

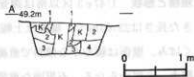
重複関係 第9号井戸跡を掘り込み、第10号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 U47g3区以南は調査区域外へ延びており、U47g3区から北東方向(N-13°-E)へ直線的に延び、T47e5区以北は調査区域外へ延びている。確認できた長さは49.50mで、規模は上幅1.08~1.48m、下幅0.58~0.98m、深さ48~60cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して直線的に立ち上がり、逆台形状である。底面は北東から南西へ下がっている。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

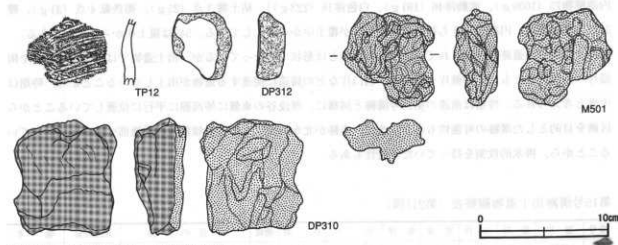
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 炭屑バミス少量、ロームブロック微量



遺物出土状況 土師器片53点(坏10, 甕43), 須恵器片6点(坏5, 甕 第209図 第14号溝跡実測図)

1), 陶器片2点(碗, 皿), 鉄製品1点(不明), 炉壁片138点(3582g), 羽片13点(646g), 鉄滓134点(2392g)(炉内溶解物120点(2242g), 流動滓9点(62g), 白色滓5点(88g)), 鋳型片15点(441g), 粘土塊38点(340g), 礫53点(破砕礫; うち被熱痕39)は全域にわたって散在した状態で出土している。DP310・M501・TP12は覆土中, DP312は覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 本跡は等高線に平行に位置し、排水場を区切るような逆台形状の溝であることから、区画溝の可能性がある。また、台地の等高線に平行であることから排水の性格も併せ持っていた可能性がある。中世と推定され



第210図 第14号溝跡出土遺物実測図

る第9号井戸跡を掘り込み、近世と推定される第10井戸に掘り込まれていることから、時期は中世から近世と考えられる。

第14号溝跡出土遺物観察表 (第210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	灰55%鉄粒子	褐色	普通	磨練片, L.Rの単純縄文地に赤線文	覆土中	後期 PL77

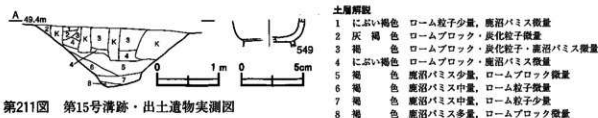
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP310	炉壁	(9.0)	(8.0)	(4.1)	(220.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入り粘土で、内面は暗褐色をした平滑状で、凹凸が多くあり	覆土中	
DP312	鉢型	(5.2)	(4.6)	(2.1)	(43.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色をしたスサを含む粘土で、内面は暗青灰色をした幅状のものを貼り付けている	覆土中層	測り PL92

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
M501	炉内溶解物	(7.5)	(7.2)	(3.6)	(112.0)	鉄	黒褐色をし表面に瘤状のもので凹凸あり	覆土中	PL98

第15号溝跡 (第211図・付図)

位置 中央2区中央部のU47b3区からU47g2区に位置し、台地の西から東に下がる斜面部に立地している。
規模と形状 U47e3区以南は調査区域外へ延び、北東方向(N-15°-E)へ直線的に延びている。確認できた長さは23.05mで、規模は上幅2.36~2.52m, 下幅0.14~0.38m, 深さ92cmである。形状は底面が皿状にくぼみ、壁面は緩やかな傾斜で直線的に立ち上がり、U字状を呈している。

覆土 8層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第211図 第15号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢), 弥生土器片1点(壺), 土師器片88点(坏9, 甕79), 須恵器片24点(坏15, 長頸壺1, 甕8), 土師質土器片2点(小皿), 陶器片3点(柄1, 皿2), 磁器片1点(碗), 鉄製品2点(釘), 瓦片2点(丸瓦, 平瓦), 炉壁片135点(2534g), 羽口片2点(54g), 鉄滓137点(1453g) [炉内溶解物75(1039g), 流動滓46(191g), 白色滓16(223g)], 粘土塊3点(25g), 褐鉄鉱4点(31g), 礫36点(破砕礫31, 円礫5; うち被熱痕あり23)が覆土中から出土している。549は覆土中からの出土である。

所見 本跡は当遺跡で確認されている中世の溝跡とは形状で異なっているが、出土遺物では土師質土器片や陶器片・磁器片とともに、炉壁片や白色滓, 羽口片などの製造に関連する遺物が出土していることから、時期は中世と考えられる。性格は前述の第14号溝跡と同様に、埋没谷の東側に等高線に平行に位置していることから区画を目的とした溝跡の可能性もある。また、本跡が北から南に下がる微傾斜地の低地部へ向かって延びていることから、排水的役割を持っていた可能性もある。

第15号溝跡出土遺物観察表 (第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
549	磁器	小碗	-	(2.2)	-	緻密	灰白	普通	ロク口型	覆土中	10%

茨城県教育財団文化財調査報告第225集

金谷遺跡 1

(上巻)

平成16(2004)年3月24日印刷

平成16(2004)年3月26日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)川田プリント
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53
TEL 029-253-5551